

for entry in **2019 履修ガイド**

2019年度 入学生用

大学生に望む

学長 小原 芳明

これから大学教育が始まります。大学のことを高等教育（Higher Education とか Higher Learning）とも言うように、大学とはより高度な学修を行う場であり、機会なのです。

ここでも学びの基盤にあるのは7つのW（What, When, Where, Why, Who, Which, Whom）と1つのH（How）です。人間のこと、社会のことへの知的好奇心があってこそその高等教育です。

先人たちも知的好奇心を満たすために多くの課題に挑戦してきました。そしてその結果が社会に蓄積され、今の高度情報化社会となっているのです。

孔子の教えに「温故知新」ありますが、この時代にあっても過去（基礎基本）から学び、そして新しい価値を作り出していくのも高等教育です。大学には過去からの知識が集積されていますし、価値創造の機会が用意されているのです。

これから君たちは自身の知的好奇心に応えるために新しい知識を得るのですから、その学び舎（知識）に対して

Enter with Respect, Leave with Knowledge

の心構えは学びの基本となります。どの時代にあっても、学問への畏敬と謙虚さは学修の基本でした。

学校は英語で School ですが、それはラテン語の *scola* から派生した言葉です。その *scola* には「ヒマ」という意味があります。ヒマとは、人間が生きていく上で必要な衣食住確保のために働く必要性から解放されて生じる時間です。その暇（余った時間）を活かして「読み、書き、計算」を身に付けさせようとも生まれたのが school（学校）の始まりです。それが学校教育の不易とされていることですが、昔との違いは現代は「K-20教育の時代」と称されるほどに修得すべき知識の量が多く学修する時間数も増えてきていることです。それは学校教育の根底にあるのは子供たちが将来社会で働いていくのに必要な知識と技術を修得させることにあるからです。

今君たちは大学でさらなる学修のスタート台に立っていますが、こうして大学で学ぶ機会（学修に必要な「ヒマ」）を親から与えてもらえたことへの感謝の気持ちを大切にしてください。

これからの大学機会を「後4年もある」と観るか、それとも「4年しかない」とするかでは大きな差が出ます。昔から「少年老い易く、学なり難し」と言われているように、学問の道は遠く、また険しいものです。中学校の数学で学ぶ方程式に $x+y=a$ がありますが、これを日常生活に当てはめると、二つの作業を「ながら」ではなく、どちらか一つのために時間を使うということの大切さが理解されるでしょう。大学生ですから、学修のために得られた時間を自分で管理することで高等教育は全うされるのです。

近代の大学は社会への入り口にもなっています。そのために多くのリソースが大学に集積されていますが、それらを有益に活用するには、まず各人が将来社会でどういった人材になりたいのか夢を持つことです。昔からこの丘で学ぶ生徒と学生を「玉川っ子」と呼んでいます。そして玉川っ子には「一画多い夢」を持ってもらいたいと創立者は願っていました。また、吉田松陰も夢の大切さについて次のように言っています。

**夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。
故に、夢なき者に成功なし**

自分の夢（大志）を描き、その実現へ向けて大学で学ぶその道は厳しいことですが、その厳しさを乗り越えてこそ新しい時代に相応しい新しい知識と技術を修得しましょう。それは社会人としての評価へと繋がります。その意味で、大学では君たちが自分の課題を持って必要な知識をプロアクティブ（より積極的）に学修することが鍵です。

高等学校と異なり、高等教育では15週で45時間の教室内外学修時間を1単位と定義しています。実技実験以外の科目は1時間の授業に対して教室外での2時間の学習（予習と復習）と計3時間を基本としています。授業時間割表の「空き時間」は、予習と復習のための時間です。

すべての科目には授業計画（シラバス）が用意されていますので、これからはそれに従って君たちはより主体的に学習していくこととなります。君達が大学での授業スタイルに馴染み、よりアクティブに勉学を進めていくことを促進するために提供されている科目がFYE（First Year Experience）です。

社会（日本国内外）活動では、一層の自己管理が求められます。その一つは自分の健康と安全の確保です。日本社会の国際化にともない、昔のような「日本の水と安全はタダ」ではなくなってきています。本学の周辺街も、昼から夜への状況変化は著しく、夜は決して安全と健康的であるとは言えません。ひと時の快楽への誘惑も一段と強くなってきますが、そうした勧誘に打ち勝とうとの気持ちは大学生としての自覚と責任です。高等教育とは社会へ巣立つ前に自己管理能力を身に付ける機会としてください。

この丘では大学生の他に3歳の幼稚園児（K）から高校生（12年生）までの玉川っ子たちも一緒に学校生活を送っています。そうした玉川の教育環境を踏まえ、今日から最高学府に学ぶ者としての自覚、誇り、そして責任を持ってこの丘での生活を送ってください。

目 次

大学生に望む	2
こんな時どうする？	8

I 学修にあたって 11

1. 玉川大学のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	12
2. 学士課程教育と学士力	13
3. 学位の授与	13
4. カリキュラムの概要	14
5. 授業のしくみ	16
6. 年間授業スケジュール	18
7. 単位のしくみ	19
8. 授業時間割	20
9. 科目の記号と番号	21
10. 初年次教育	22
11. 学修支援	23
12. ルーブリック	24
13. 講義要覧	25
14. シラバス	26
15. 教員一覧	27
16. 定期試験	28
17. 追試験	29
18. 成績評価	30
19. 成績照会	31
20. GPA制度	32
21. 成績確認制度	33
22. 単位の認定	34
23. 修得単位数から見た学年	36
24. 警告制度	37
25. 履修条件（進捗チェック）	38
26. 卒業見込み	39
27. 卒業	40
28. 転・編入学	41

II 履修案内 43

1. 履修計画	44
2. 履修の制限	45
3. 特別学期の履修	46
4. 他学部・他学科科目の履修	46
5. 大学院科目の履修	47
6. 学際領域プログラム「人間総合学」	48
7. 外国語科目の科目履修免除制度	49
8. 履修登録科目の取り消し制度	50
9. C・F評価科目の再履修制度	50
10. 教育課程表の見方	51

ユニバーシティ・スタンダード科目 53

教育課程表	54
1 履修上の留意事項	58

文学部 59

ディプロマ・ポリシー	60
1 カリキュラム・ポリシー	61
2 カリキュラムの特徴	61
3 警告制度	61
4 卒業要件	61

国語教育学科 62

1 はじめに	62
2 カリキュラム・ポリシー	62
3 卒業要件	63
4 卒業までの単位配分	64
5 警告制度と履修条件（進捗チェック）	65
6 履修上の留意事項	66
7 取得可能な資格	67
8 教育課程表	68

英語教育学科	69
1 はじめに	69
2 カリキュラム・ポリシー	69
3 卒業要件	70
4 卒業までの単位配分	71
5 留学許可条件	72
6 警告制度と進捗チェック	73
7 履修上の留意事項	74
8 「Overseas Study A/B/C」 「School Internship A/B/C」 「Internship A/B/C」 認定申請条件	74
9 教育課程表	76

農学部 79

ディプロマ・ポリシー	80
------------------	----

生産農学科	81
1 カリキュラム・ポリシー	81
2 カリキュラムの特徴	81
3 卒業要件	82
4 卒業までの単位配分	83
5 履修条件	83
6 履修上の留意事項	84
7 生産農学科理科教員養成プログラム	84
8 カリキュラム・ポリシー (生産農学科理科教員養成プログラム)	84
9 卒業要件 (生産農学科理科教員養成プログラム)	85
10 教育課程表	86

環境農学科	88
1 カリキュラム・ポリシー	88
2 カリキュラムの特徴	88
3 卒業要件	89
4 卒業までの単位配分	90
5 履修条件	90
6 履修上の留意事項	91
7 教育課程表	92

先端食農学科	94
1 カリキュラム・ポリシー	94
2 カリキュラムの特徴	94
3 卒業要件	95
4 卒業までの単位配分	96
5 履修条件	96

6 履修上の留意事項	97
7 資格	97
8 教育課程表	98

工学部 101

ディプロマ・ポリシー	104
------------------	-----

情報通信工学科	106
1 カリキュラム・ポリシー	106
2 カリキュラムの特徴	106
3 卒業要件	107
4 卒業までの単位配分	107
5 卒業プロジェクト着手条件	108
6 教育職員免許状	108
7 教育課程表	110

ソフトウェアサイエンス学科	112
1 カリキュラム・ポリシー	112
2 カリキュラムの特徴	112
3 卒業要件	113
4 卒業までの単位配分	113
5 卒業研究着手条件	114
6 教育職員免許状	114
7 資格	114
8 教育課程表	116

マネジメントサイエンス学科	118
1 カリキュラム・ポリシー	118
2 カリキュラムの特徴	118
3 卒業要件	119
4 卒業までの単位配分	120
5 進捗チェック	121
6 教育職員免許状	121
7 教育課程表	122

エンジニアリングデザイン学科	124
1 カリキュラム・ポリシー	124
2 カリキュラムの特徴	124
3 卒業要件	125
4 卒業までの単位配分	125
5 卒業研究着手条件	125
6 教育課程表	126

目 次

経営学部 129	芸術学部 171
ディプロマ・ポリシー 130	ディプロマ・ポリシー 172
国際経営学科 131	1 はじめに 173
1 カリキュラム・ポリシー 131	2 カリキュラムの特徴 173
2 カリキュラムの特徴 131	3 卒業要件 173
3 卒業要件 140	4 卒業までの単位配分 174
4 卒業までの単位配分 141	5 警告制度と注意 175
5 資格取得等による単位認定 142	6 履修モデル 175
6 警告制度と注意 143	パフォーミング・アーツ学科 176
7 履修上の留意事項 144	1 カリキュラム・ポリシー 176
8 教育課程表 146	2 卒業要件 177
	3 履修上の留意事項 177
	4 取得可能な資格 177
	5 履修モデル 178
	6 教育課程表 180
	メディア・デザイン学科 182
	1 カリキュラム・ポリシー 182
	2 卒業要件 183
	3 履修上の留意事項 183
	4 取得可能な資格 183
	5 履修モデル 184
	6 教育課程表 186
	芸術教育学科 188
	1 カリキュラム・ポリシー 188
	2 卒業要件 189
	3 履修上の留意事項 189
	4 取得可能な免許および資格 189
	5 教職課程受講継続条件 189
	6 履修モデル 190
	7 教育課程表 192
教育学部 149	
ディプロマ・ポリシー 150	
1 はじめに 152	
2 履修条件 153	
3 履修上の留意事項 153	
4 教育職員免許状および各種資格の登録に関する規定 155	
5 資 格 156	
教育学科 158	
1 カリキュラム・ポリシー 158	
2 卒業要件 159	
3 卒業までの単位配分 160	
4 履修モデル 160	
5 ELFの4単位免除の条件 160	
6 教育課程表 161	
乳幼児発達学科 164	
1 カリキュラム・ポリシー 164	
2 卒業要件 165	
3 卒業までの単位配分 166	
4 履修モデル 166	
5 教育課程表 168	

リベラルアーツ学部

195

ディプロマ・ポリシー 196

リベラルアーツ学科

- 1 カリキュラム・ポリシー 197
- 2 卒業要件 199
- 3 卒業までの単位配分 200
- 4 進捗チェック 201
- 5 資格 201
- 6 教育課程表 202

観光学部

209

ディプロマ・ポリシー 210

観光学科

- 1 カリキュラム・ポリシー 211
- 2 観光学部留学プログラム 211
- 3 卒業要件 213
- 4 卒業までの単位配分 214
- 5 警告制度と注意 215
- 6 観光学部が養成を目指す3つの人材像と履修モデル 216
- 7 履修上の留意事項 217
- 8 教育課程表 218

Ⅲ 資格を取得するために 221

- 1. 資格の種類 222
- 2. 取得できる各種資格・修了証等一覧 223
 - ① 保育士 224
 - ② 学校図書館司書教諭 229
 - ③ 図書館司書 230
 - ④ 社会教育主事 231
 - ⑤ 学芸員 232
 - ⑥ 日本語教員 234
 - ⑦ 環境再生医初級 236
 - ⑧ IB教員 237
 - ⑨ ECO-TOPプログラム 238
 - ⑩ 樹木医補 240
 - ⑪ 食品衛生管理者および食品衛生監視員 241
 - ⑫ 基本情報技術者 242
 - ⑬ ピアヘルパー 243
 - ⑭ キャンプインストラクター 244
 - ⑮ 小学校英語指導者 245
 - ⑯ 社会調査士 246
 - ⑰ 宗教文化士 247
 - ⑱ TAPファシリテーター 248
 - ⑲ 環境エデュケーター 250

Ⅳ 規程 253

- 玉川大学特別学期に関する規程 254
- 玉川大学試験規程 255
- 玉川大学学位規程（抄） 257

こんな時どうする？ Q&A

履修計画

Q 高校と大学では、授業はどのように違うのですか？ ▶

A

- 自分で授業を選び、自分の時間割を自分で作り上げることが特徴的な違いでしょう。
- 授業内容が高度で専門的になることはもちろんですが、**卒業するためには必要な単位数を修得しなければならないこと、授業から成績評価までを春と秋それぞれの独立した学期で行うセメスター制で実施していること**など、制度的にも大きく違います。

Q 卒業するにはどうすればよいですか？ ▶

A

- 各学科で定める「卒業要件」をすべて充足させる必要があります。**自分の所属する学科の卒業要件を常に確認しておきましょう。**

Q 「単位」を取るにはどうすればよいですか？ ▶

A

- まず、「履修登録」という手続きが必要です。履修登録は4年間で8回（各セメスターが始まる前に）行います。履修登録を行わないと、そのセメスターはすべての科目の履修ができず、単位の認定もされません。**必ず指定された期間内に所定の手続きをしてください。**
- 授業を受け、レポート・試験に合格すると単位が認定されます。授業に全部出席していたとしても、「学ぶべき内容が身についていない」と成績評価は不可（F評価）となり、単位は修得できません。

Q 授業はどのように選択すればよいですか？ ▶

A

- **各学科の教育課程表に「必修」と記載されている科目は、指定された時期までに必ず履修し、単位を修得しなければなりません。**「必修」以外の科目でも、いろいろな条件があるので、**卒業まで見据えてしっかりと履修計画を立てましょう。**
- Webで公開されている「講義要覧」や「シラバス」で、具体的に授業内容を検討する必要もあります。
- また、履修登録期間前にガイダンス等で具体的な注意事項や履修のアドバイスがあります。

履修登録

Q 自分が履修登録した授業時間割を確認するには、どうすればよいですか？ ▶

A

- UNITAMAの「学生時間割表」で確認できます。

Q 履修している授業で、Blackboard@Tamagawaのコースに表示されていない授業があるのですが、履修登録されていないのでしょうか？ ▶

A

- Blackboard@Tamagawa（以下Bbとする）コースへの登録は、**履修登録の最終確定後**になりますので、授業開始後にはまだ登録されていない場合があります。また、Bbを利用しない授業に関しては、Bbにコースの表示がされません。**自身の履修登録を確認するには、UNITAMAもしくは授業運営課での確認が必要です。**

科目の履修

<p>Q どうしても履修したい選択科目と必修科目が重なってしまったのですが、どうすればよいですか？</p>	<p>A ・必修科目を優先して履修してください。選択科目は複数年度にわたって開講している場合が多いので、翌年度以降に履修してください。</p>
<p>Q 他学年に開講されている科目を受講することはできますか？</p>	<p>A ・自分の学年より下の学年に開講されている科目は受講することができますが、上の学年に開講されている科目は受講できません。</p>
<p>Q 他学科で開講されている科目は受講可能ですか？</p>	<p>A ・「履修ガイド」に掲載されている「教育課程表」の「他学科受講」欄に○印が付いている科目は受講可能です。</p>
<p>Q 学期履修単位数の上限は何単位ですか？</p>	<p>A ・16単位です。一部上限対象から除外される科目がありますので確認してください。</p>
<p>Q 再履修とはなんですか？</p>	<p>A ・単位の修得ができなかった授業科目を翌学期以降に再度履修することです。</p>
<p>Q 再履修科目と必修科目が重なってしまいました。どうすればよいですか？</p>	<p>A ・学科の教務担当教員もしくは授業運営課に相談してください。</p>

成績の確認

<p>Q 自分の成績（GPA含む）を確認するには、どうすればよいですか？</p>	<p>A ・成績はUNITAMAで随時確認できます。履修した科目の評価、修得した単位数、GPAなどについて、しっかりと確認してください。</p> <p>・なお、電話で成績の問い合わせをすることはできません。</p>
<p>Q 「F評価」以外の成績確認はできますか？</p>	<p>A ・成績確認期間に科目担当教員（非常勤講師の場合は、所属学部の教務主任）に直接質問することはできます。</p> <p>・なお、成績の問い合わせができるのは、学生本人のみです。</p>

教員との連絡

<p>Q 科目担当教員（専任および非常勤）に連絡するにはどうすればよいですか？</p>	<p>A ・Webで公開している「教員一覧」に記載されているメールアドレスに連絡することが可能です。</p> <p>・「教員一覧」に連絡先が記載されていない専任教員および非常勤教員の場合は、電話・Eメール等の連絡先を授業運営課等でお伝えすることはできません。</p> <p>・授業終了後、あらかじめ科目担当教員に直接、連絡がつく曜日、時限等を聞いておきましょう。</p>
--	---

I

学修にあたって

1	玉川大学のディプロマ・ポリシーと カリキュラム・ポリシー	12
2	学士課程教育と学士力	13
3	学位の授与	13
4	カリキュラムの概要	14
5	授業のしくみ	16
6	年間授業スケジュール	18
7	単位のしくみ	19
8	授業時間割	20
9	科目の記号と番号	21
10	初年次教育	22
11	学修支援	23
12	ルーブリック	24
13	講義要覧	25
14	シラバス	26
15	教員一覧	27
16	定期試験	28
17	追試験	29
18	成績評価	30
19	成績照会	31
20	GPA制度	32
21	成績確認制度	33
22	単位の認定	34
23	修得単位数から見た学年	36
24	警告制度	37
25	履修条件（進度チェック）	38
26	卒業見込み	39
27	卒業	40
28	転・編入学	41

1 玉川大学のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

玉川大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界文化の進展に寄与するものとする。 (学則第1条)

●本学は、上記学則第1条に基づき、以下のとおり学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針を定めます。

1 卒業認定・学位授与の方針 (DP：ディプロマ・ポリシー)

本学の創立者小原國芳は、人間を「生まれながらにして、唯一無二の個性を持ちつつも、万人共通の世界をも有する存在である」と定義しました。玉川教育の使命は、1つにこの人間像を実現させることです。そして2つに、日本社会さらには世界へ貢献する気概を持った人材を養成することです。そのために、12の教育信条(全人教育、個性尊重、自学自律、能率高き教育、学的根拠に立てる教育、自然の尊重、師弟間の温情、労作教育、反対の合一、第二里行者と人生の開拓者、24時間の教育、国際教育)を掲げて教育活動を展開しています。

これらの活動をとおり、各学位プログラムの課程を修め、124単位以上を累積 GPA2.00以上の成績で修得した者には卒業を認め、学士の学位を授与します。あわせて、以下の学士力を修得している人材を養成することを教育目標とします。

① 知識・理解

- 多文化・異文化に関する知識の理解
- 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解

② 汎用的技能

- コミュニケーション・スキル
- 数量的スキル
- 情報リテラシー
- 論理的思考力
- 問題解決力

③ 態度・志向性

- 自己管理能力
- チームワーク、リーダーシップ
- 倫理観
- 市民としての社会的責任
- 生涯学習力

2 教育課程編成・実施の方針 (CP：カリキュラム・ポリシー)

玉川大学では、学生が卒業認定・学位授与の方針に掲げる学士力を身につけることを目指して、さまざまな学問分野にふれ、自らの専攻領域の学問的・社会的役割と関連づけ、学士課程教育において重要な役割を果たす教養教育と専門教育の連動を目指した「ユニバーシティ・スタンダード科目」を編成します。それぞれの学部においては、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った有為な人材を育成するために「学科科目」を編成します。また、教育課程(カリキュラム)については、整合性や体系性・系統性が容易に理解できるように、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す記号・番号をつけ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。授業の履修にあたっては、大学設置基準に定められた単位の基準*1を踏まえ、1日8時間の授業および授業外学修*2を標準とし、半期の履修上限単位を16単位とします。また、半期ごとに学修状況判定を設け、一定のGPAをクリアすることを求めます。

各授業科目については、各授業科目の到達目標と、その授業をとおりどのような力(卒業認定・学位授与の方針で示した学士力)が身につくのかをカリキュラム・マップおよびシラバス(授業計画)に明示します。また、授業をとおり身につく力を学生が効果的に修得できるようアクティブ・ラーニングなどの教育方法を取り入れて授業を展開します。成績評価は本学の成績評価基準に基づき、ルーブリック等を活用し、各授業科目の到達目標の達成状況により行います。

*1 単位の基準：1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。(大学設置基準第21条第2項)

*2 1日8時間の学修：上記の基準では、1時間の授業に対し、2時間の授業外学修を15回行うことで1単位を計算しています。本学では50分授業で半期の履修登録が16単位となりますので、1日8時間の学修は次に示すとおりです。
16単位×150分=2400分 ⇒ 40時間÷5日=8時間(480分)

2 学士課程教育と学士力

大学での4年間の学修をととして、「学士」にふさわしい力＝「学士力」を身につけましょう。

- 大学を卒業すると「学士」という学位が授与されます。そこで、大学の4年間を「学士課程（学士という学位を取得するための課程）」という言葉で表わします。この「学士」という学位は単に卒業時の修得単位数が124単位以上あることを示すものではありません。
- 本学では、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて（2008年12月24日）」をふまえ、学部学科の学生を履修対象にした全科目の授業シラバスに、学士力（授業をととして修得できる力）の項目を記載しています。その目的は、本学での学びを、大学卒業生に対する社会の要請によく応えうるものにするためです。学士力は以下の3種類に分類されます。
 - ① 知識・理解（多文化・異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解）
 - ② 汎用的技能（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決能力）
 - ③ 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力）
- シラバスにある「授業の到達目標」がその授業で獲得できる学問的な力だとすれば、「学士力」に示されている力は、その授業をととして身につけることができる、社会人として身につけるべき力のことです。
- 「学士力」は4年間、8セメスターの学修を積み重ねて身につけていくものです。科目の評価とあわせて、内容をともなった学士になるよう、しっかり勉強してください。

▶124単位
(卒業要件の1つ)
参照『履修ガイド』
p.40

▶シラバス
参照『履修ガイド』
p.26

▶セメスター
参照『履修ガイド』
p.16

3 学位の授与

本学の学部・学科を卒業した者には、学士の学位を授与します。

- 各学部・学科ごとに学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）が定められているので確認してください。学士の種類は、次のとおりです。

学 部	学 科	学 位
文学部	・国語教育学科 ・英語教育学科	学士（文 学）
農学部	・生産農学科 ・先端食農学科	学士（農 学）
工学部	・情報通信工学科 ・マネジメントサイエンス学科	学士（工 学）
経営学部	・国際経営学科	学士（経営学）
教育学部	・教育学科 ・乳幼児発達学科	学士（教育学）
芸術学部	・パフォーマンス・アーツ学科 ・芸術教育学科	学士（芸術学）
リベラルアーツ学部	・リベラルアーツ学科	学士（リベラルアーツ）
観光学部	・観光学科	学士（観光学）

▶ディプロマ・ポリシー
学部・学科が教育活動の成果として、学生に保証する最低限の基本的な資質を記した卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。
参照『履修ガイド』
p.60、p.80、p.104
p.130、p.150、p.172
p.196、p.210

4 カリキュラムの概要

幅広い知識をもち、学際的な勉学に取り組めるよう、所属学科以外の学部・学科も選択履修できます。

- 教養豊かな幅広い知識をもち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力をもった有為な人材を育成するために、本学では下記の構成からなるカリキュラムを用意しています。

ユニバーシティ・スタンダード科目

玉川教育・FYE科目群	人文科学科目群	社会科学科目群	自然科学科目群
学際科目群	言語表現科目群	教職関連科目群	資格関連科目群

学 科 科 目

100番台科目	200番台科目	300番台科目	400番台科目
---------	---------	---------	---------

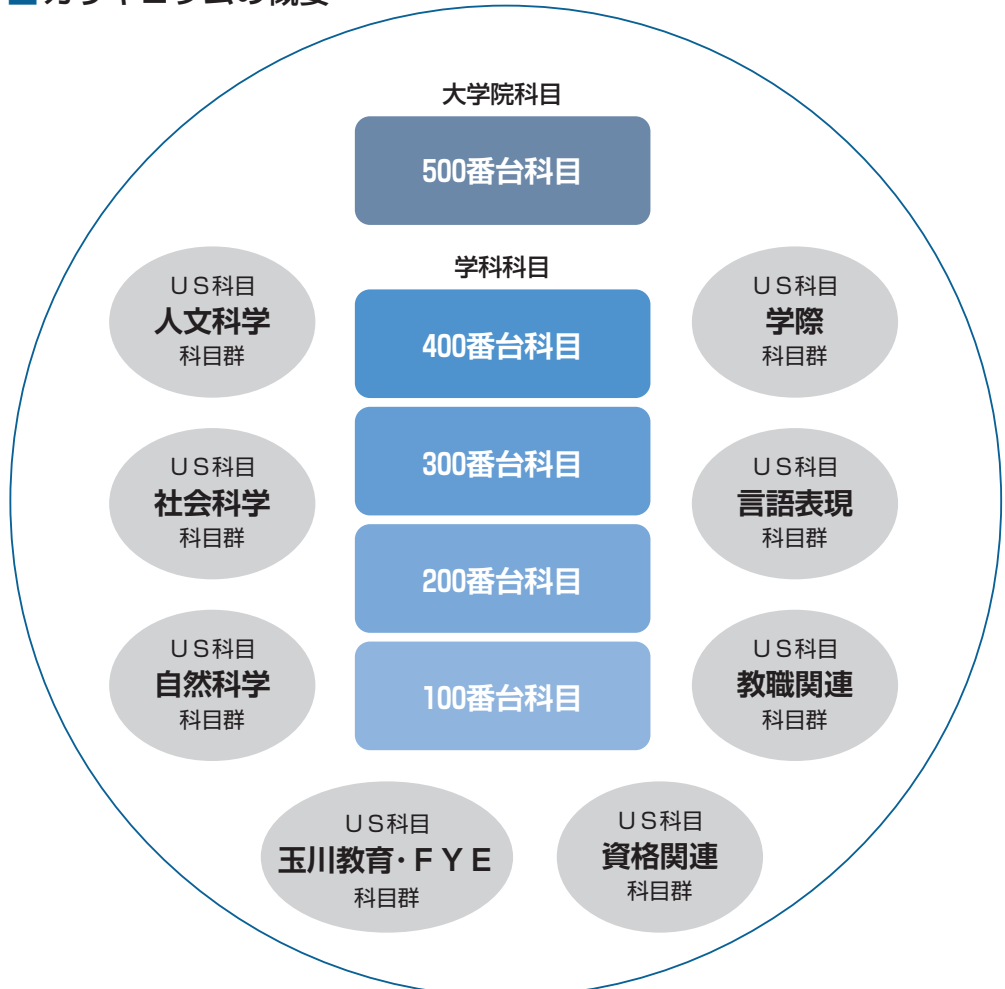
大 学 院 科 目

500番台科目

- 特色としては、誰もが学際的な勉学に取り組めるよう、所属する学科以外の学部・学科で開設されている科目も選択履修できるよう配慮されていることが挙げられます。

*ただし、各学部の教育課程表で、他学部・他学科科目受講欄に「○」がついているかどうかを確認すること。

■ カリキュラムの概要



*ユニバーシティ・スタンダード (US)科目の中には、学部が指定する科目があります。

▶カリキュラム

大学教育の目的を達成するために、教科の配列や時間配当などの教育計画を示したものを「教育課程」ともいいます。

▶初年次教育

参照『履修ガイド』p.22

ユニバーシティ・スタンダード科目

- 学士課程教育において重要な役割を果たす教養教育と専門教育の連動をめざして構成されています。
- 諸科目は、広い教養の世界に旅立つ学生の原点となる科目です。専攻領域と並行して、ユニバーシティ・スタンダードの諸科目を学ぶことで、学生はさまざまな学問分野にふれることができると同時に、それぞれの分野を自らの専攻領域の学問的・社会的役割と関連づけて理解する機会が与えられます。
- 諸科目の学修は、みなさんが専攻する学問領域の知識体系の意味を明確にするだけでなく、自己の存在を歴史・社会・自然と関連づけて理解するうえで有益です。
- 「玉川教育・FYE科目群」「人文科学科目群」「社会科学科目群」「自然科学科目群」「学際科目群」「言語表現科目群」「教職関連科目群」「資格関連科目群」の8群から構成されています。

玉川教育・FYE科目群	玉川大学の教育は、創立者小原國芳の提唱した「全人教育」の理念のもとに実践されています。玉川教育・FYE科目群の各科目は、全人教育の核あるいは基底となるものです。
人文科学科目群	言語表現科目群と併せ、広く人類の文化について研究します。多文化・異文化についての造詣を深めると同時に、これまで人類が積み重ねてきた文化について学びます。
社会科学科目群	政治学や経済学に代表されるように社会現象を考察、分析、総合し、そこに一定の法則を見出すことをめざします。学修をとおして市民の社会的役割と責任を理解することが求められます。
自然科学科目群	自然現象の法則を学ぶと同時に、人間の社会を発展させる自然科学の社会的機能を理解することが求められます。科学の素養を身につけるために、実際に演習および実験を行う科目も用意されています。
学 際 科 目 群	人類がこれまで積み重ねてきた人文科学、社会科学、自然科学の知識をふまえ、社会の新たな課題にたいし、総合的に取り組む科目群です。特に、既存の学問領域の枠組みだけではとらえきれない事象についてさまざまな学問の知見を援用しながら学んでいきます。
言語表現科目群	日本語を含めた諸言語の運用能力・言語によるコミュニケーション能力の養成を目的としています。言語コミュニケーション能力は「聞く」「話す」「読む」「書く」の諸要素で構成され、人間が社会生活を営む際に、欠かすことのできないものです。
教職関連科目群	教育職員免許状を取得するために開設されている科目です。
資格関連科目群	各種資格を取得するために開設されている科目です。

*FYEとは、First Year Experience[®]の略で、米国サウスカロライナ大学附属初年次教育研究機関（National Resource Center for The First-Year Experience & Students in Transition, University of South Carolina）の商標です。

学 科 科 目

- 各学科の教育目標に従って設けられた授業科目です。100番台から400番台まで4群に区分され、学修進度に合わせて順に履修するよう開設されています。
- また、大学院進学希望者のためには「大学院科目」が開設されています。
- 自分の適性や将来の進路を早い時期に見定めて、その目標に向かって、計画的かつ体系的に科目を履修するよう心がけてください。

100番台科目	入門レベル。主に大学1年次を対象とした授業です。
200番台科目	中級レベル。主に大学2年次を対象とした授業です。
300番台科目	専門レベル。主に大学3年次を対象とした授業です。
400番台科目	専門上級レベル。主に大学4年次を対象とした授業です。
500番台科目	大学院レベル。大学院・芸術専攻科への進学希望者で、一定以上の優秀な成績を収めた学生が履修できる科目です。

5 授業のしくみ

平常授業（春学期・秋学期）以外に、
再履修科目及び集中で行う必要のある科目の授業を行う特別学期があります。

1 開講期

▶セメスター制

1年間を独立した2つの学期に分けて構成する制度。第1セメスターから第8セメスターの指定されたセメスターで開講され、完結し、成績評価がつきます。

▶特別教育期間

ガイダンスや履修登録、集中講義、研修行事などを実施するために定められた期間。原則として授業はありませんが、必要に応じて登校することになります。

- 本学の授業は、平常授業期間に実施される授業（春学期・秋学期）と期間外に実施される特別学期（サマーセッション・ウィンターセッション）に開講されます。

1 平常授業

- 春学期と秋学期の2学期を平常授業期間として開講しています。
- 授業期間を15週確保するために、学事日程の都合上、土曜日・祝日に授業を行う場合や平日に授業がない場合があります。
- 詳細については「学生要覧」とともに配付される「ポケット版 年間学事日程」を確認してください。

2 特別学期（サマーセッション・ウィンターセッション）

- 平常授業期間外に、特別学期（サマーセッション・ウィンターセッション）を設けて、授業を行っています。
- 受講にあたっては、UNITAMAなどの案内を参照してください。なお、特別学期内に受講する科目は有料となります。

2 開講形態

- 本学の授業時間割は、50分を1時限（1コマ）として、9時から18時50分まで計10時限（10コマ）で構成されています。

1 時 限	9 : 00 ~ 9 : 50
2 時 限	10 : 00 ~ 10 : 50
3 時 限	11 : 00 ~ 11 : 50
4 時 限	12 : 00 ~ 12 : 50
5 時 限	13 : 00 ~ 13 : 50
6 時 限	14 : 00 ~ 14 : 50
7 時 限	15 : 00 ~ 15 : 50
8 時 限	16 : 00 ~ 16 : 50
9 時 限	17 : 00 ~ 17 : 50
10 時 限	18 : 00 ~ 18 : 50

* 講義や演習科目については、計100分授業となるものがあります。



* 実験・実習等科目については、計150分授業となるものがあります。

* 科目によっては、50分+50分の計100分の授業が、50分ずつ異なる曜日に開講される場合もあります。

* 休憩時間は、各時限と時限との間の10分間です。

* 全学共通の昼食休憩時間は、特に設定されていません。各自が1日の授業日程を上手に工夫して、昼食の時間を確保してください。

3 休 講

- 科目担当教員の体調不良などの理由により、授業が休講となる場合があります。

休講の通知 ▶ UNITAMAで連絡

- 緊急の場合には「急告」として各校舎に掲示するか、職員が直接教室にて口頭で連絡します。
- * なお、授業開始時刻になっても担当教員が入室しないときは、事故等で遅れていることも考えられるので、各校舎最寄の事務室窓口に申し出るか、授業運営課で指示を受けてください。

4 補 講

- 休講となった授業は、補講として授業が行われます。

補講の通知 ▶ UNITAMAで連絡

5 授業時間割の変更

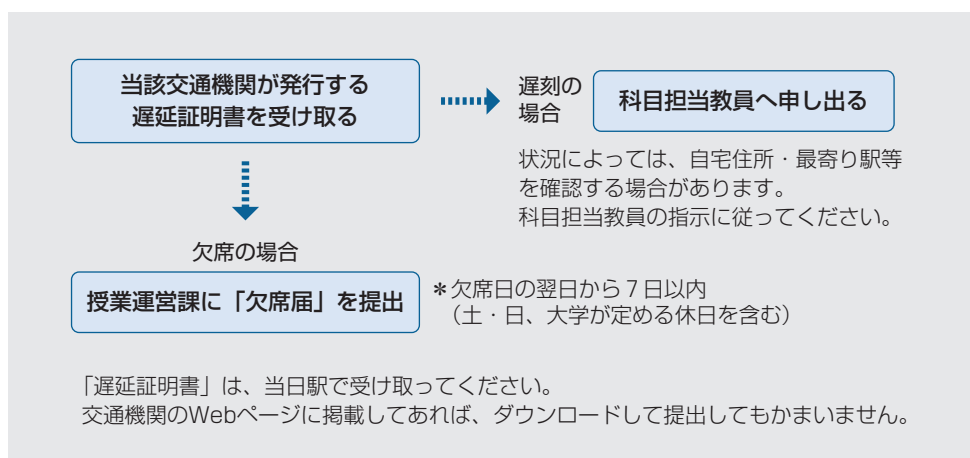
- 授業科目について、開講曜日・時限・教室等の変更が生じた場合は、UNITAMAで連絡します。

6 出席・欠席・遅刻

- 授業には、所定の時間割に従って毎時間必ず出席しなければなりません。
- 科目担当教員の許可を得たうえで授業開始後20分以内（50分授業の場合は10分）に入室した場合は、遅刻とします。
（ただし、交通機関の遅延に伴う場合で、遅延証明書の提示があれば免除されます）
- 病気等種々の事情により、授業を欠席あるいは遅刻した場合は、次のような取り扱いとします。

- ① 出席回数が4分の3に満たない科目の単位は認定されません。
また、その科目の定期試験の受験も認められません。
- ② 遅刻3回を欠席1回として扱います。なお、遅刻した場合は、科目担当者の責任において入室を断ることもあります。

■ 通学区間の交通機関の遅延等による手続き



▶ 休 講

科目担当教員の都合や緊急事態により、授業を休みにすること。

▶ 掲示による連絡

参照『学生生活ガイド』p.24

▶ 緊急事態への対応

参照『学生生活ガイド』p.25

▶ 補 講

定められた授業回数を補うために行う授業のこと。

▶ 単 位

参照『履修ガイド』p.19、p.34

▶ 欠席の手続き

参照『学生生活ガイド』p.48～49

6 年間授業スケジュール

春学期

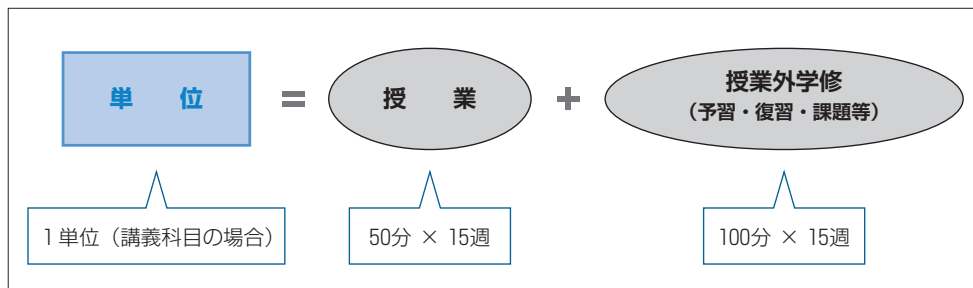
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●入学式 ●健康診断 ●春学期授業開始
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●体カテスト
6月	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●春学期授業終了 ●春学期定期試験
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●夏季休暇開始 ●サマーセッション開始
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●サマーセッション終了 ●夏季休暇終了 ●特別教育期間 ●秋学期履修登録 ●秋学期授業開始

秋学期

10月	<ul style="list-style-type: none"> ●体育祭
11月	<ul style="list-style-type: none"> ●コスモス祭 学部展 収穫祭 テクノフェスタ 課外活動展 ●大学音楽祭
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●クリスマス礼拝 ●冬季休暇開始
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●冬季休暇終了 ●秋学期授業終了 ●秋学期定期試験
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●春季休暇開始 ●ウィンターセッション開始
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業式 ●特別教育期間 ●次年度春学期履修登録 ●ウィンターセッション終了 ●春季休暇終了

7 単位のしくみ

- 各授業科目における単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。1単位は、卒業研究等を除き45時間の学修（授業・授業外学修）を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

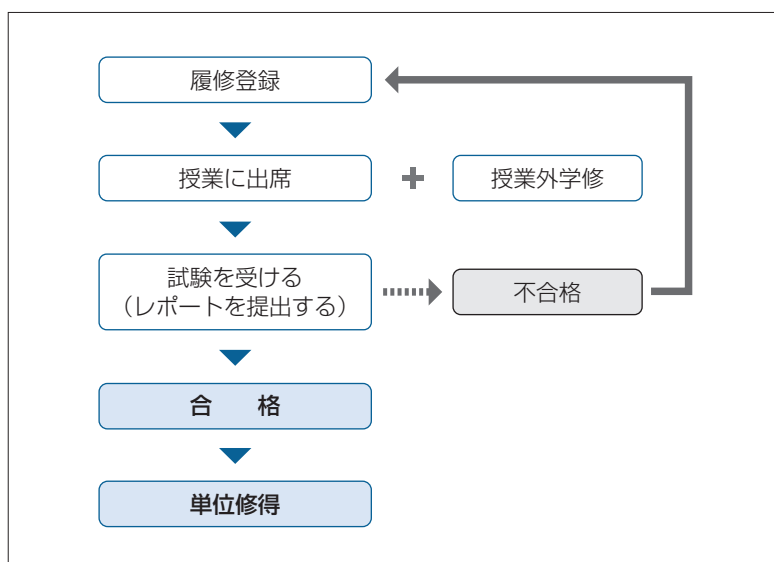


- なお、本学では、原則として次のように授業科目を区分し、単位を定めています。

■ 授業科目の区分

	1単位の授業における学修時間
講義	1単位=50分×15週
演習	1単位=50分×15週 または1単位=(50分×2回)×15週
実技・実験・実習	1単位=(50分×3回)×15週 または1単位=(50分×2回)×15週
卒業研究(論文/演奏/制作)	学修の成果を評価して、定められた単位を授与

■ 単位修得までの流れ



▶ 単位

単位数は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定められています。授業に出席し、試験やレポート等にて成績評価を受け、合格することにより、「単位を修得する」ことができます。

▶ 授業のしくみ

参照『履修ガイド』
p.16

▶ 履修登録単位数の制限

参照『履修ガイド』
p.45

▶ 単位の認定

参照『履修ガイド』
p.34、p.35、p.41

8 授業時間割

▶ 授業時間割の変更
参照『履修ガイド』
p.17

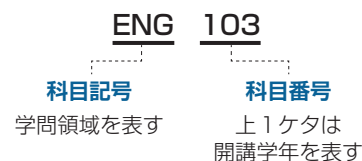
- 当該年度の授業時間割は、UNITAMA、授業運営課窓口で閲覧することができます。
- 教室変更など記載事項の変更については、掲示等で連絡します。
- また、授業時間割に掲載されている6桁の数字は授業コードといい、履修登録などで使用するコードです。

■ 自分の時間割表を作成してみましょう

		月	火	水	木	金
1 時限	9:00 } 9:50					
2 時限	10:00 } 10:50					
3 時限	11:00 } 11:50					
4 時限	12:00 } 12:50					
5 時限	13:00 } 13:50					
6 時限	14:00 } 14:50					
7 時限	15:00 } 15:50					
8 時限	16:00 } 16:50					
9 時限	17:00 } 17:50					
10 時限	18:00 } 18:50					

9 科目の記号と番号

- 授業科目には、それぞれ記号がついています（各学部・学科の「教育課程表」参照）。
- この記号と番号には、次のような意味が含まれています（履修登録に使用される授業コードとは異なります）。



1 科目記号

- 次のとおり、学問領域ごとの分類になっています。

ACCT	会計学	ESP	環境学	MKTG	マーケティング
AGR	農学	FRE	フランス語	MUS	音楽
ANTH	文化人類学	FSC	食料科学	MUSE	博物館学
AREA	地域研究	GEOG	地理学	NESC	神経科学
ART	芸術学／美学	GEOL	地学	PANT	人間学
BA	経営学	GER	ドイツ語	PE	体育
BIOL	生物学	GLS	国際研究	PHIL	哲学
BRSC	脳科学	GM	グローバル・マーケティング	PHYS	物理学
CARE	キャリア研究	HHS	健康	POSC	政治学
CHEM	化学	HIST	歴史	PSY	心理学
CHI	中国語	IB	IB教育	RST	宗教学
COMM	コミュニケーション	INFO	情報学	SAM	学校経営
COPR	インターシップ/コオプ・プログラム	INTD	学際領域	SCED	科学
COSC	認知科学	INTL	国際関係論	SOC	社会学
CWC	比較文化	JLIT	日本文学	SPA	スペイン語
ECEC	保育	JPN	日本語学	STAT	統計学
ECON	経済学	LAW	法律学	SUBP	教科教育
ED	教育学	LIBS	図書館学	TED	教職
EEE	電気電子工学	LING	言語学	THEA	演劇
ENG	英語	MART	メディア・アート	TOUR	観光学
ENGE	英語教育	MASC	経営科学	UNIV	大学教育
ENGL	英語学	MATH	数学	WLIT	外国文学
ENGR	工学	MENG	機械工学		

2 科目番号

100番台	入門レベル。主に大学1年次を対象とした授業です。
200番台	中級レベル。主に大学2年次を対象とした授業です。
300番台	専門レベル。主に大学3年次を対象とした授業です。
400番台	専門上級レベル。主に大学4年次を対象とした授業です。
500番台	大学院レベル。大学院・芸術専攻科への進学希望者で、一定以上の優秀な成績を収めた学生が履修できる科目です。

3 科目種別

必修科目	卒業するために、必ず修得しなければならない科目です。
必修選択科目	卒業するために、限定された科目の中から、定められた単位数を修得しなければならない科目です。「必選」と略されて表記される場合があります。
選択科目	自由意志により選択し、修得する科目です。選択科目は学科の選択科目とその他の選択科目（自由選択科目）に区別されます。

10 初年次教育

目的意識をもって大学での学修・生活に臨めるように、「一年次セミナー」を設置しています。

▶初年次教育

大学での生活や学修活動にスムーズに適応できるように、新入生に対して大学全体で組織的に提供される教育のこと。

▶玉川教育・FYE科目群

参照「履修ガイド」p.14、p.54

▶FYE

参照「履修ガイド」p.14

- 現在、多くの大学で初年次教育の充実を図っていますが、中には高等学校の授業内容の補習が中心となっているものもあります。本学の初年次教育はそれとは大きく異なり、大学での授業をいかに効果的に受講するか、4年間の大学生活の中でどのように人生の目標を設定し、キャリアデザインを行っていくかに重点を置いています。それは、4年間という限られた期間で専門知識を蓄え将来の目標を確立するためには、入学した1日目、スタートの時期こそが重要だと考えているからです。
- そのために、ユニバーシティ・スタンダード科目の玉川教育・FYE科目群に「一年次セミナー101」と「一年次セミナー102」を必修科目として設置しています。学生一人ひとりが目的意識を持って大学での学修と生活に臨めるように、この科目をとって大学がバックアップします。

第1セメスターでは「一年次セミナー101」が必修です。

大学の授業は高等学校の授業の延長ではありません。与えられた知識を記憶するだけでなく、いかに理解し、自分のものとして活用していくかが重要となります。そのためにはどのような気持ちで学修に臨み、どのように授業を受ければよいのかを考える必要があります。これからの授業をより効果的に受講するために、「一年次セミナー101」では大学で学ぶ意義を考え、授業に臨む姿勢や授業の受け方、文章作成の方法、さらに時間管理やセルフマネジメントなどを学修します。

第2セメスターでは「一年次セミナー102」を必修科目として受講します。

大学生活をいかに過ごすかは、皆さんのこれからの一生にとって重要な鍵となります。大学での4年間に有意義に過ごすためには、将来の目標を早期に設定することが大切です。自分を省みて、自身の優れた部分や適性を把握し、それに合った目標設定ができるよう、「一年次セミナー102」では、働くことの意義や将来の人生設計など、一人ひとりが将来の目標を立てるための知識と方法を学修します。また、社会人として必要な物事の考え方や倫理観、コミュニケーションのあり方、社会との関わり方についても考えていきます。

■主な内容 一年次セミナー101/102

なぜ大学で学ぶのか	社会生活とメディア
時間管理の技術	社会貢献について考える
ノートをとる	コミュニケーションのあり方
試験を受ける	情報の活用と倫理
効果的な学修方法	個人情報の保護と関わり方
学問とは何か	セルフマネジメント
読書の方法	ライフデザインとキャリアデザイン
文章作成の方法	
大学の支援資源の活用方法	

11 学修支援

みなさんの大学での学びを支援します。

- 大学での学びは人に委ねるものではなく、学生のみなさんが自らの意思で学び、学んだことを自分の力に変えていこうとする姿勢が必要です。とはいえ、決められた教育プログラムに沿って学んできた高校までの学習と違って、大学での学修では時に学修の方法自体がわからなくなったり、迷ってしまったりする場面があるかもしれません。
- そのような時は、大学教育棟 2014の教育学術情報図書館3・4階にあるラーニング・commonsで学修の支援を受けることができます。授業の合間や空き時間を利用して、ぜひ積極的に活用してください。

▶ラーニング・commons
参照「学生生活ガイド」
p.106

学修方法での悩みや相談があれば、 サポート・デスク（学修支援）が支援します。

ラーニング・commons 4階には、アカデミック・スキルズを中心に、教員から学修のアドバイスを受けることができるサポート・デスク（学修支援）があります。「レポート課題が出ているけどどう考えをまとめたらいいかかわからない」、「次の授業でプレゼンテーションをすることになっているけどどうしよう？」などの学修に関するさまざまな相談ができます。また、英語や会計学については、専門の教員からアドバイスを受けることができます。「こんなこと先生に相談してもいいのかな」と思うようなことは、大学院生のTA（Teaching Assistant）もいるので、気軽にサポート・デスクを活用してください。その他、定期的にアカデミック・スキルズについての講座なども開講しています。

コンピュータやネットワークに関しては サポート・デスク（IT支援）が支援します。

大学での学修においては、分野にかかわらず、コンピュータやネットワークを活用することが求められます。授業の課題やレポートの提出などをコンピュータやネットワークによって行うこともあります。

ラーニング・commons 3階にあるサポート・デスク（IT支援）では、Microsoft Office（Word/Excel/PowerPoint）などソフトウェアの使用方法に関するガイダンスを開催しています。また、ノートパソコンの活用方法や、本学のe-Educationシステムである「Blackboard@Tamagawa」*についての相談にも応じています。コンピュータやネットワークについてわからない時は、どんどんサポート・デスクに相談してください。

*「Blackboard@Tamagawa」はオンライン学修支援システムです。学生はネットワークを通じて時間・場所を問わず教材のダウンロードや課題の提出などを行うことができます。

12 ルーブリック

▶ルーブリック(rubric)

学修者の学修成果・到達度を評価するためにマトリクスで示された成績評価方法のこと。評価水準である「尺度」と評価基準である「達成度の目安」で構成される。

- 本学では、成績評価の方針を明確化することを目的として、ルーブリックの導入を推進しています。
- 科目担当教員がシラバスを作成するにあたっては、それぞれの科目に設定されている「授業を通して修得できる力」のコモン・ルーブリックを参照しています。

■「授業を通して修得できる力」のコモンルーブリック（一部抜粋）

評価項目 (尺度)	評価基準（達成度の目安）			
	4 期待している以上の 到達レベル	3 十分に満足できる 到達レベル	2 やや努力を要する 到達レベル	1 相当の努力を要する 到達レベル
多文化・異文化に関する知識の理解				
<ul style="list-style-type: none"> 多文化・異文化に関する知識の獲得 文化の多様性についての理解と説明 	多文化・異文化に関する体系的かつ総合的知識を獲得したうえで、複数の観点から文化の多様性を理解し、的確に説明できる。	多文化・異文化に関する体系的な知識を獲得したうえで、複数の観点から文化の多様性を理解し、説明できる。	多文化・異文化に関する知識を部分的に獲得し、何らかの観点から異なる文化の比較と理解ができる。	多文化・異文化に関する知識を表面的に有し、異なる文化の比較ができる。
生涯学習力				
<ul style="list-style-type: none"> 発展的な課題への関心 主体的に調査・探求する力 新たな状況への応用しようとする態度 継続的な学習への意欲 	授業内容に強い関心を示し、意欲的に学習する。学習した事柄にもとづき、自ら発展的な課題を複数発見し主体的に調査・探求する。それらを、新たな状況に応用できる。今後も継続し、さらに高次へと高めていこうとする意欲をもつ。	授業内容に関心を示し意欲的に学習し、自ら発展的な課題を発見し主体的に調査・探求する。それらを、新たな状況に応用できる。今後も継続できる。	授業内容を意欲的に学習し、発展的な課題を発見・調査・探求する。それらを、新たな状況に応用しようとする。今後も継続していこうとする意欲を持つ。	授業内容について学習し、発展的な課題を発見・調査・探求しようとする。それらを、新たな状況に応用する方法を考える。

(詳細は、履修科目のシラバスに表示されている「授業を通して修得できる力」のコモン・ルーブリックを参照してください)。

▶シラバス

参照「履修ガイド」
p.26

13 講義要覧

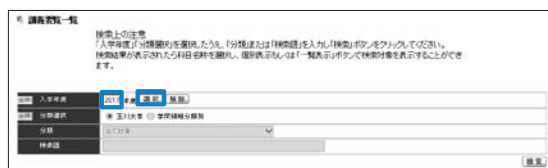
- 本学では、全開講科目の概要を入学年度ごとにまとめた「講義要覧（科目のカatalog）」をUNITAMAで公開しています。
- 長期的な履修計画を立てる際の参考にしてください。

① 授業関連メニューから講義要覧・シラバスの講義要覧照会にカーソルを合わせてクリック



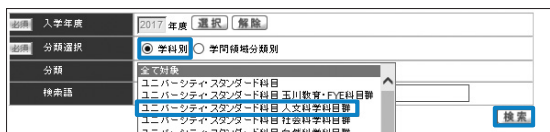
② 講義要覧の検索

講義要覧検索画面が表示されるので、調べたい年度を選択



「学科別」から調べる場合

分類選択「学科別」にチェックを入れ、分類を選択のうえ、「検索」をクリックすると、科目が一覧で表示されます。「科目名」を選択すると③の講義要覧が表示されます。「一覧表示」をクリックすると④の講義要覧が一覧で表示されます。



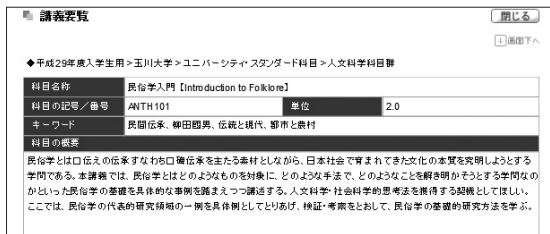
* 検索語に部分一致する科目名、キーワード、科目の概要を入力した場合、該当する科目が一覧で表示されます。

「学問領域分類別」から調べる場合

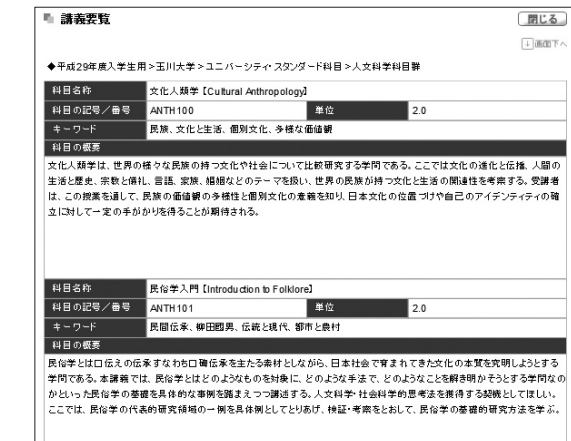
分類選択「学問領域分類別」にチェックを入れ、分類を選択のうえ、「検索」をクリックすると、科目が一覧で表示されます。「科目名」を選択すると③の講義要覧が表示されます。「一覧表示」をクリックすると④の講義要覧が一覧で表示されます。



③ 講義要覧が表示されます。



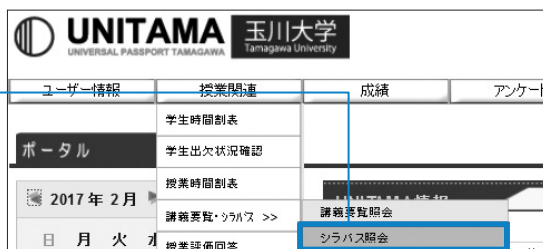
④ 講義要覧一覧が表示されます。



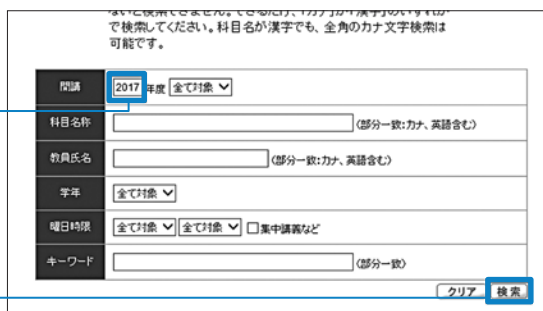
14 シラバス

- 「シラバス」とは、授業で扱う内容（授業の概要）とその授業の到達目標、その授業をとおして修得できる学士力、授業の進め方、評価の仕方など、授業の全体像を示す文書のことです。履修登録を行うにあたり、科目選択の基準としてシラバスを活用してください。また、履修にあたって、その日の授業の位置づけ、授業の目的、到達目標などを、「シラバス」で繰り返し確認することにより、授業の学修効果を高めることができます。
- 各授業科目の「シラバス」はWeb で公開しています。「シラバス」は新学期の履修登録に先立って提示され、年間をとおして公開されています。
- 閲覧する場合は、UNITAMAにアクセスしてください。

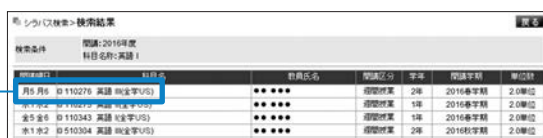
- ① 授業関連メニューから講義要覧・シラバスのシラバス照会にカーソルを合わせてクリック



- ② シラバス検索画面が表示されるので、科目名称（教員氏名等の項目でも可）を入力して「検索」ボタンをクリック



- ③ 検索したいシラバスにカーソルを合わせてクリック




- ④ シラバスが表示されます。印刷したい場合は「印刷」ボタンをクリックしてください。



15 教員一覧

- 「教員一覧」（「研究者情報検索サービス」）には、授業を担当する教員のプロフィールや教育・研究業績等の情報が紹介されています。
- 閲覧する場合は、本学のホームページにアクセスしてください。

「キーワード検索」から検索

- ① 検索したい教員名の後に半角or全角スペースと“研究者情報”の文字を入力して  をクリック



「カテゴリ別」から検索

- ① 検索したい「カテゴリ（学部）」をクリック



- ② 調べたい教員名をクリック



- ② 検索したい学部（所属）をクリック



- ③ 調べたい教員のプロフィール画面が出てきます



- ③ 教員の一覧から検索したい教員をクリック



16 定期試験

- 定期試験の方法には、筆記試験・実技試験・口述試験・レポートなどの提出があります。下記の者には、定期試験の受験資格を認めません。

- ① 当該科目の履修登録をしていない者
- ② 所定の学費が未納の者
- ③ 当該科目の授業の出席回数が4分の3に満たない者
- ④ 学生証を所持していない者

1 定期試験についての注意事項

- ① UNITAMAに掲示される試験時間割は、全学対象ユニバーシティ・スタンダード科目と当該学部の時間割です。
- ② 定期試験は、通常の授業と異なる時間帯や場所で実施する場合がありますので、注意してください。
- ③ 定期試験において不正行為を行った学生は、学則により懲戒となります。制作物、レポートについても準じます。詳しくは試験規程を参照してください。



UNITAMA

<https://unitama.tamagawa.ac.jp>

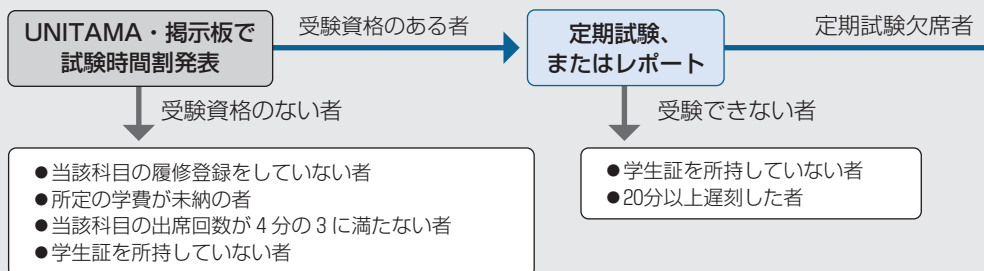
2 レポート提出についての注意事項

- ① レポートは提出期日・時間を厳守し、指定されたところに提出してください。提出期日・時間を過ぎたものは、理由を問わず受理されません。
 - ② 科目担当者から書式・用紙などが指示された場合は、指示に従ってください。
 - ③ レポート提出票を貼付し、記入は黒のペンまたはボールペンを使用してください。
 - ④ レポート提出票には、担当教員名をフルネームで記入してください。
 - ⑤ 提出時には、学生証を提示してください。
- なお、公表された著作物、写真、コンピュータに関するプログラム等を引用あるいはコピーして使用する場合は、著作権法により出所の明示が義務づけられていますので、注意してください。

3 定期試験以外の試験・レポート

- 定期試験期間外の試験・レポートは、授業の範疇とみなし、追試験の制度の適用外となります。

定期試験・追試験の流れ



▶定期試験受験資格、遅刻および退出、受験者の義務、不正行為の取扱いなど「試験規程」

参照『履修ガイド』
p.255～256

▶仮学生証の交付

学生証を所持していない場合

参照『学生生活ガイド』
p.45

▶定期試験

各セメスターの定期試験期間中に実施される試験のこと。

▶レポート

定期試験のうち、科目担当教員の判断により筆記試験に替えて行う試験のこと。

Column

電子メールによるレポートの提出

- ① 電子メール送信は、大学から与えられているアドレスで行うこと
- ② 科目担当教員へ電子メールを送信する際には、**CCに自分のアドレスを記載すること**。自分にも配信されるので、レポートを提出した証拠となる場合があります。各自必ず保管すること
- ③ レポート提出締め切り後24時間以内に科目担当教員より受領確認のメールが届きます
 - ・届かない場合⇒受領されていないこともあるので、この旨を科目担当教員に24時間以内に連絡すること
 - ・科目担当教員と連絡がとれない場合⇒授業運営課にこの旨を申し出ること
- ④ その他、各学部・学科・科目担当者による条件があれば、そちらに従うこと

17 追試験

- 追試験の受験を希望する場合は、所定の期限内に「追試験受験願」に必要な事項を記し、以下の書類を添付して授業運営課に提出してください。

1 「追試験受験願」の提出期限

- ① 定期試験実施日・レポート提出締切日を含め4日以内（土・日・大学が定める休日を含む）
 - ② 提出期限最終日が土・日・大学が定める休日の場合は、その翌日までとなります。
- ※特別学期については、掲示（UNITAMA）でお知らせします。

2 必要な添付書類

追試験を受験する理由	必要な添付書類
病気・ケガによる欠席	医師による診断書・治癒証明書・登校許可書のいずれか（病名および出席停止期間を記載してもらうこと）
交通機関の事故および延着による欠席または遅刻	事故または遅延証明書
忌引きによる欠席	会葬礼状など証明する書類
教員採用試験・就職試験・編入学試験・大学院入学試験等による欠席	受験を証明する書類
裁判員制度による裁判への参加	裁判所が発行する証明書

3 受験資格

- 「追試験受験願」を所定の期限内に提出した者の中で、審議の結果、理由が正当と認められた場合に限り受験できます。受験を認められなかった科目は、追試験を受験できません。
- また、追試験は1回限りとし、追試験の追試験は行いません。

▶追試験

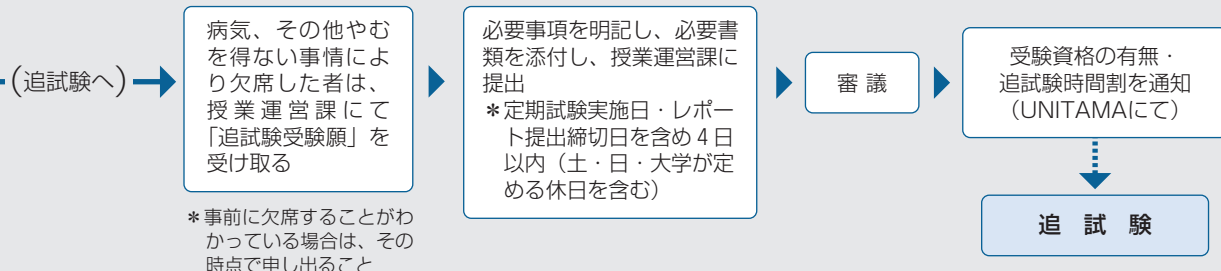
定期試験を、やむを得ない理由で受験できなかったり、レポートを提出できなかった者に対して、定期試験期間後に実施する試験またはレポートのこと。

▶「試験規程」

参照『履修ガイド』
p.255～256

▶追試験受験願

ホームページからもダウンロードできます。



18 成績評価

- 履修登録をしている授業科目の成績は、定期試験および平素の成績をもって評価されます。その結果、合格と判定された者は、単位の認定を受けることができます。
- 各授業科目の評価方法については、シラバスを参考にしてください。成績の評価および合否の科目の表記は、次のとおりです。

評 価		評価区分	評価基準
S	Excellent	90～100	特に優秀であると評価する
A	Good	80～89	優秀であると評価する
B	Satisfactory	70～79	妥当であると評価する
C	Minimal Pass	60～69	最低限度であると評価する
F	Fail	59以下	不合格
I	Incomplete		成績評価保留
W	Withdraw		履修取り消し
P	Pass		合格と認定する

1 成績評価保留制度（インコンプリート制度）

- 定期試験期間以外の授業期間に考慮される事情（病気、ケガ、就職試験、教職課程受講に関わる実習等）が発生した場合に、成績評価が保留される制度があります。成績評価は一定期間後に確定するまで保留され、評価欄には「I」（インコンプリート）と記載されます。
- 評価の確定は、特別指導を経た後、単位認定試験を受けて行われます。評価の確定がない場合は、「F評価」に変更されます。
- 評価確定後、「I」（インコンプリート）は抹消され、単位数は当該セメスター成績に加算されます。
- 単位認定試験には、費用がかかります。詳細については、UNITAMA を確認してください。

■ 申請の流れ



- 申請・相談**：科目担当者・学生間で成績評価保留制度の利用について相談してください。
申請する場合は、科目担当者が授業運営課に申請書を請求します。
- 結果**：申請結果を授業運営課より科目担当者・学生に連絡します。

19 成績照会

- 成績は、UNITAMAで随時確認できます。各自の責任において必ず確認してください。
- 単位の認定や成績評価に関しては、電話での問い合わせはできません。
- 成績照会日程は、学期ごとにUNITAMAで案内します。

■ UNITAMAによる成績照会の方法

- ① UNITAMAのトップ画面を開きます。
- ② 画面の上にあるメニューバーのなかから成績関連の成績照会をクリックしてください。

The screenshot shows the UNITAMA portal interface. At the top, there is a navigation bar with several menu items: ユーザー情報, 履修関連, 授業関連, 成績関連, 健康診断, アンケート, ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト. The '成績照会' (Grade Inquiry) item under '成績関連' is highlighted with a blue box, and a blue arrow points to it from the text in step 2. Below the navigation bar, the main content area is divided into several sections: 'ポータル' (Portal) with a calendar for February 2016, 'UNITAMA情報' (UNITAMA Information) with a notice about Student Life target setting, 'お知らせ' (Notice) with a notice about the Faculty of Arts performance, '教室変更' (Classroom Change) with a notice about US-COAR classroom updates, '時間割' (Timetable) with a notice about ELF-EFL timetable updates, and '履修情報' (Enrollment Information) with a notice about ELF H28 enrollment methods.

20 GPA制度

▶GPA (Grade Point Average)

履修科目の成績平均値のこと。それぞれの評価に一定のポイントを設定し、不合格科目を含めて算出されます。

- 科目履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績評価を得よう努力しなければなりません。そこで、本学では、学生個々の学修達成度の評価法としてGPA（科目成績平均値）制度を導入しています。
- GPAは次のようにして算出されます。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数} \times \text{成績値}) \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位合計}}$$

*以下の場合、GPA 計算に算入されません。

- ① 入学以前に修得した単位の認定科目（高大連携（学内）を除く）
- ② 合否科目（PF 評価科目）
- ③ 「C評価」再履修の結果が「C評価以下」の場合は、累積GPAにのみ算入されません（学期GPAには算入されます）
- ④ SAE長期留学など、学期を遡って成績がつく科目は、学期GPAにのみ算入されません（累積GPAには算入されます）

■GPA評価

評価	成績値 (Grade Point)	評価点
S	4.00	90 ~ 100
A	3.00	80 ~ 89
B	2.00	70 ~ 79
C	1.00	60 ~ 69
F	0	59以下

1 GPA計算例

単位修得状況と評価が次のような場合を例に、GPAを計算してみます。

科目名	単位	評価	修得単位数×成績値
健康教育	1	S	1×4.00=4
ELF101	4	A	4×3.00=12
ELF102	4	F	
ELF102	4	A	4×3.00=12
比較文化論	2	B	2×2.00=4
心理学	2	F	2×0=0
計	13	-	32

← 再履修して「A評価」を得たので、このF評価はGPAには算入されません

← 再履修していないためF評価としてGPAに算入されます

上記の GPA は、 $32 \div 13 = 2.46$ となります。 ※割り切れない場合は、小数点以下第3位を四捨五入します。

2 GPAの使用例

	活用している学部・学科	GPAの基準値
卒業要件	全学部・全学科	2.00
進捗チェック	農学部 教職コース 2～3年次	2.30
警告制度	全学部・全学科	2.00
教職課程・資格受講条件	教育学部（第4セメスター終了時のみ） ※3年次編入生は第5セメスター終了時のみ	2.00

(次ページへ続く)

GPAの使用例（続き）

	活用している学部・学科		GPAの基準値
教職課程受講・受講継続条件	文学部	国語教育学科	第2 Semester 終了時：累積2.30 第4、第6 Semester 終了時：累積2.50
		英語教育学科	2.40
	農学部・芸術学部		2.30
	工学部		2.40
ダブル免許プログラムの 受講条件	教職課程を受講できる学部・学科 (教育学部乳幼児発達学科を除く)		2.80
SAE海外留学・研修プログラムへの参加	全学部・全学科		留学先による
SAE海外留学奨学金への 申請条件	全学部・全学科		3.00または 学科順位3分の1以内
ゼミや研究室を選択する際の優先順位	各学科による		
奨学金の申請条件	全学部・全学科		各奨学金による
500番台科目の履修			学科順位3分の1以内
学長賞・優秀学生賞などの選定	全学部・全学科		学科順位上位
本学大学院への学内推薦の基準	全研究科		3.00
卒業後、科目等履修生に出席する 場合の教職課程受講条件	文学部・農学部・工学部・芸術学部		出願時の条件による

*その他に学科の定めるプログラム、科目で活用する場合があります。
学部の履修案内やガイダンス、掲示等を確認してください。

▶ダブル免許プログラム
参照『教職課程 受講
ガイド』p.14

21 成績確認制度

- 本学が定める評価の定義を確認したうえで、当該Semesterに「F（不合格）評価」を受けた科目について不明な点がある場合、成績確認期間（日程については、UNITAMAで伝達）に確認をすることができます。
- 自分の授業への出席状況やレポート提出の有無などをふまえたうえで、なお評価についての疑義がある場合には、この制度を利用して成績確認を申請することができます。
- 成績の問い合わせができるのは、学生本人のみです。

1 「F評価」の確認方法

授業運営課窓口で手続き（手続きの方法は別途UNITAMAで指示します）

「成績確認申請書」を受け取り、確認したい事項を記入し、授業運営課窓口へ直接提出

授業運営課で「成績確認回答書」を受け取る（授業運営課より呼び出しがあります）

*回答は、成績確認期間後10日以内に書面で行います。内容により回答に時間がかかる場合には、そのつどお知らせします。

▶成績確認申請書
ホームページからも
ダウンロードできます。

2 「F評価以外」の確認方法

- 「F評価以外」の評価に関して質問がある場合は、同時期に科目担当教員（非常勤講師の場合は、所属学部の教務主任または所属学科の教務担当）に直接質問をしてください。

22 単位の認定

1 単位の認定時期

- 合格した科目の単位は、各 Semester 末に認定されます。
- Semester の途中で退学・休学・除籍をした場合、その Semester で履修している科目の単位は認定されません。
- 下表の「開講時期・開講科目等」欄に記載された時期あるいは科目に関しては、通常の場合と単位認定時期が異なるので、注意が必要です。

		開講時期・開講科目等	単位認定時期
集中講義・ 集中実習の単位		夏季休暇中（サマーセッションを含む）	秋 Semester 末
		冬季・春季休暇中（ウィンターセッションを含む）	翌年度の春 Semester 末
		夏季休暇中から秋学期定期試験期間最終日まで	当該年度の秋 Semester 末
		春季休暇中から翌年度春学期定期試験期間最終日まで	翌年度の春 Semester 末
		「体育」	秋 Semester 末
申請により 認定された単位		語学科目の履修免除制度で単位認定された科目	申請した Semester 末
		入学以前に他大学等で修得した科目	入学年度の最初の Semester のみ
より 修得 した 単位 に S A E プ ロ グ ラ ム	長 期 プログラム	6 か月未満のプログラム	実施された Semester
		6 か月以上 1 年未満のプログラム	プログラム終了時の Semester
	* 留学先の大学から成績通知が送られてきてからの認定となりますので、通知には多少の時間がかかります。		
	短 期 プログラム	夏季休暇中	秋 Semester 末
冬季・春季休暇中		翌年度の春 Semester 末	
単位互換科目・ 共同授業の単位		随時	受講した Semester の 翌 Semester
教育実習の単位		事前指導、教育実習、事後指導と 3 Semester にわたり実施	事前指導から数えて 3 目目の Semester
		例) 第 6 Semester で事前指導を登録した場合、単位認定は第 8 Semester	

* 単位認定時期が卒業後になる場合は受講できません。

2 SAE海外留学・研修プログラムの単位認定

- 本学の海外留学・研修プログラムは、SAE (Study Abroad Experience) と呼ばれています。このプログラムの概要は、下表のとおりです。(学科の留学プログラムについては「履修案内」の各学科のページを確認してください)

研修期間		単位の認定基準
SAE海外留学・研修プログラム	留学	① 半年間の留学プログラムについては、16単位を上限に認定
		② 1年間の留学プログラムについては、32単位を上限に認定
	研修	③ 「国際研究A～F」などの2～5単位を認定
		④ 複数のプログラムに参加した場合は、在学中にすべてのプログラムによる認定単位が60単位を超えない範囲で認定
		⑤ ①～④において認定される単位は、他の制度により認定された本学以外の単位数と合わせて60単位を超えない範囲で認定する。ただし、編入学生の編入学時の認定単位は含まれない。

- いずれの場合も、この留学で修得した科目は、本学の授業科目の履修で修得した単位として認定を受けることができます。また、留学・研修期間は、本学の修業年限に含まれます(4年次の海外留学・短期研修への参加については、卒業が延期になる場合がありますので各学科の教務担当に相談してください)。
- プログラムの詳細は、[国際教育センター \(ELF Study Hall 2015\)](#) に問い合わせてください。

3 他大学との単位互換・共同授業

- 本学では開講されていない他大学(単位互換協定校に限る)の科目を受講し、修得した単位を本学の単位として認定する首都圏西部大学/ネットワーク多摩単位互換制度があります。
- この制度の詳細や履修申請手続きについては、ガイダンスでお知らせします。ガイダンスの時期については、掲示で連絡します。

		首都圏西部大学/ネットワーク多摩※1	首都圏西部大学
		単位互換	共同授業※2
履修	許可条件	① 警告制度や履修条件(進捗チェック)に1度も抵触していないこと(申請時および受講時を含む) ② 単位互換・共同授業で10単位を修得していないこと ③ 第7セメスターの履修許可条件は上記①②のほかに、第6セメスター終了時に卒業見込みがあること *本学開講の単位互換科目は、単位互換科目として履修できない	
	時期	第2セメスターから第7セメスター *第7セメスターでの履修科目は「春学期(前期)開講科目」のみとする(通年科目は履修できない)	
	上限科目数	5科目(10単位)まで	3講座(6単位)まで
	1セメスター当たり上限科目数	2科目	1講座
単位認定	時期	受講したセメスターの翌セメスター (他大学の履修条件ならびに単位認定の時期が異なるため)	
	取り扱い	卒業要件単位に含め、自由選択科目の単位として認定(学部・学科・学年によって異なる場合あり) *GPA計算の対象に含める	

- ※1 上記の大学単位互換協定による単位互換制度以外にも、他大学・他機関との協定により実施される可能性があります。
- ※2 共同授業を受講した学生は、受講後に授業出席回数など一定の条件を満たせば、所属する大学の単位として認定されます。

▶SAE 海外留学・研修プログラム

本学と海外の受け入れ大学の間で結ばれた交流協力協定などに基づき、実施される海外留学・海外研修プログラムです。各学部・学科で実施している留学プログラムは含まれません。

▶卒業(修業年限)

参照「履修ガイド」p.40

▶国際教育センター留学実現までの流れ

<http://www.tamagawa.ac.jp/gec/program/flow1.html> 参照

▶単位互換

単位互換とは、大学・短期大学が相互に単位互換協定を締結し、これらの大学に所属する学生が、他の大学の授業科目を履修し、そこで修得した単位を所属する大学の単位として認定しようとするものです。単位互換協定に参加する大学からは、それぞれ特色のある授業科目や、他の大学にはないユニークな授業科目が提供され、学生の知的な関心や興味に応じた授業が行われます。

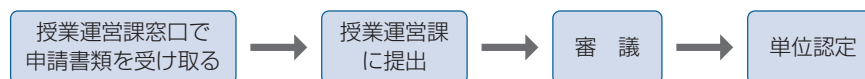
▶共同授業

共同授業とは、首都圏西部大学単位互換協定に参加している大学が連携して授業科目(総合講義)を開設し、各大学の講師がオムニバス形式で授業を実施するものです。

4 入学以前に他大学等で修得した科目の単位認定

- 入学以前に、他の大学（または短期大学）および高大連携（学内）において履修した授業科目がある場合、本人の申し出に基づき、本学が教育上有益と認める場合に限り、本学における授業科目の履修により修得したものとして、単位を認定する場合があります。

■ 申請の手順



- * 単位を修得した大学（または短期大学）の成績証明書と申請科目のシラバスを添付のこと
- * 申請期間は、掲示で連絡します。
- * 申請しても認定されない場合もあります。

		入学以前に他大学等で 修得した科目の単位認定	高大連携（学内）
申 請	時 期	入学年度の最初のセメスターの掲示で 指定された期日のみ	単位認定を必要としない科目がある場合 のみ指定された期日までに授業運営課に 取消申請
	方 法	申請書類+大学（短大）の成績証明書と 申請科目のシラバスを授業運営課に提出	
単 位 認 定	時 期	申請したセメスター	
	取 り 扱 い	① 卒業要件に含める	
		② 「B評価以上」の科目が単位認定され、成績評価（S、A、B）はつかない	② 「B評価以上」の科目が単位認定され、成績評価（S、A、B）がつく
		③ GPA計算の対象外	③ GPA計算の対象とする
		④ セメスターの履修上限単位には含めない	
認 定 単 位 数	上限60単位（一律ではない）	上限14単位（「B評価以上」のみ認定）	

23 修得単位数から見た学年

- 1～4年の学年区分に対応する修得単位数は下表のとおりです。各学年区分に対応する単位数を修得できない場合は、4年間での卒業が延期となることがあります。また、下表の学年区分に対応する修得単位数を満たしていない場合、その学年で履修可能な科目が制限されることがあります。その場合は所属学部の教務担当教員の履修指導を受けることになります。

学年区分	修得単位数
1年次	0～31単位
2年次	32～61単位
3年次	62～91単位
4年次	92単位～

※転・編入学および再入学に関しては、「B評価」（100点満点で70点）以上を認定し該当学年に配置します。

24 警告制度

- 各セメスター終了時に、学修状況の確認が行われます。**累積GPA2.00未満**の学生には「警告」が出されます。履修登録単位数が「0」単位の場合は、学修する意思がないものとみなし、警告の対象となります（休学および停学1か月以上の学生は除く）。
- 「警告」を受けた学生には、書面で保証人住所に、本人・保証人の連名宛に郵送されます（社会人入学生は本人住所・本人宛）。なお、「警告」を受けていない学生には、特に通知することはありません。
- 「警告」を受ける回数によって、下記表のとおりの対応となります。

1回	本人に成績不振に対する学修指導ガイダンス等を実施 他大学との単位互換科目や共同授業の受講資格を失う
2回	本人・保証人との面談を実施
3回	退学勧告（本人・保証人との面談を実施し、退学するか学修を継続するかは本人が選択する）
4回	退学処分（玉川大学学則第39条により） （ただし、定められた期日までに、「退学願」が提出された場合は依願退学となります）

※成績公開後に、警告を受けて退学を希望する場合、退学期日は、学期末日となります。

▶GPA制度

参照『履修ガイド』
p.32

▶退学

参照『学生生活ガイド』
p.52

▶玉川大学再入学に関する規程

参照『学生生活ガイド』
p.158

▶玉川大学学則

参照『学生生活ガイド』
p.148～157

25 履修条件（進捗チェック）

- 学部・学科（コース）により定めるセメスター終了までに、規定の条件を満たしていない場合は、次セメスター以降の履修が大幅に制限されます。
- 学部・学科によっては、次セメスターに進めない場合や履修できない科目が出てくる場合もあり、結果として4年間での卒業が不可能になることがあります。
- 詳しくは各学科の履修案内のページを参考にしてください。

■進捗チェックをするセメスターと判定項目

学部	学科	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
文学部	国語教育学科				<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 ・指定する必修科目の修得 		<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 ・指定する必修科目および必修選択科目の修得 			
	英語教育学科					留学後特別学期終了後 <ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 				
農学部	生産農学科						<ul style="list-style-type: none"> ・指定する必修科目の修得 			
	生産農学科 理科教員養成プログラム						<ul style="list-style-type: none"> ・指定する必修科目の修得（P.39および教職課程受講ガイドP.49参照） 			
	環境農学科						<ul style="list-style-type: none"> ・指定する必修科目の修得 			
	先端食農学科									
工学部	情報通信工学科						<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 			
	ソフトウェアサイエンス学科						<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 			
	マネジメントサイエンス学科						<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 			
	エンジニアリングデザイン学科						<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 			
経営学部	国際経営学科	セメスターごとに基準を設定し「注意」を実施								
教育学部	教育学科				<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 					
	乳幼児発達学科									
芸術学部	パフォーミング・アーツ学科	進捗チェックに代えて、セメスターごとに基準を設定し「注意」を実施								
	メディア・デザイン学科									
	芸術教育学科									
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科						<ul style="list-style-type: none"> ・累積修得単位数 			
観光学部	観光学科	セメスターごとに基準を設定し「注意」を実施								

26 卒業見込み

大学にあと1年間で在学すれば卒業できる見込みがあることを、「卒業見込み」といいます。卒業見込みの要件は、次のとおりです。

- ① 3年以上在学（休学期間を除く）していること
- ② 92単位以上修得していること*1
- ③ 以下に挙げる各学科等の定める履修条件、進捗チェックまたは卒業研究着手条件等を満たしていること

*1 特別学期の履修により92単位以上修得見込みとなる場合、判定会議を経て卒業見込みとする。

学部・学科	卒業見込み要件
文学部国語教育学科	第6セメスター終了時における履修条件（進捗チェック）を満たしていること
文学部英語教育学科	学科の定める留学を経験していること
農学部生産農学科	（卒業研究着手条件） 第6セメスターまでの学科必修科目の実験・実習・演習科目をすべて修得
農学部生産農学科 理科教員養成 プログラム	（第6セメスター終了時における教育実習受講条件チェック） 教育実習の受講には、第6セメスター終了時に以下の科目を修得していることが条件となる。 (1) 「教育実習」「教職実践演習」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を修得済みであること。なお、各教科の指導法については、理科のみもしくは理科と農業を取得する者は「理科指導法Ⅰ・Ⅱ」、農業のみの学生は「農業科指導法Ⅰ・Ⅱ」を修得済みであること。 (2) 「教育実習（事前指導）」で「P評価」を得ていること
農学部環境農学科	（卒業研究着手条件） 第6セメスターまでの学科必修科目の実験・実習・演習科目をすべて修得
農学部先端食農学科	（卒業研究着手条件） 第6セメスターまでの学科必修科目の実験・実習・演習科目をすべて修得
教育学部教育学科	「現代教育研究Ⅰ・Ⅱ」を修得していること
教育学部乳幼児発達 学科	「現代教育研究Ⅰ・Ⅱ」を修得していること
芸術学部芸術教育学科	「芸術教育研究Ⅰ」を修得済みのこと
観光学部観光学科	学部の定める1年間の留学プログラムを終了していること 期日までに下記の英語力判定テストで所定のスコアを取得していること TOEIC® L&Rテスト600点以上

※「卒業見込み証明書」は、以上の要件を満たした場合に、申請により発行されます。

※休学等で在籍期間が延びる場合は、卒業見込みが取り消されます。

※復学する前には、卒業見込み判定を実施します。

※卒業見込み要件を満たしていても、各学期末のチェック時に卒業時期が延期となった場合は、半期ずつ卒業見込み日が延期されます。

※卒業見込み要件を満たしていても、各学期末のチェック時に卒業見込み要件を満たせなくなった場合は、卒業見込み日は延期されます。

※工学部・経営学部・芸術学部（パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科）・リベラルアーツ学部は①・②の要件のみ。

27 卒業

▶卒業要件

*卒業するには、所属する学部学科の卒業要件を満たす必要があります。

▶単位制授業料

該当者には授業運営課より通知が届きます。

▶学位の授与

参照「履修ガイド」p.13

▶修業年限

大学に在籍する年数のこと

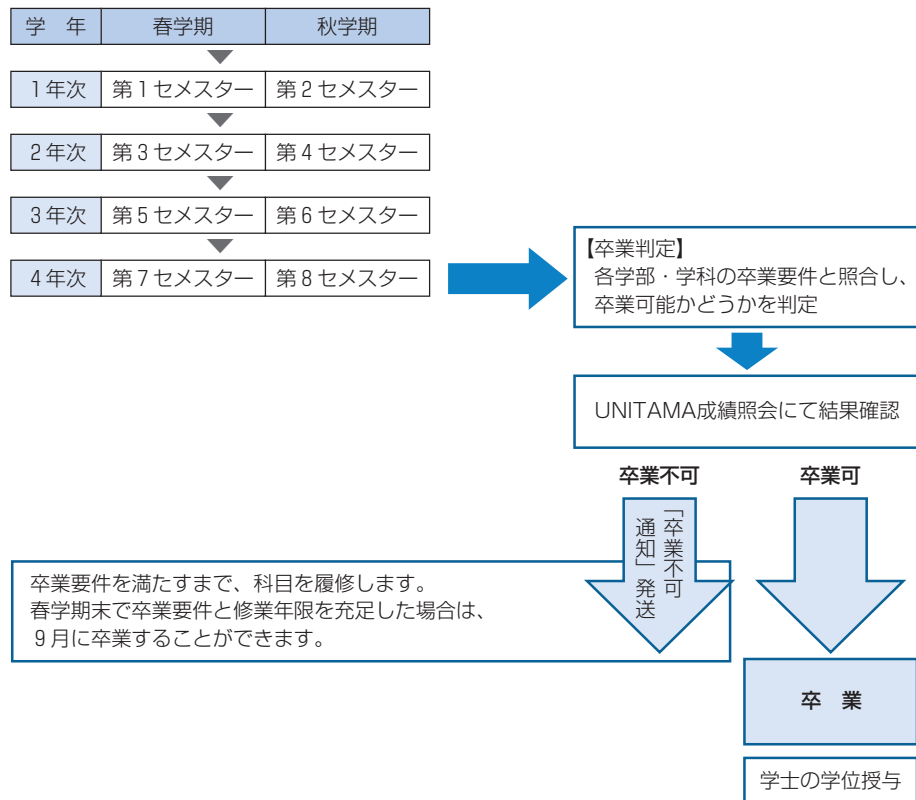
1 卒業要件

- 大学を卒業するための要件は、次のとおりです。
 - ① 修業年限を満たすこと
 - ② 各学科の卒業要件を充足すること
 - ③ 累積GPAが2.00以上であること
 - ④ 全科目の修得単位の合計が124単位以上あること
- *学部によっては、資格取得も卒業要件に含まれる場合があります。

2 卒業の通知

- 卒業の可否は、UNITAMA成績照会にて確認してください。
 - 卒業不可の場合は、保証人住所宛に書面で郵送されます。(社会人入学生は本人住所)
- 卒業可・不可に関する件を電話で問い合わせることはできません。
- 卒業判定の結果「卒業不可」となった場合、単位制授業料が適用される場合があります。

■卒業（学位授与）までの流れ



■修業年限と在学年数

	修業年限	在学できる年数
1年次入学	4年	8年
2年次編入	3年	6年
3年次編入	2年	4年

*休学期間は含みません（再入学の場合は、『学生生活ガイド』p.55参照）。

28 転・編入学

1 転・編入学生の既修得単位の取り扱い

■ 単位認定と学年決定

- 前の大学（短期大学）等において修得した科目の単位のうち、本学の基準で「B評価」（100点満点中70点相当）以上の科目に対し、62単位を上限として振替科目を修得したものと認定します。
- 振替可能科目は本学の科目として振り替られる科目のみとします（修得単位すべてが認定されるとは限りません）。
- 認定単位数に応じて転・編入学後の学年を決定します。下記基準を参照してください。
- 履修登録前に教務担当教員よりガイダンス等の指導が行われます。履修計画は、必ずその指導に従って立てるようにしてください。

■ 単位認定の基準

	1年次	2年次	3年次
時 期	転・編入学した Semester		
取 扱 い	① 入学した Semester の卒業要件に含める ② 単位の認定のみとなり、成績評価（S・A・B）はつかない。 ③ GPA計算の対象外 ④ Semester の履修上限単位には含めない		
認定単位数	0～31単位	32～61単位	62単位

2 転・編入学後の履修

■ 留意事項

- 「玉川の教育」（0.3単位）は必修です。
- 「ELF」については下記の基準に基づき、単位を認定します。
 - ① 既習の大学レベルにおける「英語」の「B評価」相当以上の単位数が玉川大学の8単位相当までは、4単位ごとに「ELF101」「ELF102」で認定する。
 - ② 8単位を超過した場合、あるいは教職課程等の要件との関連で「ELF201」以上の上位科目での認定が必要な場合、上記の①に加え、以下の条件を満たした場合には認定を可能とする。
 - 《ELF201/202》
 - A. シラバス等で既習のクラスの英語のレベルが、以下のいずれかであるか確認ができる場合：TOEIC®L&R 400, IELTS 3.0, TOEFL iBT40, 英検準2級 CEFR A2 以上
 - B. A相当の英語標準テストのスコア（過去2年間）を提出できる場合
 - 《ELF301/302》
 - A. シラバス等で既習のクラスの英語のレベルが、以下のいずれかであるか確認ができる場合：TOEIC®L&R 500, IELTS 4.0, TOEFL iBT52, 英検2級 CEFR B1 以上
 - B. A相当の英語標準テストのスコア（過去2年間）を提出できる場合
- 教職課程を受講する学生は、転・編入学以前に在籍していた大学の学部・学科が課程認定を受けている場合のみ、「教育の基礎的理解に関する科目等」を認定可能とします。

II

履修案内

1	履修計画	44
2	履修の制限	45
3	特別学期の履修	46
4	他学部・他学科科目の履修	46
5	大学院科目の履修	47
6	学際領域プログラム「人間総合学」	48
7	外国語科目の科目履修免除制度	49
8	履修登録科目の取り消し制度	50
9	C・F評価科目の再履修制度	50
10	教育課程表の見方	51

■	ユニバーシティ・スタンダード科目	53
■	文学部	59
	国語教育学科	62
	英語教育学科	69
■	農学部	79
	生産農学科	81
	生産農学科理科教員養成プログラム	84
	環境農学科	88
	先端食農学科	94
■	工学部	101
	情報通信工学科	106
	ソフトウェアサイエンス学科	112
	マネジメントサイエンス学科	118
	エンジニアリングデザイン学科	124
■	経営学部	129
	国際経営学科	131
■	教育学部	149
	教育学科	158
	乳幼児発達学科	164
■	芸術学部	171
	パフォーミング・アーツ学科	176
	メディア・デザイン学科	182
	芸術教育学科	188
■	リベラルアーツ学部	195
	リベラルアーツ学科	197
■	観光学部	209
	観光学科	211

1 履修計画

- どの科目を履修するかについては、卒業までのプロセスを自分なりに熟慮し、授業科目を体系づけて計画することが必要です。また、教育職員免許状などの免許や資格を取得する場合は、併せて履修計画を立てなければなりません。
- 卒業に必要な単位数は124単位です。それを8セメスター（4年間）で修得するために各自しっかり履修計画を立ててください。
- 各自の履修計画を立てるには、教育課程表・講義要覧・シラバス・授業時間割・教員一覧を参考にするとよいでしょう。
- 履修や学修について相談したいことがあるときは、所属学科の教務担当または学級担任に相談してください。
- 科目によっては、「『○○○』という科目を修得していなければ履修できない」など、その履修に条件のある科目があります。詳しくは、各学部・学科の履修案内のページを参考にしてください。

▶講義要覧

参照『履修ガイド』
p.25

▶シラバス

参照『履修ガイド』
p.26

▶授業時間割

参照『履修ガイド』
p.20

▶教員一覧

参照『履修ガイド』
p.27

▶履修

「受講しようとする科目について登録し、その後、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」までの一連の過程を意味します。特に「履修登録」に関することをさして使われる場合があります。

▶学生時間割表

自分がWeb履修登録した科目を確認するための履修画面。

▶カリキュラムの概要

参照『履修ガイド』
p.14～15

1 履修計画を立てるためのポイント

- ① 所属学科の卒業要件・進捗チェックなどのルールを理解すること
▶所属学科の履修案内をよく読む
- ② 必修科目は、指定された履修セメスターで早めに履修すること
▶必修科目の開講期・開講曜日時限を所属学科の授業時間割で調べる
- ③ 各セメスターの履修上限16単位の範囲内で、選択科目を履修できる。選択科目は、必修科目の開講時間以外の空いている時間で履修すること
▶所属学科および他学部・他学科の授業時間割で調べる
▶講義要覧・シラバスでそれぞれ科目の内容を調べる
▶担当教員の情報については、教員一覧で調べる
- ④ 履修する授業が連続しないように空き時間を設けること
▶前の授業の復習や次の授業の予習を行う
- ⑤ 教育職員免許状の取得については、『教職課程受講ガイド』を熟読すること
- ⑥ 資格の取得を希望する場合は、『履修ガイド』等を確認し、必要な科目をチェックすること

上記は、あくまでもポイントです。

履修や資格取得についてのガイダンス等に必ず出席して、担当教員の指示に従うこと。

2 履修手続きのポイント

- ① ガイダンス等に必ず出席すること
履修登録期間前にガイダンス等で、履修についての具体的な説明や指示がなされます。自らの履修計画をチェック・検討するために役立ててください。
- ② 自分の責任で行うこと
特に、履修科目の登録・確認・訂正は、卒業・履修条件（進捗チェック）等にかかわるきわめて重要な事項です。決して他人に代行させたり、人任せにしたりすることのないようにしてください。
- ③ 履修登録期間内に、履修登録を完了させること
指定された期間内に履修登録の手続きをしなかった科目の受講はできません。

2 履修の制限

- 科目を履修するにあたっては、以下のような制限があります。
 - ① 各セメスターで履修できる科目は、その合計が16単位以内です。
(詳しくは、下記「履修登録単位数の制限(上限16単位)」を参照)
 - ② 履修できる科目は、各人が在籍するセメスターおよび下位セメスターにて開講の科目とします。
*在籍するセメスターより上位セメスターで開講している科目は履修できません。
 - ③ 「B評価」以上で合格した科目は、再履修することはできません。
 - ④ 同一時間帯に1科目を超えて履修することはできません。
 - ⑤ 定期試験終了後、休暇期間中に開講される授業(サマーセッション・ウィンターセッションは除く)の履修登録および単位の認定は翌セメスターに行います。
*したがって、卒業時の最終セメスター(学期)の学生は「履修単位の制限(上限16単位)」の項にある履修上限外の科目を受講できない場合があります。

1 履修登録単位数の制限(上限16単位)

- 各人が1週間に授業を受講して学修するには、おのずと限界があります。そこで本学では、履修できる科目の合計単位を各セメスター16単位以内としています。上限16単位を超えて登録することは認められていません。
- ただし、上限16単位に含めない単位として、以下のものがあります。
 - ① 「玉川の教育」
 - ② 「音楽Ⅰ」
 - ③ 「音楽Ⅱ」
 - ④ 「体育」
 - ⑤ サマーセッション、ウィンターセッションで修得した単位
 - ⑥ 本学通信教育部が行う学内スクーリングの教職科目の単位(教育学部のみ)
 - ⑦ 海外留学・研修(SAEプログラム等)で修得した単位(「国際研究A~F」等)
 - ⑧ 行政の取り組み等に参加して認定された科目(「地域創生プロジェクトA~F」)
 - ⑨ 首都圏西部大学/ネットワーク多摩単位互換制度および共同授業の単位
 - ⑩ 入学前に修得した単位(玉川大学学則第16条~第18条により認定)
 - ⑪ インターンシップを実施して認定された単位
 - ⑫ 外国語科目の履修免除制度で認定された科目

2 成績優秀者の18単位履修制度

- 前セメスターの当該学期GPA3.20以上という条件を満たした場合に、上限16単位を超えて最大2単位まで履修登録することができます。
*留学前の学期GPAが3.20以上の場合、帰国直後の学期に適用します。

▶セメスター制
参照「履修ガイド」
p.16

▶首都圏西部大学/ネットワーク多摩単位互換制度
および共同授業
参照「履修ガイド」
p.35

▶玉川大学学則
参照「学生生活ガイド」
p.148 ~ 157

3 特別学期の履修

- 通常授業期間外に特別学期（サマーセッション・ウィンターセッション）を設けて、春学期・秋学期において不合格になった必修科目のうち当該セッションでの履修が必要な科目および、集中で行う必要がある科目を開講する場合があります。
- 特別学期を履修するにあたっては、以下のような留意点があります。なお、詳細については、各学期のUNITAMA掲示を確認してください。
 - ① 「C・F評価」科目の再履修および、新規科目を履修することができます。
 - ② 修得単位は次学期末に認定されます。
 - ③ 次学期の履修上限単位には含まれません。
 - ④ 次学期の成績評価（GPA制度）に含まれ、警告制度の対象となります。（F評価も含む）
 - ⑤ 卒業要件単位とし、成績評価（GPA制度）の対象となります。
 - ⑥ 受講については有料となります。（科目および、単位数に応じて金額は変わります）
 - ⑦ 4年次生は卒業が次セメスター以降の場合、特別学期の受講は可能とする。

4 他学部・他学科科目の履修

- 自分の所属している学科やコース以外の学部・学科で開講している科目を、その他の選択科目（自由選択科目）として履修することができます。
- 受講を希望する学科の教育課程表で、その科目が他学科受講可能かを確認し、履修してください。
- 科目によっては、他学科の学生が受講できない場合もあります（授業定員が定められているなどの理由による）。
- 原則、履修訂正期間での履修は認めません。

5 大学院科目の履修

- 大学院への進学希望者で、一定以上の優秀な成績を修めた学生は、第7セメスターおよび第8セメスターで、さらに高度な専門科目として大学院の科目を学ぶことができます。
- 大学院科目は、科目番号から「500番台科目」と呼ばれます。

1 受講資格

- 96単位以上修得している4年生で、累積GPAの順位が所属学科で上位3分の1以内である者のみ受講できます（卒業見込みの資格を有すること）。

2 履修上限および修得単位の取り扱い

- ① 履修上限単位数は10単位とします。
- ② 各セメスターにおける履修上限単位数の16単位に含まれます。
- ③ 大学の卒業要件単位に含まれます（累積GPAに算入されます）。
- ④ B評価以上の科目は本学の大学院に進学した際に、成績証明書を添付して申請することにより、既修得科目として大学院で認定を受けることができます。

上記項目の条件を満たし、制度を理解したら

指定された履修登録期間に、授業運営課で手続きをする。

受講の可否は授業運営課より連絡（受講許可がおりた科目は、自動的に履修登録されます）

- *ただし、履修申請した科目に大学院生の履修希望者がいない場合は閉講となります。
- *科目によっては受講定員が設定されます。その場合、大学院生が優先となります。

▶大学院科目履修申請願
ホームページからも
ダウンロードできます

6 学際領域プログラム「人間総合学」

1 目的

- 学部学科を問わず、脳科学や人間科学に興味のある学生に本プログラムを提供することで、広く人間に関する学問を学ぶプログラムです。

2 受講申請

- プログラムを受講申請するには、履修登録期間に「学際領域プログラム（人間総合学）受講届」に受講事由を記載し、教学部授業運営課に提出してください。
- プログラムの詳細についてはガイダンスにて説明します。ガイダンスの日程等はUNITAMAにてお知らせします。

3 修了条件等

- ① 指定された科目群から**12単位以上を修得**すること
 - ② 「ミクロ脳科学」、「マクロ脳科学」を修得すること
 - ③ 修得科目の累積GPAが2.50以上であること
 - ④ 所属学科の卒業要件を充足すること
- 指定の期間に受講申請し、上記の要件を充足した学生には、学位記とともに「学際領域プログラム（人間総合学）修了証」を授与します。
※受講手続きをせずに結果として修了要件を満たしていたとしても修了証は発行しません（判定もしません）。

■学際領域プログラム「人間総合学」修了に必要な科目

科目名		単位	
ユニバーシティ・スタンダード科目	人文科学科目群	文化人類学	2
		哲学	2
		倫理学	2
		科学史	2
		人間関係論	2
	社会科学科目群	心理学	2
		社会学	2
		科学技術社会論	2
	自然科学科目群	生物学入門	2
		統計学入門	2
		人工知能と社会	2
	学際科目群	●ミクロ脳科学	2
		●マクロ脳科学	2
		病理学	2

- は必修科目

7 外国語科目の科目履修免除制度

1 申請の条件

- 外国語科目履修を免除し、単位を認定する制度があります。
- 申請できるのは、下表の認定基準をクリアした者です。

科目名		認定基準
ユニバーシティ・スタンダード科目	ドイツ語	ドイツ語101 ドイツ語102 ドイツ語技能検定試験（独検）3級 およびこれに準ずる検定試験等のレベルで玉川大学が認めるもの
	フランス語	フランス語101 フランス語102 実用フランス語技能検定試験（仏検）3級 およびこれに準ずる検定試験等のレベルで玉川大学が認めるもの
	スペイン語	スペイン語101 スペイン語102 スペイン語技能検定試験（西検）6級 スペイン語検定D.E.L.E初級 およびこれに準ずる検定試験等のレベルで玉川大学が認めるもの
	中国語	中国語101 中国語検定試験（中検）準4級 漢語水平考試（中国語能力認定試験）1級 およびこれに準ずる検定試験等のレベルで玉川大学が認めるもの
	中国語102 中国語検定試験（中検）4級 漢語水平考試（中国語能力認定試験）2級 およびこれに準ずる検定試験等のレベルで玉川大学が認めるもの	

- この制度で認定できる単位は、在学中4単位を上限とします。
- 以下に該当する場合は、申請できません。
 - ① 履修免除となる科目をすでに修得している場合
 - ② 過去にこの制度で4単位の認定を受けている場合
 - ③ スコア等の取得日が、申請日の時点で2年以上経過している場合

2 申請の時期

学期	申請期日
春学期	4月上旬
秋学期	9月下旬

詳細は、学期ごとにUNITAMAで案内します。

申請した科目については、履修登録する必要はありません。

3 単位の認定と成績評価

- ① 申請したセメスターで単位を認定します。
- ② 認定の単位は、セメスターの履修上限単位には含めません。
- ③ 認定の単位は、卒業要件に含めます。
- ④ 認定単位の評価は「A」とし、GPAに加算します。

4 申請の手順



8 履修登録科目の取り消し制度

- 履修登録した科目内容が自分の期待するものと異なっている場合や、自分の関心に変化が生じた場合に、学期の途中で取り消しできる期間を設定してあります。出席不足で単位を修得できる見込みがない科目等の取り消しも可能です。
- 卒業には累積GPAが2.00以上必要ですので、「C評価」や「F評価」の可能性が高い科目を、この期間に取り消す工夫が必要な場合もあります。ただし、むやみに取り消しをすると、履修条件と警告制度に抵触する可能性がありますので、十分に注意してください。履修取り消しを希望する場合には、「学生時間割表」「履修取り消しチェック表」に必要事項を記入し各学部の定める教員から許可を得たうえで、授業運営課に提出してください。
- 履修登録科目の取り消し期間・手続き方法は、UNITAMAで連絡しますので、見落とさないように注意してください。

9 C・F評価科目の再履修制度

- 「C評価」、「F評価」科目は、再履修が可能です。再履修によって、以前の評価を上回る評価が修得できた場合には、累積GPAを上げることが可能です。ただし、再履修といえども、セメスターの履修上限16単位を超えることはできません（成績優秀者の18単位履修制度該当者を除く）。
- 「C評価」の再履修を希望する場合には、「C評価科目再履修願」の用紙に必要事項を記入したうえで、授業運営課に提出してください。詳細に関しては、ガイダンスならびにUNITAMA等で確認してください。なお、授業運営課に提出する前に必要に応じて学部の教務担当教員に相談してください。

10 教育課程表の見方

●次の区分により構成されています。

- ① ユニバーシティ・スタンダード科目〔玉川教育・FYE、人文科学、社会科学、自然科学、学際、言語表現、教職関連、資格関連〕
- ② 学科科目（各学科の履修案内のページに記載）

■教育課程表の項目

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件	他学科受講	備考	授業を通して修得できる力								
								知識・理解	汎用的技能				態度・志向性			
									多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力
①			②	③	④	⑤	⑥	⑦								

■教育課程表の項目の説明

① 科目記号／番号	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットの記号は学問領域、3桁の数字はレベル（履修する学年）を表しています（p.21参照）。
② 授業時間	本学の授業時間割は50分を1時限（1コマ）として構成されています。科目によっては、2コマ連続して行われることもあります。
③ 開講期	春学期に開講される場合には「春」、秋学期に開講する場合は「秋」、春秋ともに開講される場合には「春秋」もしくは「秋春」と記載されています。集中開講は「(集中)」と記載されています。
④ 履修条件	授業科目によっては、履修登録にあたっての条件が記されています。登録前に必ず確認してください。
⑤ 他学科受講	「○」がついている科目は、所属学科の学生以外でも履修できます。ただし、学科によってはその他の条件がつく場合がありますので、各学科の教育課程表を参照してください。
⑥ 備考	科目番号が表す履修学年と実際に履修可能な学年に違いがある場合に、履修可能学年を記しています。
⑦ 授業を通して修得できる力	当該科目を履修することによって、「何ができるようになるか」の指標となる項目が示されています。3分野13項目に分類されています。

この欄は、略称で表記しています。正式名称と英文名称は右記のとおりです。



知識・理解の観点 (Knowledge and Understanding)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 多文化・異文化に関する知識の理解 (Cross-cultural Understanding) 2. 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 (Culture/Society/Nature)
汎用的技能の観点 (Generic Skills)	<ul style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション・スキル (Reading/Writing/Speaking/Listening) 2. 数量的スキル (Mathematics) 3. 情報リテラシー (Information Literacy) 4. 論理的思考力 (Logical Thinking/Creative Thinking) 5. 問題解決力 (Problem Solving)
態度・志向性の観点 (Personal Qualities)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自己管理能力 (Self-management) 2. チームワーク (Teamwork) 3. リーダーシップ (Leadership) 4. 倫理観 (Ethical) 5. 市民としての社会的責任 (Social Responsibility) 6. 生涯学習力 (Lifelong Learning)

ユニバーシティ・スタンダード科目

玉川教育・FYE 科目群

人文科学科目群

社会科学科目群

自然科学科目群

学際科目群

言語表現科目群

教職関連科目群

資格関連科目群

ユニバーシティ・スタンダード科目は、学士課程教育において重要な役割を果たす教養教育と専門教育の連動を目指して構成されています。

ユニバーシティ・スタンダードの諸科目は、広い教養の世界に旅立つ学生の原点となる科目です。専攻領域と並行して、ユニバーシティ・スタンダードの諸科目を学ぶことで、学生はさまざまな学問分野にふれることができると同時に、それぞれの分野を自らの専攻領域の学問的・社会的役割と関連づけて理解する機会が与えられます。

ユニバーシティ・スタンダード諸科目の学修は、皆さんが専攻する学問領域の知識体系の意味を明確にするだけでなく、自己の存在を歴史・社会・自然と関連づけて理解するうえで有益です。

この科目群は、「玉川教育・FYE科目群」「人文科学科目群」「社会科学科目群」「自然科学科目群」「学際科目群」「言語表現科目群」「教職関連科目群」「資格関連科目群」の8群から構成されています。

ユニバーシティ・スタンダード科目 教育課程表

凡例 履修条件 ●: 必修科目

科目記号 / 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力																
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性										
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力				
玉川教育・FYE科目群																								
UNIV 101	一年次セミナー 101	2	100	春	●					●														
UNIV 102	一年次セミナー 102	2	100	秋	●					●														
UNIV 108	玉川の教育	0.3	50	秋	●					●														
HHS 100	健康教育	1	100	春	●					●														
MUS 101	音楽 I	0.7	105	春	●					●														
MUS 102	音楽 II	1	100	秋	●					●														
TED 200	全人教育論	2	100	春秋						●														
UNIV 201	二年次セミナー 201	2	100	春						●														
UNIV 202	二年次セミナー 202	2	100	秋																				
UNIV 301	三年次セミナー 301	2	100	春																				
UNIV 302	三年次セミナー 302	2	100	秋																				
UNIV 200	ピアリーダー	2	100	春秋																				
人文科学科目群																								
ANTH 100	文化人類学	2	100	春秋						●	●													
ANTH 101	民俗学入門	2	100	秋						●	●													
ART 115	美術史	2	100	春秋						●														
CWC 100	ことばと文化	2	100	春秋						●														
CWC 101	比較文化論	2	100	春秋						●														
JLIT 100	日本文学	2	100	春秋						●														
WLIT 100	外国文学	2	100	春秋						●														
HIST 102	歴史 (世界)	2	100	春秋																				
HIST 103	歴史 (日本)	2	100	春秋																				
MUS 103	音楽史	2	100	春秋						●														
PHIL 100	哲学	2	100	春秋																				
PHIL 101	倫理学	2	100	秋																				
PHIL 102	ロジック	2	100	春秋																				
PHIL 200	科学史	2	100	秋																				
RST 101	宗教学	2	100	春秋						●														
RST 100	世界の宗教と文化	2	100	秋						●														
THEA 100	演劇史	2	100	春秋						●														
RST 200	キリスト教学	2	100	春						●														
ENG 112	英語学	2	100	春秋						●														
JPN 105	日本語学	2	100	春秋						●	●													
JPN 107	日本学入門	2	100	春						●	●													
JPN 304	Japanology	2	100	春						●	●													
JPN 300	Japanese Pop Culture	2	100	秋						●	●													
HIST 300	Modern Japanese History	2	100	春						●	●													
HIST 400	East Asian History	2	100	春						●	●													
JPN 400	Issues in Japanese Studies A	2	100	春						●	●													
JPN 401	Issues in Japanese Studies B	2	100	秋						●	●													
UNIV 107	人文科学アカデミックスキルズ (リーディング)	1	50	春秋							●													
UNIV 106	人文科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1	50	春秋							●													
UNIV 205	名著講読 (人文科学)	1	50	春秋						●	●													
社会科学科目群																								
ACCT 100	会計学	2	100	春秋						●														
COMM 100	コミュニケーション論	2	100	春秋						●														
COMM 200	Academic Communication	2	100	春							●													
ECON 100	経済学 (国際経済を含む。)	2	100	春																				
INTL 201	国際関係論	2	100	春秋																				
LAW 100	市民社会と法	2	100	秋																				
B A 100	経営学	2	100	春秋						●														
B A 101	マーケティング	2	100	春秋						●														
POSC 100	政治学 (国際政治を含む。)	2	100	春秋						●	●													
PSY 101	心理学	2	100	春秋						●														
POSC 101	ポリティカル・サイエンス	2	100	春秋						●														

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件	他学科受講	備考	授業を通して修得できる力											
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性					
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任
SOC 102	社会学	2	100	春秋								●						●	
E D 107	ボランティア概論	2	100	秋											●		●		
E D 305	現代社会の教育課題	2	100	春秋				●				●						●	
SOC 200	科学技術社会論	2	100	秋														●	
TOUR 101	観光学入門	2	100	春									●						
UNIV 105	社会科学アカデミックスキルズ (リーディング)	1	50	春秋			学部指定のみ開講		●			●							
UNIV 104	社会科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1	50	春秋			学部指定のみ開講		●										
UNIV 204	名著講読 (社会科学)	1	50	春秋			学部指定のみ開講	●	●				●						
自然科学科目群																			
INFO 101	情報科学入門	2	100	春秋								●							●
INFO 106	ネットワーク入門	2	100	春秋								●							
INFO 104	データ処理	2	100	春秋								●							
INFO 109	マルチメディア表現	2	100	春秋								●							
CHEM 101	化学入門	2	100	春秋								●							
BIOL 105	生物学入門	2	100	春秋								●							
ESP 100	環境科学	2	100	春秋														●	
MATH 107	数学入門	2	100	春秋								●							
MATH 101	解析学入門	2	100	春秋								●							
MATH 109	代数学入門	2	100	春秋								●							
STAT 103	統計学入門	2	100	春秋											●				
PHYS 101	物理学入門	2	100	春秋								●							
PHYS 201	実践の物理学	2	100	春								●							
SCED 100	科学入門	2	100	春秋								●							
SCED 203	地球科学	2	100	春秋								●							
SCED 201	エネルギー科学	2	100	春			偶数年開講					●							
SCED 200	宇宙科学	2	100	春秋								●							
INTD 100	STEM入門 (科学と社会)	2	100	秋								●					●	●	
COSC 201	人工知能と社会	2	100	秋								●					●	●	
UNIV 103	自然科学アカデミックスキルズ (リーディング)	1	50	春秋			学部指定のみ開講			●			●						
UNIV 100	自然科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1	50	春秋			学部指定のみ開講			●									
UNIV 203	名著講読 (自然科学)	1	50	春秋			学部指定のみ開講	●	●					●					
学際科目群																			
BRSC 100	ミクロ脳科学	2	100	秋春								●	●	●					
BRSC 101	マクロ脳科学	2	100	春秋								●							
P E 101	健康スポーツ理論	2	100	春秋									●						
P E 102	生涯スポーツ演習	2	100	春秋									●						
E D 100	環境教育	2	100	春秋								●						●	
HIST 203	スポーツ史	2	100	秋								●							
P E 100	オリンピック文化論	2	100	春秋			2020年度まで開講					●							
HHS 301	栄養学	2	100	春									●						
HHS 305	病理学	2	100	秋								●							
COMM 101	マスメディアと社会	2	100	春秋														●	
PHIL 202	現代文化論	2	100	春			2年次より履修可					●	●						
INTD 113	プレゼンテーションスキル	2	100	秋								●	●	●					
INTD 200	Presentation Skill in English	2	100	秋								●	●	●					
INTD 201	複合領域研究 201 ~ 299	各2	各100	春秋								●							
E D 209	野外教育	2	100	秋									●						●
INTD 101	TAPファシリテーション I	2	100	春秋									●	●					●
INTD 102	TAPファシリテーション II	2	100	秋										●	●				●
ESP 101	環境教育ワークショップ I	2	100	秋			2019年度閉講							●	●				
ESP 200	環境教育ワークショップ II	2	100	春										●	●				
COPR 206	コーオプ・プログラム	2	100	春秋											●	●			
CARE 301	キャリア・マネジメント	2	100	春秋										●					●
GLS 104	海外留学入門	2	100	春秋								●		●					
COPR 100	インターンシップ A	2	100	春秋									●	●					
INTD 202	教理・データインス・AIリテラシー	2	100	春秋									●	●					●

Skills

授業科目名	単位	授業科目名	単位
SAE (海外留学・研修) プログラム A	1	SAE (海外留学・研修) プログラム F	3
SAE (海外留学・研修) プログラム B	1	SAE (海外留学・研修) プログラム G	4
SAE (海外留学・研修) プログラム C	2	SAE (海外留学・研修) プログラム H	4
SAE (海外留学・研修) プログラム D	2	SAE (海外留学・研修) プログラム I	5
SAE (海外留学・研修) プログラム E	3	SAE (海外留学・研修) プログラム J	5

凡例 履修条件 ●: 必修科目

科目記号 / 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミュ ニ ケー ション ・ スキ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
COPR 101	インターンシップ B	2	100	春秋					●				●	●							
COPR 102	インターンシップ C	1	50	春秋					●				●	●							
COPR 103	インターンシップ D	1	50	春秋					●				●	●							
GLS 105	国際研究 A	2	300	秋春					●	●											
GLS 106	国際研究 B	2	300	秋春					●	●											
GLS 107	国際研究 C	2	300	秋春					●	●											
GLS 108	国際研究 D	3	450	秋春					●	●											
GLS 109	国際研究 E	4	600	秋春					●	●											
GLS 110	国際研究 F	5	750	秋春					●	●											
JPN 301	Japan Studies Overseas A	2	100	秋					●	●											
JPN 302	Japan Studies Overseas B	2	100	秋					●	●											
JPN 303	Japan Studies Overseas C	2	100	秋					●	●											
INTD 110	フィールドワーク A	2	100	春秋					●	●											
INTD 111	フィールドワーク B	2	100	春秋					●	●											
INTD 112	フィールドワーク C	2	100	春秋					●	●											
INTD 104	地域創生プロジェクト A	1	150	春秋						●											●
INTD 105	地域創生プロジェクト B	1	150	春秋						●											●
INTD 106	地域創生プロジェクト C	2	300	春秋						●											●
INTD 107	地域創生プロジェクト D	2	300	春秋						●											●
INTD 108	地域創生プロジェクト E	3	450	春秋						●											●
INTD 109	地域創生プロジェクト F	3	450	春秋						●											●
言語表現科目群																					
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋						●											
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋						●											
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋			1年次より履修可			●											
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春			1年次より履修可			●											
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋			1年次より履修可			●											
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春			1年次より履修可			●											
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋			1年次より履修可			●											
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋			1年次より履修可			●											
JPN 101	日本語表現 101	2	100	春秋						●											
JPN 102	日本語表現 102	2	100	秋						●											
FRE 101	フランス語 101	2	100	春秋					●	●											
FRE 102	フランス語 102	2	100	秋			「フランス語 101」を修得済 奇数年開講		●	●											
GER 101	ドイツ語 101	2	100	春秋					●	●											
GER 102	ドイツ語 102	2	100	秋			「ドイツ語 101」を修得済 奇数年開講		●	●											
SPA 101	スペイン語 101	2	100	春秋					●	●											
SPA 102	スペイン語 102	2	100	秋			「スペイン語 101」を修得済 奇数年開講		●	●											
CHI 101	中国語 101	2	100	春秋					●	●											
CHI 102	中国語 102	2	100	秋			「中国語 101」を修得済		●	●											
教職関連科目群																					
LAW 101	日本国憲法	2	100	春秋					●												●
P E 103	体育	1	100	秋			学科の指導により履修							●	●						
TED 101	教育原理	2	100	春秋									●								●
TED 110	教職概論	2	100	春秋									●					●	●		
TED 105	教育の制度と経営	2	100	春秋			学科の指導により履修		●												●
TED 100	学習・発達論	2	100	春秋			学科の指導により履修		●												
TED 205	特別支援教育	1	50	春秋			学科の指導により履修						●							●	
TED 302	教育課程編成論 (中・高)	2	100	春秋			学科の指導により履修						●								
TED 319	道德教育の理論と方法 (中)	2	100	春秋			学科の指導により履修													●	●
TED 215	総合的な学習の時間の理論と方法 (中・高)	1	50	春秋			学科の指導により履修							●							●
TED 204	特別活動の理論と方法 (中・高)	1	50	春秋			学科の指導により履修			●											
TED 107	教育の方法と技術 (中・高)	2	100	春秋			学科の指導により履修		●				●								
TED 315	生徒・進路指導の理論と方法 (中・高)	2	100	春秋			学科の指導により履修			●											●
TED 312	教育相談の理論と方法 (中・高)	2	100	春			学科の指導により履修							●							●
TED 305	教育実習 (中学校)	5	250	秋春						●				●							
TED 303	教育実習 (高等学校)	3	150	秋春						●				●							
TED 403	教職実践演習 (中・高)	2	100	秋						●				●							
COPR 108	教育インターンシップ A	2	100	春秋						●				●	●						
COPR 109	教育インターンシップ B	2	100	春秋						●				●	●						

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
COPR 110	教育インターンシップ C	1	50	春秋					●			●	●								
COPR 111	教育インターンシップ D	1	50	春秋					●			●	●								
TED 104	教育哲学	2	100	秋			奇数年開講	●	●			●									
TED 113	発達心理学	2	100	秋					●												
TED 103	教育心理学	2	100	秋			リベラルアーツ学科は受講可		●												
TED 102	教育社会学	2	100	秋					●												
TED 109	教育方法学(中・高)	2	100	秋			偶数年開講		●												
TED 313	教職演習 A	1	50	秋春					●												●
TED 401	教職演習 B	1	50	秋					●												●
HHS 205	精神保健	2	100	春									●								
HHS 206	生命と性の教育	2	100	秋					●				●								
E D 200	異文化理解と教育	2	100	春				●													
資格関連科目群																					
LIBS 100	学校経営と学校図書館	2	100	春							●									●	●
LIBS 101	学校図書館メディアの構成	2	100	春			奇数年開講				●										●
LIBS 300	学習指導と学校図書館	2	100	春							●										●
LIBS 203	読書と豊かな人間性	2	100	秋			偶数年開講									●					●
INFO 103	情報メディアの活用	2	100	春秋							●										●
E D 105	生涯学習概論	2	100	春					●			●									●
LIBS 105	図書館概論	2	100	春			奇数年開講				●										●
LIBS 108	図書館情報技術論	2	100	秋			偶数年開講				●										
LIBS 111	図書館制度・経営論	2	100	春			偶数年開講						●								●
LIBS 106	図書館サービス概論	2	100	秋			偶数年開講				●										●
LIBS 103	情報サービス論	2	100	秋			偶数年開講				●										
LIBS 102	児童サービス論	2	100	秋			偶数年開講				●										
LIBS 301	情報サービス演習 A	1	100	春			奇数年開講				●										
LIBS 302	情報サービス演習 B	1	100	春			奇数年開講				●										
LIBS 109	図書館情報資源概論	2	100	秋			偶数年開講				●										
LIBS 202	情報資源組織論	2	100	春			偶数年開講				●										
LIBS 200	情報資源組織演習 A	1	100	秋			偶数年開講				●										
LIBS 201	情報資源組織演習 B	1	100	秋			偶数年開講				●										
LIBS 110	図書館情報資源特論	1	50	春			偶数年開講				●										
LIBS 104	図書・図書館史	1	50	春			偶数年開講		●												
LIBS 107	図書館施設論	1	50	秋			奇数年開講														●
E D 104	社会教育の基礎	2	100	秋			奇数年開講									●	●				
E D 204	社会教育計画	2	100	春			偶数年開講									●	●				
E D 206	社会教育方法論	2	100	秋			偶数年開講									●	●				
E D 205	社会教育実習	2	100	秋												●	●				
E D 203	社会教育課題研究	2	100	春												●	●				
E D 201	現代社会と社会教育	2	100	秋			奇数年開講									●					●
HHS 204	社会体育論	2	100	春			偶数年開講						●								●
MUSE 200	博物館概論	2	100	春				●	●												
MUSE 202	博物館経営論	2	100	秋				●	●												
MUSE 205	博物館資料論	2	100	秋				●	●		●										
MUSE 204	博物館資料保存論	2	100	春				●	●		●										
MUSE 206	博物館展示論	2	100	春				●	●												
MUSE 201	博物館教育論	2	100	秋								●									●
MUSE 203	博物館情報・メディア論	2	100	秋							●										
MUSE 300	博物館実習	3	450	春秋					●												●

※「国際研究A～F」を海外留学・研修等の講義・語学科目の単位として認定する場合は、1単位当たりの授業時間を50分とする（2単位100分、3単位150分、4単位200分、5単位250分）。

※教職関連科目群の備考に「学科の指導により履修」と記載のある科目については、所属学部・所属学科で履修登録の学年・学期を確認すること。

1 履修上の留意事項

- ユニバーシティ・スタンダード科目はp.54～57に全科目を記載していますが、各学科の指定科目については各学科の教育課程表を確認してください。履修については、各学科で定めている卒業要件を確認のうえ、行ってください。

1 玉川教育・FYE 科目群の必修科目

- 玉川教育・FYE科目群に開設する科目のうち、下記に挙げる6科目は必修科目です。本学を卒業するにはこれらの科目を履修し、7単位すべてを修得しなければなりません。
- また、下記の科目は履修する授業がクラスごとに指定されています。授業時間割を確認し、定められた授業を履修してください。

科目名	注 意 事 項
一年次セミナー 101 一年次セミナー 102	授業内容により実施する場所が異なる
玉川の教育	実施内容等は、別途日程表が示される
健康教育	原則として、実技と理論を隔週で実施 初回のガイダンスで日程表を別途配布（授業の場所等を含む）
音楽 I	授業の場所は、始業時にプリントで通知
音楽 II	通常の授業の他に、12月に集中授業を実施（日程表を別途配付）

2 学際科目群の「生涯スポーツ演習」の履修

- 学際科目群の「生涯スポーツ演習」は、球技・水泳・スキーなどさまざまな種目が開講されますが、履修できるのは1種目のみです。

■「生涯スポーツ演習」（スキー）の履修

- 「生涯スポーツ演習」（スキー）を履修するには、秋学期に実施されるガイダンスに出席する必要があります。ガイダンス日程に関しては、UNITAMA掲示で連絡します。ガイダンス後、履修希望申請を受け付けますが、定員を超過した場合は抽選が行われます（定員についてはガイダンス時に連絡します）。この授業は、参加者名簿をもとに履修登録されますので、別途履修登録をする必要はありません。単位認定は翌春学期末になります（第6セメスターまで履修することができます）。
- また、履修にあたっては、実習費用（実費）が徴収されます（金額については、ガイダンス時に連絡します）。
- 他の科目と同様に、修得済みの科目を再度履修することはできませんので、すでに他の種目で「生涯スポーツ演習」を修得している場合は履修できません。

3 ELF科目の履修レベルについて

- ELF科目の履修レベルは原則として、*TOEIC Bridge*® IP テスト または *TOEIC*® Listening & Reading IP テストの点数によって決定します。これらのテストは、春学期から必修科目として履修する場合は入学式当日、秋学期から必修科目として履修する場合は春学期の後半に実施します。しかしその後、実際にELF科目の授業を受けて、自分の英語力と履修レベルの関係がふさわしくないと考えるときは、以下の条件を満たしていれば、履修レベルの変更が学生の申請により認められる場合があります。

■レベル変更の申請の条件

- 原則、必修科目として履修した最初の学期にのみ、自分の英語力が、実際のクラスの履修レベルより高いと思われるとき、より上位の履修レベルに変更を申請できます。（例 ELF 101→ELF 201）

■レベル変更の申請手続きについて

- ① ELF科目を最初に履修した学期の終了後、次の学期の履修登録前に行ってください。期限や手続き等については、ELFセンターからのUNITAMAの掲示を確認してください。
- ② 指定の申請方法で期限内にELFセンターに申請してください。
- ③ ELFセンターは、関係者（科目担当者、学部教務主任、学科教務担当）と協議し、その可否を回答します。
※レベル変更の申請は在学中1回に限ります。
※レベル変更の申請が認められた場合は、それを取り下げることはできません。

■レベル変更の許可条件

- 当該学期の成績評価がSまたはAであり、かつ、*TOEIC*® IPのスコアが変更先レベルの基準を満たしていることを含め総合的に判断します。

文学部

国語教育学科 英語教育学科

人材養成等教育研究に係る目的

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる言語運用能力と言語技術、および論理的思考力と柔軟な対応力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的思考力というグローバル社会が求める基礎力を育成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。

国語教育学科は、国際社会の一員であるとの自覚をもち、母語としての日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、的確な言語運用能力によってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「言語表現コース」と「国語教員養成コース」を置く。

「言語表現コース」では、豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバルな社会に貢献することができる人材を、「国語教員養成コース」では、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる人材を養成する。

英語教育学科は、「英語教員養成コース」と「ELFコミュニケーションコース」の2領域で構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応できる資質・能力を育成することを旨とし、国際コミュニケーションのための英語運用能力を身につけることを共通目標としている。

「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と指導力を、「ELFコミュニケーションコース」では、国際共通語としての英語コミュニケーション能力を育成し、積極的に国際社会に貢献することのできる人材を養成する。

文学部 ディプロマ・ポリシー

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として貢献できる水準の言語運用能力（日本語・英語）と論理的な思考力を身につけ、社会の多様な場面に的確に対応できる職業人あるいは高い指導力を備えた国語教育や英語教育の専門家を養成することを目指します。

文学部で学位を取得するためには、次の能力を示すことが求められます。

- ① 言語や文化に関する専門的知識を修得し、適切に用いることができる。【知識・理解】
- ② 修得した言語運用能力と言語技術を用いて自分自身の思考を論理的に表現するとともに、多角的な視野を持って主体的に問題を解決することができる。【汎用的技能】
- ③ 修得した言語運用能力と言語技術を用いて中学校・高等学校等で授業ができる能力を十分に有している。【汎用的技能】

〔国語教育学科〕

国語教育学科が重視する学士力は以下の項目であり、これらを身につけることが卒業時の到達目標である。

- ① 社会で必要とされる言語技術を修得し、時宜に応じて適切に運用することができる。
- ② 日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、言語による的確なコミュニケーションをはかることができる。
- ③ 言語や文化の多様性を理解して尊重し、問題解決のために多角的な視野をもって主体的・積極的に行動することができる。
- ④ 「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」という日本語運用能力を実践的に発揮できる。
- ⑤ 豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバルな社会に貢献することができる。または、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することができる。

〔英語教育学科〕

英語教育学科が重視する学士力は以下の項目であり、これらを身につけることが卒業時の到達目標である。

- ① 社会で通用する高度な英語運用能力を修得し、時宜に応じて適切に運用することができる。
- ② 日英両語で運用される専門科目を学修し、その成果を卒業研究で示すことができる。
- ③ 自らの研究・考察の成果を口頭および文書で論理的に表現し、実践に活かすことができる。
- ④ 言語と文化の多様性を理解して尊重し、問題解決のために国際的な視野をもって主体的・積極的に行動することができる。
- ⑤ 国際共通語としての英語の高度なスキルと、英語圏の言語や文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の英語教育に貢献することができる。または、国際共通語としての英語の高度なスキルと、多言語・多文化に関する専門的な知識を駆使して円滑にコミュニケーションをとることができる能力を十分に有し、国際社会に貢献することができる。

1 カリキュラム・ポリシー

- 文学部は、国語教育学科および英語教育学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、カリキュラム（教育課程）を編成しています。
- ① 各学科の基礎教育科目では、言語運用能力（日本語・英語）の修得および各学科の専門教育の基礎となる教養の修得を図る。
- ② 各学科の特質を活かした専門教育を重視し、主体的な学びを促し、それぞれの専門分野についての基本的知識・方法を身につけるために体系的な学科専門科目を編成する。
- ③ 教育現場での指導力育成のために理論と実践を組み合わせた学科専門科目や、論理的・批判的に思考し、それを表現する力を養うために、少人数グループの協働・参加型のより高度な学科専門科目を配置する。

2 カリキュラムの特徴

- 文学部では、人間がそもそも備えている本質とこれまでに人類が生み出してきたあらゆる文化について、多角的なアプローチを試み、深く掘り下げて追究しています。
- ① 高度な専門知識を修得するための科目から、少人数制による演習科目や実践的な科目まで、各段階に用意されています。また、コミュニケーション力や文章表現力、対話力に加え、論理的思考力や問題発見・解決能力といった、現代社会を生き抜くために欠かせない実践的な教育も重視しています。
- ② 物事を多面的にとらえながら自らの力で論理的に考え、表現する力をつける教育を重視しています。
- ③ 多様な文化を学ぶことにより、偏見を持たない「地球市民」を目指して、現代社会におけるさまざまな課題や環境問題などに幅広い視点からアプローチできるようになるための学修機会を重視しています。

3 警告制度

- 本学では、各セメスター終了時に、一人ひとりの学修状況の確認が行われます。これは全学部に通じるもので、p.37にある基準に満たない場合「警告」が出されます。
- この他に、学科が定める進捗チェックの時期と内容については、各学科のページに記載していますので、必ず参照してください。

4 卒業要件

文学部各学科の卒業要件は、学部で定めた学位授与の方針（p.60「ディプロマ・ポリシー」参照）とカリキュラム編成の方針に基づいて設定されています。詳細は各学科の該当ページを参照してください。

1 はじめに

- 国語教育学科では、国語教育分野をその中心的学問分野とし、その上で国際社会の一員である自覚をもち、母語としての日本語運用能力を主体的に高め、積極的に社会に貢献できる人材および社会の多様な場面に的確な対応をしつつ国語教育を実践できる人材を養成することを目指し、「国語教員養成コース」と「言語表現コース」の2つのコースを設置しています。体系的なカリキュラムを展開することにより、日本の伝統文化への理解を深めさせると共に、国際感覚を身につけさせ、母語としての日本語の運用能力を高めます。大きな特徴として、この日本語運用能力を高めるにあたって、論理的な思考力を基盤とする高度な言語技術の修得を重視しています。
- 「国語教員養成コース」では、国語教育の現場に立つための理論と実践を組み合わせた学びをとおして、言語文化に関する高度な日本語運用力と指導力を備えた国語科教員を養成します。「言語表現コース」では、コミュニケーションの基盤となる言語技術と論理的・批判的思考力を身につけ、的確な言語技術に基づいた日本語運用能力を備え、広く社会で活躍できる人材を養成します。

2 カリキュラム・ポリシー

- ① グローバル化に伴う言語や文化の多様性に対応できる資質・能力を育成し、批判的読解力・論理的思考力・表現力といった言語技術を身につけ、さらにその上に立って、豊かな言語観・文化観を備えた人材を育成することを目標としている。
- ② 社会に必要な言語技術と、論理的・批判的に思考する方法を修得するための科目群を用意する。また、それを基礎として、日本語・日本文学など言語観・文化観に関わる科目群、国語教育の指導法に関わる科目群、および、言語技術を高度化し、国際社会に貢献できる問題解決能力に資する科目群を設定する。
- ③ 各学年の学びの目標として「つかむ」・「つかう」・「のばす」・「たかめる」を設定し、さらに卒業後に自らの日本語能力を「きわめる」ことができる基礎をつくる。
- ④ 「国語教員養成コース」においては、中学校・高等学校の教育現場で指導ができるよう、言語技術の学習の基礎の上に、日本語や日本文学について専門的に学び、さらに国語科の指導法を修得できる効果的な国語教員養成プログラムを構築する。
- ⑤ 「言語表現コース」においては、現代のグローバル社会で活動できるよう、言語技術の学習の基礎の上に、確実な言語表現技法、豊かな言語観・文化観を身につけ、論理的批判的思考と表現の方法を修得することで高い問題解決能力を備えることができる言語表現教育プログラムを構築する。

3 卒業要件

国語教育学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

(1) 修業年限をみたすこと

(2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること

(3) 累積GPAが2.00以上であること

(4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること

〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：国語教員養成コース・言語表現コース ともに
「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
人文学科科目群：「日本語学」

〈必修選択科目〉 社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群：
国語教員養成コース・言語表現コース ともに、3つの科目群の中から1科目2単位以上
言語表現科目群：
国語教員養成コース は「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」
「ELF401」「ELF402」(以下「ELF科目」) から2科目8単位以上
言語表現コース はELF科目から2科目8単位以上およびELF科目「フランス語101」
「フランス語102」「ドイツ語101」「ドイツ語102」「スペイン語101」「スペイン語102」
「中国語101」「中国語102」を含んで12単位以上

(5) 学科科目について、次の必修科目を修得していること

〈必修科目〉 国語教員養成コース・言語表現コース ともに
100番台科目：「言語表現入門A」「日本文学概論」「言語表現入門B」
200番台科目：「キャリアセミナーA」
300番台科目：「キャリアセミナーB」「ランゲージアーツセミナーA」
「ランゲージアーツセミナーB」
国語教員養成コース
200番台科目：「日本文学史」「漢文学」「日本語文法論Ⅰ」「日本古典文学演習」「書写」
「国語科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」
言語表現コース
100番台科目：「現代社会の諸問題」
200番台科目：「ロジカルシンキング」「クリティカルシンキング」
「クリティカルリーディング」「議論ストラテジー」

(6) 学科科目について、次の必修選択科目を修得していること

【国語教員養成コース】

100・200番台科目：「現代社会の諸問題」「ロジカルシンキング」「クリティカルシンキング」
「クリティカルリーディング」「議論ストラテジー」より1科目2単位以上
200番台科目：「日本語文法論Ⅱ」「日本近代文学演習」「日本語語彙論」から1科目2単位以上
300番台科目：「日本古典文学研究」「日本近代文学研究」「日本語史」「日本語学演習」
「日本語音韻論」から3科目6単位以上
「現代思想と言語」「テクノロジーと言語」「英語で読む日本文学」
「広告と言語」「プレゼンテーション技法」「情報編集デザイン」
「読み書きの認知と指導」から1科目2単位以上
400番台科目：「レトリック探究」「音声表現法研究」「日本語学研究」「言語表現教育研究」
「批評理論」「ランゲージアーツセミナーC」「ランゲージアーツセミナーD」
「ランゲージアーツプロジェクト」から2科目4単位以上

【言語表現コース】

200番台科目：「日本文学史」「漢文学」「日本語文法論Ⅰ」「日本語文法論Ⅱ」
「日本古典文学演習」「日本近代文学演習」「異文化コミュニケーション」
「世界文学」「メディアと文化表現」「日本語語彙論」から4科目8単位以上
300番台科目：「日本古典文学研究」「日本近代文学研究」「日本語史」「日本語学演習」
「日本語音韻論」から2科目4単位以上
「現代思想と言語」「テクノロジーと言語」「英語で読む日本文学」
「広告と言語」「プレゼンテーション技法」「情報編集デザイン」
「読み書きの認知と指導」から3科目6単位以上
400番台科目：「レトリック探究」「音声表現法研究」「日本語学研究」「言語表現教育研究」
「批評理論」「ランゲージアーツセミナーC」「ランゲージアーツセミナーD」
「ランゲージアーツプロジェクト」から2科目4単位以上

4 卒業までの単位配分

- 卒業までに必要な単位数は、第1セメスターから第8セメスターまで、合計124単位です。
その内訳は次のとおりです。

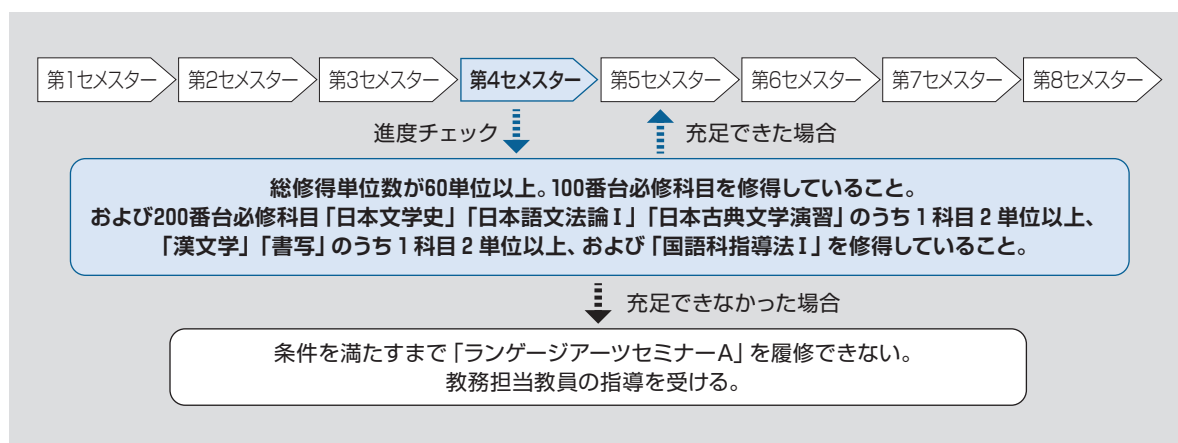
科目群	科目分類	国語教員養成コース	言語表現コース	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目 必修	7単位	7単位	
	人文科学科目群	2単位以上 (日本語学を含む)	2単位以上 (日本語学を含む)	
	社会科学科目群		合計 4単位以上	
	自然科学科目群			2単位以上
	学際科目群			
	言語表現科目	ELF科目 8単位以上		ELF科目 8単位を含んで 12単位以上 (日本語科目を除く)
	小計 12単位以上	小計 16単位以上		
国語教育学科科目	100番台	必修 6単位	必修 8単位	
	100・200番台	必選 4単位以上	必選 8単位以上	
	200番台	必修 14単位 16単位	必修 10単位	
	300番台	必修 8単位 6単位 必選 8単位以上	必修 6単位 必選 10単位以上	
	400番台	必選 4単位以上	必選 4単位以上	
		小計 44単位以上	小計 46単位以上	
自由選択科目	自学科、他学部、他学科、 ユニバーシティ・スタンダード 科目、単位 互換制度で修得した 他大学の単位	任意	任意	
累積修得単位		124単位以上	124単位以上	

5 警告制度と履修条件（進捗チェック）

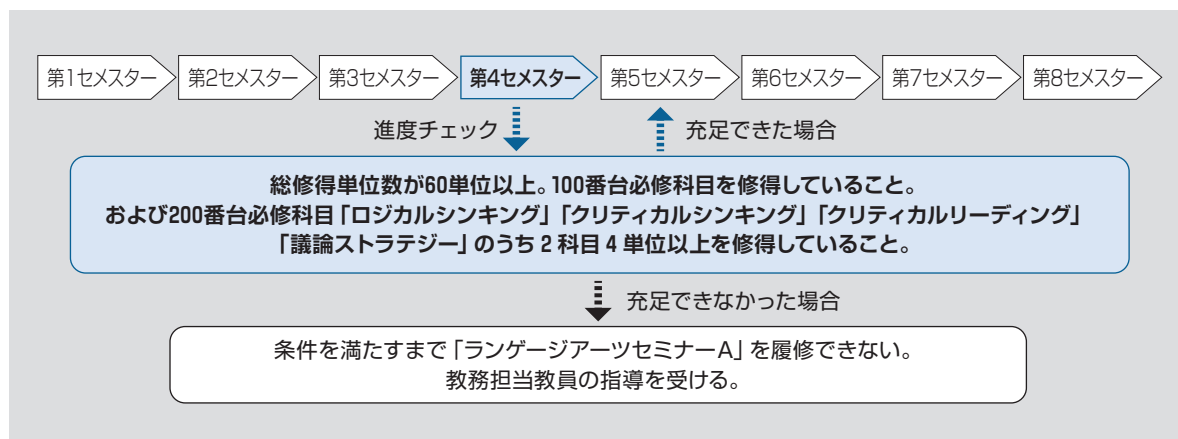
- 本大学では全学部共通する「警告制度」を定め、これを満たせない学生には「警告」が出されます（p.37を参照）。
- 国語教育学科ではさらに、一人ひとりの学生の学修状況が学士課程の修了に向けて適切に進んでいるかをチェックするため、下記の通り、第4セメスターと第6セメスターの終了時に、「履修条件」を満たしているか否かのチェックを行います。
- 履修条件を満たさない場合には、次セメスターの必修科目を履修できないなどの制限が生じますので、十分注意してください。

1 第4セメスター（2年次）終了時における進捗チェック

■ 国語教員養成コース

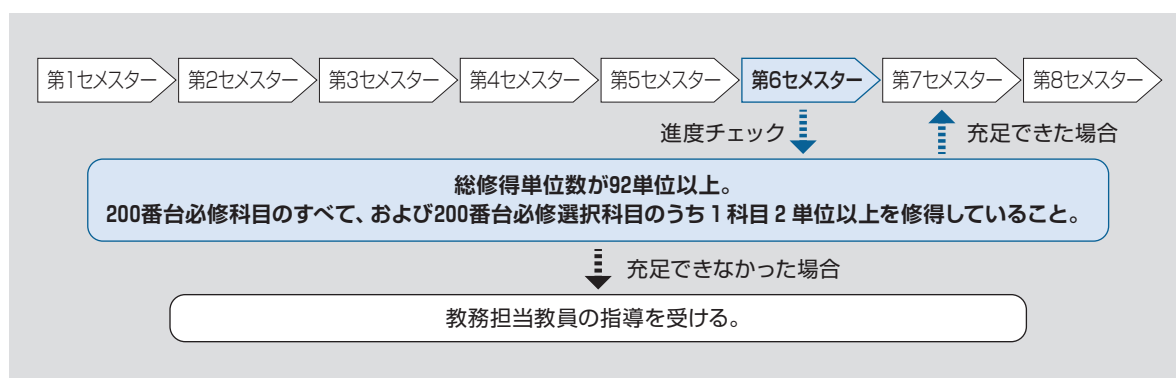


■ 言語表現コース

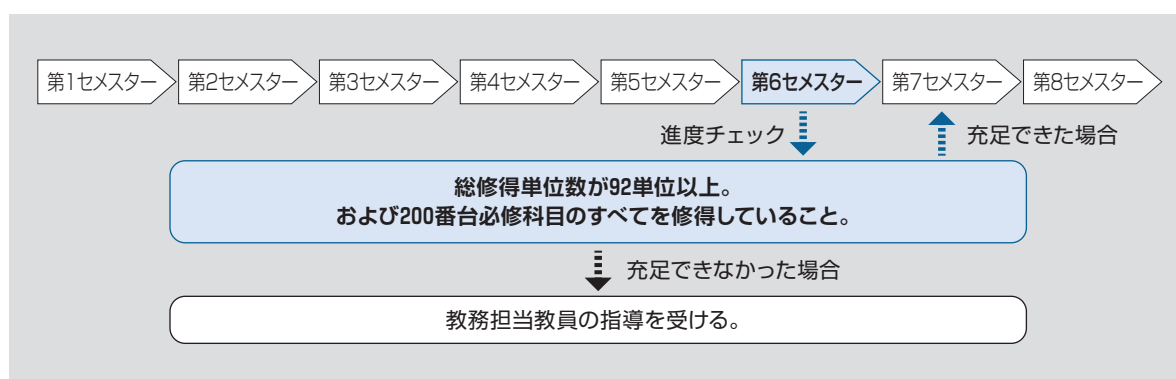


② 第6 Semester（3年次）終了時における進捗チェック

■ 国語教員養成コース



■ 言語表現コース



6 履修上の留意事項

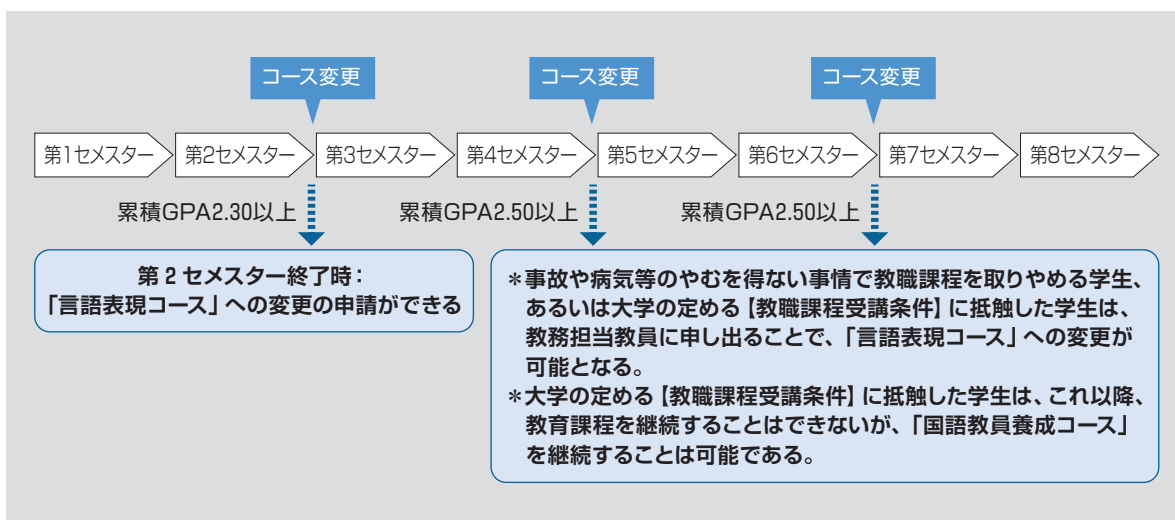
① 免許・資格の取得について

- 国語教員養成コースは、原則として全員が教職課程を受講します。第2 Semester終了時に教職課程受講継続判定を受けて許可された場合は、学科の卒業要件を満たしつつ、免許状取得に必要な科目を履修して単位を修得しなければなりません。『教職受講ガイド』の該当ページを参照し、教職担当教員や教師教育リサーチセンターの指導・ガイダンスを受けて、必要な単位をもらえなく修得できるように履修計画を立てましょう。
- また、教職課程受講条件として、第2 Semester終了時：累積GPA2.30以上、第4 Semester終了時：累積GPA2.50以上、第6 Semester終了時累積GPA2.50以上の基準が設けられています（その他の基準については、『教職課程受講ガイド』を参照）。

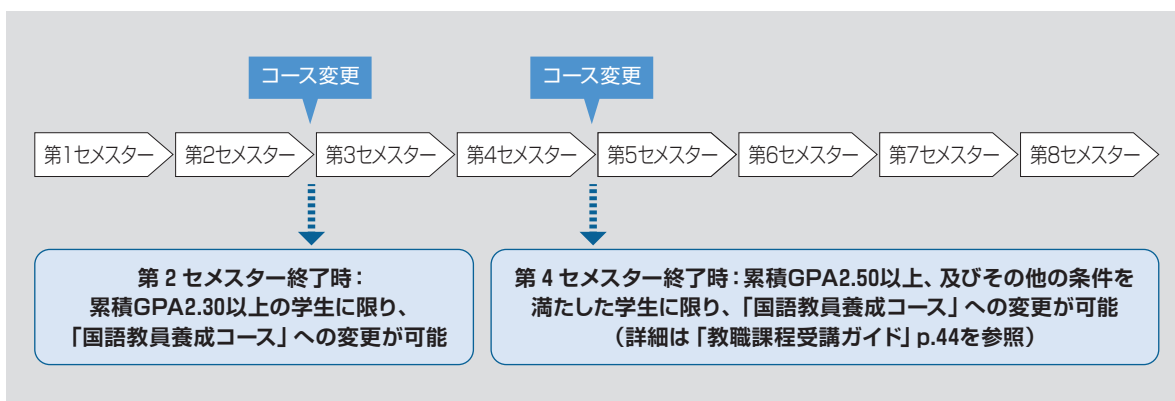
② コースの決定・変更について

- 入学時に、コースを決定します。「国語教員養成コース」から「言語表現コース」への変更は、申請により第2 Semester終了時、第4 Semester終了時および第6 Semester終了時に認められます。「言語表現コース」から「国語教員養成コース」への変更は、申請しかつ定められた条件を満たした場合にのみ、第2 Semester終了時および第4 Semester終了時に認められます（再判定を含む教職課程受講の詳細については「教職課程受講ガイド」p.44を参照）。
 - 「国語教員養成コース」から「言語表現コース」への変更希望で、事故や病気等のやむを得ない事情で教職課程を取りやめる学生、あるいは学科の定める【教職課程受講条件】に抵触した学生は、教務担当教員に申し出ることによって、「言語表現コース」への変更が可能となります。また、学科の定める【教職課程受講条件】に抵触した学生は教職課程の受講ができませんが、「国語教員養成コース」を継続することは可能です（再判定を含む教職課程受講の詳細については「教職課程受講ガイド」p.44を参照）。
- コースを変更しない場合でも、「国語教員養成コース」の卒業要件を満たせば卒業は可能となりますが、教員免許は取得できません。

■ 国語教員養成コース



■ 言語表現コース



7 取得可能な資格

- 国語教育学科では所定の科目を修得し、また所定の条件を満たすことで、資格を取得することができます。詳細は、本履修ガイドp.221以下を参照してください。

8 文学部 国語教育学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中): 集中開講

履修条件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目

他学科受講 ○: 他学科受講可 ◇: 日本語教員資格取得希望者のみ可 (リ): リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号 / 番号	授業科目名	単位	授業時間 (分)	開講期	履修条件		他学科受講	備考	授業を通して修得できる力															
					国語教員養成コース	言語表現コース			知識・理解			汎用的技能				態度・志向性								
									多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーション・スキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力			
ユニバーシティ・スタンダード科目																								
INFO 104	データ処理	2	100	春秋						●			●											
JPN 105	日本語学	2	100	春	●	●				●		●												
CARE 301	キャリア・マネジメント	2	100	春秋											●							●		
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋	◆	◆					●													
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆	◆					●													
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋	◆	◆					●													
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春	◆	◆					●													
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	◆	◆					●													
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春	◆	◆					●													
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋	◆	◆					●													
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆	◆					●													
学科専門科目																								
JPN 100	言語表現入門 A	2	100	春	●	●					●		●	●										
JLIT 101	日本文学概論	2	100	春秋	●	●				●				●	●									
JPN 103	言語表現入門 B	2	100	秋	●	●					●		●	●										
INFO 100	学術情報リテラシー	2	100	秋							●	●												
CARE 101	キャリアナビゲーション	1	50	春											●							●		
INTD 103	現代社会の諸問題	2	100	秋	◆	●	○				●				●							●		
JLIT 202	日本文学史	2	100	春	●	◆				●	●													
WLIT 201	漢文学	2	100	秋	●	◆					●			●										
JPN 208	日本語文法論 I	2	100	春	●	◆	◇				●			●										
JPN 209	日本語文法論 II	2	100	秋	◆	◆	◇				●			●										
JLIT 201	日本古典文学演習	2	100	春	●	◆	(リ)				●			●	●									
JLIT 200	日本近代文学演習	2	100	秋	◆	◆	(リ)				●			●	●									
JPN 202	書写	2	100	秋	●		(リ)			●	●													
SUBP 209	国語科指導法 I	2	100	春	●						●			●										
COMM 205	異文化間コミュニケーション	2	100	春		◆	○			●		●									●			
WLIT 202	世界文学	2	100	春		◆	○			●	●			●										
COMM 207	メディアと文化表現	2	100	秋		◆	○			●			●	●										
PHIL 207	ロジカルシンキング	2	100	春	◆	●	○				●			●	●									
PHIL 201	クリティカルシンキング	2	100	秋	◆	●	○				●			●	●									
JPN 201	クリティカルリーディング	2	100	春	◆	●	○				●			●	●									
JPN 200	議論ストラテジー	2	100	秋	◆	●	○				●			●								●		
COPR 207	スクールインターンシップ A	2	200	春(集中)							●			●							●			
COPR 208	スクールインターンシップ B	2	200	秋(集中)							●			●							●			
COPR 209	インターンシップ A	2	200	春(集中)							●			●							●			
COPR 210	インターンシップ B	1	100	春(集中)							●			●							●			
COPR 211	インターンシップ C	2	200	秋(集中)							●			●							●			
COPR 212	インターンシップ D	1	100	秋(集中)							●			●							●			
CARE 200	キャリアセミナー A	2	100	秋	●	●					●			●										

赤枠内を追記

赤枠内を追記

科目記号 /番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履修条件		他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
					国 語 教 員 養 成 コ ー ス	言 語 表 現 コ ー ス			知識・理解			汎用的技能				態度・志向性						
									多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 的 責 任	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
SUBP 230	国語科指導法II	2	100	秋	●						●				●							
JPN 207	日本語語彙論	2	100	春	◆	◆	○			●					●							
CARE 302	キャリアセミナー B	2	100	春	●	●				●					●							
JLIT 303	日本古典文学研究	2	100	春	◆	◆				●					●							●
JLIT 302	日本近代文学研究	2	100	秋	◆	◆				●	●				●							
JPN 310	日本語史	2	100	秋	◆	◆	○			●					●							
JPN 306	日本語学演習	2	100	秋	◆	◆	◇			●	●				●							
JPN 305	日本語音韻論	2	100	秋	◆	◆	○			●	●				●							
JPN 313	ランゲージアーツセミナー A	2	100	春	●	●				●					●	●						
JPN 314	ランゲージアーツセミナー B	2	100	秋	●	●				●					●	●						
ED 302	教育現場研究	2	100	春							●										●	
INTD 303	現代思想と言語	2	100	秋	◆	◆	○			●					●	●						
INTD 304	テクノロジーと言語	2	100	春	◆	◆	○			●					●	●						
JLIT 300	英語で読む日本文学	2	100	秋	◆	◆	○			●	●											
COMM 304	広告と言語	2	100	春	◆	◆	○			●	●				●							
INFO 316	プレゼンテーション技法	2	100	秋	◆	◆	○				●		●			●						
INFO 305	情報編集デザイン	2	100	春	◆	◆	○				●		●			●						
PSY 303	読み書きの認知と指導	2	100	秋	◆	◆	○				●	●			●							
COPR 305	スクールインターンシップ C	2	200	春(集中)							●				●						●	
COPR 306	スクールインターンシップ D	2	200	秋(集中)							●				●						●	
SUBP 304	国語科指導法III	2	100	春							●				●							
SUBP 319	国語科指導法IV	2	100	秋							●				●							
JPN 410	レトリック探究	2	100	秋	◆	◆	○				●				●						●	
JPN 402	音声表現法研究	2	100	春	◆	◆	○				●	●										
JPN 405	日本語学研究	2	100	秋	◆	◆	○				●				●							
JPN 403	言語表現教育研究	2	100	春	◆	◆	○			●	●				●							
PHIL 401	批評理論	2	100	秋	◆	◆	○				●	●			●							
JPN 407	ランゲージアーツセミナー C	2	100	春	◆	◆					●				●	●						
JPN 408	ランゲージアーツセミナー D	2	100	秋	◆	◆					●				●	●						
JPN 409	ランゲージアーツプロジェクト	2	—	秋(集中)	◆	◆					●				●	●						

【履修にあたって】

(1) I、IIのように番号のついた科目はその順序で履修してください。

1 はじめに

- 英語教育学科では、国際共通語としての英語運用能力を身につけ、積極的に国際社会に貢献できる人材、および社会の多様な場面で英語教育を実践できる人材の養成を目指し、「英語教員養成コース」と「ELFコミュニケーションコース」の2つのコースを設置しています。大きな特色は、2年次秋学期から3年次春学期にかけて海外留学プログラムを必修としていることです。この体験により異文化への理解を深め、国際感覚を身につけ、英語運用能力を高めていきます。
- 留学前・留学中・留学後の学修により、広い視野での言語観を養い、文化に対する豊かな感受性を磨いていきます。「英語教員養成コース」では英語教育の現場に立つための理論と実践を組み合わせた学びを通して、高度な英語力と国際感覚を備えた英語教員を養成します。「ELFコミュニケーションコース」では高度な英語力と国際感覚を備え、国際協力の分野やグローバル企業など広く社会で活躍できる人材を養成します。

2 カリキュラム・ポリシー

- ① 国際共通語としての英語の運用能力および国際的素養を高いレベルで修得できるようにするため、2年次秋学期から3年次春学期に2セメスターの留学プログラムを配置し、その前後で留学での学びを最大限に活かせるように体系的に語学科目（ELFプログラムなど）および日英両語で運用される専門科目（バイリンガルプログラム）を提供する。
- ② 「英語教員養成コース」においては、即戦力として英語教育の現場に立てるよう、理論と実践を組み合わせた英語教員養成プログラムを構築する。
- ③ 「英語教員養成コース」においては、学部と大学院の連携による発展的なカリキュラム編成を行う。
- ④ 「ELFコミュニケーションコース」においては、国際共通語としての英語を駆使して国際社会で活躍できるよう、必要とされる知識や技能を修得するための科目を配置する。
- ⑤ 自らの研究・考察の結果を口頭または文書で的確に論理的に表現できるようにするため、少人数グループの協働参加型学修を継続的に実践できるように科目を配置する。
- ⑥ 獲得した知識や考察の結果を活用し、実践や応用に結びつけることができるように、問題解決型プロジェクト型の科目を適宜配置する。
- ⑦ 言語や文化の多様性を理解して尊重し、国際的な視野に立って行動できるよう、留学プログラムで実践的な経験を積む。また留学後も、海外経験が生きるように専門科目を体系的に配置する。

3 卒業要件

英語教育学科では、以下の8つの条件を卒業要件として定めています。

- (1) 修業年限をみたすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
 - 〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：英語教員養成コース・ELFコミュニケーションコース
ともに「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」
「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
 - 〈必修選択科目〉 人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群：英語教員養成コース・
ELFコミュニケーションコース ともに4つの科目群の中から合計4単位以上
言語表現科目群：英語教員養成コース・ELFコミュニケーションコース ともに「ELF101」
「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」より3科目12
単位以上
ELFコミュニケーションコース のみ「フランス語101」「フランス語102」
「ドイツ語101」「ドイツ語102」「スペイン語101」「スペイン語102」「中国語101」
「中国語102」より1科目2単位以上
- (5) 学科科目について、次の必修科目を修得していること
 - 【英語教員養成コース】
 - 100番台科目：「Basic Academic English Skills A」「English Phonetics」
「Basic Academic English Skills B」「English Grammar」
「World Studies」
 - 200番台科目：「Pre-departure Seminar」「Introduction to Language Studies」
「British and American Literature」
 - 300番台科目：「English in Global Contexts」
「Multiculturalism in English-speaking Areas」
「Research Seminar A」
 - 400番台科目：「Research Seminar B」「Research Seminar C」「Senior Project」
 - 【ELFコミュニケーションコース】
 - 100番台科目：「Basic Academic English Skills A」「English Phonetics」
「Basic Academic English Skills B」「English Grammar」
「World Studies」「日本語表現演習」
 - 200番台科目：「Pre-departure Seminar」「Introduction to Language Studies」
「British and American Literature」
 - 300番台科目：「English in Global Contexts」
「Multiculturalism in English-speaking Areas」
「Research Seminar A」
 - 400番台科目：「Research Seminar B」「Research Seminar C」「Senior Project」
- (6) 学科科目について、英語教員養成コース・ELFコミュニケーションコース ともに、300番・400番台選択科目から、
「English for Intercultural Communication B」
「Intercultural Communication B」「Studies in ELT」
「Studies in ELF Communication」「Academic English Skills B」
「English for Writing Research Papers」
「Strategies for Global Communication」
をのぞき、10単位以上を修得していること
- (7) 英語教育学科が定めた留学をしていること

4 卒業までの単位配分

- 卒業までに必要な単位数は、第1セメスターから第8セメスターまで、合計124単位です。
その内訳は次のとおりです。

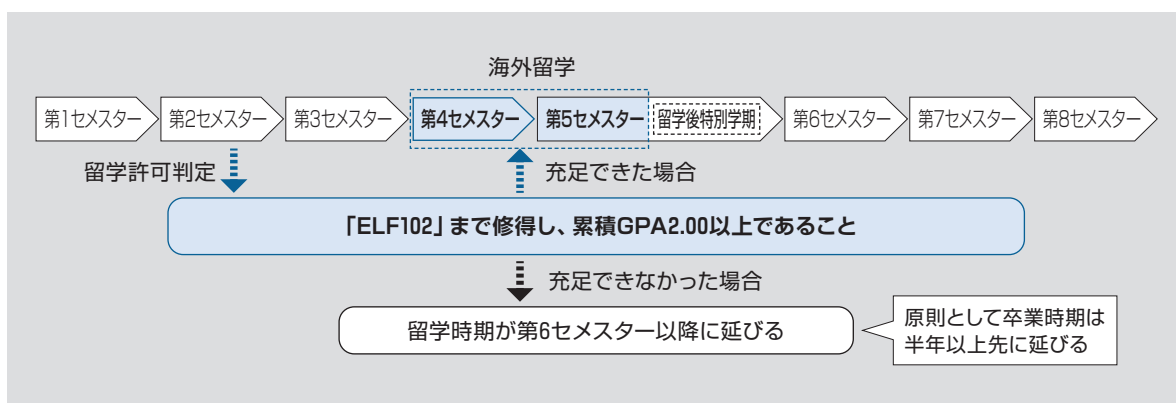
科目群	科目分類	英語教員養成コース	ELFコミュニケーションコース
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目 必修	7単位	7単位
	人文科学科目群	} 合計4単位以上	} 合計4単位以上
	社会科学科目群		
	自然科学科目群		
	学際科目群		
	言語表現科目群	ELF科目 12単位以上	ELF科目 12単位以上 その他の外国語 2単位以上
	小計 16単位以上	小計 18単位以上	
英語教育学科科目	100番台	必修 9単位	必修 11単位
	200番台	必修 5単位	必修 5単位
	300番台	必修 6単位	必修 6単位
	400番台	必修 5単位	必修 5単位
	300・400番台*	選択 10単位以上	選択 10単位以上
自由選択科目	自学科、他学部、他学科、ユニバーシティ・スタンダード科目、単位互換制度で修得した他大学の単位	任意	任意
累積修得単位		124単位以上	124単位以上

※ただし「English for Intercultural Communication B」「Intercultural Communication B」「Studies in ELT」「Studies in ELF Communication」「Academic English Skills B」「English for Writing Research Papers」「Strategies for Global Communication」は除く
注) 留学期間内の単位振替認定は32単位までとする。

5 留学許可条件

- 英語教育学科の学生は、全員が第4 Semesterと第5 Semesterに留学します。留学期間中に十分に学び、力を高めるためには、留学前にしっかりと学修習慣を身につけておく必要があります。このため、第2 Semester終了時に、以下の2つの条件を両方とも満たしているかどうかによって、留学許可の判定を行います。
 - ① 第2 Semester終了時点で「ELF102」レベル以上の単位を修得していること
 - ② 第2 Semester終了時の累積GPAが2.00以上であること
 (第2 Semesterと第3 Semesterの間に開講されるウィンターセッションの成績は、上記①②の条件に含めない)
- 留学許可条件を満たせていないと、第4 Semesterから留学することはできません。
- 留学決定後、学業不振や素行不良が認められた場合には、本人・保証人と面談を実施します。改善が認められない場合は、留学を次年度以降に保留することもあります。

■ 第2 Semester（1年次）終了時における留学許可判定



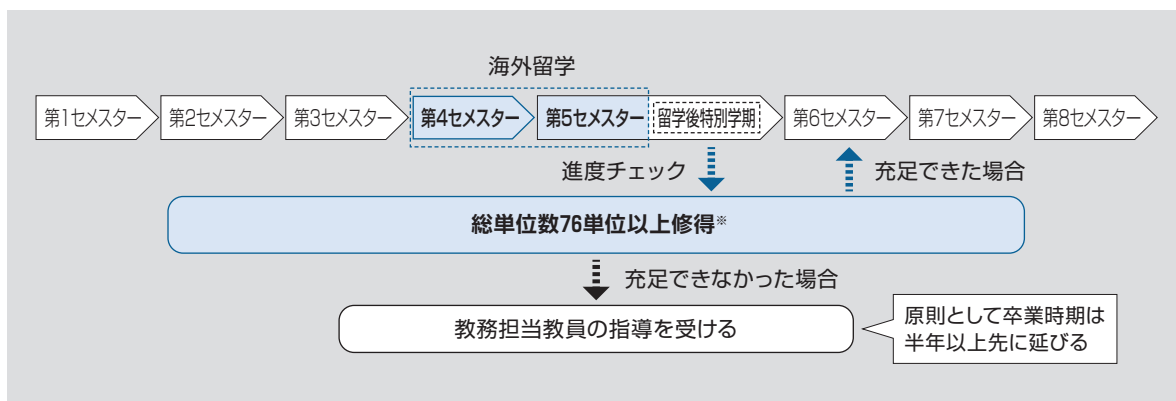
6 警告制度と進捗チェック

■ 警告制度

- 玉川大学では全学部に通ずる「警告制度」を定め、これを満たせない学生には「警告」が出されます（p.37を参照）。英語教育学科の留学先は複数あり、学期期間の設定などが同一ではありません。このため、海外留学期間および留学後特別学期については、留学後特別学期終了時に一括して学修継続状況判定を行います。
- この期間以外の各 Semester末には、玉川大学共通の「警告制度」による判定が行われます。

■ 進捗チェック

- 英語教育学科では、一人ひとりの学生の学修状況が学士課程の修了に向けて適切に進んでいるかチェックするために、下図の通り、留学後特別学期の終了時に、総単位数76単位以上を修得できているか否かのチェックを行います。



※留学許可条件に抵触し第6 Semester以降に海外留学をした場合は、帰国後に行われる留学後特別学期の終了時に総単位数92単位以上を修得できているかチェックします。

7 履修上の留意事項

① 免許・資格の取得について

- 英語教員養成コースは、原則として全員が教職課程を受講します。第2 Semester終了時に教職課程受講継続判定を受けて許可された場合は、学科の卒業要件を満たしつつ、免許状取得に必要な科目を履修して単位を修得しなければなりません。『教職受講ガイド』の該当ページを参照し、教職担当教員や教師教職リサーチセンターの指導・ガイダンスを受けて、必要な単位をもらえなく修得できるように履修計画を立てましょう。
- また、第6 Semester終了時に、第7 Semesterに教育実習を行うための判定が行われます。その条件についても『教職課程受講ガイド』を参照し、実習前に必要な単位を修得するよう注意してください。
- ELFコミュニケーションコースでは、学科の卒業要件を満たしつつ、必要な他学部あるいはユニバーシティ・スタンダード科目群開講の科目を履修して単位を修得することにより日本語教員資格を取得することが可能です。『履修ガイド』p.234～235の日本語教員資格課程表を参照し、ガイダンスを受けて、必要な単位をもらえなく修得できるように履修計画を立てましょう。ただし、4年間では取得に必要な単位を取り切れない場合がありますので教務担当教員に相談してください。

② コース変更について

- 第2 Semester終了時に、希望すればコース変更が認められます。ただし、変更後卒業までに免許・資格取得に必要な単位を取りきれない場合がありますので注意してください。

8 「Overseas Study A/B/C」「School Internship A/B/C」「Internship A/B/C」認定申請条件

- 学科の規定により単位を認定しますが、いずれも①プログラム着手前に、担当教員に活動内容と時間数を申告し、受け入れ先の承諾書（あるいはそれに類するもの）を提出して事前審査を受けること、②事前指導・事後指導を含めて90時間以上の活動が行われたと認められること、③「Internship A/B/C」については受け入れ先と玉川大学のあいだで契約書を取り交わすこと、が必要です。
- 詳しくは、各担当教員に相談して必要なガイダンスを受けてください。

9 文学部 英語教育学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中): 集中開講
 履修条件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目 - : 履修不可
 他学科受講 ◇: 日本語教員資格取得希望者のみ可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履修条件		他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
					英 語 教 員 養 成 コ ー ス	E L F コ ー ス			知 識 ・ 理 解	汎用的技能			態度・志向性									
										多 文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
ユニバーシティ・スタンダード科目																						
CWC 101	比較文化論	2	100	春秋					●													
INFO 104	データ処理	2	100	春秋						●			●									
MATH 107	数学入門	2	100	春秋								●										
CARE 301	キャリア・マネジメント	2	100	春秋												●						●
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋	◆	◆						●										
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆	◆						●										
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋	◆	◆						●										
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春	◆	◆						●										
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	◆	◆						●										
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春	◆	◆						●										
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋	◆	◆						●										
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆	◆						●										
FRE 101	フランス語 101	2	100	春秋		◆				●	●											
GER 101	ドイツ語 101	2	100	春秋		◆				●	●											
SPA 101	スペイン語 101	2	100	春秋		◆				●	●											
CHI 101	中国語 101	2	100	春秋		◆				●	●											
学科専門科目																						
ENG 100	Basic Academic English Skills A	2	200	春	●	●						●										
ENG 107	English Phonetics	1	100	春	●	●					●	●										
GLS 100	Overseas Study A	2	集中	春秋						●	●				●							
GLS 101	Overseas Study B	2	集中	春秋						●	●				●							
GLS 102	Overseas Study C	2	集中	春秋						●	●				●							
ENG 103	Basic Academic English Skills B	2	200	秋	●	●						●	●									
JPN 106	日本語表現演習	2	100	秋		●						●										
ENG 106	English Grammar	2	100	秋	●	●					●	●										
GLS 103	World Studies	2	100	秋	●	●				●	●											
CWC 202	Pre-departure Seminar	1	100	春	●	●				●	●				●							
LING 200	Introduction to Language Studies	2	100	春	●	●				●	●			●								
SUBP 200	英語科指導法 I	2	100	春								●			●							
WLIT 200	British and American Literature	2	100	春	●	●				●	●	●										
COPR 200	Internship A	2	集中	春秋								●			●	●						
COPR 201	Internship B	2	集中	春秋								●			●	●						
COPR 202	Internship C	2	集中	春秋								●			●	●						
COPR 203	School Internship A	2	集中	春秋								●			●	●		●				
COPR 204	School Internship B	2	集中	春秋								●			●	●		●				
COPR 205	School Internship C	2	集中	春秋								●			●	●		●				
ENG 212	English for Intercultural Communication A	4	200	秋						●	●	●										
ENG 217	Intercultural Communication A	4	200	秋						●	●				●							
ENG 210	English for General Communication A	2	100	秋								●										
ENG 211	English for General Communication B	2	100	秋								●										
ENG 215	Integrated English Language Skills	2	100	秋								●										
ENG 200	Academic English Skills A	2	100	秋						●	●											

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履修条件		他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力												
					英 語 教 員 養 成 コ ー ス	E L F コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン コ ー ス			知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能				態 度 ・ 志 向 性							
										多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任
ENG 304	English for Intercultural Communication B	4	200	春					●	●	●										
ENG 308	Intercultural Communication B	4	200	春					●		●			●							
ENGE 301	Studies in ELT	4	200	春					●		●			●							
COMM 302	Studies in ELF Communication	4	200	春						●	●			●							
ENG 300	Academic English Skills B	2	100	春					●		●										
ENG 305	English for Writing Research Papers	2	100	春							●			●							
COMM 301	Strategies for Global Communication	2	100	春					●		●			●							
CWC 300	English in Global Contexts	2	100	春	●	●			●	●	●										
AREA 300	Multiculturalism in English-speaking Areas	2	100	春	●	●			●				●								
SUBP 300	英語科指導法Ⅱ	4	200	秋							●			●							
COMM 300	Global Communication	2	100	秋			◇		●		●									●	
LING 303	Current Issues in Applied Linguistics	2	100	秋				偶数年開講	●	●			●								
AREA 301	Regional Studies	2	100	秋						●						●					
ENGE 300	Research Seminar A	2	100	秋	●	◆	●	◆		●			●	●							
LING 300	Language Testing	2	100	秋						●		●		●							
WLIT 300	Special Studies in American Literature	2	100	秋					●	●	●										
LING 302	Language Teaching in Asia	2	100	秋				奇数年開講	●	●			●								
LING 301	Language and Society	2	100	秋			◇		●	●				●							
ENG 400	Speaking Workshop	2	100	春							●										
WLIT 400	Special Studies in British Literature	2	100	春					●	●	●										
LING 401	Issues in Second Language Acquisition	2	100	春			◇			●			●	●							
LING 400	Issues in Applied Linguistics	2	100	春			○		●	●				●							
GLS 400	Issues in International Mobility A	2	100	春					●	●										●	
ENG 407	Project Management Workshop	2	100	春									●	●		●					
ENGE 400	Research Seminar B	1	50	春	●	◆	●	◆		●			●	●							
SUBP 401	英語科指導法Ⅲ	2	100	春							●			●							
GLS 401	Issues in International Mobility B	2	100	秋					●	●										●	
ENGL 411	Issues in English Linguistics	2	100	秋					●	●			●								
ENGE 401	Research Seminar C	2	100	秋	●	◆	●	◆		●			●	●							
SUBP 400	Teaching English to Children	2	100	春			○				●			●							
WLIT 401	Language through Contemporary English Literature	2	100	秋						●	●			●							
ENG 403	Career English	2	100	秋							●			●							
ENG 408	Senior Project	2	集中	秋	●	●					●			●		●					

【履修にあたって】

- (1) 原則 I、II のように番号のついた科目はその順序で履修してください。
- (2) ~~「ELT Seminar A・B・C」と「ELF Communication Seminar A・B・C」~~ は同時に履修することはできません。
- (3) ~~「ELT Seminar A・B・C」と「ELF Communication Seminar A・B・C」~~ は原則 A・B・C の順序で履修してください。

「Research Seminar A・B・C」

「Research Seminar A・B・C」

農 学 部

生産農学科

環境農学科

先端食農学科

人材養成等教育研究に係る目的

農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材養成を達成する。

生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材養成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高等学校（理科）及び高等学校（農業）教員を育成する。

環境農学科は、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、生態系、農業生産、社会の3つの視点から「環境」を理論的・実践的に理解し、さまざまな問題解決に必要な主体性と協調性を身につけた人材を育成する。

先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。

農学部 ディプロマ・ポリシー

農学部は、人材養成等教育研究に係る目的に基づくカリキュラムを通して、以下の知識・技能・態度を学士力として修得・涵養し、卒業要件を充足した人に、学士（農学）の学位を授与します。

- ① 農学をはじめとし、様々な自然科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
- ② 生物学や化学を基盤とした農学に関連する科学的知識を、社会で必要とされる新たな知識・技術の発見や獲得、持続可能な発展、地域や地球規模での環境保全に応用できる。
- ③ 社会の一員として、協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性を持ち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。

学位授与に当たり、各学科が重視する学士力は次の通りです。

〔生産農学科〕

生産農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。

- ① 生物資源を有効利用するために必要な自然科学の情報を収集・分析・理解し、正しく活用することができる。
- ② 農学に関連する専門的知識や理論を体系的に修得、理解し、関連産業の持続可能な発展や環境保全に応用できる。
- ③ 実験・実習を通して技術と理論を修得することができる。
- ④ 農学の学びに基づいて、協調性や倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

理科教員養成プログラムに所属する学生については、以下の学士力を身につけることが到達目標となる。

- ① 自然科学の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
- ② 協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性を持ち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。
- ③ 理科や農業の面白さや大切さを理解し、理科教育または農業科教育に必要な情報を収集・分析・理解し、生徒等にわかりやすく説明できる。
- ④ 理科教育や農業科教育に必要な実験や実習を、生徒等に正しく、安全に指導できる。
- ⑤ コミュニケーション力、語学力、文章作成力、計算力、協調性など、さまざまな問題に対する解決能力を修得し実践できる。

〔環境農学科〕

環境農学科が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。

- ① 生態系を構成する生物・環境を理論的、実践的に学修し、これからの生物生産システム、環境社会的な知識を通して、環境問題にさまざまなレベルで対応できる知識・技術を修得する。
- ② 海外留学（カナダ、オーストラリア）および国内（北海道、鹿児島、箱根町）にある本学の各施設を利用したカリキュラムにより、生物と地球のつながりを体系的に理解できる能力を修得する。
- ③ 国際社会の一員として、協調性、寛容な態度や社会貢献の重要性を理解し、それらを生涯にわたり向上し続ける力と国際性を修得する。
- ④ 言語や文化の多様性を理解、受容でき、問題解決のために国際的な視野を持って積極的に行動することができる。

〔先端食農学科〕

先端食農学科が重視する学士力には以下の項目が挙げられ、これらの力を身につけることが卒業時における到達目標となる。

- ① 世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造に関わる状況を理解し、それらに関わる専門的知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる。
- ② 自然科学、特に化学と生物学を習熟した上で、食料生産や食品加工について修得した知識と実践的な能力を食料の生産、加工現場に適用して生かすことにより、安全で効率的な食料供給に貢献できる。
- ③ 実験実習と講義を並行しながら理論とスキルを修得することができる。
- ④ 情報を収集し、分析することで、自ら解決法を考え提示することができる。

理科教員養成プログラムの学生は『教職課程受講ガイド』も参照してください。

1 カリキュラム・ポリシー

農学部の人材養成等教育研究に係る目的ならびに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、入学者（学習者）が主体的に学習に取り組み、教職員による教育・支援および指導の下で自らの目標を達成できるよう体系的な教育課程を設けています。また、この教育課程の編成に当たっては、社会が要請する「学士力の養成」や「キャリア形成」、すなわち大学を卒業した人が備えているべき資質も重視しています。さらに、グローバル社会に対応するための英語力獲得を目指します。各学科の教育課程については、以下の方針に基づいて構築しています。

[生産農学科]

- ① 実験の基礎技術や応用技術を修得できるように実験科目を配置する。1年次、2年次には『基礎生物学実験』、『基礎化学実験』、『生物化学実験』を配置、3年次には『専門実験・実習Ⅰ・Ⅱ』を配置し、実験のスキルアップを図る。
- ② 実習の基礎知識や専門知識を修得させるために、1年次および2年次に『フィールド実習Ⅰ・Ⅱ』を配置する。また、3年次に配置する『フィールド実習Ⅲ』では、北海道、神奈川県（箱根町）、鹿児島県の学外農場を利用し、それぞれの地域の特徴ある実習を体験し、さらなる技術の修得を図る。
- ③ 3年次には『生産農学演習Ⅰ』を配置し、4年次には『生産農学演習Ⅱ・Ⅲ』また4年間の集大成として、『卒業研究Ⅰ・Ⅱ』や『卒業研究論文』を配置し、それぞれの研究に携わる。

2 カリキュラムの特徴

1 生産農学科科目には、必修科目、選択科目があります。

必修科目 <small>(講義・実験・実習・演習)</small>	生産農学科で学ぶうえで最も基本となる科目。必ずすべて修得すること。
選択科目	各自の必要に応じて履修する科目 <small>(環境農学科科目・先端食農学科科目・教職関連科目・ユニバーシティ・スタンダード科目・他学部開講科目を修得した場合は、選択科目として卒業要件に含まれる)</small>

2 領域配属（理科教員養成プログラムを除く）

- 生産農学科には、「植物科学領域」「微生物科学領域」「昆虫科学領域」「動物科学領域」の4領域があります。第5セメスターから領域に配属されます（配属後に領域を変更することはできません）。
 - ① 第4セメスターに領域配属の希望調査を行い、必要に応じて人数調整の後、配属が決定されます。
 - ② 領域配属は定員制とします。これは学生が特定の領域に偏ることを避け、教育の質を維持するためです。具体的な人数はあらかじめ連絡します。
 - ③ 「担任指導」などの時間を利用して、領域に関する情報提供をするほか、第4セメスターに領域紹介ガイダンスを行う予定です。詳細はあらかじめ連絡します。

3 卒業要件

- (1) 修業年限をみたすこと
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
- 〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：
「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
自然科学科目群：「化学入門」「生物学入門」「解析学入門」
-
- 〈必修選択科目〉 言語表現科目群：
「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」のいずれかを含むELF科目 8単位以上
-
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より上記(4)で示した必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること
- 人文科学科目群：4単位以上 社会科学科目群：4単位以上
自然科学科目群：6単位以上 学際科目群：2単位以上
言語表現科目群：8単位以上
-
- (6) 生産農学科科目について、次の必修講義科目19単位を修得していること
- 〈必修科目〉 100番台科目：「生産農学セミナー」「化学」「栽培学」「生物学」「有機化学Ⅰ」「分析化学」
200番台科目：「生態学」「生化学」「分子生物学Ⅰ」「生物統計学」
-
- (7) 生産農学科科目について、次の必修選択科目から6単位を修得していること
- 〈必修選択科目〉 200番台科目：「植物形態学」「昆虫資源学」「微生物学」「有機化学Ⅱ」「細胞生物学」
-
- (8) 生産農学科科目について、次の必修科目の実験・実習・演習科目（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究論文」を除く）18単位を修得していること
- 100番台科目：「基礎生物学実験」「基礎化学実験」「フィールド実習Ⅰ」
200番台科目：「生物化学実験」
300番台科目：「専門実験・実習Ⅰ」「専門実験・実習Ⅱ」「生産農学演習Ⅰ」
400番台科目：「生産農学演習Ⅱ」「生産農学演習Ⅲ」
-
- (9) 生産農学科科目の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究論文」を修得していること

●生産農学科理科教員養成プログラムに関する卒業要件は、p.85を参照してください。

4 卒業までの単位配分

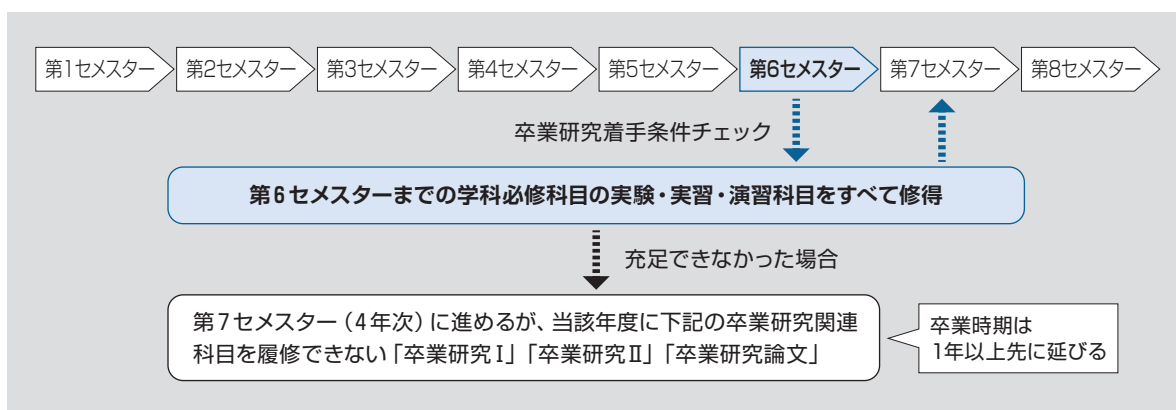
- 卒業に必要な最少単位数は、第1 Semesterから第8 Semesterまで、合計124単位で、生産農学科の場合その内訳は次のとおりです。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群	7単位
	人文科学科目群	4単位以上
	社会科学科目群	4単位以上
	自然科学科目群	6単位以上
	学際科目群	2単位以上
	言語表現科目群	8単位以上
		合計24単位以上 「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」のいずれかを含む ELF科目8単位以上
生産農学科必修科目	必修講義科目	25単位（必修選択科目6単位を含む）
	必修実験・実習・演習科目	28単位（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究論文」を含む）
選択科目	生産農学科選択科目	
	他学科開講選択科目	
	他学部開講科目	
	ユニバーシティ・スタンダード科目	
	他大学との単位互換科目	
累積修得単位		124単位以上

5 履修条件

- 第6 Semester終了時に単位修得状況の確認が行われ、履修条件を満たさない場合は、卒業研究に着手できません。

■第6 Semester（3年次）終了時における卒業研究着手条件チェック



6 履修上の留意事項

- ① C・F評価科目の再履修制度のうち、C評価を受けた科目の再履修についてはp.50を参照し、履修登録前に必ず所属学科教務担当の指導を受けたうえで、適切に手続きを行ってください。
- ② 時間割（時間帯・教室など）については変更等をお知らせする場合がありますので、UNITAMAおよび大学7号館の掲示を十分確認してください。
- ③ 「フィールド実習Ⅲ」、「インターンシップ」は3年次の夏期休暇等を利用して実施されます。これらの科目の履修希望者は事前ガイダンスに必ず出席してください。これらの科目は希望者が多数の場合、ガイダンス出席者に対し抽選または審査を行う場合があります。「フィールド実習Ⅲ」の履修登録・単位認定は第6セメスターに行います。
- ④ 理科教員養成プログラムの科目は、理科教員養成プログラムを受講している学生だけが履修することができます。

7 生産農学科理科教員養成プログラム

- 農学部における教育職員免許状の取得にあたっては、教職課程（理科教員養成プログラム）を受講し、次ページの卒業要件を充足させることにより、免許状取得と卒業が可能となります。次ページの理科教員養成プログラム受講生に対する卒業要件は、生産農学科に所属する他の学生に対する卒業要件（p.82）とは異なるので注意してください。
- 理科教員養成プログラムで履修する科目については、生産農学科の教育課程表（p.86～87）の「履修条件：理科教員養成プログラム」の欄を参照するとともに『教職課程受講ガイド』を参照してください。

8 カリキュラム・ポリシー（生産農学科理科教員養成プログラム）

理科教員養成プログラムについては、以下の方針に基づいて教育課程を構成する。

- ① 専門科目の中核となる科目については、自然科学の幅広い知識を豊富な科目群の中から学生が選択して学べるようにする。
- ② 理科や農業に関する知識を深めることと並行して、1年次から「教職関連科目」を履修し、教職に就くために必要な知識と姿勢を確実に、早い段階から、身に付けることができるようにする。
- ③ 自然科学の幅広い分野の知識と実践能力を獲得し、国民全体の科学技術リテラシーの向上と、児童・生徒の理科離れ等の諸問題に対応できるようにする。

▶ 農学部教職コース履修案内
参照「教職課程受講ガイド」p.49

9 卒業要件（生産農学科理科教員養成プログラム）

- (1) 修業年限をみたすこと
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
- 〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：
「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
-
- 〈必修選択科目〉 言語表現科目群：
「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」から4単位以上
-
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より上記（4）で示した必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること
- 自然科学科目群：6単位以上
-
- (6) 理科教員養成プログラムが指定する生産農学科科目の次の必修講義科目11単位を修得していること
- 〈必修科目〉 100番台科目：「生産農学セミナー」「化学」「生物学」
200番台科目：「有機化学」「生化学」「生物統計学」
-
- (7) 理科教員養成プログラムが指定する生産農学科科目の次の必修科目の実験・実習・演習科目8単位を修得していること
- 100番台科目：「基礎生物学実験」「基礎化学実験」「フィールド実習Ⅰ」
400番台科目：「教材研究」
-
- (8) 教育職員免許状（最低1つ）を取得するために必要な科目を修得し、要件を満たしていること

10 農学部 生産農学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中)：集中開講

履修条件 ●：必修科目 ◆：必修選択科目 無印：選択科目 -：履修不可 理：教職<理科>免許の場合必修 農：教職<農業>免許の場合必修

他学科受講 ○：他学科受講可 △：農学部のみ受講可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履修条件		他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力										
					学 科	理 科 教 員 養 成 プ ロ グ ラ ム			知識・ 理解	汎用的技能					態度・志向性				
										多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ
ユニバーシティ・スタンダード科目																			
CHEM 101	化学入門	2	100	春	●				●										
BIOL 105	生物学入門	2	100	春	●				●										
MATH 101	解析学入門	2	100	春	●						●								
ENG 101	ELF 101	4	200	秋春	◆	◆					●								
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆	◆					●								
ENG 201	ELF 201	4	200	秋春	◆	◆					●								
ENG 202	ELF 202	4	200	春秋	◆	◆					●								
ENG 301	ELF 301	4	200	秋春	◆	◆					●								
ENG 302	ELF 302	4	200	春秋	◆						●								
ENG 401	ELF 401	4	200	秋春	◆						●								
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆						●								
学科専門科目																			
BIOL 101	基礎生物学実験 ★	2	200	春	●	●								●	●	●			
AGR 102	生産農学セミナー	1	50	春	●	●			●	●								●	
CHEM 100	化学	2	100	春	●	●				●				●				●	
AGR 101	栽培学	2	100	春	●			△		●				●					
BIOL 104	生物学	2	100	秋	●	●				●	●	●							
CHEM 102	基礎化学実験 ★	2	200	秋	●	●					●	●	●						
AGR 106	フィールド実習 I ★	2	200	秋	●	●								●	●			●	
CHEM 104	有機化学 I	2	100	秋	●	-				●				●	●				
CHEM 103	分析化学	2	100	秋	●					●	●	●							
AGR 205	植物形態学	2	100	春	◆			△		●			●						
AGR 202	昆虫資源学	2	100	春	◆			△		●	●	●							
BIOL 212	微生物学	2	100	春	◆					●			●	●					
CHEM 202	有機化学	2	100	春	-	●				●	●	●							
CHEM 203	有機化学 II	2	100	春	◆	-				●			●	●					
BIOL 205	生態学	2	100	春	●					●		●	●						
AGR 209	フィールド実習 II ★	2	200	春											●	●		●	
SUBP 214	職業指導（農業） I	2	100	春	-	農				●					●			●	
CHEM 200	生化学	2	100	秋	●	●				●	●	●	●						
BIOL 206	生物化学実験 ★	2	200	秋	●	-					●	●	●						
BIOL 213	分子生物学 I	2	100	秋	●					●	●	●							
BIOL 208	動物行動学	2	100	秋				△		●	●	●							
AGR 203	作物学	2	100	秋				△		●	●								
BIOL 200	応用微生物学	2	100	秋				△		●			●	●					
GEOL 200	地学	2	100	秋	-	理				●			●	●					
GEOL 201	地学実験 ★	1	100	秋	-	理				●			●	●					
PHYS 203	物理学	2	100	春	-	理				●	●	●							
PHYS 205	物理学実験 ★	1	150	秋	-	理				●			●	●					
BIOL 201	細胞生物学	2	100	春	◆			△		●			●	●					
BIOL 207	生物多様性論	2	100	秋				△		●			●	●					
BIOL 210	動物生理学	2	100	秋				△		●			●						
AGR 204	樹木学	2	100	秋				△		●			●	●					
AGR 100	環境と農業	2	100	春				△	2年次より履修	●			●						

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履修条件		他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
					学 科	理 科 教 員 養 成 プ ロ グ ラ ム			知 識 ・ 理 解	汎用的技能				態度・志向性								
										多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
BIOL 214	分類学	2	100	秋			○			●												
SUBP 228	理科指導法 I	2	100	春	-	理					●				●						●	
SUBP 229	理科指導法 II	2	100	秋	-	理					●				●						●	
SUBP 221	農業科指導法 I	2	100	春	-	農					●				●						●	
SUBP 222	農業科指導法 II	2	100	秋	-	農					●				●						●	
SUBP 215	職業指導（農業）II	2	100	秋	-			偶数年開講			●				●						●	
BIOL 302	分子生物学 II	2	100	春			△			●	●		●									
AGR 307	植物病理学	2	100	春			△			●			●									
CHEM 302	分子構造解析論	2	100	春			△			●	●		●									
CHEM 300	天然物化学	2	100	春			△			●	●		●									
AGR 310	専門実験・実習 I	★	200	春	●	-					●			●		●						
COPR 300	インターンシップ	★	100	秋(集中)							●									●	●	
STAT 202	生物統計学	2	100	春	●	●		3年次より履修		●	●		●									
AGR 306	植物育種学	2	100	秋			△			●	●		●									
AGR 300	応用動物昆虫学	2	100	秋			△			●	●		●									
AGR 302	果樹園芸学	2	100	秋			△			●			●									
AGR 312	畜産学	2	100	秋			△			●			●									
AGR 316	農業化学	2	100	秋			△			●	●		●									
CHEM 303	有機合成化学	2	100	秋			△			●	●		●									
AGR 311	専門実験・実習 II	★	200	秋	●	-					●			●		●						
AGR 308	生産農学演習 I	★	100	秋	●	-								●	●					●		
AGR 316	フィールド実習 III	★	200	秋(集中)										●		●					●	
TED 316	生物実験スキル	★	100	春(集中)	-					●	●									●		
TED 300	化学実験スキル	★	100	春(集中)	-					●	●									●		
BIOL 300	遺伝子工学	2	100	春			△			●			●		●							
AGR 301	応用動物利用学	2	100	春			△			●			●		●							
ESP 306	緑地保全学	2	100	春			△			●			●		●							
AGR 304	食品製造	2	100	春	-					●			●		●							
AGR 305	食品製造実習	★	100	秋	-					●			●		●							
ESP 305	野外活動指導法	2	100	春	-					●			●		●							
BIOL 301	植物生理学	2	100	秋			△			●	●		●									
MKTG 300	農業マーケティング論	2	100	秋			○				●		●							●		
SUBP 317	理科指導法 III	2	100	春	-					●	●									●		
SUBP 318	理科指導法 IV	2	100	秋	-					●	●									●		
AGR 400	生産農学演習 II	★	100	春	●	-								●	●					●		
AGR 402	卒業研究 I	★	4	春(集中)	●	-								●	●	●						
AGR 401	生産農学演習 III	★	100	秋	●	-								●	●					●		
AGR 403	卒業研究 II	★	4	秋(集中)	●	-					●		●	●								
AGR 404	卒業研究論文	★	2	秋(集中)	●	-								●	●	●						
TED 400	教材研究	★	2	秋(集中)	-	●				●					●	●						

【履修にあたって】

- (1) 開設 Semester 以降で履修してください。
- (2) 授業科目名の★は実験・実習・演習科目です。

1 カリキュラム・ポリシー

農学部の人材養成等教育研究に係る目的ならびに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、入学者（学習者）が主体的に学習に取組み、教職員による教育・支援および指導の下で自らの目標を達成できるよう体系的な教育課程を設けています。また、この教育課程の編成に当たっては、社会が要請する「学士力の養成」や「キャリア形成」、すなわち大学を卒業した人が備えているべき資質も重視しています。さらに、グローバル社会に対応するための英語力獲得を目指します。各学科の教育課程については、以下の方針に基づいて構築しています。

[環境農学科]

- ① 国際共通語としての英語運用力を高めるとともに異文化を理解し、国際的なセンスを身につけるため、全員が2年次に4ヵ月間、海外プログラムに参加する。また、全員が北海道か鹿児島にある本学施設で実習を行う。
- ② 専門科目の核となる科目、またプロジェクト型学修を行う科目については、3から4単位科目として学生が集中的に学べるようにする。
- ③ 3年次からは生態系科学領域、持続的農学領域のいずれかに所属して学修を深める。
- ④ 卒業研究で、4年間の学修の総まとめを行い、卒業時における到達目標を達成しているか、社会人として求められる能力が身についているかを確認させる。

2 カリキュラムの特徴

1 環境農学科科目には、必修科目、選択科目があります。

必修科目 (講義・実験・実習・演習)	環境農学科の学生が学ぶうえで最も基本となる科目。必ずすべて修得すること
選択科目	各自の必要に応じて履修する科目 (生産農学科科目・先端食農学科科目・ユニバーシティ・スタンダード科目・他学部開講科目を修得した場合は、選択科目として卒業要件に含まれる)

2 学外プログラム

●環境農学科では、2年次に全員が海外プログラム（カナダまたはオーストラリアのどちらかを選択）および国内プログラム（北海道または鹿児島のどちらかを選択）に参加しなければなりません（「海外プログラム参加条件」(p.90) 参照）。

- ① **海外プログラム**：カナダプログラムの授業は主にバンクーバーアイランド大学で行われ、一部玉川大学ナナイモキャンパスを利用します。第3セメスター（3月下旬～7月）または第4セメスター（9月～12月）のどちらかに派遣されます。オーストラリアプログラムの授業はクイーンズランド大学で行われ、第4セメスター（9月～12月）に派遣されます。

※派遣期間は、日本および各国の暦や諸事情から、年によって若干変更されることがあります。

- ② **国内プログラム（「農場実習Ⅲ」）**：北海道プログラム、および鹿児島プログラムは第3セメスター終了後の夏休み等実施される予定です（履修登録および認定は第5セメスター）。

■派遣先と派遣時期の決定方法

- 第2セメスターに希望調査を行い、必要に応じて人数調整のうえ、案が決定されます（10月～11月を予定）。希望に偏りがある場合は、学科が調整を行う場合があります。結果は文書にて、学生本人と保証人にお知らせする予定です。

■3 領域配属

- 環境農学科には、「生態系科学領域」「持続的農学領域」の2領域があります。第5セメスターから領域に配属されます（配属後に領域を変更することはできません）。
 - ① 領域配属は定員制です。これは学生が特定の領域に偏ることを避け、教育の質を維持するためです。具体的な人数はあらためて連絡します。
 - ② 「担任指導」などの時間を利用して、領域に関する情報提供をするほか、第2セメスター開講の「環境農学概論」および第3セメスター終了時に領域紹介ガイダンスを行う予定です。詳細はあらためて連絡します。
 - ③ 第4セメスターに領域配属の希望調査を行い、必要に応じて人数調整の後、配属案が決定されます。

3 卒業要件

卒業要件を充足した場合は、学位として学士（農学）が与えられます。

- (1) 修業年限をみたすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること

〈必修科目〉	玉川教育・FYE科目群： 「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」 自然科学科目群：「化学入門」「生物学入門」「解析学入門」
〈必修選択科目〉	言語表現科目群： 「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」のいずれかを含む ELF科目8単位以上
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より上記（4）で示した必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること

人文科学科目群：4単位以上	社会科学科目群：4単位以上
自然科学科目群：6単位以上	学際科目群：2単位以上
言語表現科目群：8単位以上	
- (6) 環境農学科科目について、次の必修講義科目14単位を修得していること

100番台科目：「環境と農業」「生物科学」「環境農学概論」「生態学概論」
200番台科目：「生物統計学」
300番台科目：「地球環境と生態系」「持続的農学論」
- (7) 環境農学科科目について、次の必修科目の実験・実習・演習科目（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究Ⅲ」を除く）21単位を修得していること

100番台科目：「基礎化学実験」「農場実習Ⅰ」「基礎生物学実験」「農場実習Ⅱ」
200番台科目：「環境農学実験」
300番台科目：「農場実習Ⅲ」「環境農学研究Ⅰ」「環境農学研究Ⅱ」
400番台科目：「環境農学演習Ⅰ」「環境農学演習Ⅱ」
- (8) 環境農学科科目の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究Ⅲ」を修得していること

4 卒業までの単位配分

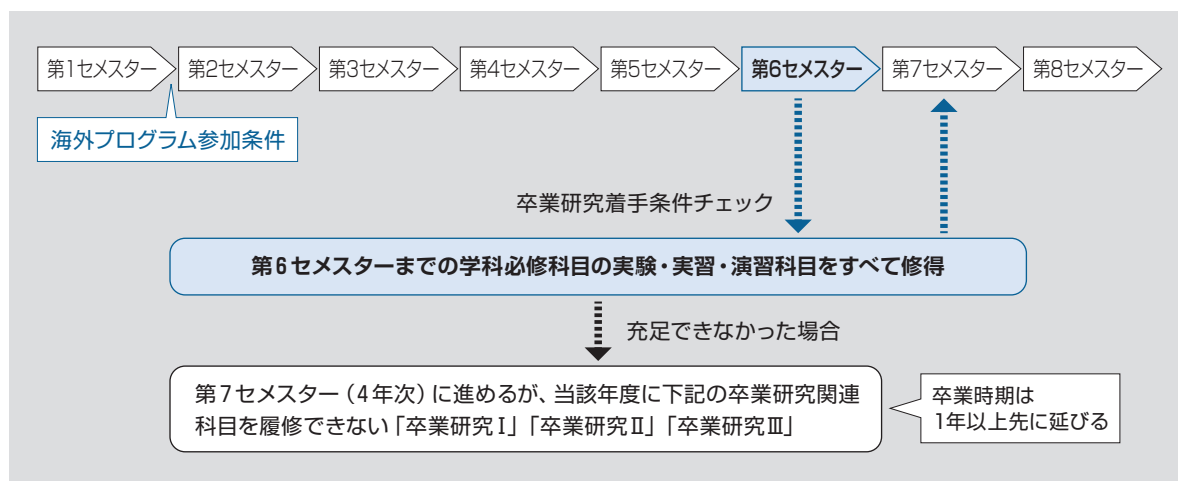
- 卒業に必要な最少単位数は、第1 Semesterから第8 Semesterまで、合計124単位で、環境農学科の場合その内訳は次のとおりです。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群	7単位
	人文科学科目群	4単位以上
	社会科学科目群	4単位以上
	自然科学科目群	6単位以上
	学際科目群	2単位以上
	言語表現科目群	8単位以上
		合計24単位以上
環境農学科 必修科目	必修講義科目	14単位
	必修実験・実習・演習科目	31単位（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究Ⅲ」を含む）
選 択 科 目	環境農学科 選択科目	
	他学部・他学科開講科目	
	ユニバーシティ・スタンダード科目	
	他大学との単位互換科目	
累積修得単位		124単位以上

5 履修条件

- 第6 Semester終了時に単位修得状況の確認が行われ、履修条件を満たさない場合は、卒業研究に着手できません。

■第6 Semester（3年次）終了時における卒業研究着手条件チェック



海外プログラム参加条件

第1 Semester終了時に警告（1回目）の場合は、2年次の海外プログラムに参加できるSemesterが制限される場合があります。

6 履修上の留意事項

- ① 「比較文化論」は海外プログラム参加時に履修するようにしてください。
- ② C・F評価科目の再履修制度のうち、C評価を受けた科目の再履修についてはp.50を参照し、履修登録前に必ず所属学科教務担当の指導を受けたうえで、適切に手続きを行ってください。
海外プログラムにおける科目は、再履修制度の対象に含みません（「比較文化論」を除く）。
- ③ 時間割（時間帯・教室など）については変更等をお知らせする場合がありますので、UNITAMAおよび大学7号館の掲示を十分確認してください。
- ④ 「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」は夏季および春季休暇等を利用して実施されます。これらの科目の履修希望者は事前ガイダンスに必ず出席してください。「インターンシップⅠ」は希望者が多数の場合、ガイダンス出席者に対し抽選または審査を行う場合があります。「インターンシップⅡ」はECO-TOPプログラムの受講許可を受けた学生のみが履修できます。
- ⑤ 「自然環境総合演習」はECO-TOPプログラムの受講許可を受けた学生のみが履修できます。
- ⑥ 「農場実習Ⅲ」は2年次の夏季休暇等を利用して実施されます。この科目の履修希望者は事前ガイダンスに必ず出席してください。履修登録・単位認定は第5セメスターに行います。

7 農学部 環境農学科 教育課程表

凡例 **開 講 期** (集中):集中開講
履 修 条 件 ●:必修科目 ◆:必修選択科目 無印:選択科目 - :履修不可
他学科受講 ○:他学科受講可 △:農学部のみ受講可 ▲:先端食農学科のみ受講可

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力														
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性								
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シ ー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力		
ユニバーシティ・スタンダード科目																						
CWC 101	比較文化論	♣	2	100	春秋		2年次より履修	●														
CHEM 101	化学入門		2	100	春	●			●													
BIOL 105	生物学入門		2	100	春	●			●													
ESP 100	環境科学		2	100	秋		2年次より履修															●
MATH 101	解析学入門		2	100	春秋	●	2年次より履修			●												
E D 100	環境教育		2	100	春		3年次より履修		●													●
ENG 101	ELF 101		4	200	春秋	◆				●												
ENG 102	ELF 102		4	200	秋春	◆				●												
ENG 201	ELF 201		4	200	春秋	◆				●												
ENG 202	ELF 202		4	200	秋春	◆				●												
ENG 301	ELF 301		4	200	春秋	◆				●												
ENG 302	ELF 302		4	200	秋春	◆				●												
ENG 401	ELF 401		4	200	春秋	◆				●												
ENG 402	ELF 402		4	200	秋春	◆				●												
学科専門科目																						
AGR 100	環境と農業		2	100	春	● △			●			●										
CHEM 102	基礎化学実験	★	2	200	春	●				●	●	●										
AGR 104	農場実習 I	★	1	150	春	●			●					●				●				
BIOL 103	生物科学		2	100	秋	●			●	●	●											
ESP 102	環境農学概論		2	100	秋	●			●			●									●	
BIOL 102	生態学概論		2	100	秋	● ▲			●													
BIOL 101	基礎生物学実験	★	2	200	秋	●						●		●						●		
AGR 105	農場実習 II	★	2	200	秋	●			●	●											●	
ENG 206	English Communication	♣	2	100	春秋				●	●	●											
ESP 203	地域環境研究	♣	2	100	春秋				●													
BIOL 203	植物科学	♣	2	100	春秋				●			●										
BIOL 204	植物繁殖学	♣	2	100	春秋				●													
ESP 204	地域環境論	♣	2	100	春秋				●	●												
ENG 218	科学英語表現 I	♣	2	100	春秋				●		●											
ENG 219	科学英語表現 II	♣	2	100	春秋				●		●											
ESP 201	環境農学実験	★	2	200	春秋	●			●	●			●									
BIOL 202	自然環境保全学		2	100	春		○		●												●	●
BIOL 211	土壌生態学		2	100	春		○		●													
PHYS 202	生物環境物理学		2	100	春		○		●													
BIOL 209	動物行動生態学		2	100	春		△		●													
BIOL 214	分類学		2	100	秋		○		●			●										
ESP 202	環境倫理学		2	100	秋		○		●												●	
ECON 200	環境経済学		2	100	秋				●													
CHEM 100	化学		2	100	秋		2年次より履修		●			●										●
STAT 202	生物統計学		2	100	春	●	3年次より履修		●		●	●										

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力														
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性								
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力		
AGR 315	農場実習Ⅲ ★	1	100	春(集中)	●			●				●	●									
ESP 301	環境農学研究Ⅰ ★	3	300	春	●			●				●	●									
GEOG 303	地理学	2	100	春		○		●		●												
B A 303	環境マネジメント論	2	100	春		△						●				●	●					
ESP 300	環境と法令	2	100	春								●							●	●		
AGR 314	農学国際協力	2	100	春		○		●										●	●			
ESP 303	地球環境と生態系	2	100	秋	●	①		●			●											
AGR 303	持続的農業論	2	100	秋	●	△		●			●								●			
ESP 302	環境農学研究Ⅱ ★	4	400	秋	●			●			●	●										
COMM 305	コミュニケーションスキル ★	2	100	秋					●			●							●			
MKTG 300	農業マーケティング論	2	100	秋		○			●		●								●			
ESP 304	野外安全教育	2	100	秋				●											●		●	
COPR 301	インターンシップⅠ ★	2	100	秋(集中)					●						●							●
ESP 400	環境農学演習Ⅰ ★	2	100	春	●				●			●										●
ESP 403	卒業研究Ⅰ ★	4	-	春(集中)	●					●	●	●										
AGR 405	農業と動物	2	100	春		△		●											●			
BIOL 400	緑地環境学	2	100	春		○		●				●							●			
ESP 401	環境農学演習Ⅱ ★	2	100	秋	●				●			●										●
ESP 404	卒業研究Ⅱ ★	4	-	秋(集中)	●						●	●										●
ESP 405	卒業研究Ⅲ ★	2	-	秋(集中)	●				●	●	●											
ESP 402	自然環境総合演習※ ★	2	100	春秋(集中)				●			●											
COPR 400	インターンシップⅡ※ ★	2	100	春秋(集中)					●						●							

【履修にあたって】

- (1) 開設セメスター以降に履修してください。
- (2) 授業科目名の♣は海外プログラム科目、★は実験・実習・演習科目です。
- (3) 授業科目名の※はECO-TOP 関連の科目で、履修条件があります。(p.238 ~ 239参照) 集中科目については7・8セメスター共に履修すること。

1 カリキュラム・ポリシー

農学部の人材養成等教育研究に係る目的ならびに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、入学者（学習者）が主体的に学習に取り組む、教職員による教育・支援および指導の下で自らの目標を達成できるよう体系的な教育課程を設けています。また、この教育課程の編成に当たっては、社会が要請する「学士力の養成」や「キャリア形成」、すなわち大学を卒業した人が備えているべき資質も重視しています。さらに、グローバル社会に対応するための英語力獲得を目指します。各学科の教育課程については、以下の方針に基づいて構築しています。

[先端食農学科]

1年次には『生物学』『化学』『基礎生物学実験』『基礎化学実験』『有機化学Ⅰ』『農場実習』といった基礎的知識を修得するための科目を、2年次には『生物化学Ⅰ・Ⅱ』『微生物学』『園芸学』『海洋生態学』『植物栄養学』『食品機能化学』『先端食農実験Ⅰ』といった基本的な知識を修得し専門領域へと導入するための科目をそれぞれ必修で配置している。3年次では、4年次での専門的な教育研究に向けて、『食品衛生学』『栄養生理化学』『農薬化学』『植物生理学』『専門領域研究』などの科目を配置している。また、『食品加工実習Ⅰ』『植物工場実習』『陸上養殖実習』『フィールド実習』などの実習科目も設置され、個々の学生が自身の研究テーマを決定できるように工夫している。そして、4年次は集大成として各自の研究テーマに基づいて卒業研究を行い、論文を作成できるよう『先端食農演習ⅡA・ⅡB』『卒業研究Ⅰ・Ⅱ』『卒業研究論文』といった科目を必修で配置している。

2 カリキュラムの特徴

1 先端食農学科科目群には、必修科目、選択科目があります。

必修科目 (講義・実験・実習・演習)	先端食農学科で学ぶうえで最も基本となる科目。必ずすべて修得すること。
選択科目	各自の必要に応じて履修する科目 (生産農学科科目・環境農学科科目・ユニバーシティ・スタンダード科目・他学部開講科目を修得した場合は、選択科目として卒業要件に含まれる)

2 領域配属

- 先端食農学科には、「システム農学領域」「食品科学領域」の2領域があります。第5セメスターから領域に配属されます（配属後に領域を変更することはできません）。
 - ① 第4セメスターに領域配属の希望調査を行い、必要に応じて人数調整の後、配属案が決定されます。
 - ② 領域配属は定員制とします。これは学生が特定の領域に偏ることを避け、教育の質を維持するためです。具体的な人数はあらためて連絡します。
 - ③ 第4セメスターに担任が領域紹介ガイダンスを行う予定です。詳細はあらためて連絡します。

3 卒業要件

- (1) 修業年限をみたすこと
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
- 〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：
「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
自然科学科目群：「化学入門」
-
- 〈必修選択科目〉 言語表現科目群：
「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」のいずれかを含むELF科目8単位以上
-
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より上記(4)で示した必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること
- 人文科学科目群：4単位以上 社会科学科目群：4単位以上
自然科学科目群：6単位以上 学際科目群：2単位以上
言語表現科目群：8単位以上
-
- (6) 先端食農学科科目について、次の必修講義科目24単位を修得していること
- 100番台科目：「化学」「生物学」「有機化学Ⅰ」
200番台科目：「生物化学Ⅰ」「微生物学」「園芸学」「海洋生態学」「生物化学Ⅱ」
「植物栄養学」「食品機能化学」
300番台科目：「生物化学Ⅲ」「食品衛生学」
-
- (7) 先端食農学科科目について、次の必修科目の実験・実習・演習科目（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究論文」を除く）15単位を修得していること
- 100番台科目：「基礎化学実験」「農場実習」「基礎生物学実験」
200番台科目：「先端食農実験Ⅰ」
300番台科目：「先端食農実験Ⅱ」「先端食農演習Ⅰ」
400番台科目：「先端食農演習ⅡA」「先端食農演習ⅡB」
-
- (8) 先端食農学科で開講されている選択科目（実習科目・専門領域研究・インターンシップを除く）から16単位以上を修得していること
-
- (9) 先端食農学科科目の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究論文」を修得していること

4 卒業までの単位配分

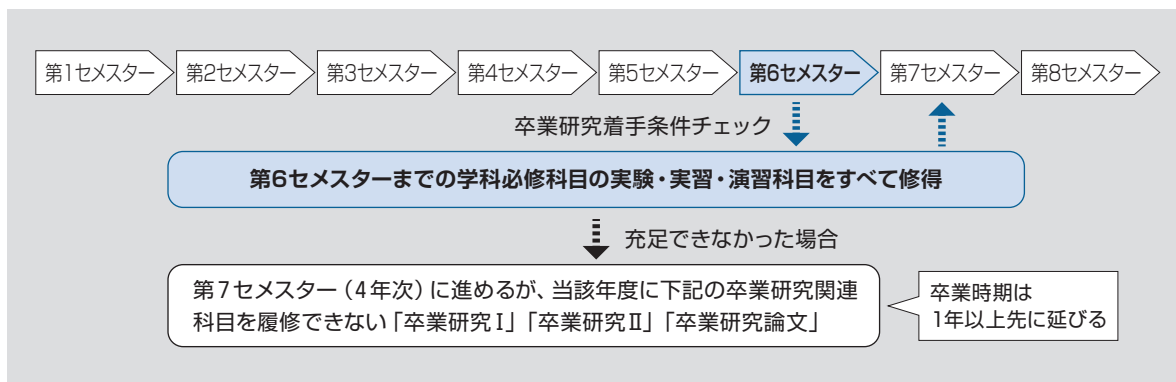
- 卒業に必要な最少単位数は、第1 Semesterから第8 Semesterまで、合計124単位で、先端食農学科の場合その内訳は次のとおりです。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群	7単位
	人文科学科目群	4単位以上
	社会科学科目群	4単位以上
	自然科学科目群	6単位以上
	学際科目群	2単位以上
	言語表現科目群	8単位以上
		合計24単位以上
先端食農学科 必修科目	必修講義科目	24単位
	必修実験・実習・演習科目	25単位（「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」「卒業研究論文」を含む）
選 択 科 目	先端食農学科選択科目	16単位以上
	他学部・他学科開講科目	
	ユニバーシティ・スタンダード科目	
	他大学との単位互換科目	
累積修得単位		124単位以上

5 履修条件

- 第6 Semester終了時に単位修得状況の確認が行われ、履修条件を満たさない場合は、卒業研究に着手できません。

■ 第6 Semester（3年次）終了時における卒業研究着手条件チェック



6 履修上の留意事項

- ① ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、先端食農学科生が履修できない科目は「生物学入門」の1科目です。
- ② C・F評価科目の再履修制度のうち、C評価を受けた科目の再履修についてはp.50を参照し、履修登録前に必ず所属学科教務担当の指導を受けたうえで、適切に手続きを行ってください。
- ③ 時間割（時間帯・教室など）については変更等をお知らせする場合がありますので、UNITAMAおよび大学7号館の掲示を十分確認してください。
- ④ 「食品加工実習Ⅱ」、「インターンシップ」、「植物工場実習」、「陸上養殖実習」は夏季休暇等を利用して実施されます。これらの科目および「食品加工実習Ⅰ」の履修希望者は事前ガイダンスに必ず出席してください。これらの科目は希望者が多数の場合、ガイダンス出席者に対し抽選または審査を行う場合があります。「食品加工実習Ⅱ」、「植物工場実習」、「陸上養殖実習」の履修登録・単位認定は授業後の翌学期に行い、当該学期の履修上限16単位に含まれます。
- ⑤ 「食品加工実習Ⅰ」と「食品加工実習Ⅱ」の両方を履修することはできません。

7 資格

- 「食品衛生管理者」と「食品衛生監視員」の養成施設として厚生労働省の登録を受けています。「先端食農学科食品衛生管理者等資格コース」として所定の単位を取得すると卒業と同時に資格が取得できます。

8 農学部 先端食農学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中): 集中開講

履修条件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目 - : 履修不可

他学科受講 ○: 他学科受講可 △: 農学部のみ受講可 ▲: 環境農学科のみ受講可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授業 時間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力																		
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性												
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力						
ユニバーシティ・スタンダード科目																										
HIST 103	歴史 (日本)	2	100	春																						
COMM 100	コミュニケーション論	2	100	春					●																	
INFO 104	データ処理	2	100	春					●			●														
CHEM 101	化学入門	2	100	春	●				●																	
MATH 101	解析学入門	2	100	春						●																
E D 100	環境教育	2	100	春					●															●		
ENG 101	ELF 101	4	200	秋春	◆					●																
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆					●																
ENG 201	ELF 201	4	200	秋春	◆					●																
ENG 202	ELF 202	4	200	春秋	◆					●																
ENG 301	ELF 301	4	200	秋春	◆					●																
ENG 302	ELF 302	4	200	春秋	◆					●																
ENG 401	ELF 401	4	200	秋春	◆					●																
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆					●																
学科専門科目																										
BIOL 100	環境生物学	2	100	春					●				●													
CHEM 102	基礎化学実験	★	200	春	●					●		●	●													
AGR 103	農場実習	★	150	春	●				●								●	●								
CHEM 100	化学	2	100	秋	●				●				●												●	
BIOL 104	生物学	2	100	秋	●				●	●		●														
CHEM 104	有機化学 I	2	100	秋	●				●				●	●												
CHEM 103	分析化学	2	100	秋		▲			●	●		●														
BIOL 101	基礎生物学実験	★	200	秋	●								●	●			●	●								
AGR 207	生物化学 I	2	100	春	●	△			●				●	●												
BIOL 212	微生物学	2	100	春	●	▲			●				●	●												
AGR 200	園芸学	2	100	春	●	△			●				●													
AGR 201	海洋生態学	2	100	春	●	△			●														●	●		
CHEM 203	有機化学 II	2	100	春					●				●	●												
FSC 202	食品製造科学	2	100	春		○			●				●	●												
FSC 200	食品加工実習 I	★	200	春					●								●	●								
AGR 208	生物化学 II	2	100	秋	●	△			●				●	●												
FSC 203	植物栄養学	2	100	秋	●	△			●				●	●												
FSC 201	食品機能化学	2	100	秋	●	△			●				●	●												
STAT 202	生物統計学	2	100	秋					●	●		●														
AGR 206	水産学	2	100	秋		○			●				●	●												
AGR 210	養殖学	2	100	秋					●				●	●												
FSC 204	先端食農実験 I	★	300	秋	●				●								●	●								

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
AGR 309	生物化学Ⅲ	2	100	春	●	△		●				●	●								
FSC 302	食品衛生学	2	100	春	●	△							●						●	●	
FSC 300	栄養生理化学	2	100	春		○		●				●	●								
AGR 316	養蜂学	2	100	春		○		●				●									
FSC 306	先端食農実験Ⅱ	★	2	300	春	●		●					●		●						
FSC 307	専門領域研究	2	100	春				●					●	●							
FSC 303	食品加工実習Ⅱ	★	2	200	春秋(集中)			●							●	●					
FSC 305	先端食農演習Ⅰ	★	2	100	秋	●		●					●	●							
FSC 301	応用栄養学	2	100	秋		○		●				●	●								
AGR 313	畜産物利用学	2	100	秋		○		●				●	●								
BIOL 301	植物生理学	2	100	秋		△		●		●											
AGR 316	農業化学	2	100	秋		△		●		●											
HHS 202	公衆衛生学	2	100	秋			3年次より履修	●											●	●	
COPR 302	インターンシップ	★	2	100	秋(集中)				●				●	●							
AGR 316	フィールド実習	★	2	200	秋(集中)			●							●						●
FSC 304	植物工場実習	★	2	200	秋春(集中)			●							●	●					
AGR 316	陸上養殖実習	★	2	200	秋春(集中)			●					●		●						
FSC 400	先端食農演習ⅡA	★	2	100	春	●		●					●	●							
FSC 402	卒業研究Ⅰ	★	4	—	春(集中)	●					●		●	●							
FSC 401	先端食農演習ⅡB	★	2	100	秋	●		●					●	●							
FSC 403	卒業研究Ⅱ	★	4	—	秋(集中)	●					●		●	●							
FSC 404	卒業研究論文	★	2	—	秋(集中)	●					●	●		●							

【履修にあたって】

- (1) 開設セメスター以降に履修してください。
- (2) 授業科目名の★は実験・実習・演習科目です。

工 学 部

情報通信工学科

ソフトウェアサイエンス学科

マネジメントサイエンス学科

エンジニアリングデザイン学科

人材養成等教育研究に係る目的

工学部では全人教育の下、人間力を備えたモノづくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部的基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。

情報通信工学科では、人と人をつなぐコミュニケーション能力と技術を身につけ、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観をもつ人材を育成する。特に、社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティーおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。

ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。

マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。

エンジニアリングデザイン学科は、ものづくりに欠かせない従来技術分野の修得はもちろんのこと、グローバルに展開する産業界のニーズに適合しうる人材養成を目的とする学科で、「機械工学」分野を中心として図面の読める経営者や経営に参画できる技術者の養成を目的とする。具体的には、ものづくりに不可欠な設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・工業デザインなどを取り込むことにより、技術者、経営者として地球的にも活躍できる人材を輩出する。

情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持つ。1年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身につけた数学教員を養成する。

工学部 ディプロマ・ポリシー

工学部では、人材養成等教育研究に係る目的を達成させるために、次のような能力を身に付けさせます。

- ① 時代をリードする「自然と共生できる工学」「人を思いやる工学」の実践を通して、社会人として十分な品格を持った豊かな人間性
- ② 工学に関する専門の知識や技術のほか、コミュニケーション力、問題発見・解決能力

各学科では、下記のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生は卒業が認定されます。

【情報通信工学科】

- ① 人と人のコミュニケーションを基盤としたより良い社会を築くため、情報・通信技術者としての幅広い素養と倫理を身につける。【態度・志向性】
- ② グローバルな社会で活躍できる工学技術者として、技術的な議論ができる英語力と数理能力を身につける。【知識・理解】
- ③ 問題の発見能力、分析能力、解決能力、表現能力等を養い、深い洞察と考察ができる能力を身につける。【汎用的技能】
- ④ 結果を体系的にまとめあげ、発表することでプレゼンテーション能力を高め、かつ技術者として論理的に討議できるコミュニケーション能力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】

【ソフトウェアサイエンス学科】

- ① 専門科目の履修を通して、コンピュータ・ソフトウェア技術、モバイルシステム・ネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員のなかから1つ以上の専門分野に対する深い理解と高い技能を身につける。【知識・理解】
- ② ユニバーシティ・スタンダード科目の履修を通して、学際的・国際的な幅広い社会的教養を修得し、更なる学問を追及する姿勢を身につける。【汎用的技能】
- ③ 自らの考えを正確かつ分かりやすく他者に伝えるとともに、他者の考えを正確に理解するように努め、技術者・教育者として論理的に討議や助言ができるコミュニケーション能力を身につける。【態度・志向性】
- ④ 卒業研究では、その結果を研究論文として体系的にまとめあげ、発表することでプレゼンテーション能力を高め、かつ技術者・教育者としての学修経験をし、専門分野における問題を発見し解決する力および新しい価値を創造する力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】

[マネジメントサイエンス学科]

- ① 仕事に必要な学修を自主的に行い得る基礎的学習能力を身につける。【知識・理解】
- ② 世界の主な国々の文化の相違を理解することで多面的に物事を考える能力を持ち、わが国の社会人としての品格（知識・教養・感性・判断力など）を身につける。【態度・志向性】
- ③ 科学や技術が社会に及ぼす影響と、技術者・経営者・教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解でき、科学や技術を的確に応用して問題解決に対処する能力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】
- ④ 計画的状況にも非予測的状況にもチームワークやリーダーシップをとることができ、論理性をもとにした双方向的コミュニケーション能力をもって対処する能力を身につける。【汎用的技能】

[エンジニアリングデザイン学科]

- ① 自然科学や工学に関する基礎知識を持ち、将来技術者や経営者として他者と協創・協働できる力および企画力、マネジメント力を具備している。【知識・汎用的技能】
- ② エンジニアリングデザインに関する専門知識を修得し、これからのものづくりに精通した人材として新たな課題の解決に貢献することができる。【統合的な学習経験と創造的思考力】
- ③ エンジニアリングデザインに関する様々な情報を収集・分析・理解し、自らの考えを構築・発信することができる。【汎用的技能】
- ④ グローバルな視野に立って多面的に物事を考える能力を有し、我が国の社会人としての品格を身につけ、産業界でそれを実践することができる。【汎用的技能】
- ⑤ グローバル時代において、高い倫理観を持ち、日本国内ならびに海外において協業できる素地を会得している。【態度・志向性】

[数学教員養成プログラム]

- ① 教員に必要な能力開発を自主的に行い得る基礎的学習能力を身につける。【知識・理解】
- ② 世界の主な国々の文化の相違を理解することで多面的に物事を考える能力を持ち、教員としての品格（知識・教養・感性・判断力など）を身につける。【態度・志向性】
- ③ 教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解でき、教育現場での問題に対処する能力を身につける。【統合的な学習経験と創造的思考力】
- ④ 慈愛と論理性をもとにした双方向的コミュニケーション能力をもって、生徒に対処する能力を身につける。【汎用的技能】
- ⑤ 専門科目の学びを教育現場に応用する能力を身につける。【知識・理解】

1 カリキュラム・ポリシー

- ① 数学、物理、プログラミングにおいて徹底した基礎教育を行う。【知識・理解】
- ② 組み込み技術は、情報通信の基盤を支える必要不可欠な技術であるとの判断から、関連する『プログラミングⅠ』『電気回路入門』『センサ工学』『インテリジェントデバイス入門』の講義科目と『情報工学実験』『インテリジェントデバイス実験Ⅰ』の実験科目を必修とする。また、選択実験科目として『インテリジェントデバイス実験Ⅱ』『インテリジェントデバイス実験Ⅲ』を設置し、高度な組み込み技術の修得も可能にする。【知識・理解】
- ③ 将来の就職先ならびに専門性を考慮し、専門領域は、「情報・通信」と「人工知能・ロボティクス」との2領域で構成する。【知識・理解】
- ④ 大学院での研究に繋がる専門的な内容が修得できるように、発展的な専門科目として『人工知能』『光通信工学』という2つの4単位科目を4年次前期に設置する。【統合的な学習経験と創造的な思考力】

2 カリキュラムの特徴

- 人工知能・ロボティクス、高速通信技術など、情報通信分野の幅広い技術を学ぶカリキュラムです。数学・物理などの工学の基礎科目を学んだ後、実験・演習を基盤として組み込み技術に関する基礎知識とスキルを身につけることができます。

1 情報通信工学科必修科目

授業科目名	単位	授業科目名	単位
チャンピオンシップ	1	センサ工学	2
代数学Ⅰ	2	工学倫理	1
解析学Ⅰ	2	インテリジェントデバイス入門	2
コミュニケーション科学の世界	2	情報工学実験	1
プログラミングⅠ	2	インテリジェントデバイス実験Ⅰ	1
電気回路入門	2	卒業プロジェクト	4

2 ユニバーシティ・スタンダード科目言語表現科目群 必修選択科目 (以下の科目から1科目以上)

授業科目名	単 位
「ELF101」「ELF102」「ELF201」 「ELF202」「ELF301」「ELF302」 「ELF401」「ELF402」	各科目 4 単位

※p.56参照

3 卒業要件

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群から必修科目をすべて含み7単位以上を修得していること
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群の選択必修科目（「ELF101」～「ELF402」）から4単位を含み4単位以上、学際科目群から2単位以上を修得していること
- (6) 情報通信工学科開講科目より必修科目22単位を含み、62単位以上を修得していること（ただし、情報通信工学科開講科目のうちの10単位は工学部他学科の専門科目またはUS教職関連科目群の「教育実習」「教職実践演習」で振り替えることが可能である）

4 卒業までの単位配分

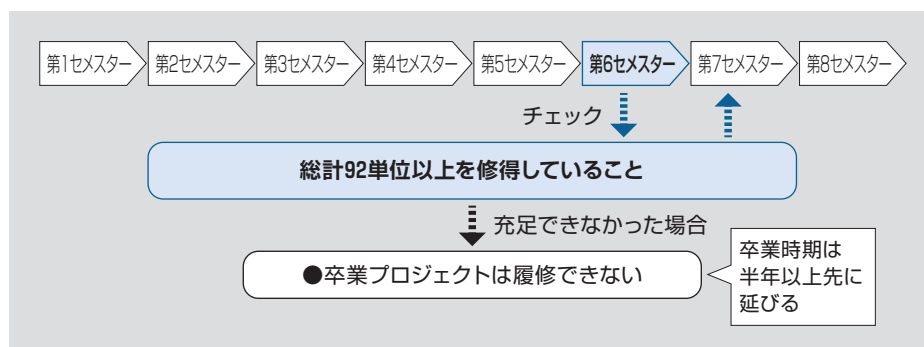
- 情報通信工学科では、卒業までに、ユニバーシティ・スタンダード科目群、学科科目、他学部・他学科開講科目など数多くの開講科目から、卒業要件および履修モデルに沿ってバランスよく学修できるカリキュラムが構成されています。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群	7単位以上 (必修科目7単位を含む)
	人文科学科目群	18単位以上 (人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群から必修選択科目4単位を含み4単位以上、学際科目群から2単位以上)
	社会科学科目群	
	自然科学科目群	
	学際科目群	
言語表現科目群		
情報通信工学科科目		62単位以上 (必修科目22単位を含む。10単位は工学部他学科の科目または「教育実習」「教職実践演習」で振り替え可)
自由選択科目 (任意)	他学部他学科開講科目	
	他大学との単位互換科目	
卒業に必要な単位数		124単位

- また、学科科目群には教育職員免許状取得に必要な科目の一部が配置されています。それらの科目を履修することによって、学科卒業要件となる単位と同時に、教育職員免許状取得に必要な単位も修得できるようになっています。

5 卒業プロジェクト着手条件

- 情報通信工学科では、第6セメスター（3年次）終了時に卒業プロジェクト着手条件のチェックが行われます。第6セメスター終了時に92単位以上修得していないと、「卒業プロジェクト」（必修科目）が履修できません。



6 教育職員免許状

▶取得できる教育職員
免許状一覧
参照「教職課程受講
ガイド」p.5

種 類	
	中 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 (数 学)
	高 等 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 (数 学)
	高 等 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 (工 業)

教育職員免許状については、「教職課程受講ガイド」を参照してください。

7 工学部 情報通信工学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中)：集中開講
 履修条件 ●：必修科目 ◆：必修選択科目 無印：選択科目
 他学科受講 ○：他学科受講可 △：工学部生のみ受講可

科目記号 / 番号	授業科目名	単 位	授業 時間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解	汎用的技能				態度・志向性								
									多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミュ ニ ケー ション ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
ユニバーシティ・スタンダード科目																					
HIST 102	歴史 (世界)	2	100	春																	
HIST 103	歴史 (日本)	2	100	秋										●							
INFO 101	情報科学入門	2	100	春				●					●								●
CHEM 101	化学入門	2	100	春				●													
MATH 107	数学入門	2	100	春						●											
MATH 101	解析学入門	2	100	春秋						●											
MATH 109	代数学入門	2	100	春秋						●											
PHYS 101	物理学入門	2	100	春秋				●													
UNIV 103	自然科学アカデミックスキルズ (リーディング)	1	50	春						●			●								
UNIV 100	自然科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1	50	春						●											
JPN 101	日本語表現 101	2	100	春						●											
BRSC 100	マイクロ脳科学	2	100	秋			2年次より履修可			●		●	●								
BRSC 101	マクロ脳科学	2	100	春			2年次より履修可			●											
INFO 104	データ処理	2	100	春				●				●									
INFO 106	ネットワーク入門	2	100	春				●				●									
ESP 100	環境科学	2	100	秋																	●
SCED 201	エネルギー科学	2	100	春				●													
ENG 101	ELF 101	4	200	秋	◆					●											
ENG 102	ELF 102	4	200	秋	◆					●											
ENG 201	ELF 201	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●											
ENG 202	ELF 202	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●											
ENG 301	ELF 301	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●											
ENG 302	ELF 302	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●											
ENG 401	ELF 401	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●											
ENG 402	ELF 402	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●											
学科専門科目																					
ENGR 103	チャンピオンシップ	1	100	春	●								●		●	●					
ENGR 102	工学基礎演習	1	100	春						●		●									●
MATH 108	代数学 I	2	100	秋春	●			●		●		●									
MATH 100	解析学 I	2	100	秋春	●			●		●		●									
MATH 105	数学演習 I	2	100	春			△	●		●		●									
MATH 106	数学演習 II	2	100	秋			△	●		●		●									
PHYS 100	物理学 I	2	100	秋春	○			●		●		●									
SCED 101	コミュニケーション科学の世界	2	100	春	●	○		●	●						●						
INFO 107	プログラミング I	2	100	秋春	●							●	●								
INFO 102	情報システム入門	2	100	秋			○			●		●									
ENGR 104	電気回路入門	2	100	秋	●			●				●									
ENGR 107	ロボットプロジェクト A	1	100	秋								●		●	●						
ENGR 106	ロボット入門	1	50	秋								●	●	●							
INFO 108	プログラミング II	2	100	春秋			2年次より履修可					●	●								
CARE 100	キャリアデザイン	2	100	秋			3年次より履修可							●							●
MATH 201	解析学 II	2	100	春秋				●		●		●									
ENGR 202	技術英語 I	2	100	春				●		●					●						
ENGR 203	技術英語 II	2	100	秋				●		●					●						
EEE 202	センサ工学	2	100	春	●					●		●									
STAT 200	確率統計学 I	2	100	春				●		●		●									
ENGR 205	工学倫理	1	50	秋	●			●				●							●		
ENGR 208	熱と流れの力学	2	100	秋			○			●		●									
ENGR 201	インテリジェントデバイス入門	2	100	秋	●					●		●									
ENGR 206	情報工学実験	1	150	秋	●							●	●		●						
PHYS 200	基礎物理学実験	2	200	春				●		●		●									

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
INFO 209	通信システム	2	100	秋		○		●			●										
MATH 205	フーリエ解析	2	100	秋				●		●	●										
INFO 210	データサイエンス入門	2	100	秋		○				●	●			●							
COSC 200	認知科学	2	100	秋		○		●						●							
SUBP 206	工業科指導法 I	2	100	春					●					●							
SUBP 207	工業科指導法 II	2	100	秋					●					●							
ENG 220	サイエンスイングリッシュ	4	100	秋				●		●										●	
SUBP 216	数学科指導法 I	2	100	春					●					●							
SUBP 217	数学科指導法 II	2	100	秋					●					●							
MATH 203	微分方程式 I	2	100	春					●		●		●								
MATH 206	複素解析 I	2	100	秋					●		●		●								
STAT 201	確率統計学 II	2	100	秋					●		●		●								
MATH 204	微分方程式 II	2	100	秋					●		●		●								
ENGR 207	電磁気学	2	100	秋		△				●		●		●							
MATH 202	幾何学 I	2	100	秋					●		●		●								
ENGR 200	インターフェース工学	2	100	春		○				●		●									
ENGR 210	ロボットプロジェクト B	1	100	春										●					●	●	
INFO 208	数値解析プログラミング	2	100	春			3年次より履修可				●	●		●							
ENGR 307	コミュニケーションロボット工学	2	100	春		○				●				●	●						
COSC 302	ブレインサイエンス	2	100	春		○			●					●							
ENGR 300	インテリジェントデバイス実験 I	1	150	春	●									●	●						
ENGR 312	通信工学	2	100	春					●					●							
ENGR 305	応用電子物性	2	100	春		△								●	●						
INFO 311	データサイエンス I	2	100	春		△					●	●		●							
ENGR 302	エネルギー工学	2	100	春		△								●							
ENGR 306	工学応用演習	1	100	春							●		●								
COPR 303	インターンシップ I	1	100	春秋(集中)							●			●					●		
COPR 304	インターンシップ II	1	100	春秋(集中)							●			●					●		
COPR 307	インターンシップ III	1	100	春秋(集中)							●			●					●		
COPR 308	インターンシップ IV	1	100	春秋(集中)							●			●					●		
ENGR 315	ロボットプログラミング	2	100	秋								●	●								
ENGR 301	インテリジェントデバイス実験 II	2	200	秋										●	●				●		
INFO 306	情報理論	2	100	秋		△			●		●		●								
INFO 312	データサイエンス II	2	100	秋		△					●	●		●							
ENGR 308	スマートエネルギー	2	100	秋							●		●								
ENGR 314	レーダ工学	2	100	秋							●		●								
ENGR 309	生体情報工学	2	100	秋		△			●		●		●								
SUBP 309	職業指導 (工業) I	2	100	春						●				●						●	
SUBP 310	職業指導 (工業) II	2	100	秋						●				●						●	
MATH 302	複素解析 II	2	100	春					●		●		●								
MATH 300	代数学 II	2	100	春					●		●		●								
SUBP 311	数学科指導法 III	2	100	春						●				●							
SUBP 312	数学科指導法 IV	2	100	秋						●				●							
COSC 400	人工知能	4	100	春					●					●							
ENGR 400	インテリジェントデバイス実験 III	2	200	春										●	●				●		
MASC 407	卒業プロジェクト	4	100	春秋(集中)		●								●	●				●		
ENGR 403	研究室セミナー	2	100	春(集中)										●					●		
EEE 401	量子セキュリティ	2	100	秋								●		●							
INFO 403	ブレインソフトウェア	2	100	秋		△			●					●							
INFO 402	ビッグデータ解析	2	100	秋					●		●		●								
MATH 400	幾何学 II	2	100	春					●		●		●								
EEE 400	光通信工学	4	100	春								●		●							

【履修にあたって】

(1)「卒業プロジェクト」は、1セメスター目に0単位、2セメスター目に4単位として履修登録されます。

工学部 ソフトウェアサイエンス学科

1 カリキュラム・ポリシー

- ① コンピュータ・ソフトウェア技術、モバイルシステム・ネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員の4分野の専門知識および技能を体系的に修得するために専門科目を設置する。そして自己研鑽を積み重ね、スキルアップを継続する力を修得することを目的として資格取得を支援する授業・補習を行う。
- ② プログラミングは学科の根底をなす理論、概念、技術であるため少人数クラスによる徹底教育を行う。
- ③ 企業理念、最先端技術、市場動向などを学ぶために企業講義（株式会社日立製作所）を開く。
- ④ ゲーム・コンテンツ分野をプログラミング技法などの技術的側面とともに、コンテンツ、企画開発の授業を行う。
- ⑤ 3年生までに修得した専門知識および技能を活用することで専門分野における問題を発見・解決するとともに、得られた成果を論理的かつ簡潔に伝達する能力を養成するために卒業研究を必修科目として設置する。

2 カリキュラムの特徴

- プログラミングやネットワークの基礎を身につけ、ソフトウェア開発技術、ネットワーク技術、モバイルシステム技術、ゲーム・コンテンツ関連技術を専門とするカリキュラムです。このカリキュラムでは、これらいくつかの専門分野を複合的に学びます。

1 ソフトウェアサイエンス学科必修科目

授業科目名	単位	授業科目名	単位
プログラミングⅠ	2	ソフトウェアサイエンス実験	2
代数学Ⅰ	2	ネットワーク技術Ⅰ	2
解析学Ⅰ	2	キャリアマネジメント（US）	2
プログラミングⅡ	2	卒業研究	4

2 ユニバーシティ・スタンダード科目言語表現科目群 必修選択科目 (以下の科目から1科目以上)

授業科目名	単位
「ELF101」「ELF102」「ELF201」 「ELF202」「ELF301」「ELF302」 「ELF401」「ELF402」	各科目4単位

※p.56参照

3 卒業要件

(1) 修業年限を満たすこと
(2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上あること
(3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
(4) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群 (p.54) から必修科目をすべて含み7単位以上を修得していること
(5) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群のうち、必修選択科目 (ELF101 ~ ELF402) から4単位以上、学際科目群から必修科目2単位を修得し、18単位以上を修得していること
(6) ソフトウェアサイエンス学科開講科目より必修科目16単位を含み、62単位以上を修得していること (ただし、上記62単位には、US教職関連科目群の「教育実習」「教育実践演習」「教職演習A」を充当することができる)

4 卒業までの単位配分

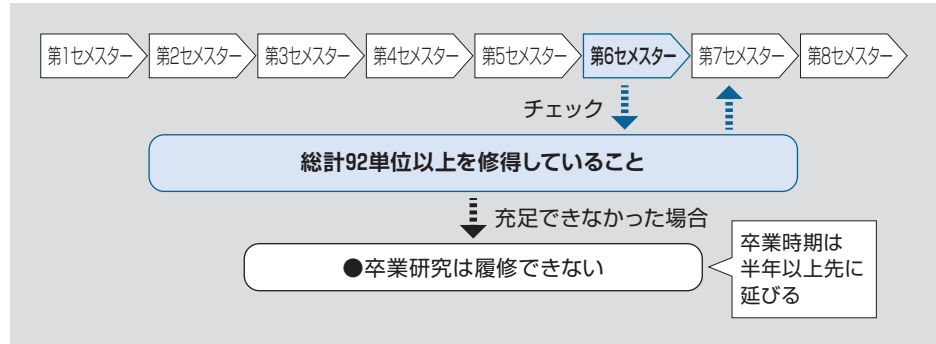
- ソフトウェアサイエンス学科では、卒業までに、ユニバーシティ・スタンダード科目群、学科科目、他学部・他学科開講科目など数多くの開講科目から、卒業要件および履修モデルに沿ってバランスよく学修できるカリキュラムが構成されています。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群	7単位以上 (必修科目7単位を含む)
	人文科学科目群	18単位以上 (人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群から必修選択科目4単位を含み4単位以上、学際科目群から必修科目2単位を含み2単位以上)
	社会科学科目群	
	自然科学科目群	
	学際科目群	
言語表現科目群		
ソフトウェアサイエンス学科科目		62単位以上 (必修単位16単位を含む) ただし、US教職関連科目群の「教育実習」「教育実践演習」「教職演習A」を充当することができる。
自由選択科目 (任意)	他学部他学科開講科目	
	他大学との単位互換科目	
卒業に必要な単位数		124単位

- また、学科科目群には教育職員免許状取得に必要な科目の一部が配置されています。それらの科目を履修することによって、学科卒業要件となる単位と同時に、教育職員免許状取得に必要な単位も修得できるようになっています。

5 卒業研究着手条件

- ソフトウェアサイエンス学科において、第6セメスター（3年次）終了時に以下の卒業研究着手条件のチェックが行われます。



6 教育職員免許状

- ▶取得できる教育職員免許状一覧
参照「教職課程受講ガイド」p.5

種 類	
	中 学 校教諭 1 種免許状 (数学)
	高等学校教諭 1 種免許状 (数学)
	高等学校教諭 1 種免許状 (情報)

数学教員養成プログラムについては、「教職課程受講ガイド」を参照してください。

7 資 格

- ▶基本情報技術者
参照「履修ガイド」p.242

基本情報技術者（午前試験免除）

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ シ ョ ン ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シ ー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
INFO 201	ゲーム企画開発論	2	100	秋		○		●	●												
INFO 200	アルゴリズムとデータ構造	2	100	秋		△			●		●	●									
INFO 203	コンピュータグラフィックス	2	100	春		△①				●											
INFO 206	情報システム	2	100	春		△				●		●									
EEE 203	データ通信	2	100	秋		△			●			●									
MASC 207	ビジネスゲーム	2	100	春								●		●	●						
MATH 204	微分方程式Ⅱ	2	100	秋					●		●	●									
STAT 201	確率統計学Ⅱ	2	100	秋					●		●	●									
MATH 202	幾何学Ⅰ	2	100	秋					●		●	●									
INFO 208	数値解析プログラミング	2	100	春			4年次より履修可			●	●	●		●							
SUBP 216	数学科指導法Ⅰ	2	100	春					●				●								
SUBP 212	情報科指導法Ⅰ	2	100	春					●				●								
SUBP 217	数学科指導法Ⅱ	2	100	秋					●				●								
SUBP 213	情報科指導法Ⅱ	2	100	秋					●				●								
MATH 206	複素解析Ⅰ	2	100	秋					●		●	●									
INFO 204	システムプログラミング	2	100	秋							●	●									
INFO 202	コンピュータアーキテクチャ	2	100	秋					●			●									
INFO 302	オペレーティングシステム	2	100	春		△			●		●	●									
INFO 306	情報理論	2	100	秋春		△	4年次より履修可		●		●	●									
INFO 319	ユーザインタフェースデザイン	2	100	春					●		●	●									
INFO 315	ネットワークプログラミング	2	100	春					●		●	●									
INFO 313	データベース	2	100	春					●			●									
INFO 314	ネットワーク技術Ⅱ	2	100	春		△					●	●									
INFO 309	セキュアプログラミング	2	100	秋		△					●	●									
INFO 304	情報セキュリティマネジメント	2	100	秋		△			●		●	●									
MATH 300	代数学Ⅱ	2	100	春					●		●	●									
B A 304	企業講義	2	100	春		○			●												●
EEE 302	モバイルシステム総合研究	2	100	秋(集中)		△			●		●	●									
INFO 301	イメージプロセッシング	2	100	秋		△					●	●									
INFO 303	ゲームアニメーションプログラミング	2	100	秋					●		●	●									
INFO 318	マルチメディア処理	2	100	秋		△			●		●	●									
EEE 301	モバイルシステムサービス	2	100	春(集中)		△			●		●	●									
INFO 317	プロジェクト研究	2	100	秋					●			●	●								
ENGR 311	ソフトウェアサイエンス実験	2	300	秋		●			●			●	●								
COPR 309	インターンシップⅠ	1	100	春秋(集中)						●			●		●						
COPR 310	インターンシップⅡ	1	100	春秋(集中)						●			●		●						
COPR 311	インターンシップⅢ	1	100	春秋(集中)						●			●		●						
COPR 312	インターンシップⅣ	1	100	春秋(集中)						●			●		●						
INFO 300	アルゴリズム応用	2	100	秋					●		●	●									
MATH 302	複素解析Ⅱ	2	100	春					●		●	●									
SUBP 311	数学科指導法Ⅲ	2	100	春						●			●								
SUBP 312	数学科指導法Ⅳ	2	100	秋						●			●								
EEE 300	情報セキュリティ	2	100	春		△					●	●								●	
INFO 310	ソフトウェア工学	2	100	秋							●	●									
MATH 400	幾何学Ⅱ	2	100	春					●		●	●									
ENGR 406	輪講	2	100	春秋(集中)					●	●		●									
ENGR 405	卒業研究	4	—	春秋(集中)		●						●	●								●
INFO 403	ブレインソフトウェア	2	100	秋		○			●				●								

【履修にあたって】

(1)「卒業研究」は、1セメスター目に0単位、2セメスター目に4単位として履修登録されます。

工学部 マネジメントサイエンス学科

1 カリキュラム・ポリシー

- ① 1年次において言語能力（日本語、英語）と論理的思考（数学）を徹底的に育成し、必要な学修や知識の習得を自主的に行う姿勢を身につける。
- ② 2年次では上記に加えて、専門科目のなかで分析能力とプロジェクト運営能力を育成することを通じて、最後までやり遂げる力とコミュニケーション能力の基礎を形成する。
- ③ 3・4年次において専門科目をさらに発展させ、基礎力をどのように応用するかといった真の実践能力を育成していく。
- ④ ビジネスパーソンとして必要とされる基礎力を高度に育成することができた人材を早期に発見し、特別に海外語学研修や企業への参画を経験させ、より成熟した形で世の中へ送り出すプログラムを用意する。

2 カリキュラムの特徴

- 科学の視点で経営企画力を身につけ、商品作りから企業経営のマネジメントのプロを目指します。「人・金・情報・環境・サービス」をキーワードに、戦略的なマネジメントを、科学的・工学的な視点から研究します。
- 品質・生産・原価という商品生産の3要素はもちろん、商品・サービス・価格まで研究対象を広げ、効率的なマネジメントの理論・手法を修得します。

1 マネジメントサイエンス学科必修科目

授業科目名	単位	授業科目名	単位
キャリアデザイン	2	データサイエンス基礎演習	2
マネジメントサイエンスセミナー A	2	ビジネスコンテンツ	2
経営情報処理	2	マネジメント事例研究 I	2
代数学 I	2	マネジメント事例研究 II	2
解析学 I	2		

2 ユニバーシティ・スタンダード科目 言語表現科目群 必修選択科目 (以下の科目から1科目以上)

授業科目名	単 位	
「ELF101」「ELF102」「ELF201」 「ELF202」「ELF301」「ELF302」 「ELF401」「ELF402」	各科目 4 単位	※p.56参照

3 卒業要件

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上あること
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群から必修科目をすべて含み7単位以上を修得していること
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群の、必修選択科目(ELF101～ELF402)から4単位以上、学際科目から2単位以上を修得していること
- (6) マネジメントサイエンス学科科目の必修科目18単位を含み、54単位以上を修得していること

4 卒業までの単位配分

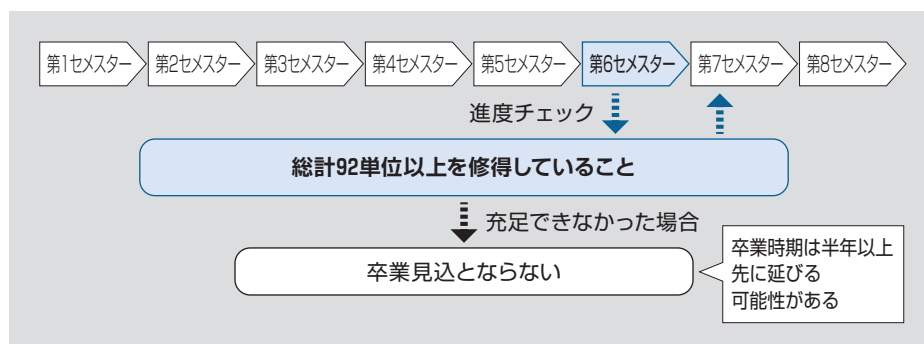
- マネジメントサイエンス学科では、卒業までにユニバーシティ・スタンダード科目、学科科目、他学部・他学科開講科目など数多くの開講科目から、バランスよく学修できるカリキュラムが構成されています。

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群	7単位以上 (必修科目7単位を含む)
	人文科学科目群	18単位以上 (人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群から必修選択科目4単位を含み4単位以上、学際科目群から2単位以上)
	社会科学科目群	
	自然科学科目群	
	学際科目群	
言語表現科目群		
マネジメントサイエンス学科科目		54単位以上 (必修科目18単位を含む)
自由選択科目 (任意)	ユニバーシティ・スタンダード科目	
	他学部・他学科開講科目	
	他大学との単位互換科目	
卒業に必要な単位数		124単位

- また、学科科目には教育職員免許状取得に必要な科目の一部が配置されています。それらの科目を履修することによって、学科卒業要件となる単位と同時に教育職員免許状取得に必要な単位も修得できるようになっています。

5 進捗チェック

■ 第6セメスター（3年次）終了時における進捗チェック



- 進級に関する要件はマネジメントサイエンス学科にはありません。ただし、以下のことに注意してください。
- 第7セメスター（4年次）以降、総計92単位以上を修得するまで卒業見込とならず、卒業が半年以上延びる可能性があります。したがって第7セメスター（4年次）開始時に総計92単位以上を修得していない場合、卒業見込とならないため、卒業見込証明書（学士）の発行申請ができません。

6 教育職員免許状

▶取得できる教育職員免許状一覧
参照「教職課程受講ガイド」p.5

種類	
	中学校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学）

「教職課程受講ガイド」を参照してください。

7 工学部 マネジメントサイエンス学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中):集中開講

履修条件 ●:必修科目 ◆:必修選択科目 無印:選択科目

他学科受講 ○:他学科受講可 △:工学部生のみ受講可 ◎:リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力																					
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性															
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力									
ユニバーシティ・スタンダード科目																													
HIST 102	歴史(世界)	2	100	春																		●							
HIST 103	歴史(日本)	2	100	秋																		●							
B A 100	経営学	2	100	春								●																	
ACCT 100	会計学	2	100	秋								●																	
INFO 101	情報科学入門	2	100	秋								●															●		
CHEM 101	化学入門	2	100	春								●																	
ESP 100	環境科学	2	100	春																									●
MATH 107	数学入門	2	100	春								●																	
MATH 101	解析学入門	2	100	春秋								●																	
MATH 109	代数学入門	2	100	春秋								●																	
UNIV 103	自然科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1	50	春								●																	
UNIV 100	自然科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1	50	春								●																	
ENG 101	ELF 101	4	200	秋		◆						●																	
ENG 102	ELF 102	4	200	秋		◆						●																	
ENG 201	ELF 201	4	200	秋		◆		1年次より履修可				●																	
ENG 202	ELF 202	4	200	秋		◆		1年次より履修可				●																	
ENG 301	ELF 301	4	200	秋		◆		1年次より履修可				●																	
ENG 302	ELF 302	4	200	秋		◆		1年次より履修可				●																	
ENG 401	ELF 401	4	200	秋		◆		1年次より履修可				●																	
ENG 402	ELF 402	4	200	秋		◆		1年次より履修可				●																	
JPN 101	日本語表現 101	2	100	春								●																	
学科専門科目																													
ENGR 100	技術英語	2	100	春								●		●										●					
INFO 107	プログラミングⅠ	2	100	秋												●	●												
CARE 100	キャリアデザイン	2	100	秋		●												●											●
MATH 108	代数学Ⅰ	2	100	秋春		●						●		●		●													
MATH 100	解析学Ⅰ	2	100	秋春		●						●		●		●													
MATH 105	数学演習Ⅰ	2	100	春			△					●		●		●													
MATH 106	数学演習Ⅱ	2	100	秋			△					●		●		●													
PHYS 100	物理学Ⅰ	2	100	春			○	2年次より履修可				●		●		●													
INFO 105	デジタルシチズンシップ	2	100	春				2年次より履修可				●				●									●				
INFO 108	プログラミングⅡ	2	100	春				2年次より履修可							●	●													
MATH 201	解析学Ⅱ	2	100	春秋								●		●		●													
MASC 208	プロジェクトマネジメント	2	100	秋			△																●	●	●				
MASC 203	消費生活科学	2	100	秋			△											●						●	●				
MATH 203	微分方程式Ⅰ	2	100	春								●		●		●													
STAT 200	確率統計学Ⅰ	2	100	春								●		●		●													
MKTG 202	マーケティング論	2	100	春										●		●							●						
MASC 201	経営情報処理	2	100	春		●								●		●													
MASC 205	データサイエンス基礎演習	2	100	春		●								●		●													
ACCT 200	原価計算	2	100	秋			△							●															
MASC 206	人間工学	2	100	秋			△																●						
STAT 201	確率統計学Ⅱ	2	100	秋								●		●		●													
MATH 202	幾何学Ⅰ	2	100	秋								●		●		●													
MATH 204	微分方程式Ⅱ	2	100	秋								●		●		●													
MATH 206	複素解析Ⅰ	2	100	秋								●		●		●													
INFO 208	数値解析プログラミング	2	100	秋				3年次より履修可						●	●		●												

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
SUBP 216	数学科指導法Ⅰ	2	100	春					●				●								
SUBP 217	数学科指導法Ⅱ	2	100	秋					●				●								
MASC 204	生産管理	2	100	春		△	3年次より履修可					●	●								
MASC 306	チームマネジメント	2	100	春					●					●	●						
STAT 300	統計の方法	2	100	春		△				●	●		●								
MASC 305	サービスマネジメント	2	100	春					●			●	●								
MASC 304	サービスイノベーション	2	100	秋					●			●	●								
MASC 307	ビジネスコンテンツ	2	100	春	●							●	●	●							
CARE 303	キャリアとコミュニケーション	2	100	春					●				●								●
MATH 300	代数学Ⅱ	2	100	春					●	●	●										
MASC 303	コストマネジメント	2	100	春		○				●			●								
MATH 303	ベクトル解析	2	100	春					●	●	●										
MASC 310	マネジメントサイエンスセミナー A	2	100	春(集中)	●				●				●	●							
ENG 309	外書探究	2	100	秋(集中)					●												
MASC 312	マネジメント事例研究Ⅰ	2	100	秋	●							●									
MASC 311	マネジメントサイエンスセミナー B	2	100	秋(集中)						●			●	●							
MATH 302	複素解析Ⅱ	2	100	春					●	●	●										
MATH 301	代数学Ⅲ	2	100	秋					●	●	●										
ACCT 300	管理会計	2	100	秋		△						●									
MASC 309	品質管理	2	100	秋		△													●	●	
COPR 313	インターンシップⅠ	1	100	秋(集中)					●			●		●							
COPR 314	インターンシップⅡ	1	100	秋(集中)					●			●		●							
COPR 315	インターンシップⅢ	1	100	秋(集中)					●			●		●							
MASC 302	経済性分析	2	100	秋		△					●	●									
MASC 300	オペレーションズリサーチ	2	100	秋		△						●									
MASC 308	ヒューマンリソースマネジメント	2	100	春		△						●	●	●							
MASC 301	経営戦略マネジメント	2	100	秋		△			●		●				●						
SUBP 311	数学科指導法Ⅲ	2	100	春					●			●									
SUBP 312	数学科指導法Ⅳ	2	100	秋					●			●									
ECON 403	ファイナンス	2	100	春		△					●	●								●	
ECON 401	計量経済学	2	100	春		△			●		●	●									
MASC 405	情報分析論	2	100	秋		△				●	●	●									
MASC 404	社会モデル	2	100	秋		△			●		●	●									
MATH 400	幾何学Ⅱ	2	100	春					●	●	●										
MASC 412	ユニバーサルデザイン	2	100	春		△①						●									
MASC 410	マネジメント事例研究Ⅱ	2	100	春秋	●					●		●									
MATH 401	幾何学Ⅲ	2	100	秋					●	●	●										
MASC 406	製品開発実践論	2	100	秋		△			●		●	●									
MASC 400	意思決定論	2	100	春							●	●									
MASC 403	最適化システム	2	100	秋						●	●	●									
MASC 407	卒業プロジェクト	4	—	春秋(集中)								●	●								●

【履修にあたって】

(1)「卒業プロジェクト」は、1セメスター目に0単位、2セメスター目に4単位として履修登録されます。

工学部 エンジニアリングデザイン学科

1 カリキュラム・ポリシー

- ① 工学部における設計・デザインの専門教育に必要な数学・物理・化学・日英語の基礎を学び、十分な基礎学力を身に着ける。
- ② デジタル／アナログならびに機械工学／経営工学のバランスを保った科目構成とし、柔軟な発想力と幅広い知識・スキル獲得が可能な体系を構成している。
- ③ デジタルなものづくりは21世紀社会における技術者に必要な知識であるとの判断から、『ファブラボ実験』、『CAD』を必修とする。
- ④ 将来の就職先ならびに専門性を考慮し、専門領域は「ファブラボ」、「商品開発・デザイン」「バイオメテックス・メカロボット」の3領域で構成する。
- ⑤ インターンシップを経験させ、国際的に通用するための、より実践的な科目も用意する。

2 カリキュラムの特徴

- 従来からある設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・工業デザインなどを取り込むことにより、21世紀型ものづくりに対応しています。
- 「ファブラボ」「商品開発・デザイン」「バイオメテックス・メカロボット」といった領域を用意し、各領域に共通の「見える工学・触れる工学」を実践したうえで、これを踏み台にした専門分野を体系的に学びます。

1 エンジニアリングデザイン学科必修科目

授業科目名	単位	授業科目名	単位
導入ゼミ	2	情報倫理と社会	2
キャリアデザイン	2	CAD	1
ファブラボ実験	1	エンジニアリングデザインセミナーⅠ	2
スケッチと製図	1	エンジニアリングデザインセミナーⅡ	2
材料力学	2	卒業研究	4
設計製図	1		

2 ユニバーシティ・スタンダード科目言語表現科目群 必修選択科目 (以下の科目から1科目以上)

授業科目名	単位	
〔ELF101〕〔ELF102〕〔ELF201〕 〔ELF202〕〔ELF301〕〔ELF302〕 〔ELF401〕〔ELF402〕	各科目4単位	※p.56参照

3 卒業要件

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上あること
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群から必修科目をすべて含み7単位以上を修得していること
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群の、必修選択科目（「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」）から4単位を含み4単位以上、学際科目群から2単位以上を修得し、合計18単位以上を修得していること
- (6) エンジニアリングデザイン学科科目のうち、必修科目20単位を含み、62単位以上を修得していること

II
履修案内

4 卒業までの単位配分

科目群	科目分類	卒業に必要な単位数
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群	7単位以上 (必修科目7単位を含む)
	人文科学科目群	18単位以上 (人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群から各4単位以上、言語表現科目群のうち、必修選択科目（「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」）から4単位を含み4単位以上、学際科目群から2単位以上)
	社会科学科目群	
	自然科学科目群	
	学際科目群	
言語表現科目群		
エンジニアリングデザイン学科科目		62単位以上 (必修科目20単位を含む)
自由選択科目 (任意)	他学部他学科開講科目	
	他大学との単位互換科目	
卒業に必要な単位数		124単位

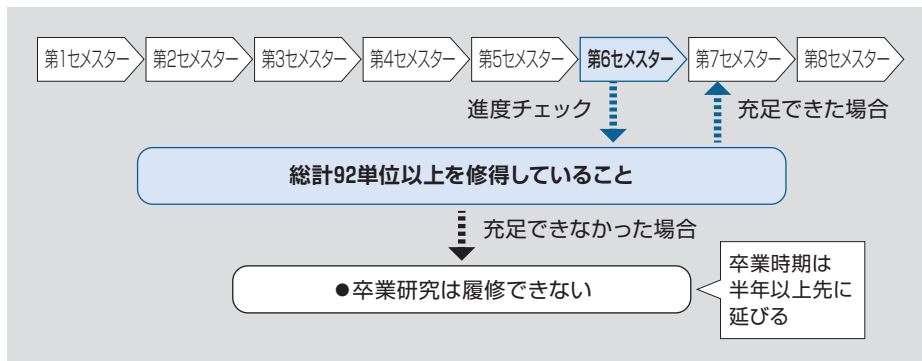
工
学
部

エ
ン
ジ
ニ
ア
リ
ン
グ
デ
ザ
イ
ン
学
科

5 卒業研究着手条件

- エンジニアリングデザイン学科において、第6セメスター（3年次）終了時に以下の卒業研究着手条件のチェックが行われます。

■第6セメスター（3年次）終了時における卒業研究着手条件の進捗チェック



6 工学部 エンジニアリングデザイン学科 教育課程表

凡例 **開 講 期** (集中): 集中開講

履修条件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目

他学科受講 ○: 他学科受講可 △: 工学部生のみ受講可 ㊦: リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号 / 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力																									
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性																			
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力													
ユニバーシティ・スタンダード科目																																	
HIST 102	歴史(世界)	2	100	春										●																			
HIST 103	歴史(日本)	2	100	秋										●																			
INFO 101	情報科学入門	2	100	秋					●			●											●										
INFO 104	データ処理	2	100	春					●			●																					
CHEM 101	化学入門	2	100	春					●																								
BIOL 105	生物学入門	2	100	秋			2年次より履修可		●																								
ESP 100	環境科学	2	100	春			2年次より履修可															●											
MATH 107	数学入門	2	100	春							●																						
MATH 101	解析学入門	2	100	春秋							●																						
MATH 109	代数学入門	2	100	春秋							●																						
PHYS 101	物理学入門	2	100	春秋					●																								
UNIV 103	自然科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1	50	春						●				●																			
UNIV 100	自然科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1	50	春						●																							
PHIL 202	現代文化論	2	100	春					●	●																							
SCED 201	エネルギー科学	2	100	春					●																								
ENG 101	ELF 101	4	200	秋	◆					●																							
ENG 102	ELF 102	4	200	秋	◆					●																							
ENG 201	ELF 201	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●																							
ENG 202	ELF 202	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●																							
ENG 301	ELF 301	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●																							
ENG 302	ELF 302	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●																							
ENG 401	ELF 401	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●																							
ENG 402	ELF 402	4	200	秋	◆		1年次より履修可			●																							
JPN 101	日本語表現 101	2	100	春						●																							
学科専門科目																																	
ENGR 105	導入ゼミ	2	100	春	●					●					●	●																	
ENGR 102	工学基礎演習	1	100	春						●		●											●										
ENGR 101	工学基礎 I	2	100	秋						●				●																			
CARE 100	キャリアデザイン	2	100	秋	●									●									●										
MATH 104	数学演習	2	100	秋			△			●		●		●																			
PHYS 100	物理学 I	2	100	秋春			○			●		●		●																			
MATH 100	解析学 I	2	100	秋春						●		●		●																			
MATH 108	代数学 I	2	100	秋						●		●		●																			
INFO 107	プログラミング I	2	100	秋春			△						●	●																			
INFO 108	プログラミング II	2	100	春			2年次より履修可						●	●																			
MATH 201	解析学 II	2	100	春秋						●		●		●																			
ENGR 204	工学基礎 II	2	100	春								●			●								●										
PHYS 204	物理学 II	2	100	春秋			○			●		●		●																			
MATH 203	微分方程式 I	2	100	春						●		●		●																			
STAT 200	確率統計学 I	2	100	春						●		●		●																			
ANTH 202	伝統文化と異文化理解	2	100	春			△			●	●																						
ENGR 209	ファブラボ実験	1	150	春秋	●		○			●				●							●												
MENG 202	スケッチと製図	1	150	春秋	●		○					●		●																			
MENG 200	機構学	2	100	春			○					●		●																			

2019年度入学生
エンジニアリングデザイン学科 履修ガイド

II
履修案内

工学部

エンジニアリングデザイン学科

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力												
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性						
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ シ ョ ン ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シ ー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
MASC 200	経営システム工学概論	2	100	春				●										●	●	
MENG 201	材料力学	2	100	秋	●	○			●	●										
MATH 204	微分方程式Ⅱ	2	100	秋				●	●	●										
MASC 204	生産管理	2	100	秋		△		●	●	●										
ACCT 200	原価計算	2	100	秋		△			●											
SCED 202	サイエンス & テクノロジービジット	2	100	秋		○④		●					●							●
STAT 201	確率統計学Ⅱ	2	100	秋				●	●	●										
INFO 208	数値解析プログラミング	2	100	秋					●	●	●									
CHEM 201	物理・化学	2	100	秋		○		●	●	●										
MASC 206	人間工学	2	100	秋		△④					●									
CARE 304	発達障害と就労	2	100	春		△		●	●										●	
ENGR 310	製品製造失敗学	2	100	春		○				●	●							●		
MENG 305	設計製図	1	150	春	●	○			●	●										
CHEM 301	物理・化学実験	1	150	春		○		●	●	●										
MENG 303	工作実習	1	150	春		○					●		●							
MENG 302	機械力学	2	100	春		○			●	●										
INFO 307	情報倫理と社会	2	100	春秋	●			●		●								●		
MENG 306	流体力学	2	100	春		○			●	●										
MENG 304	材料と加工	2	100	秋		○				●	●									●
MASC 313	リスクマネジメント	2	100	秋				●		●				●						
MENG 300	CAD	1	100	秋	●	○			●	●										
ENGR 313	メカトロニクス	2	100	秋		○		●		●	●									
MENG 301	機械要素設計	2	100	秋		○		●	●	●										
COPR 316	インターンシップⅠ	1	100	春秋(集中)					●			●		●						
COPR 317	インターンシップⅡ	1	100	春秋(集中)					●			●		●						
COPR 318	インターンシップⅢ	1	100	春秋(集中)					●			●		●						
COPR 319	インターンシップⅣ	1	100	春秋(集中)					●			●		●						
GLS 300	海外研修	2	200	秋(集中)		△			●			●		●						
ENGR 304	エンジニアリングデザインセミナーⅠ	2	100	秋(集中)	●						●		●							
ENGR 303	エンジニアリングデザイン演習	1	100	秋				●			●								●	●
MASC 309	品質管理	2	100	秋		△	4年次より履修可											●	●	
MASC 409	バイオメテイクス	2	100	春		○		●			●	●								
ENGR 404	工業デザイン	2	100	春		△		●			●									
MASC 411	モデリングとシミュレーション	2	100	春		△		●	●		●									
MASC 412	ユニバーサルデザイン	2	100	春		△					●									
MASC 401	価値分析	2	100	春							●	●								
ENGR 401	エンジニアリングデザインセミナーⅡ	2	100	春(集中)	●						●		●							
ENGR 405	卒業研究	4	-	春秋(集中)	●						●	●								
MASC 408	デジタル生産加工	2	100	秋		○		●	●											●
ENGR 402	技術経営	2	100	秋		△			●	●	●									
MASC 402	経営戦略	2	100	秋		○		●		●				●						

ENGR300	デザイン思考	2	100	秋					●		●	●								
MENG300	デジタルファブリケーション実習	1	100	秋	●					●	●									
ENGR200	デジタルファブリケーション入門	2	100	春						●	●		●							
ENGR200	デジタルファブリケーション	2	100	秋						●	●		●							

【履修にあたって】
(1)「卒業研究」は、1セメスター目に0単位、2セメスター目に4単位として履修登録されます。

経営学部

国際経営学科

人材養成等教育研究に係る目的

経済・社会のグローバル化により、すでに海外進出をしている企業だけでなく国内市場を相手にしてきた企業も基本的な経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて移動することを前提にした経営を考える必要がある。世界の各地域には企業経営やビジネス慣行における独自性が残っているが、グローバル化の進展でそれらの標準化が急速に進んでおり、その動きを背景にして世界の経営学教育も日々進歩し標準化が進展している。またグローバル化の波はトランスナショナル企業を出現させ、国内においては生産の海外移転を加速させている。競争に耐えられない企業が整理される一方で、新たな成長の牽引役となる企業がイノベーションを生み出していくことが喫緊の課題となっている。

経営学部では国際経営学科に3つのコースを設けて専門性を高めると同時に世界標準で主要科目の学修を進めることで、グローバル化に主体的に取り組む実践力と情報発信できる英語コミュニケーション力を修得し、ビジネスを通して社会の要請に応え世界に貢献できる人材の養成を目指す。

経営学部 ディプロマ・ポリシー

経営学部では以下の能力を身につけている人に学位を授与する。

- ① 世界標準で専門知識を身につけ、応用する。【知識・理解】
- ② 多文化・異文化を有する国・地域との交流を通じて、個のアイデンティティを確立する。
【知識・理解】
- ③ グローバルなビジネスシーンで英語によりコミュニケーションを図る。【汎用的技能】
- ④ さまざまな情報を論理的・数理的に分析し、ビジネスシーンの意思決定に役立てる。
【汎用的技能】
- ⑤ グローバル社会で主体的に取り組むための実践力・発信力を獲得する。【態度・志向性】
- ⑥ 起業家精神とイノベーションを生み出す力を体験的に身につける。【態度・志向性】

1 カリキュラム・ポリシー

経営学部では以下の方針に基づいて卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と各授業科目の到達目標の関連を明確にしてカリキュラムを設計しています。

- ① 経営分野で世界標準になっている科目を必修科目とし、コース別科目でさらに専門性を高める。【知識・理解】
- ② ビジネスで活用できる英語力を獲得するために、4技能を高めるELF（English as a Lingua Franca）科目と英語で経営学を学修する科目を配置して相互に連携を図る。【汎用的技能】
- ③ 世界の文化・社会に関心を持ち、グローバル社会において自らの意見・考えを発信できる科目を設置する。【態度・志向性】

2 カリキュラムの特徴

1 科目の構成

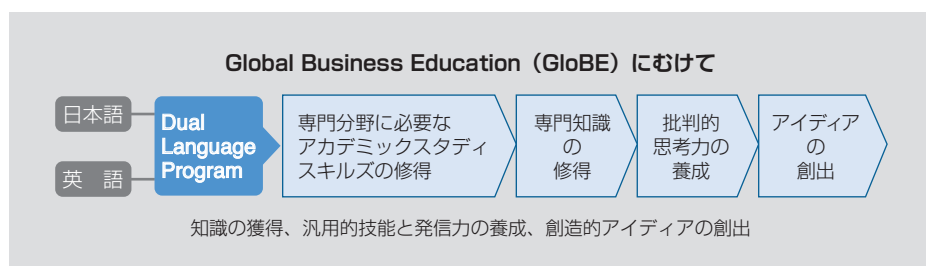
- 経営学分野で求められる能力を体系的に修得できるように科目が設置されています。卒業までに履修できる科目は、「ユニバーシティ・スタンダード（US）科目」「自学科科目」「他学部他学科科目」「他大学との単位互換科目」から構成されています。
- ユニバーシティ・スタンダード（US）科目では、経営学分野の導入科目と英語による国際コミュニケーション能力の養成（学術分野で必要とされる基礎的な英語力養成含む）目的とする科目を必修とし、その他学部指定科目を含む科目を選択履修することができます。
- 自学科科目は、経営学を学ぶための基幹科目を中心に、学科共通必修科目、学科コース必修科目、学科選択科目から構成されています。また、自学科の他コース科目も、相互に履修することができます。興味に応じて、経営学分野と異なる他学部他学科科目（他学部が開講されている科目に限る）の履修も可能です。

2 専門教育で必要とされる英語力の養成とSAE留学との連携

- 世界標準の経営学を学び、ビジネスで活用できる英語力の養成を目指した科目が設置されています（「英語科目の履修について」（p.132）参照）。また、早期のSAE留学プログラムへの参加も可能となります（「SAE海外留学・研修プログラムの単位認定」（p.35）参照）。

3 Dual Language Program (DLP) による学び

- Dual Language Program (DLP) とは、日本語・英語両言語をとおして、経営学を学ぶ学修アプローチです。すべての科目で、両言語を活用した学修が行われます。英語表記の科目は、英語による授業が行われます。この学修アプローチによって、経営分野で必要な知識・スキルを修得し、グローバル社会で求められるアイデアの創造とその発信力をより高いレベルで養成することができます。



■英語科目の履修について

① Dual Language Program (DLP) における英語プログラム

- 国際経営学科では、Dual Language Program (DLP) をベースとした専門教育を中心に、グローバルビジネス・リーダーに求められる総合的な英語力養成プログラムを設置しています。
- 英語プログラムが目指す学修内容と目的は下記のとおりです。

グローバルビジネス・リーダーに求められる総合的な英語力養成に向けて

- 英語によるアカデミックスキルズ (academic study skills in English) の修得
- 英語による経営学分野の知識 (understanding business principles in English) の獲得
- 英語による批判的思考力 (critical thinking skills in English) の養成
- 英語による創造的アイデアの構築と発信 (generating ideas in English)
- ビジネス領域を含む英語力判定資格試験 (Business English proficiency) への対応

② 履修について

- 上記の英語力を養成するために Semester ごとに学部共通の英語必修科目 (33単位) の履修が定められています。
- 英語関連の必修科目は、ユニバーシティ・スタンダード科目「ELF」4科目 (16単位)、学科必修科目17単位です。また、ユニバーシティ・スタンダード科目の中に学科選択科目 (2単位) として「外国文学」が指定されています。
- 英語名称の学科科目は、英語で授業が行われます。
- 英語以外の学科科目でも、教科書、文献、その他の教材に英語で書かれたものが多く使用されます。

③ 科目配置と学修目標

●各年次・セメスター別の開講科目と学修目標は次のとおりです。

	専門教育に必要な英語関連科目		専門科目への対応	修得レベル (TOEIC® L&Rを 指標とした場合)
4年次	第7セメスター	第8セメスター	英語による専門分野の授業への対応	TOEIC® L&R 700以上
	選択科目としてELF等の履修が可能			
3年次	第5セメスター	第6セメスター	英語による専門科目の学修	TOEIC® L&R 600以上
	選択科目としてELF等の履修が可能			
	English Proficiency Strategies A (EPS A)	English Proficiency Strategies B (EPS B)		
	<ul style="list-style-type: none"> 各種英語資格検定試験のための英語力の養成 専門教育のための英語スタディスキルズの向上 ビジネスで活用できる総合的な英語力の養成 			
2年次	第3セメスター	第4セメスター	日本語・英語による経営学の学び	TOEIC® L&R 500以上
	ELF	ELF		
	<ul style="list-style-type: none"> General Academic English の修得 国際コミュニケーション能力の養成 			
	Business English A	Business English B		
	<ul style="list-style-type: none"> 経営学分野のより専門的な知識獲得のための英語力の養成 より統合的なスタディスキルズの運用能力と発信力の修得 日常的なビジネス・シーンで使用される中級レベルの口語英語の修得 			
	Intercultural Studies			
<ul style="list-style-type: none"> 日本文化と他文化理解に必要な知識の修得 自己のアイデンティティを生かした異文化対応能力の養成 実際の事例分析を用いた問題解決能力の養成 				
1年次	第1セメスター	第2セメスター	スキル・コンテンツ統合型の英語学修スタイル	TOEIC® L&R 450以上
	ELF	ELF		
	<ul style="list-style-type: none"> General Academic English の修得 国際コミュニケーション能力の養成 			
	English for Social Science A (ESS A)	English for Social Science B (ESS B)		
<ul style="list-style-type: none"> 経営学を学ぶための導入レベルの英語の学修 経営学を学ぶための導入レベルのスタディスキルズの修得 日常的なビジネス・シーンで使用される導入レベルの口語英語の修得 				

4 3 コース制による専門教育

- 国際経営学科では、「グローバルビジネスコース」「国際会計コース」「マーケティング戦略コース」の3コースを設置し、ディプロマ・ポリシー（p.130参照）に基づく学修目標を達成するためのカリキュラムを編成しています（「コース概要」（p.134～139）参照）。

〈コース変更について〉

- 第4セメスター終了時点で、他コースへの変更が可能です。ただし、履修および学修進捗状況に遅れがある場合、卒業時期が1セメスター以上先に延びる可能性があります。

■グローバルビジネスコース コース概要

①「国際経営の専門性」「日本文化の発信力」「英語力」を身につけたビジネスリーダーの養成

- グローバルビジネスコースのプログラムでは就職や海外勤務希望時に有利な資格として、TOEIC® L&R 700の獲得を目指します。また企業規模を問わずグローバルに活躍できる人材を養成するために、企業経営者を招聘する科目、ケース・スタディを取り入れた実践的な授業を展開する科目を多く配置しています。各年次に講義、教材、試験等、すべて英語のみを使用して学修する科目を設けて、ビジネスの専門性に加えて英語力を徹底的に高めます。
- コースワークを通して期待できる成果は以下のとおりです。詳しい科目配置と学修目標は次ページおよび教育課程表で確認してください。1年次から開講する英語のみで実施する科目で、しっかり基礎を固めましょう。

授 業 科 目 名	修得レベル (資格・検定試験を) 指標とした場合)
4年次 Global Case Studies グローバルビジネスゼミナールC グローバルビジネスゼミナールD	TOEIC® L&R 700
3年次 Global Business Studies Strategic Management グローバルビジネスゼミナールA グローバルビジネスゼミナールB	TOEIC® L&R 600
2年次 専門基礎ゼミナールA 専門基礎ゼミナールB	TOEIC® L&R 500

② コースの学びと将来のキャリア

- グローバルなコミュニケーションの道具としてビジネスの現場で通用する英語を修得します。グローバルな文脈でビジネスを実践するために必要な共通言語ともいえる経済学・経営学・会計学・ファイナンスなどの基本科目を世界標準で学修することで、グローバル化に対応できる問題発見・解決力、批判的思考力、発信力を身につけます。
- 異文化・多文化の理解、コミュニケーション力の向上を目標とする科目によって日本語と英語で自らの意見や考えを相手に伝える力を高め、日本文化を海外に発信できる力の修得を図ります。留学を経験すると、英語4技能（Listening、Speaking、Reading、Writing）に加えて国際感覚、異文化対応能力も一段と高まります。（「SAE海外留学・研修プログラムの単位認定」（p.35）参照）
- グローバル展開を進める日本企業やすでにグローバル化している外資系企業など、英語が必要とされる多種多様なキャリア、経営、会計、ファイナンスなどに関連する資格を生かして専門性を発揮できるキャリアを形成します。起業や事業後継においてグローバル展開を視野に入れることもできます。

③ 科目配置と学修目標

- 各年次・semester別の開講予定科目と学修目標は以下のとおりです。

	コース科目・関連科目と学修目標		資格・検定試験
4年次	第7 semester	第8 semester	TOEIC® L&R 700
	Global Case Studies グローバルビジネスゼミナールC	コーポレート・ファイナンス グローバルビジネスゼミナールD	
	<ul style="list-style-type: none"> ・海外・グローバル企業で使われている経営理論・知識、海外とのビジネスに対応する力を身につける。 ・グローバル企業で活用できる英語力、経営学の体系的知識習得、海外のビジネス状況の理解、論理的な経営上の思考力を総合的に修得する。 		
3年次	第5 semester	第6 semester	TOEIC® L&R 600
	Strategic Management 経営塾 グローバルビジネスゼミナールA	Global Business Studies グローバルビジネスゼミナールB	
	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ビジネスを展開している企業の特徴と動向を分析することで、問題を発見し、解決案を提示できる。 ・グローバル企業の実態と戦略を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理の知識を体系的に修得する。 	
2年次	第3 semester	第4 semester	TOEIC® L&R 500
	Intercultural Studies 専門基礎ゼミナールA	国際会計基礎 基礎ファイナンス 専門基礎ゼミナールB	
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を取りまく地域と異なる文化的背景について理解を深め、ビジネスシーンで自己を生かす力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際会計の基本思考を身につける。 	
1年次	第1 semester	第2 semester	TOEIC® L&R 450 経営学検定初級 (～1年次12月) 日商簿記3級 (～1年次2月)
	経営学	会計学	
	<ul style="list-style-type: none"> ・組織、戦略、財務、人的資源管理といった経営の基礎を修得する。 ・簿記の基礎を修得し、決算書を通して企業経営の実態を知る。 		

■国際会計コース コース概要

① 金融・ファイナンスに強い「国際会計人」の養成

- 国際会計コースではBATIC（国際会計検定）[®] 700（アカウンティングマネジャーレベル）を獲得するようにプログラムを設計しています。1年次に簿記・会計の基礎として日商簿記3級、2年次以降は英文簿記・国際会計理論へと学修を進めて2年次秋学期までにBATIC[®] 320、4年次にBATIC[®] 700の獲得を目指します。このコースではビジネス言語としての会計を日本語・英語のDual Language Programにより修得します。
- BATIC[®] 700を獲得するには簿記・会計の知識と技能に加えて英語力（とくにReading、Writing）が求められるため、TOEIC[®] L&Rなどの英語のスコアも同時に高まります。さらにファイナンス科目を配置して金融・証券市場の仕組みを深く理解するとともに、ファイナンシャル・プランニングに必要な知識と技能を身につけます。これらの目標を確実に達成して「国際会計力」を身につけるために、国際会計科目とゼミナール科目で講義と演習によって学修を進めます。希望者はラーニング・コモンズを利用して試験対策を強化することも可能です。
- コースワークを通して期待できる成果は以下のとおりです。詳しい科目配置と学修目標は次ページおよび教育課程表で確認してください。国際会計科目に加えて英語で授業を展開する他コース科目を積極的に履修し、英語力を高めましょう。

■国際会計

授 業 科 目 名	修得レベル (資格・検定試験を) (指標とした場合)
4年次 国際会計ゼミナールC 国際会計ゼミナールD 3年次 国際会計ゼミナールA 国際会計理論 財務会計論	BATIC [®] 700点
2年次 国際会計基礎 専門基礎ゼミナールA	BATIC [®] 320点
1年次 会計学	日商簿記3級

■金融・ファイナンス

授 業 科 目 名	修得レベル (資格・検定試験を) (指標とした場合)
4年次 コーポレート・ファイナンス	—
3年次 パーソナル・ファイナンス 2年次 基礎ファイナンス	FP3級

② コースの学びと将来のキャリア

- 会計はビジネスのあらゆる側面をデータで読み解く、世界共通の洗練されたツールです。ビジネスのコミュニケーションに会計の知識と技能は欠かせません。ビジネスのグローバルな進展と歩調を合わせるように、世界共通のルール作りも進み、まさにグローバル・ビジネスのインフラになっています。M&A（合併・買収）、コーポレート・ガバナンス、国際会計基準（IFRS）への対応といったさまざまなシーンで、会計スキルを身につけたビジネス・リーダーが求められています。会計科目に加えて密接な関連領域であるファイナンス科目の学修を進めることで、将来企業の意思決定に幅広く携わることができるようになります。
- 国際会計コースでは会計・ファイナンスの知識と技能の修得に加えて、論理的思考力、ビジネス・シーンにおけるコミュニケーション力の向上を図ります。
- グローバル企業の財務・経理・企画部門、金融機関の担当者をはじめ、米国公認会計士（USCPA）、公認会計士、税理士等の専門職として、将来のキャリアを形成することができます。

③ 科目配置と学修目標

●各年次・セメスター別の開講予定科目と学修目標は以下のとおりです。

	コース科目・関連科目と学修目標		資格・検定試験
4年次	第7セメスター	第8セメスター	BATIC® 700 (～4年次12月)
	コーポレート・ファイナンス 国際会計ゼミナールC ・資本構成、投資意思決定、M&A、リスク管理、NPVによるプロジェクト評価といったグローバル企業の経営に必須の知識・技能を身につける。 ・世界標準の会計・ファイナンスの知識・技能を活用してグローバルなコミュニケーションを円滑に図ることができる。	管理会計論 国際会計ゼミナールD	
3年次	第5セメスター	第6セメスター	BATIC® 600 (～3年次12月) FP 3級 (～3年次1月) TOEIC® L&R 550
	財務会計論 国際会計ゼミナールA ・企業の連結財務諸表を作成できる。 ・会計・財務報告基準の国際的統合の意義・プロセスを説明できる。	国際会計理論 パーソナル・ファイナンス 国際会計ゼミナールB ・世界標準で連結財務諸表を作成・分析できる。 ・資産運用、税金、保険、年金に関するプランニングを実践できる。	
2年次	第3セメスター	第4セメスター	BATIC® 320 (～2年次12月) TOEIC® L&R 500
	基礎ファイナンス 専門基礎ゼミナールA ・企業経営における会計、経済、金融・ファイナンス分野の必要性と役割を説明できる。 ・英語で会計分野における基本的な知識を身につける。	国際会計基礎 専門基礎ゼミナールB ・国際会計の基本思考を身につける。 ・具体的な事例を用いて財務分析の手法を身につける。 ・英語でビジネスの基本的な会計処理を実践できる。	
1年次	第1セメスター	第2セメスター	日商簿記3級 (～1年次2月) TOEIC® L&R 450
	会計学 ・簿記の技法を身につけ、財務諸表を作成できる。		

■マーケティング戦略コース コース概要

① イノベーションと顧客創出力を身につけたマーケターの養成

- マーケティング戦略コースのプログラムではTOEIC® L&R 700の獲得を目指します。1年次の必修科目である基礎数学、経営統計学、マーケティングで基礎を固め、まず数学検定2級、統計検定2級の合格を目指します。2年次以降のコース科目では顧客が求める商品を提供したり顧客を創造したりするために求められる、世の中のニーズを的確にとらえる力を身につけます。ビジネスにデータを活用する数理能力、商品開発や新規プロジェクトの立ち上げなどで他者と協力するチームワーク、発想を形にする企画力・実践力の修得を図ります。さらに英語のみを使用して学修する科目を設けて、英語力を高めます。
- コースワークを通して期待できる成果は以下のとおりです。詳しい科目配置と学修目標は次ページおよび教育課程表で確認してください。1年次に数学・統計学の基礎をしっかりと身につけて、2年次以降の学修に臨みましょう。

授 業 科 目 名		修得レベル (資格・検定試験を 指標とした場合)
4年次	Marketing Communication マーケティングゼミナールC New Product Management マーケティングゼミナールD	TOEIC® L&R 600
3年次	販売管理・流通 マーケティングゼミナールA マーケティングゼミナールB	リテールマーケティング(販売士)2級 TOEIC® L&R 550
2年次	専門基礎ゼミナールA 専門基礎ゼミナールB	TOEIC® L&R 500
1年次	基礎数学 経営統計学	統計検定2級 数学検定2級

② コースの学びと将来のキャリア

- 起業家の新しいアイデアや思いつき、あるいは独自技術を、どのようにビジネス化してゆけばよいのか。ビジネスのイノベーションの出発点となるのはマーケティングです。マーケティングとは顧客のニーズやウオントと企業活動/企業ビジョンとを結びつける活動であり、その目的は顧客に貢献することです。マーケティング戦略コースでは世の中のニーズの探索から商品・ブランド開発、広告販促、営業販売、流通物流、コミュニケーション、アフターケア、関係づくり等の企業のビジネス活動(市場創造活動)にかかわる職務を遂行するためのマーケティングマインド(理念と思考)、およびビジネスセンスとスキルなどのマーケティング能力を形成します。
- マーケター(企業のマーケティング担当者)、市場調査、営業販売、広告販促などのスタッフ、将来的には新規事業開発やマーケティングのコンサルタント、起業家を目指します。

③ 科目配置と学修目標

●各年次・セメスター別の開講予定科目と学修目標は以下のとおりです。

	コース科目・関連科目と学修目標		資格・検定試験
4年次	第7セメスター	第8セメスター	TOEIC® L&R 600
	Marketing Communication マーケティングゼミナールC	New Product Management マーケティングゼミナールD	
	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング戦略を、自ら企画・立案できる。 ・マーケティングおよびビジネスに関連する英語文献を読んで理解できる。 		
3年次	第5セメスター	第6セメスター	リテール マーケティング (販売士) 2級 (～3年次2月) TOEIC® L&R 550
	消費者行動論 販売管理・流通 マーケティングゼミナールA	マーケティング・リサーチ マーケティングゼミナールB	
	<ul style="list-style-type: none"> ・データの統計解析に必要な基礎知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のマーケティング戦略を分析・評価できる。 ・市場調査を自ら企画・実施し、データを統計解析できる。 	
2年次	第3セメスター	第4セメスター	TOEIC® L&R 500
	専門基礎ゼミナールA	マーケティング戦略 専門基礎ゼミナールB	
	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングおよびビジネスに関連する基礎的な専門用語を十分に理解できている。 ・ゼミナール内で自身の考えを論理的に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング戦略の基本的な体系を理解できていて、ゼミナール内で論理的に議論ができる。 ・英語の基礎的なビジネス文献を読むことができる。 	
1年次	第1セメスター	第2セメスター	統計検定2級 数学検定2級 (～1年次11月) 日商簿記3級 (～1年次2月) TOEIC® L&R 450
	基礎数学	経営統計学	
	マーケティング	会計学	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスに必要な数学・統計学とマーケティングの基礎を修得する。 ・簿記の基礎を修得し、決算書を通して企業経営の実態を知る。 		

3 卒業要件

- (1) 修業年限を満たすこと
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」
「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
人文科学科目群：2単位以上
社会科学科目群：6単位以上（「会計学」2単位・「経営学」2単位・「マーケティング」2単位は必修）
自然科学科目群：2単位以上
学 際 科 目 群：2単位以上（「キャリア・マネジメント」2単位は必修）
言語表現科目群：「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」から
4科目16単位以上
-
- (5) 学部共通科目群必修科目39単位をすべて修得していること
100番台科目：「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「ESS A」「ESS B」「基礎数学」「経営統計学」
200番台科目：「Intercultural Studies」「企業論」「基礎ファイナンス」「Business English A」
「Business English B」「専門基礎ゼミナール A」「専門基礎ゼミナール B」「企業倫理」
300番台科目：「EPS A」「EPS B」
400番台科目：「経営法務」
-
- (6) 各コースが指定する必修科目32単位をすべて修得していること
【グローバルビジネスコース】
200番台科目：「国際会計基礎」
300番台科目：「Strategic Management」「経営塾」「Global Business Studies」
「グローバルビジネスゼミナール A」「グローバルビジネスゼミナール B」
400番台科目：「コーポレート・ファイナンス」「Global Case Studies」「グローバルビジネスゼミナール C」
「グローバルビジネスゼミナール D」
-
- 【国際会計コース】
200番台科目：「国際会計基礎」
300番台科目：「財務会計論」「国際会計理論」「国際会計ゼミナール A」「国際会計ゼミナール B」
「パーソナル・ファイナンス」
400番台科目：「コーポレート・ファイナンス」「管理会計論」「国際会計ゼミナール C」「国際会計ゼミナール D」
-
- 【マーケティング戦略コース】
200番台科目：「マーケティング戦略」
300番台科目：「消費者行動論」「販売管理・流通」「マーケティング・リサーチ」「マーケティングゼミナール A」
「マーケティングゼミナール B」
400番台科目：「Marketing Communication」「New Product Management」「マーケティングゼミナール C」
「マーケティングゼミナール D」

4 卒業までの単位配分

科目群	科目分類		必要単位			
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE 科目群		7単位			
	人文科学科目群		2単位			
	社会科学科目群		6単位			
	自然科学科目群		2単位			
	学際科目群		2単位			
	言語表現科目群		16単位			
学科科目	必修科目		100番台科目	11単位	39単位	
			200番台科目	20単位		
			300番台科目	4単位		
			400番台科目	4単位		
	コース別必修科目	グローバルビジネスコース必修科目		200番台科目	4単位	各コース 32単位
				300番台科目	16単位	
				400番台科目	12単位	
		国際会計コース必修科目		200番台科目	4単位	
				300番台科目	16単位	
				400番台科目	12単位	
		マーケティング戦略コース必修科目		200番台科目	4単位	
				300番台科目	16単位	
400番台科目				12単位		
自由選択科目	自学科選択科目、他学部他学科科目、他大学との単位互換科目、ユニバーシティ・スタンダード科目		任意			
卒業に必要な単位数			124単位以上			
卒業に必要なGPA数値			累積GPA2.00以上			

1 卒業延期の場合の卒業要件

- 卒業延期となった場合には、第9セメスター以降、以下の条件を満たしたときに卒業となります。ただし、履修下限は2単位、履修上限は16単位です。

卒業に必要な124単位以上を修得したうえで、累積GPAが2.00以上となった場合

5 資格取得等による単位認定

- 資格取得・検定試験合格（資格取得等）を促進するために、以下のとおり資格取得等により認定基準に達した場合に対象科目の単位を認定します。

■ 学科共通科目

授業科目名	単位数	配当年次	認定基準
会計学	2	1	日商簿記検定 3 級
経営学	2	1	経営学検定初級
経営統計学	2	1	統計検定 2 級
ESS A	1	1	TOEIC® L&R 500
ESS B	2	1	TOEIC® L&R 500
Business English A	4	2	TOEIC® L&R 600
Business English B	4	2	TOEIC® L&R 600
EPS A	2	3	TOEIC® L&R 650
EPS B	2	3	TOEIC® L&R 650

■ コース科目

授業科目名	単位数	配当年次	認定基準
国際会計基礎	4	2	BATIC® 320
国際会計理論	4	3	BATIC® 600
パーソナル・ファイナンス	4	3	3 級ファイナンシャル・プランニング技能士
販売管理・流通	4	3	リテールマーケティング（販売士）2 級

■ 留意事項

- 所属するコースに関わらず、すべての対象科目の単位認定を申請できます。
- 単位認定を受けようとする学期に、履修上限の範囲内で対象科目を登録してください。
- 「C・F評価科目の再履修制度」（p.50参照）を利用できます。
- 認定基準を満たした場合には、対象科目の授業への出席等、単位認定に関わる要件をすべて免除します。
- 当該制度によって単位を認定した科目の成績はS評価とし、GPAに加算します。
- 科目を履修した学期の指定期日までに申請した受験結果に基づいて単位を認定します。入学前の受験結果でも構いません。ただし以下の6科目については申請期限前1年以内のスコアのみ有効とし、各年次にA・Bいずれか一方の科目のみ申請できます。
「ESS A」「ESS B」「Business English A」「Business English B」「EPS A」「EPS B」
- 認定基準よりも上位の級・スコアに達した場合にも単位を認定します。
- BATIC® にはSubject 1（英文簿記）とSubject 2（国際会計理論）があるため、第6セメスター以降に対象科目を未修得であるまたはC評価科目の再履修として履修している場合には、BATIC® 600を獲得することによって「国際会計基礎」「国際会計理論」のいずれも単位を認定します。
- 認定基準としている資格・検定試験の結果に基づいて他の学科科目の単位を認定したり成績に反映させたりすることはできません。

6 警告制度と注意

1 警告

- 本学では「警告制度」を定め、基準を満たせない場合には「警告」を受けます。(p.37参照)

2 注意 2022年度より「注意制度」廃止

- ~~下記のaまたはbに該当する場合、「注意」を受けます。~~

年次 学期	1		2		3		4	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
a. セメスター終了時の累積修得単位数が右の単位数未満	15	32	47	60	76	92	108	当該セメスターでの卒業が不可能な学生
b. 累積GPAが右の値未満	2.20							

- ~~「注意」を受けるということは、卒業が延期になる可能性が高いということを意味します。~~
- ~~「注意」を受けるのは、十分な学修上の成果があげられていないときです。その場合は学部の教員から、履修内容や学修の方法に関してアカデミック・アドヴァイスを受けることができます。~~
- ~~アカデミック・アドヴァイスとは以下のようなものがあります。~~
 - ① ~~履修相談全般（履修方法、履修科目について）~~
 - ② ~~履修計画~~
 - ③ ~~履修状況の確認・注意（セメスター修得単位数、累積単位数、累積GPA数値等）~~
 - ④ ~~履修取消~~
 - ⑤ ~~学修方法に関するアドヴァイス~~

▶ 警告

参照「履修ガイド」
p.37

▶ GPA計算例

参照「履修ガイド」
p.32

7 履修上の留意事項

① 「インターンシップA～D」について

- これらの科目は、主に夏季休暇中、および春季休暇中に開講されるため、セメスターの履修上限外の科目です。履修希望者は、セメスターの履修上限枠を超えて履修することができます。夏季休暇中に実施される場合は春セメスター中に、春季休暇中に実施される場合は秋セメスター中に履修者募集およびガイダンスが行われます。履修許可が出た学生は、科目担当教員の指示に従ってください。
- これらの科目履修にあたっては、学部が定める一定の条件の充足および事前、事後の研修への参加が義務づけられています。なお、単位は次のセメスターで認定されます。

② 海外留学制度（SAE プログラム）について

- 経営学部では原則として2年次以降、海外提携大学への半年間の留学が可能です。1年間の留学については、留学の時期により、可能な場合もあります。1年間の留学を希望する場合は、必ず教務担当教員に相談してください。ただし、応募するには指定された資格検定試験（TOEFL、IELTSなど）等の規定を満たさなければいけない大学もあります。
- 海外の提携大学に留学し、単位を修得できた場合には、修得単位の中から本学のカリキュラムに対応する科目を、各セメスター16単位を上限に本学の卒業必要単位に充当させることができます。
- なお、留学先で修得した単位が、科目の性質上本学の単位として認定されない場合もあります。

8 経営学部 国際経営学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中): 集中開講

履修条件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目

他学科受講 ○: 他学科受講可 ㊤: リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号 / 番号	授業科目名	単位	授業時間 (分)	開講期	履修条件			他学科受講	備考	授業を通して修得できる力											
					グローバルビジネス	国際会計	マーケティング戦略			知識・理解	汎用的技能				態度・志向性						
											多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理的観
ユニバーシティ・スタンダード科目																					
WLIT 100	外国文学	2	100	春秋						●											
HIST 103	歴史 (日本)	2	100	春秋											●						
ACCT 100	会計学	2	100	春秋	●	●	●				●										
B A 100	経営学	2	100	春秋	●	●	●				●										
B A 100	マーケティング	2	100	春秋	●	●	●				●										
CARE 301	キャリア・マネジメント	2	100	春秋	●	●	●							●						●	
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋	◆	◆	◆				●										
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆	◆	◆				●										
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋	◆	◆	◆		1年次より履修可		●										
ENG 202	ELF 202	4	200	春秋	◆	◆	◆		1年次より履修可		●										
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	◆	◆	◆		1年次より履修可		●										
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春	◆	◆	◆		1年次より履修可		●										
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋	◆	◆	◆		1年次より履修可		●										
ENG 402	ELF 402	4	200	秋春	◆	◆	◆		1年次より履修可		●										
COPR 100	インターンシップ A	2	100	春秋							●				●	●					
COPR 101	インターンシップ B	2	100	春秋							●				●	●					
COPR 102	インターンシップ C	1	50	春秋							●				●	●					
COPR 103	インターンシップ D	1	50	春秋							●				●	●					
学科専門科目																					
ECON 101	マクロ経済学	2	100	春	●	●	●				●	●									
ECON 102	ミクロ経済学	2	100	秋	●	●	●				●	●									
ENG 108	ESS A	1	50	春	●	●	●				●	●									
ENG 109	ESS B	2	100	秋	●	●	●				●	●									
MATH 102	基礎数学	2	100	春	●	●	●					●									
STAT 102	経営統計学	2	100	秋	●	●	●				●		●								
CWC 201	Intercultural Studies	2	100	春	●	●	●		㊤		●	●									
B A 204	企業論	2	100	春秋	●	●	●							●	●						
ECON 201	基礎ファイナンス	2	100	春秋	●	●	●				●	●									
ENG 203	Business English A	4	200	春	●	●	●				●	●									
ENG 204	Business English B	4	200	秋	●	●	●				●	●									
B A 205	専門基礎ゼミナール A	2	100	春秋	●	●	●				●			●							
B A 206	専門基礎ゼミナール B	2	100	春秋	●	●	●				●			●							
B A 203	企業倫理	2	100	春秋	●	●	●											●	●		
ACCT 201	国際会計基礎	4	200	秋	●	●					●	●									
B A 208	マーケティング戦略	4	200	秋			●				●	●									

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件			他学科受講	備考	授業を通して修得できる力												
					グローバルビジネス	国際会計	マーケティング戦略			知識・理解	汎用的技能				態度・志向性							
											多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任
ENG 306	EPS A	2	100	春秋	●	●	●			●	●											●
ENG 307	EPS B	2	100	春秋	●	●	●			●	●											●
B A 302	環境経営	2	100	春秋				○						●								●
B A 309	人的資源管理	2	100	春秋				○												●		●
B A 310	中小企業経営論	2	100	春秋				○						●								●
B A 301	Strategic Management	4	200	春	●								●									
B A 307	経営塾	4	200	春	●																●	●
B A 300	Global Business Studies	4	200	秋	●					●		●			●							
B A 305	グローバルビジネスゼミナール A	2	100	春秋	●						●											●
B A 306	グローバルビジネスゼミナール B	2	100	春秋	●						●											●
ACCT 304	財務会計論	4	200	春		●					●			●								
ACCT 303	国際会計理論	4	200	秋		●						●		●								
ACCT 301	国際会計ゼミナール A	2	100	春秋		●						●										●
ACCT 302	国際会計ゼミナール B	2	100	春秋		●						●										●
ECON 300	パーソナル・ファイナンス	4	200	春秋		●																●
B A 308	消費者行動論	4	200	春			●							●								
B A 311	販売管理・流通	4	200	春			●							●								
B A 312	マーケティング・リサーチ	4	200	秋			●						●	●								
B A 313	マーケティングゼミナール A	2	100	春秋			●					●										●
B A 314	マーケティングゼミナール B	2	100	春秋			●					●										●
LAW 401	経営法務	4	200	春秋	●	●	●							●							●	
ECON 402	コーポレート・ファイナンス	4	200	春秋	●	●						●		●								
B A 400	Global Case Studies	4	200	春秋	●									●	●							
B A 404	グローバルビジネスゼミナール C	2	100	春	●									●	●	●						
B A 405	グローバルビジネスゼミナール D	2	100	秋	●									●	●							●
ACCT 401	管理会計論	4	200	春秋		●								●	●							
ACCT 402	国際会計ゼミナール C	2	100	春		●								●	●	●						
ACCT 403	国際会計ゼミナール D	2	100	秋		●								●	●							●
B A 401	Marketing Communication	4	200	春秋			●					●									●	
B A 402	New Product Management	4	200	春秋			●						●		●							
B A 406	マーケティングゼミナール C	2	100	春			●							●	●	●						
B A 407	マーケティングゼミナール D	2	100	秋			●							●	●							●

【履修にあたって】

- (1) 必修科目はすべて履修してください。
- (2) ELF科目に関しては、101→102→201→202→301→302→401→402の順で履修してください。なお、ELF科目の中から、4科目16単位は必修になります。
- (3) A、B、C、Dがついている同一名称科目は履修の順番を問いません。

教育学部

教育学科 乳幼児発達学科

人材養成等教育研究に係る目的

教育学部は、全人教育の理念に基づき、幅広い知識と理解の深化、社会の変化やニーズに対応できる総合的かつ汎用的な技能や諸能力の体得、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる態度・志向性の涵養、そして専攻する分野における幅広く深い専門力、創造的思考力、実践的指導力の醸成を目指す人材養成等の教育研究を行うことで、人間や社会への理解や敬愛、規範意識・倫理観、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ、それらを総合的に活用し自ら課題を解決する能力等を有する教員・保育士ならびに社会人を世に輩出する。

教育学科は、玉川教師訓を踏まえ、主として幼稚園、小・中・高等学校教育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員の養成とともに、教育関連分野をはじめとする幅広い分野に貢献できる人材の養成を目指す。

乳幼児発達学科は、玉川教師訓を踏まえ、教育・保育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員・保育士の養成とともに、社会のニーズに応えられる子育て支援に関わる人材の養成を目指す。

教育学部 ディプロマ・ポリシー

教育学部は、「人材養成等教育研究に係る目的」に向けて、次の学修成果を果たした者に学位を授与する。

[知識・理解]

- 教育学・保育学における基本的な知識を体系的に理解した上で、教育・保育に関する確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を歴史・文化・社会・自然と関連付けることができる。

[汎用的技能]

- 基礎的な言語操作力、数理分析力を確実に身につけ、確固たる情報リテラシーによるICTを効果的に活用できる。
- 自ら課題を設定し、研究を重ねることにより、教育・保育における諸課題について考察し、解決のための方法を論理的に思考し、実践に向けて主体的、創造的、協働的に取り組むことができる。

[態度・志向性]

- 教育学・保育学の視点から様々な社会の諸問題に主体的に関心を持ち、多様な人や文化を理解し、共生できる力を身に付けることで社会的責任を持って社会発展に積極的に関与できる。
- 教育・保育およびその関連分野におけるヒューマン・サービスの社会的意義と特性を理解し、豊かな人間性と使命感、および倫理観を持って人の成育や福祉に関する分野において協調・協働力、そしてリーダーシップを発揮できる。
- 自らを律して行動し、教育学・保育学を基盤として、大学院への進学や生涯学修・研究し続けることで、変化の激しい社会に適応できる。

教育学科：初等教育専攻

初等教育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

[知識・理解]

- 初等教育に関する確かな専門的知識を修得し、初等教育の諸問題について学術的に研究し、さらに修得した専門的知識や研究の成果を初等教育の内容となる歴史・文化・社会・自然の各分野と関連づけて活用できる。

[汎用的技能]

- 主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家に求められるコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、そして問題解決力を発揮できる。

[態度・志向性]

- 初等教育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用して、教育界や広く社会の発展のために貢献することができる。

教育学科：社会科教育専攻

社会科教育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらのいずれかを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

[知識・理解]

- 社会との関わりにおいて必要とされる知識を広く体系的に理解した上で、社会科教育に関する確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を現実社会の諸課題と関連付けることができる。

[汎用的技能]

- 当該専攻における学修の成果を踏まえた確かな言語能力を基盤とするコミュニケーションスキルを確実に身に付けるとともに、ICTを適切かつ効果的に活用できる。

[態度・志向性]

- 我が国ならびに他国における多様な文化を尊重し、グローバル社会において、中心的な役割を果たすことのできる主体性と協調性、チャレンジ精神を持つことができる。
- 自己の個性と強みを生かした主体的な生き方を志向し、他者と調和しながら、より良い社会の発展に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

教育学科：保健体育専攻

保健体育専攻が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

[知識・理解]

- 保健体育や健康教育に関する基本的な知識を体系的に理解した上で、教育現場において指導ができる中学校、高等学校の教員としての確かな専門的知識を修得し、さらにそれらの知識を健康やスポーツに関する分野の諸課題と関連付けることができる。

[汎用的技能]

- 保健体育の教科教育の指導力とともに、教科外活動の指導・支援能力を備え、学校全体の健康・体力づくり等の実践において主体的・創造的・協働的に取り組むことができる。

[態度・志向性]

- 国際的な視点で健康とスポーツに関する様々な問題に関心を持ち、産業保健分野や地域社会などにおいてリーダーシップを発揮しながら貢献できる。

教育学科：通信教育課程

通信教育課程が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

[知識・理解]

- 学校教育・社会教育に関する確かな専門的知識を修得し、教育の諸問題について学術的に研究し、さらに修得した専門的知識や研究の成果を社会との関わりにおいて活用することができる。

[汎用的技能]

- 幅広い視野と国際感覚、主体的・対話的で深い学びを推進する上で必要とされるコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、そして問題解決力を身に付け、学校教育・社会教育関連分野で地域社会に貢献できる。

[態度・志向性]

- 学校教育・社会教育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用することによって、教育の専門家として、より良い社会の発展に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

乳幼児発達学科

乳幼児発達学科が重視する学士力には以下の項目があげられ、これらを身に付けることが卒業時における到達目標となる。

[知識・理解]

- 乳幼児から成人に至るまでの人としての育ちについての深い見識を備えた上に、教育・保育に関する専門的知識や技能を修得し、それらの知見を広く生活（歴史・文化・社会・自然など）と関連付けることができる。

[汎用的技能]

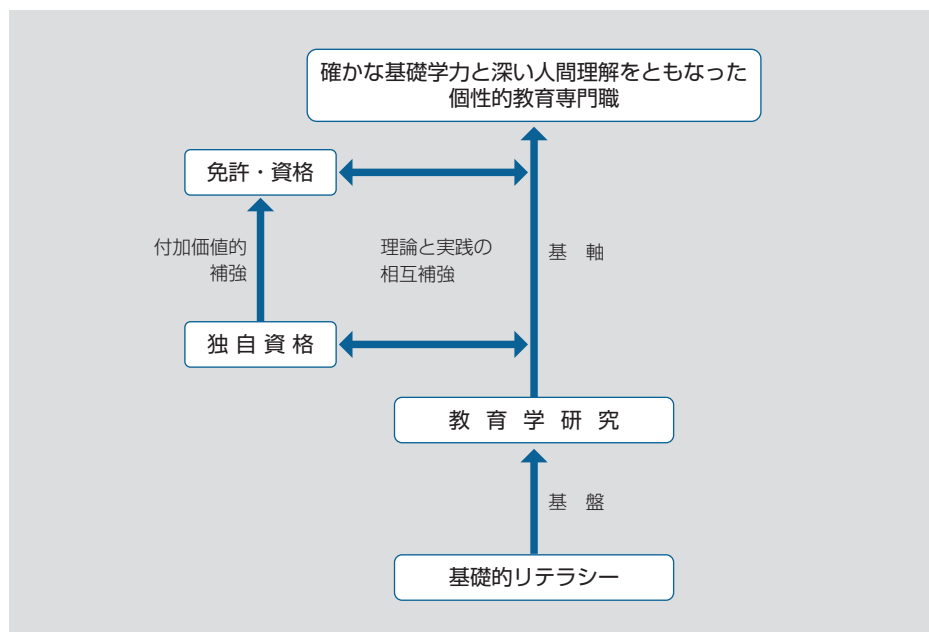
- 幼稚園の教員や保育士の役割や教育・保育の社会的意義と特性を理解し、実践に向けて主体的・創造的・協働的に取り組むことができる。

[態度・志向性]

- 教育・保育に関する理論と実践に基づいた専門的な知識と技能を総合的に活用することによって、協調・協働力、そしてリーダーシップを発揮し、教育・保育の発展に貢献するとともに、現代社会の問題解決に積極的に寄与する態度・姿勢を持つことができる。

1 はじめに

- 確かな基礎学力と深い人間理解をともなった個性のある教育専門職を目指すのが、教育学部のカリキュラムの考え方です。



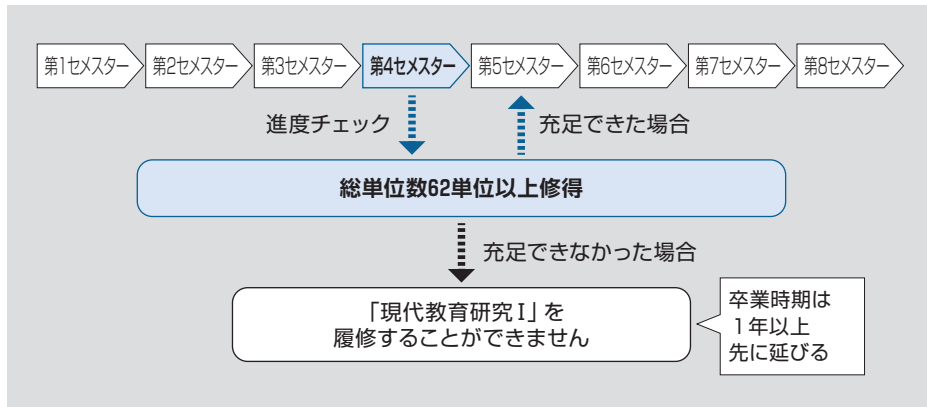
- 教育学部の入学生は、入学後、1年間は本格的な教育学研究や免許・資格の取得に必要な基礎学力を確立し、自らの可能性や学びたい分野を探る大学生活の助走期間として設定されています。
- 第2セメスター以降には、教員との綿密な相談によって自らの進路に即した学修プログラムを決定し、4年間の学修計画を作り上げていくことが求められます。
- 学修プログラムの組み合わせの仕方は学生の希望の数だけありますが、代表的な学修計画として、卒業後の進路に応じた履修モデル (p.160、p.166) が設定されています。

▶履修モデル

参照「履修ガイド」
p.160、p.166

2 履修条件

① 第4 Semester（2年次）終了時における進捗チェック



▶ 履修条件（進捗チェック）
参照『履修ガイド』
p.38

3 履修上の留意事項

- ① 「卒業課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、「現代教育研究Ⅰ・Ⅱ」の単位が修得されていなければ履修することはできません。
- ② 以下の科目は、各 Semester の履修登録単位数の上限16単位には含まれません。また、単位認定は次 Semester 以降になる科目があります。
 - サマーセッション・ウィンターセッションで修得した科目
 - 「教育インターンシップA・B・C・D」
 - 「教育インターンシップ（幼）A・B・C・D」
 - 「保育インターンシップA・B・C・D」（乳幼児発達学科のみ）
 - 通信教育課程夏期スクーリング科目
 - ユニバーシティ・スタンダード科目 玉川教育・FYE 科目群の「玉川の教育」「音楽Ⅰ・Ⅱ」「体育」
 - ユニバーシティ・スタンダード科目学際科目群の「国際研究A・B・C・D・E・F」「地域創生プロジェクトA・B・C・D・E・F」「フィールドワークA・B・C」
- ③ すべての学生には、卒業までに共通する要件により、特定の科目の履修が求められています。その他の科目については、各 Semester および4年間における各自の学修の目的に合わせて選択、登録し、履修していくことになります。
- ④ 教育学部で開講される科目のほか、他学部・他学科で開講されている科目（全学部開講科目）を、一定条件のもとで履修し、卒業要件に必要な単位数に含めることも可能です。
- ⑤ なお、別に定める条件により、通信教育課程等で開講されている科目を履修し、修得の単位を卒業要件ならびに教職課程の要件として加算することも可能です。詳細については、別途ガイダンスが行われる予定です。
- ⑥ 卒業までに必要な単位数は、第1 Semester から第8 Semester まで、合計124単位です。その内訳、卒業要件、履修登録上限単位、警告制度は各学科のページを参照してください。

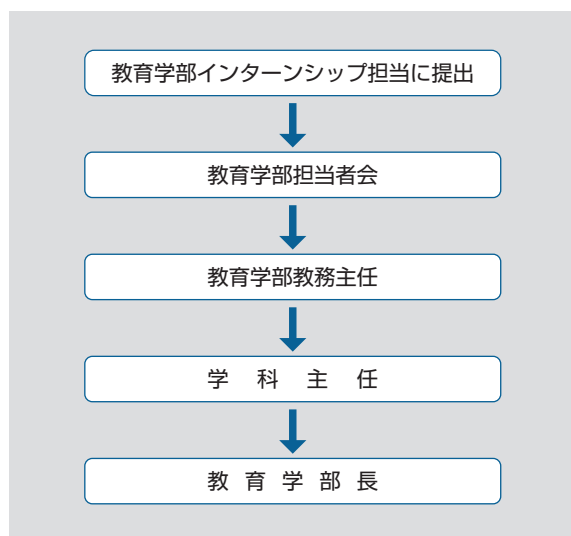
▶ 履修の制限
参照『履修ガイド』
p.45

▶ 単位の認定
参照『履修ガイド』
p.34

1 教育学部が認める学外での学修（インターンシップ等）の単位認定に関する規定

- 教育学部では、インターンシップ等免許資格取得関連諸科目を含む選択科目のうち、16単位を上限として、国内外の相当の教育機関において履修修得されたものを以下の条件で認定しています。

2 科目履修単位修得計画の事前承認手続きの流れ



(1) 「教育インターンシップA・B・C・D／教育インターンシップ（幼）A・B・C・D」について

① 学校等教育機関でのインターンシップ

玉川学園内のK-12の教育機関等、本学と提携している各市の教育委員会傘下の学校及び私立学校での教育活動に参加しての学びを単位認定の対象とします。修得した単位は、教育職員免許状を取得するために必要となる「教科又は教職に関する科目」として利用することができます。

【認定可能な科目】 教育インターンシップA・B・C・D／

教育インターンシップ（幼）A・B・C・D（最大6単位まで）

② 上記機関の他、保育所、児童福祉施設、社会福祉施設、子育て支援関連施設の活動、本学部が認める社会的活動等に参加しての学びを単位認定の対象とします。

認定こども園についてはインターンシップ担当に相談してください。

【認定可能な科目】 教育インターンシップB・C・D／

教育インターンシップ（幼）A・B・C・D（最大4単位まで）

保育インターンシップA・B・C・D（乳幼児発達学科のみ）

(2) SAEプログラムにおけるインターンシップ

SAEプログラムにおけるインターンシップの単位認定はp.35に示したルールに従って認定されます。

4 教育職員免許状および各種資格の登録に関する規定

- 教育職員免許状や各種資格を取得のために登録／継続をする学生は、免許・資格の種類やレベル（1種・2種）にかかわらず、第4 Semester 終了時（3年次編入生は第5 Semester 終了時）までに以下の条件を満たしていることとします。

- ① 累積GPAが2.00以上であること
- ② 実用英語技能検定（CBT含む）準2級（CSE 1728点）TOEIC®L&RもしくはIPテスト 400点以上、GTEC（4技能版）690点以上、GTEC（3技能版）410点以上（オフィシャルスコアに限る）、GTEC for STUDENTS（L&R&W）410点以上（オフィシャルスコアに限る）、GTEC CBT 690点以上
- ③ 日本語検定3級、日本漢字能力検定準2級、語彙・読解力検定2級、日本語運用能力テストN-B2のいずれかを取得していること
- ④ 実用数学技能検定準2級を取得していること

- 検定については、指定の級以上であれば上述規定を充足したものとします。
- ただし、実用数学技能検定準2級に関しては、1次検定もしくは2次検定のいずれかについて、取得を希望する免許・資格種ごとに以下の資格の取得をもって替えることができます。

取得希望の免許状・資格	検定・試験
幼稚園教諭 保育士 小学校教諭	実用数学技能検定準2級1次または2次合格に加えて、下記のいずれか1つを取得していること。 ● ヤマハ音楽能力検定・ピアノ演奏グレード8級（Aコース、Bコースいずれも可） ● カワイピアノグレードテスト演奏6級 ● ICTプロフィシエンシー検定3級（旧名称：パソコン検定）
中学校教諭（社会） 高等学校教諭（公民）	実用数学技能検定準2級1次または2次合格に加えて、下記のいずれか1つを取得していること。 ● 歴史能力検定2級 ● ICTプロフィシエンシー検定3級（旧名称：パソコン検定）
中学校／高等学校教諭（保健体育）	実用数学技能検定準2級1次または2次合格に加えて、ICTプロフィシエンシー検定3級（旧名称：パソコン検定）

- このいずれかの規定に抵触する学生は、教職免許および各種資格の受講の継続を停止または保留とします。
- その他、諸事情により特別な判断が必要とされる場合には、教育学部長が設置する委員会において個々に審査・判断するものとします。

実用英語技能検定	http://www.eiken.or.jp
実用数学技能検定	http://www.su-gaku.net
日本語検定	http://www.nihongokentei.jp
日本漢字能力検定	http://www.kanken.or.jp/kanken/
ヤマハ・音楽能力検定	http://www.yamaha-mf.or.jp/grade/
カワイ・ピアノグレードテスト	http://www2.kawai.co.jp/school/gradetest/
ICTプロフィシエンシー検定	http://www.pken.com/
歴史能力検定	http://www.rekiken.gr.jp
TOEIC®	http://www.toeic.or.jp
TOEFL	http://www.ets.org/jp/toefl/
GTEC for STUDENTS	http://www.benesse-gtec.com/fs/
GTEC CBT	http://www.benesse-gtec.com/cbt/

5 資格

1 教育学部独自付与資格（メンター）に関する規定

- 教育学部では、独自に付与する指導者資格（メンター）が3種類設けられています。
- 法律に基づく公的な資格ではありませんが、教育職員免許状や保育士資格と組み合わせて取得することによって、付加価値が生じます。

2 資格認定方法

それぞれの資格には、次のような共通の認定手続きが必要です。

- ① 各資格の認定には教育職員免許状（2種）以上、または保育士資格の取得を条件とします
- ② 資格取得のための各科目の単位認定条件は、B以上の成績を修めたものに限りま
- ③ 資格取得を希望する学生は、後述する科目の単位を修得した後、所定の申請書類を記入のうえ、教務担当の教員に提出します
- ④ 申請書類の提出後、学部教授会にて、認定の可否を審議します
- ⑤ 認定が決定し次第、学部長印を捺した認定証を発行し、卒業以降、郵送します
- ⑥ 認定された資格は、当該学生が中途退学をした場合、または法律・学則に抵触する著しい不行跡がなされた場合には、失効するものとします

3 認定科目

■共通条件……計4単位

全3種の資格認定の共通条件として、以下の4単位を履修してください。

科目名	単位	履修条件	履修単位
教育インターンシップA 教育インターンシップ(幼)A	2	必修	2
生徒・進路指導の理論と方法 幼児理解と教育相談	2	必修選択	2

■個別条件

① 児童のための体育教育指導者……12単位以上（計16単位）

科目名		単位	履修条件	履修単位
	体育科指導法	2	必修	2
	体育（幼・小）	2	必修	2
	体育原理	2	必修	2
	体育実技（体操）	1	必修	1
	体育実技（水泳）	1	必修	1
A群	健康管理論 健康スポーツ理論 【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2	必修選択	2
	体育心理学	2		
B群	体育実技（球技A）	1	必修選択	2
	体育実技（球技B）	1		
	体育実技（陸上）	1		
	体育実技（ダンス）	1		

② 児童のための心の教育指導者……⁹~~10~~¹¹単位以上（計~~14~~単位）

科目名	単位	履修条件	履修単位
教育インターンシップBまたはCまたはD 教育インターンシップ（幼）B またはCまたはD	2	必修	2
人間関係論 【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2	必修	2
精神保健 【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2	必修	2
特別支援教育 特別な支援を必要とする子どもの理解と援助I	1	必修	1 2
発達心理学 子どもと家庭の発達心理学	2	必修選択	2
幼児理解と教育相談	2		
安全教育	2		

*ただし、教育インターンシップはTAPセンターで行うこと

③ 児童のための野外活動指導者……14単位以上（計18単位）

科目名	単位	履修条件	履修単位
教育インターンシップBまたはCまたはD 教育インターンシップ（幼）B またはCまたはD	2	必修	2
野外教育 【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2	必修	2
フィールドワークA・B・C （野外教育分野のみ）	2	必修選択	2
国際研究A・B・C・D （野外教育分野のみ）	各2 （国際研究D のみ3単位）		
環境教育 【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2	必修	2
理科	2	必修	2
体育（幼・小）または体育（幼）	2	必修	2
図工または図工（幼）	2	必修	2

*ただし、インターンシップはTAPセンターで行うこと

1 カリキュラム・ポリシー

教育学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下に明示する。
* 通信教育課程は別に明示する。

全人教育および12の教育信条を教育課程の編成の根本に据えつつ、教育職員免許法施行規則第六条の区分、児童福祉法施行規則および指定保育士養成施設指定基準を踏まえて科目を開設し、基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めていくことができるように科目を配列している。

教育学部が課程認定を受けている教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格のうち、原則として1つまたは2つの免許・資格取得が可能である。そのために、2年次より学科別、あるいは専攻別に、学生各自の進路・志望に従って教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格取得に必要な科目を履修し、所定の単位認定を受けることで免許状・資格を取得する。

同時に、多様なキャリアを模索することのできる社会人としての資質・能力を高める機会、社会の急激な変化に対応することのできる人間として普遍的に求められる知識・技能、そして教養を偏ることなく学ぶ機会、そして、既存の知識体系に固執せず、常に新しい知識を対話的な深い学びを通して獲得し、知的探究心を高める機会となる科目構成を提供する。

また、卒業後に専門性のさらなる深化の一助となる大学院進学を念頭に置いた科目も併せて提供する。

[1年次]

- 全学共通の初年次教育であるユニバーシティ・スタンダード科目、玉川教育・FYE科目、情報リテラシー科目に加えて、基礎的な言語操作力（特に外国語の知識・学力）を育成するためのELF科目を修得する。
- 教育・保育の基礎段階となる「教育学概論」および「教職概論」を必修科目として修得する。

[1年次後半から2年次]

- 教育・保育の理論的基礎となる科目群から、必修選択科目として3科目以上を修得する。
- 教育学部が定める階級の英語・国語・数学各分野の検定・資格を2年次末までに取得していることを3年次以降の科目履修の基本とする。
- 教育インターンシップや学校・福祉ボランティアの機会を重視し、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

[3年次、4年次]

- 各自の興味・関心の高い分野に関して専門的・学術的に学修・研究を行う「現代教育研究Ⅰ」および「現代教育研究Ⅱ」、「卒業課題研究Ⅰ」および「卒業課題研究Ⅱ」を必修科目として修得する。
- 教育インターンシップや学校・福祉ボランティアに加えて、教育実習や保育実習では、現場に行く機会を重視し、子どもとの関わりや活動から、教員・保育士としての専門性を深める。
- 教育実習では、現場で子どもと関わる機会を重視し、学級活動や課外活動を観察し、課題解決的な授業を実践することを通して教員としての専門性を深める。

[学修成果の評価]

- 各科目の評価基準はルーブリックとしてシラバスに示す。卒業研究の評価は学部で定めた共通の評価基準によって行う。

教育学科：初等教育専攻

初等教育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- 初等教育を学修する上で基盤となる教育学並びに教職に関する基礎科目群から修得する。
- 現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目群から修得する。
- 幼稚園および小学校教諭一種免許状のいずれか、または幼小連携を視野に入れた両方を取得するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるように、1年次から4年次にかけて教職関連科目を修得する。
- 小中一貫教育など学校種を超えた指導ができる能力を身に付けるために、本専攻において取得可能な中学校教諭二種免許状に関する教職関連科目を修得する。
- 教職界に限らず、初等教育の学修成果を活かして広く現代社会に貢献できる能力を身に付けるために、キャリア教育に関する科目を修得する。

教育学科：社会科教育専攻

社会科教育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- 社会科系領域に関する確かな専門的知識を習得するとともに、多面的・多角的な学びから教養を広げ、現実社会の諸課題を理解する。
- 社会科系領域に関する知識および技能の学び方を理解し、教科としての見方・考え方や、確かな言語能力を基盤とする汎用的技能を獲得する。
- 中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民）の取得を目指し、社会科系領域について免許法施行規則に定める教科及び教科の指導法に関する所定の科目を効率的かつ効果的に修得する。
- 小中・中高一貫教育などに対応できるよう、学校種を超えて指導できる能力を備えるために小学校教諭二種免許関連科目の履修を可能とし、免許法施行規則に定める教科及び教科の指導法に関する所定の科目を効率的かつ効果的に修得する。
- 学校や地域での諸活動の機会を重視し、他分野の教員や専門家等と連携・協働する力を培うとともに、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

教育学科：保健体育専攻

保健体育専攻の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- 中学校および高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得を目指し、保健体育科教員としての知識・技能、指導技術を育成するため、実習を含む関連科目を選択履修し、所定の単位を効率的かつ効果的に修得することができるよう、1年次から4年次にかけて科目を修得する。
- 小中・中高一貫教育などに対応できるよう、学校種を超えて指導できる能力を備えるために、小学校教諭二種免許関連科目の履修を可能にする。
- 保健体育領域について各学校段階に即した内容の科目を修得する。
- 1年次には本学の伝統であるスキー教育に関して、「体育実技（スキー）」を配列し、その他の体育実技科目を3年次までに修得する。
- 本学の伝統である体育祭に1年次に参加し、2・3年次には運営、4年次には体操指導を行うことで、教育現場における体育祭等の行事教育を中心的に管理運営できる能力を身に付ける。

2 卒業要件

教育学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

(1) 修業年限を満たすこと

(2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること

(3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること

(4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること

〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」
「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」

(5) 教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること

〈必修科目〉 自然科学科目群：「情報科学入門」（2単位）

教職関連科目群：「体育」（1単位）

〈必修選択科目〉 人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群：「名著講読（人文科学）」

「名著講読（社会科学）」「名著講読（自然科学）」より2科目（2単位）

言語表現科目群：「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」

「ELF401」「ELF402」より2科目（8単位）（注）

（注）教育学科の定める「ELFの4単位免除の条件」（p.160参照）を満たした者は1科目（4単位）

(6) 学科科目について次の必修科目および必修選択科目を修得していること

100番台科目より：

〈必修科目〉 「教育学概論」「教職概論」（4単位）

〈必修選択科目〉 「教育哲学」「教育心理学」「教育方法学（~~幼・小~~または~~中・高~~）」

「教育社会学」「発達心理学」「~~教育行政学~~」の7科目より3科目（6単位）

200番台科目より：

〈必修科目〉 「全人教育実践演習A」「全人教育実践演習B」（4単位）

300番台科目より：

〈必修科目〉 「現代教育研究Ⅰ」「現代教育研究Ⅱ」「特別支援教育」（6単位）

400番台科目より：

〈必修科目〉 「卒業課題研究Ⅰ」「卒業課題研究Ⅱ」（4単位）

3 卒業までの単位配分

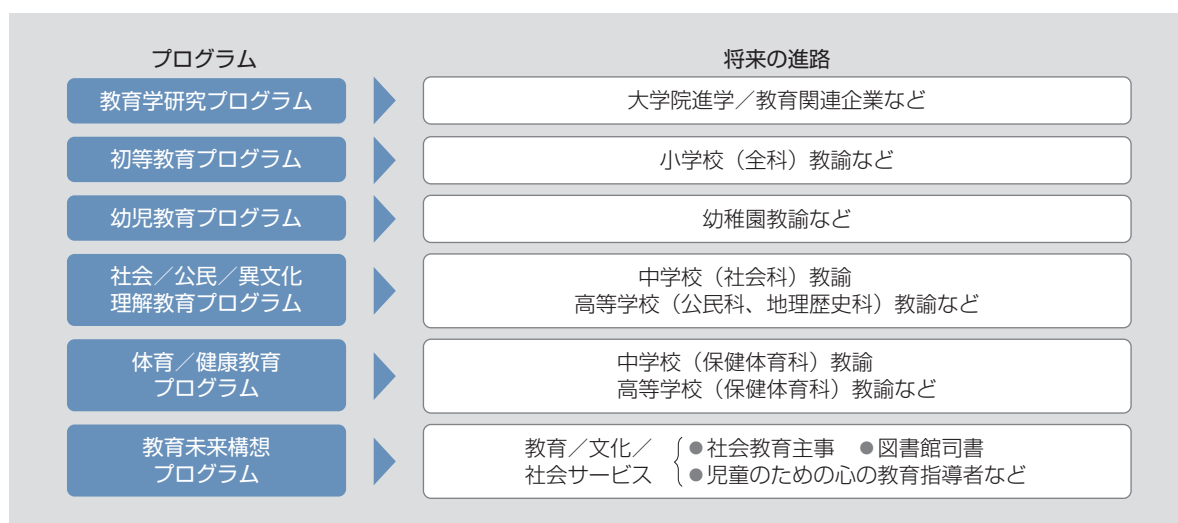
科目群	科目分類	必要単位数	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目	7単位	
	教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目	13単位以上（注1）	
教育学科科目群	必修科目	17 18 単位	104単位（注3）
	必修選択科目	6単位以上	
	自由選択科目	任意（注2）	
累積修得単位		124単位以上	

（注1）教育学科の定める「ELFの4単位免除の条件」（p.160参照）を満たした者は9単位以上

（注2）選択科目は教育学部科目、ユニバーシティ・スタンダード科目、他学部他学科科目、500番台科目、単位互換科目を含む

（注3）「ELFの4単位免除」を適用した者は、108単位となる

4 履修モデル



履修モデル A 学校教員を目指すモデル

本学が創立以来中核にすえてきた、優れた初等中等学校教員ならびに幼稚園教諭の育成を目指すモデルです。現在でも約10,000名の卒業生が現職教員として活躍しており、「教育の玉川」として、本学科の卒業生の最も多数を占めるキャリアです。

【志向するキャリア】

- 教員（幼稚園、小学校、中学校社会・保健体育、高等学校公民・保健体育）
- 大学院進学（教育専門職領域）

履修モデル B 高度な文化専門職を目指すモデル

近年、文部科学省の提唱する「生きる力」に見られるように生涯学習の時代をむかえて、社会のさまざまな場での教育支援、学習者支援が必要とされており、教育を専門的に学んだ人材のニーズが以前にも増して重視されています。公務員、特に教育支援（教育委員会の社会教育主事など）の専門職や民間教育産業（生涯学習支援専門職）への就職、図書館司書などを目指すモデルです。

【志向するキャリア】

- 図書館・美術館・博物館・カルチャーセンターの専門職企業（放送・出版・研修・人材派遣・ホテル・教育産業）の総合職
- 公務員（公共団体の生涯学習モデレーター・メセナ・公益法人・社会福祉事業）
- 大学院進学（比較文化領域、文化政策領域、生涯学習領域、文化・メセナ振興領域、文化ビジネス領域）

5 ELFの4単位免除の条件

- 教育実習をとまなう教職サブ免許取得を希望し、かつ、教育実習事前指導（サブ免許）の「P評価」（合格）を得られる者は、ELFの必修単位数を4単位以上とします。

凡例 履修条件 ●:必修科目 ◆:必修選択科目 無印:選択科目

他学科受講 △:教育学部のみ受講可 □:他学科「小学校課程特別履修」学生のみ受講可 ①:リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
COPR 106	教育インターンシップ (幼) C	1	50	春秋					●			●	●								
COPR 107	教育インターンシップ (幼) D	1	50	春秋					●			●	●								
ANTH 100	文化人類学	2	100	春秋				●	●												
ANTH 101	民俗学入門	2	100	秋				●	●												
SOC 102	社会学	2	100	秋							●										●
ECON 100	経済学 (国際経済を含む。)	2	100	春								●									●
POSC 100	政治学 (国際政治を含む。)	2	100	秋			2年次より履修可		●	●											●
E D 107	ボランティア概論	2	100	秋										●	●						
CWC 101	比較文化論	2	100	春秋				●													
RST 100	世界の宗教と文化	2	100	秋				●													
LAW 100	市民社会と法	2	100	秋								●									
HIST 101	日本史概論	2	100	春					●			●									
P E 105	体育実技 (体操)	1	100	秋					●			●									●
P E 106	体育実技 (陸上)	1	100	秋					●			●									●
P E 104	体育実技 (スキー)	1	100	秋					●			●									●
LIBS 109	図書館情報資源概論	2	100	秋						●											
LIBS 110	図書館情報資源特論	1	50	春						●											
E D 207	全人教育実践演習 A	2	100	春	●				●			●									●
E D 208	全人教育実践演習 B	2	100	秋	●				●			●									●
TED 201	総合的な学習の時間の理論と方法	1	50	春								●									●
TED 203	特別活動の理論と方法	1	50	春秋		□			●				●								
TED 205	特別支援教育	1	50	秋	●		3年次より履修可					●						●			
TED 214	幼児理解と教育相談	2	100	春秋					●			●									
TED 212	幼児教育課程論	2	100	春秋					●			●									
TED 213	幼児指導論	2	100	春秋					●					●							
TED 207	保育内容指導法 (健康)	2	100	春秋					●			●									
TED 209	保育内容指導法 (人間関係)	2	100	春秋					●			●									
TED 206	保育内容指導法 (環境)	2	100	春秋					●			●									
TED 208	保育内容指導法 (言葉)	2	100	春秋					●			●									
TED 210	保育内容指導法 (表現)	2	100	春秋					●			●									
SUBP 208	国語科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 211	社会科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 210	算数科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 227	理科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 219	生活科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 201	音楽科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 205	家庭科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 218	図工科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 220	体育科指導法	2	100	春秋		□			●			●									
SUBP 204	外国語 (英語) 指導法	2	100	春秋					●												
HIST 206	日本史各論 A	2	100	秋					●			●									
HIST 207	日本史各論 B	2	100	秋					●			●									
HIST 200	外国史概論	2	100	春				●	●			●									
HIST 201	外国史各論 A	2	100	秋				●	●			●									
HIST 202	外国史各論 B	2	100	秋				●	●			●									
HIST 204	西洋文化史	2	100	秋				●	●			●									
HIST 205	東洋文化史	2	100	秋				●	●			●									
GEOG 201	地理学概論	2	100	春			①		●			●									
GEOG 200	観光地誌論	2	100	春					●			●									●
PHIL 203	西洋哲学思想史	2	100	春			①		●			●									
PHIL 205	東洋思想史	2	100	春			①		●			●									
SCED 203	地球科学	2	100	春秋					●												
SCED 200	宇宙科学	2	100	春秋					●												
P E 201	体育実技 (水泳)	1	100	春								●		●							●
P E 202	体育実技 (ダンス)	1	100	秋								●		●							●
P E 200	体育実技 (球技 A)	1	100	秋								●		●							●
HHS 209	体育原理	2	100	春					●					●							
SOC 207	体育社会学	2	100	秋					●					●							●
HHS 210	体育測定評価	2	100	秋					●		●										
HHS 207	生理学 (運動生理学を含む。)	2	100	春					●												

凡例 履修条件 ●:必修科目 ◆:必修選択科目 無印:選択科目

他学科受講 △:教育学部のみ受講可 □:他学科「小学校課程特別履修」学生のみ受講可 ①:リベラルアーツ学部のみ受講可

■:他学科教職課程受講学生のみ受講可

科目記号 / 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力												
								知識・理解			汎用的技能				態度・志向性					
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミュ ニ ケー ション スキ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
HHS 200	衛生学	2	100	春				●											●	
HHS 202	公衆衛生学	2	100	春				●											●	●
HHS 201	学校保健	2	100	春				●											●	
SUBP 225	保健体育科指導法 I	2	100	春				●			●									
SUBP 226	保健体育科指導法 II	2	100	秋				●			●									
MUSE 200	博物館概論	2	100	春				●	●											
MUSE 205	博物館資料論	2	100	秋				●		●										
MUSE 201	博物館教育論	2	100	秋				●			●									●
E D 303	現代教育研究 I	2	100	春	●					●	●									●
E D 304	現代教育研究 II	2	100	秋	●					●	●									●
TED 301	教育課程編成論	2	100	春		□					●									
TED 317	道徳教育の理論と方法	2	100	春秋		□												●	●	
TED 314	生徒・進路指導の理論と方法	2	100	秋		□			●											●
TED 311	教育相談の理論と方法	2	100	春		□					●									●
PSY 304	臨床心理学	2	100	春	△	①			●		●									●
HIST 302	日本の伝統文化と歴史	2	100	春					●			●								●
HIST 301	日本と外国の歴史	2	100	春					●			●								
HIST 303	歴史資料情報論	2	100	秋					●		●	●								
GEOG 301	人文地理学	2	100	春					●			●								
GEOG 300	自然地理学	2	100	春					●			●								
GEOG 304	地理情報論	2	100	春					●		●	●								
GEOG 302	地誌学概論	2	100	春					●			●								●
E D 306	世界の教育と文化環境	2	100	春秋				●	●											●
E D 305	現代社会の教育課題	2	100	春秋					●			●							●	
E D 300	ICT利活用の授業実践	2	100	春秋		■			●		●									●
LAW 301	法律学 (国際法を含む。)	2	100	春					●			●								●
SUBP 305	社会科・公民科指導法 I	2	100	春					●			●								
SUBP 306	社会科・公民科指導法 II	2	100	秋					●			●								
SUBP 307	社会科・地理歴史科指導法 I	2	100	春					●			●								
SUBP 308	社会科・地理歴史科指導法 II	2	100	秋					●			●								
SUBP 315	保健体育科指導法 III	2	100	春					●			●								
SUBP 316	保健体育科指導法 IV	2	100	秋					●			●								
P E 300	運動部活動の指導法	2	100	秋					●			●								
P E 301	体育実技 (球技 B)	1	100	秋							●			●						●
P E 302	体育実技 (武道)	1	100	秋					●			●								●
HHS 304	体育心理学	2	100	秋					●			●								
HHS 303	体育経営管理学	2	100	春					●			●								
HHS 300	運動学 (運動方法学を含む。)	2	100	春					●			●								
HHS 301	栄養学	2	100	春								●								
HHS 305	病理学	2	100	秋					●			●								
TED 310	教育実習 (幼稚園)	5	-	春秋					●			●			●					
TED 304	教育実習 (小学校)	5	-	秋春					●			●			●					
TED 305	教育実習 (中学校)	5	-	秋春					●			●			●					
TED 303	教育実習 (高等学校)	3	-	秋春					●			●			●					
TED 308	教育実習 (副・幼稚園)	3	-	春秋					●			●			●					
TED 306	教育実習 (副・小学校)	3	-	秋春					●			●			●					
TED 307	教育実習 (副・中学校)	3	-	秋春					●			●			●					
LIBS 300	学習指導と学校図書館	2	100	春						●										●
E D 400	卒業課題研究 I	2	100	春	●						●	●								●
E D 401	卒業課題研究 II	2	100	秋	●						●	●								●
TED 404	教職実践演習 (幼)	2	100	秋					●			●			●					
TED 402	教職実践演習 (小)	2	100	秋					●			●			●					
TED 403	教職実践演習 (中・高)	2	100	秋					●			●			●					

【履修にあたって】

- (1) 必修科目、必修選択科目の履修にあたっては、卒業要件 (p.159) を参照してください。
- (2) A、B、Cがついている同一名称の授業科目は、履修の順番を問いません。
- (3) I・IIなどのローマ数字がついている同一名称科目は原則としてその順番で履修してください。
- (4) 「図工」「音楽」「理科」「コンピュータと学習支援」など、設備の関係上受講人数に定員がかかる科目があります。登録の際には必ず教務担当教員の指示に従って手続きをしてください。
- (5) 教育実習は、事前指導、現場実習、事後指導の3区分により構成されています (現場実習を行うにあたっては必ず事前指導を修得済みであること)。

教育学部 乳幼児発達学科

1 カリキュラム・ポリシー

教育学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下に明示する。
* 通信教育課程は別に明示する。

全人教育および12の教育信条を教育課程の編成の根本に据えつつ、教育職員免許法施行規則第六条の区分、児童福祉法施行規則および指定保育士養成施設指定基準を踏まえて科目を開設し、基礎的・概論的な科目から各論的・実践的な科目、さらにより発展的な内容の科目へと履修を進めていくことができるように科目を配列している。

教育学部が課程認定を受けている教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格のうち、原則として1つまたは2つの免許・資格取得が可能である。そのために、2年次より学科別、あるいは専攻別に、学生各自の進路・志望に従って教育職員免許状、保育士資格、あるいはその他の資格取得に必要な科目を履修し、所定の単位認定を受けることで免許状・資格を取得する。

同時に、多様なキャリアを模索することのできる社会人としての資質・能力を高める機会、社会の急激な変化に対応することのできる人間として普遍的に求められる知識・技能、そして教養を偏ることなく学ぶ機会、そして、既存の知識体系に固執せず、常に新しい知識を対話的な深い学びを通して獲得し、知的探究心を高める機会となる科目構成を提供する。

また、卒業後に専門性のさらなる深化の一助となる大学院進学を念頭に置いた科目も併せて提供する。

[1年次]

- 全学共通の初年次教育であるユニバーシティ・スタンダード科目、玉川教育・FYE科目、情報リテラシー科目に加えて、基礎的な言語操作力（特に外国語の知識・学力）を育成するためのELF科目を修得する。
- 教育・保育の基礎段階となる「教育学概論」および「**保育者論**」を必修科目として修得する。

[1年次後半から2年次]

- 教育・保育の理論的基礎となる科目群から、必修選択科目として3科目以上を修得する。
- 教育学部が定める階級の英語・国語・数学各分野の検定・資格を2年次末までに取得していることを3年次以降の科目履修の基本とする。
- 教育インターンシップや学校・福祉ボランティアの機会を重視し、現場での子どもとの関わりや活動から自身の進路・志望を明確化する。

[3年次、4年次]

- 各自の興味・関心の高い分野に関して専門的・学術的に学修・研究を行う「現代教育研究Ⅰ」および「現代教育研究Ⅱ」、「卒業課題研究Ⅰ」および「卒業課題研究Ⅱ」を必修科目として修得する。
- 教育インターンシップや学校・福祉ボランティアに加えて、教育実習や保育実習では、現場に行く機会を重視し、子どもとの関わりや活動から、教員・保育士としての専門性を深める。
- 教育実習では、現場で子どもと関わる機会を重視し、学級活動や課外活動を観察し、課題解決的な授業を実践することを通して教員としての専門性を深める。

[学修成果の評価]

- 各科目の評価基準はルーブリックとしてシラバスに示す。卒業研究の評価は学部で定めた共通の評価基準によって行う。

乳幼児発達学科

乳幼児発達学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のように編成・実施する。

- 教育・保育を学修する上で基盤となる科目並びに教職に関する基礎科目を修得する。
- 現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培うユニバーシティ・スタンダード科目を修得する。
- 幼稚園の教員、保育士の養成を目指し、1年次から4年次にかけて段階的に教育インターンシップや教育・保育実習に取り組み、実践的な学びと理論的な学びを交差させて履修することで、学修内容の相乗効果が促されるよう配列された科目を修得する。
- 教育・保育の歴史や、制度、方法など新たな国の動向や課題を理解し、幼稚園の教員や保育士に必要な教育・保育全般の知識・技能が習得されるように科目を配列し、免許状および資格の取得を目指す。
- 教育・保育に対する全般的な知識・技能の修得を基盤とし、さらに、幼稚園の教員や保育士の専門性となる、人の育ちに関わる職種、子育て支援、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育などの分野での社会貢献を促す援助・支援のあり方に関する科目を修得する。

2 卒業要件

乳幼児発達学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

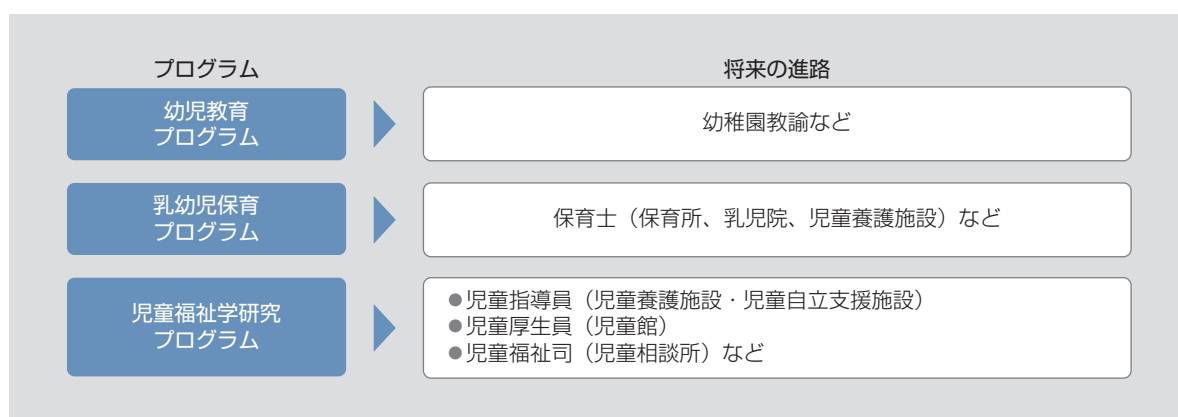
- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」
「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
- (5) 教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
〈必修科目〉 自然科学科目群：「情報科学入門」（2単位）
教職関連科目群：「体育」（1単位）
〈必修選択科目〉 人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群：「名著講読（人文科学）」
「名著講読（社会科学）」「名著講読（自然科学）」より2科目（2単位）
言語表現科目群：「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」
「ELF401」「ELF402」より1科目（4単位）
- (6) 学科科目について次の必修科目および必修選択科目を修得していること
100番台科目より：
〈必修科目〉 「教育学概論」「保育者論」（4単位）
〈必修選択科目〉 「教育哲学」「保育の心理学」「教育方法学」「教育社会学」
「子どもと~~家族~~の発達心理学」「~~教育行政学~~」の6科目より3科目（6単位）
200番台科目より：
~~家庭~~ 5
〈必修科目〉 「全人教育実践演習A」「全人教育実践演習B」（4単位）
300番台科目より：
〈必修科目〉 「現代教育研究Ⅰ」「現代教育研究Ⅱ」「~~特別支援教育~~」（6単位）
400番台科目より：
4
〈必修科目〉 「卒業課題研究Ⅰ」「卒業課題研究Ⅱ」（4単位）

3 卒業までの単位配分

科目群	科目分類	必要単位数	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目	7単位	
	教育学部指定ユニバーシティ・スタンダード科目	9単位以上	
乳幼児発達学科科目群	必修科目	16	108単位
	必修選択科目	6単位以上	
	自由選択科目	任意（注1）	
累積修得単位		124単位以上	

（注1）選択科目は教育学部科目、ユニバーシティ・スタンダード科目、他学部他学科科目、500番台科目、単位互換科目を含む

4 履修モデル



履修モデル A 幼稚園教諭を目指すモデル

現在、全国各地で数多くの卒業生が現職の幼稚園教諭として活躍しており、各方面から高い評価を得ていることが、このモデルへの強い動機づけとなっています。

このモデルでの学修を通して、幼児教育のプロフェッショナルに求められる専門的知識・技術を修得し、子供の成長・発達、学問の進展、社会のニーズといった諸側面からの確に幼児教育を捉え、幼児教育を通じて社会文化の発展を担える専門職の養成を行います。

【志向するキャリア】

- 主に国公立の幼稚園の教員

履修モデル B 保育所の保育士、乳児院、児童養護施設等の専門職や幼稚園教諭を目指すモデル

乳幼児、就学前の保育や教育にかかわる専門職の育成ニーズは、未だに増加の傾向にあります。

その理由には、就学前の保育や教育の多様化があります。少子化の一方で、女性労働の増加、一人の子供に対する多様な保育および教育のニーズが発生しており、こうしたニーズに応えます。

【志向するキャリア】

- 保育所、その他の児童福祉施設（乳児院・児童養護施設等）の専門職
- 幼稚園、認定こども園、子育て支援施設、大学院進学（乳幼児科学領域）等

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件	他学科受講	備考	授業を通して修得できる力													
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	
COPR 115	保育インターンシップ D	1	50	春秋					●				●	●							
E D 207	全人教育実践演習 A	2	100	春	●				●												●
E D 208	全人教育実践演習 B	2	100	秋	●				●												●
TED 211	保育の心理学	2	100	春	◆				●				●								
TED 214	幼児理解と教育相談	2	100	秋					●				●								
TED 213	幼児指導論	2	100	春秋			3年次より履修可		●							●					
TED 207	保育内容指導法(健康)	2	100	春秋			3年次より履修可		●				●								
TED 209	保育内容指導法(人間関係)	2	100	春秋					●				●								
TED 206	保育内容指導法(環境)	2	100	春秋			3年次より履修可		●				●								
TED 208	保育内容指導法(言葉)	2	100	秋春			3年次より履修可		●				●								
TED 210	保育内容指導法(表現)	2	100	春秋					●				●								
MUS 200	音楽(幼)	2	100	秋春					●												
HHS 208	体育(幼)	2	100	春秋										●							
E D 202	子どもの遊びと育ち	2	100	春秋					●												
SOC 203	子ども家庭福祉	2	100	春																●	
HHS 203	子どもの健康と安全	1	100	春					●												
ECEC 200	乳児保育 I	2	100	秋					●											●	
COMM 206	人間関係論	2	100	秋		△			●												●
E D 303	現代教育研究 I	2	100	春	●								●	●							●
E D 304	現代教育研究 II	2	100	秋	●								●	●							●
TED 318	保育カリキュラム論	2	100	春					●				●								
E D 301	救急処置法	2	100	春秋		△							●								●
ECEC 302	社会的養護	2	100	春																	●
HHS 302	子どもの食と栄養	2	100	春秋					●												
ECEC 306	乳児保育 II	1	100	春					●												●
ECEC 303	社会的養護演習	1	100	秋																	●
ECEC 300	家族支援論	2	100	秋																	●
ECEC 304	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 I	1	100	春					●												●
ECEC 305	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 II	1	100	秋					●												●
ECEC 301	児童文化	2	100	春秋					●												●
ECEC 309	保育実践論 A	2	100	春秋									●								●
TED 309	教育実習(幼稚園1種)	5	-	春秋					●				●		●						
ECEC 308	保育実習指導 I	2	100	春秋									●								
ECEC 307	保育実習 I	4	-	春秋					●				●								
E D 402	卒業課題研究 I	2	100	春	●								●	●							●
E D 403	卒業課題研究 II	2	100	秋	●								●	●							●
TED 405	保育・教職実践演習	2	100	秋									●		●						
SOC 400	子ども家庭支援論	2	100	春秋									●								
ECEC 400	子育て支援演習	1	100	春秋									●								
SOC 401	子どもと家族の福祉	2	100	春秋																	●
ECEC 405	保育実践論 B	2	100	春秋									●								●
ECEC 406	保育実践論 C	2	100	春秋									●								●
ECEC 403	保育実習指導 II	1	100	春秋										●							
ECEC 404	保育実習指導 III	1	100	春秋										●							
ECEC 401	保育実習 II	2	-	春秋					●				●								
ECEC 402	保育実習 III	2	-	春秋					●				●								

【履修にあたって】

- (1) 必修科目、必修選択科目の履修にあたっては、卒業要件 (p.165) を参照してください。
- (2) I・IIなどのローマ数字がついている同一名称科目は原則としてその順番で履修してください。
- (3) A、B、Cがついている同一名称の授業科目は、履修の順番を問いません。
- (4) 「保育実践論 A～C」など、設備の関係上受講人数に定員がかかる科目があります。登録の際には必ず教務担当教員の指示に従って手続きをしてください。
- (5) 教育実習は、事前指導、現場実習、事後指導の3区分により構成されています(現場実習を行うにあたっては必ず事前指導を修得済みであること)。
- (6) 「保育実習指導 II・III」を履修するためには、「保育実習指導 I」を事前に修得しておく必要があります。
- (7) 「保育実習 II・III」を履修するためには、「保育実習 I」を事前に修得しておく必要があります。

芸術学部

パフォーマンス・アーツ学科

メディア・デザイン学科

芸術教育学科

人材養成等教育研究に係る目的

芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な陶冶を基本理念として、総合大学における芸術学部の特徴を活かした芸術教育を目指している。芸術創造、芸術応用、芸術企画・経営、芸術研究の各領域を学びの指針として、学部段階教育を踏まえた芸術教養を基に体系的な専門知識と技能、および実践力の修得を図る。また理論的・実践的側面を統合的に学習することを通して、多様な芸術表現の可能性と芸術活動の支援的側面を探求し、我が国の文化芸術の特徴を活かした芸術による社会貢献を推進し得る人材の育成、および玉川大学の教員養成の実績を背景に、創造性豊かな実践的指導力を備えた、中・高教員（音楽・美術・工芸）の養成を目的とする。

パフォーマンス・アーツ学科は、パフォーマンス・アーツの体系的理解に基づき現代社会における上演芸術や身体表現の役割を学修し、コミュニケーション能力と総合的実践力の育成を通して社会に貢献できる人材を育成する。

メディア・デザイン学科は、メディアアートとデザインの分野における幅広い知識とデジタル技術の修得を活かし、知識基盤社会、高度情報通信ネットワーク社会における日本の文化産業の発展に貢献できる職業人を養成する。

芸術教育学科は、芸術と教育に関する基礎的な知識と技能を体系的に修得し、人間理解を基礎に「芸術による教育」を学校教育や社会教育等の現場において、指導的な立場から先導的に推進できる人材を養成する。

芸術学部 ディプロマ・ポリシー

芸術学部では、所定の課程で芸術に関する専門的知識を修得し、かつ論理的思考力・コミュニケーション能力を有すると認められた人に、学位を授与します。

- ① 芸術に関する基礎的な知識を幅広く修得するとともに、得意とする芸術分野の専門的な知識を体系的に理解し、体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解できる。
- ② 芸術に関する知識や技能を総合的に活用し、現代の諸問題の解決に主体的に取り組み、社会に貢献することができる。
- ③ 異文化、多文化の存在を認めつつ、異なった価値観をもつ人々と協働する際に必要な知識と技能、および豊かな表現力を身につけている。
- ④ 社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、社会の規範やルールに従って適切な行動ができる。

[パフォーミング・アーツ学科]

- ① 豊かな芸術的感性と公共性、倫理性を育成する。
- ② 諸団体や地域との連携を強化し、社会の求める上演芸術に積極的に関与できる力を育成する。
- ③ 日本語および英語の「読む、書く、聞く、話す」の4技能の発展を重視する。

[メディア・デザイン学科]

- ① メディアアートとデザインに関する幅広い知識を習得させる。(知識・理解)
- ② デジタル時代における芸術の役割を理解し、自ら課題を発見し、それを解決できる力を習得する。(思考・判断)
- ③ 我が国の文化芸術に興味と関心を持ち、多様な価値観と共生できる力を習得させる。(関心・意欲)
- ④ 社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、高い倫理観を持ち、芸術の振興に取り組む素地を体得している。(態度)
- ⑤ 日本語および外国語の「読む・書く・聞く・話す」4技能の発展のほか、メディアリテラシーを基盤とした研究調査力、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを育成する。(知識・技能)
- ⑥ メディアアートとデザイン分野における応用力や表現力、創造力を身につけさせる。(技能・表現)

[芸術教育学科]

- ① 音楽あるいは美術・工芸の分野と教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識や技能を習得させる。(知識・理解)
- ② 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を習得させる。(思考・判断)
- ③ 我が国の芸術教育に興味と関心を持ち、多様な価値観と共生できる力を習得させる。(関心・意欲)
- ④ 社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、高い倫理観を持ち、芸術教育のさらなる充実に取り組む素地を体得している。(態度)
- ⑤ 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力をはじめ、応用力、表現力、創造力を身につけさせる。(技能・表現)

1 はじめに

- 芸術学部は、建学の精神と学部の定める人材育成の目標（p.171）、そして学科ごとの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー、p.172）に基づいて、体系化された教育課程（カリキュラム）を編成しています。ここではそのうち芸術学部全体に共通する部分について説明します。

2 カリキュラムの特徴

1 段階的な科目編成と「科目番号」

- 芸術学部各学科のカリキュラムは「ユニバーシティ・スタンダード（US）科目」と「学科科目」の2種類から構成されています。
- すべての「学科科目」は開講学期および科目番号に従って段階別に編成されています。これによりどのような分野においても、効率的に自身の能力を高めていくことができます。

2 学士号の取得と「履修条件」

- 各学科のカリキュラムは、芸術の多様な分野のそれぞれを効率的に学ぶことができるように設計されています。加えて私たち芸術学部は、そのうちどの分野を選ぶ場合でも「学士（芸術学）」として必要な実技と理論、そして英語力をはじめとするコミュニケーション能力を、バランスよく身につけることが必要だと考えています。
 - このため芸術学部のいくつかの科目には、「必修」や「選択必修」、そのほか同時履修や先行履修条件（プリ・リクイジット）*など、各種の履修条件が設定されています。この条件を守りながら学修を進めていくことではじめて、それぞれのジャンルの専門的な知見と広い視野、そして「学士（芸術学）」として必要な能力を修得することが可能になります。
 - 各学科のカリキュラムについての詳細はp.176以降に記載されています。
- *「先行履修条件」は、所定の試験に合格するなど、その科目を履修する能力があると認められる場合に免除されることがあります（これを「認定」と呼びます）。

▶単位のしくみ

参照「履修ガイド」
p.19

▶ユニバーシティ・スタンダード科目

参照「履修ガイド」
p.53～58

3 卒業要件

芸術学部各学科の卒業要件は、学部で定めた学位授与の方針（p.172「ディプロマ・ポリシー」参照）とカリキュラム編成の方針に基づいて設定されています。詳細は各学科の該当ページを参照してください。

4 卒業までの単位配分

- 卒業までに必要な単位数は、第1セメスターから第8セメスターまで、合計124単位です。
その内訳は次のとおりです。

科目群	科目分類	パフォーマンス・アーツ学科	メディア・デザイン学科	芸術教育学科
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群 必修	7単位	7単位	7単位
	人文科学科目群 社会科学科目群 自然科学科目群 学際科目群 言語表現科目群	学科の定める必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること 2単位以上 2単位以上 2単位以上 4単位以上 8単位以上	学科の定める必修および必修選択科目の単位を含み、次に指定する単位数を修得していること 2単位以上 2単位以上 2単位以上 4単位以上 8単位以上	音楽コース、美術・工芸コースそれぞれの定める必修および必修選択科目の単位を修得していること
学科学目	100番台科目	〈必修〉 「パフォーマンス・アーツ概論」 2単位 「身体表現Ⅰ」 2単位 「音楽表現Ⅰ」 2単位 「舞台技術・企画構想Ⅰ」 2単位 「パフォーマンスⅠ」 2単位 「パフォーマンスⅡ」 2単位 〈必修選択科目〉 「演劇理論」 2単位 「音楽理論」* 2単位 ※芸術教育学科科目 上記2科目より1科目 2単位	〈必修〉 「メディア・デザイン概論」 2単位 「メディア・デザイン理論基礎Ⅰ」 2単位 「メディア・デザイン理論基礎Ⅱ」 2単位 「メディア・デザイン演習基礎Ⅰ」 2単位 「メディア・デザイン演習基礎Ⅱ」 2単位	〈必修〉 「芸術教育概論」 2単位 「音楽理論」(音楽コース) 2単位 「美術理論」(美術・工芸コース) 2単位
	200番台科目	〈必修〉 「パフォーマンスⅢ」 2単位 〈必修選択〉 「身体表現Ⅱ」 「音楽表現Ⅱ」 「舞台技術・企画構想Ⅱ」 上記3科目より2科目 8単位 「身体表現Ⅲ」 「音楽表現Ⅲ」 「舞台技術・企画構想Ⅲ」 上記3科目より2科目 8単位	〈必修〉 「文化立国論」 2単位 「国際日本学」 2単位	—
	300番台科目	〈必修選択科目〉 「身体表現上級Ⅰ」 「音楽表現上級Ⅰ」 「舞台技術上級Ⅰ」 「企画構想上級Ⅰ」 上記4科目より1科目 4単位 「身体表現上級Ⅱ」 「音楽表現上級Ⅱ」 「舞台技術上級Ⅱ」 「企画構想上級Ⅱ」 上記4科目より1科目 4単位	〈必修〉 「芸術表現学」 2単位 「芸術コミュニケーション演習」 2単位 「メディア・デザイン研究Ⅰ」 2単位 「メディア・デザイン研究Ⅱ」 2単位 「芸術理論研究Ⅰ」 2単位 「芸術理論研究Ⅱ」 2単位	〈必修〉 「芸術教育研究Ⅰ」 2単位
	400番台科目	—	〈必修〉 「卒業プロジェクト演習Ⅰ」 2単位 「卒業プロジェクト演習Ⅱ」 2単位	〈必修〉 「芸術教育研究Ⅱ」 2単位 「芸術教育研究Ⅲ」 2単位
自由選択科目*	必修・必修選択科目を除く、ユニバーシティ・スタンダード科目余剰単位分の科目、各学科開講科目、および他学部・他学科開講科目			
累積修得単位	124単位以上			

- * 他学部・他学科の科目は、科目によっては、受講できない場合があります。受講を希望する学科の課程表で、その科目が受講可能かを確認し、履修してください。

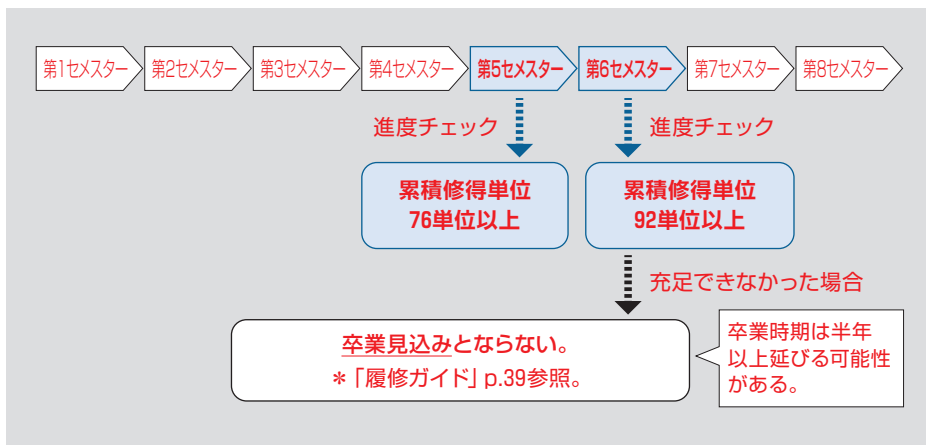
5 警告制度と進捗チェック

- 芸術学部では、一人ひとりの学生の学修状況が学士課程の修了に向けて適切に進んでいるかをチェックするために、「警告制度」と「進捗チェック」を定めています。

■警告

本ガイドp.37にある「警告制度」の説明を参照してください。

■第5 Semester終了時および第6 Semester終了時における進捗チェック



- 第5 Semester終了時に累積修得単位数が76単位未満の場合は、大学より通知が届きます。
- 第6 Semester終了時に累積修得単位数が92単位未満の場合は、卒業見込みとなりません。単位数が満たなかった場合は大学より通知が届きますので、記載された指示に従ってください。
- 第7 Semester以降、累積修得単位数が92単位以上になるまで卒業見込みとならず、卒業が半年以上延びる可能性があります。なお、卒業見込みとならなかった場合は、卒業見込証明書（学士）の発行申請ができません。

■注意レベル単位数

各 Semester で修得すべき必修科目の単位数も含めて累積修得単位数が「注意レベル単位数」を下回ることがないように注意してください。

「注意レベル単位数」未満の場合、4年間で卒業できなくなる可能性があります。

年次	1		2		3		4	
Semester	1	2	3	4	5	6	7	8
注意レベル単位数	12	28	44	60	76	92	108	—

6 履修モデル

- 芸術学部の各学科では、学修の分野と卒業後の進路に応じた複数の「履修モデル」を用意しています。このモデルを参照しながら履修計画を立てることで、正しく、効率的に、自身の求める学修成果や、取得を希望する免許・資格に近づくことができます。それぞれの履修モデルについては各学科の該当ページを参照してください。

▶警告

参照『履修ガイド』
p.37

▶卒業見込み

参照『履修ガイド』
p.39

芸術学部 パフォーミング・アーツ学科

1 カリキュラム・ポリシー

- パフォーミング・アーツ学科では、演劇・舞踊・音楽の上演芸術の学びを通じて、人間関係力（コミュニケーション）、異種混合結合力（コーディネーション）、創造構想発信力（プロデュース）などの豊かな資質と能力を備えた、アートで社会をつなぐプロフェッショナルを養成する。この目的を達成するため、カリキュラムを次の4つの方針に従って編成している。

- ① ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目を100番台から400番台科目まで順次履修することで、教育と芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。
- ② 上演芸術全般（演劇・舞踊・音楽・舞台技術・企画構想）に関する基礎的な知識・技能を幅広く修得するため、『身体表現』、『音楽表現』、『舞台技術』『企画構想』を、基礎科目から上級科目まで配置する。
上演芸術を取り巻く要素を体系的かつ多面的に学び、自己の適正を判断するために、『身体表現Ⅰ』、『音楽表現Ⅰ』、『舞台技術・企画構想Ⅰ』および『パフォーミング・アーツ概論』は必修とする。
2年次はこれらの分野から2科目を選択する。
3・4年次ではこれらの分野から1科目を選択することで、自身の専門性を深めていく。
卒業年次には学修の成果を「創作」「公演」「演奏」「論文」から適した形式で発表することで、課題に継続的に取り組み、主体的かつ能動的に学ぶ態度を身につけることを目的とする。
- ③ 芸術に関する知識を、歴史、社会、自然と関連付け、体系的に理解できるようにするために、『演劇史』、『演劇理論』、『西洋演劇』、『音楽史』、『音楽理論』等の科目を開設する。
- ④ 社会の諸問題についての関心と理解を深め、諸問題の解決に取り組むための知識・態度を身につけるために『文化政策概論』や『芸術応用(アウトリーチ)』を開講する。
また、上演芸術の社会における役割と必要性を認識するために『インターンシップ』『フィールドワーク』を開設する。
- ⑤ 修得した知識や技能を活用して実践することで、豊かな表現力と社会人としての倫理性を会得できるようにするために、1年次から4年次まで継続的に『パフォーマンス』を開設する。諸団体や地域との連携を強化し、社会の求める上演芸術に関与できる基礎力を修得するため『パフォーマンスⅠ』『パフォーマンスⅡ』『パフォーマンスⅢ』は必修とする。
『パフォーマンス』では、自らの研究・考察を論理的かつ的確に表現し、上演を成功に導くための協働、創作を行う。観客や聴衆に成果を披露する公演や演奏会の企画・製作・出演をグループで行うことを通して、異なった価値観をもつ人々と協働する知識・技能・表現力を身につけ、社会の一員として課題を発見し、能動的かつ主体的に解決できる広い視野と高い専門性を育むことを目的とする。

- なお分野ごとの標準的な学修内容は後述する「履修モデル」によって示されています（p.178～179参照）。

2 卒業要件

パフォーマンス・アーツ学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時の累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
〈必修選択科目〉 人文科学科目群：「音楽史」または「演劇史」のいずれか1科目（2単位）
言語表現科目群：「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」より2科目（8単位）
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より、上記（4）で示した必修および必修選択科目の単位を含む、次に指定する単位数を修得していること
人文科学科目群：2単位以上 社会科学科目群：2単位以上
自然科学科目群：2単位以上 学際科目群：4単位以上
言語表現科目群：8単位以上
以上計18単位以上。
- (6) 学科科目について、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
100番台科目より：
〈必修科目〉 「パフォーマンス概論」「身体表現Ⅰ」「音楽表現Ⅰ」「舞台技術・企画構想Ⅰ」「パフォーマンスⅠ」「パフォーマンスⅡ」
〈必修選択科目〉 「演劇理論」または「音楽理論」（芸術教育学科科目）のいずれか1科目（2単位）
200番台科目より：
〈必修科目〉 「パフォーマンスⅢ」
〈必修選択科目〉 「身体表現Ⅱ」「音楽表現Ⅱ」「舞台技術・企画構想Ⅱ」の3科目より2科目（8単位）
「身体表現Ⅲ」「音楽表現Ⅲ」「舞台技術・企画構想Ⅲ」の3科目より2科目（8単位）
300番台科目より：
〈必修選択科目〉 「身体表現上級Ⅰ」「音楽表現上級Ⅰ」「舞台技術上級Ⅰ」「企画構想上級Ⅰ」の4科目より1科目（4単位）
「身体表現上級Ⅱ」「音楽表現上級Ⅱ」「舞台技術上級Ⅱ」「企画構想上級Ⅱ」の4科目より1科目（4単位）

3 履修上の留意事項

- 学科科目で、科目名にローマ数字の記載のあるもの、またそのほかに教育課程表中に指定のある科目を履修するためには、必ず事前ガイダンスに出席しなければなりません。

4 取得可能な資格

- パフォーマンス・アーツ学科では所定の科目の単位を修得し、また所定の条件を満たすことで、次の資格を取得することができます。

■ 学芸員

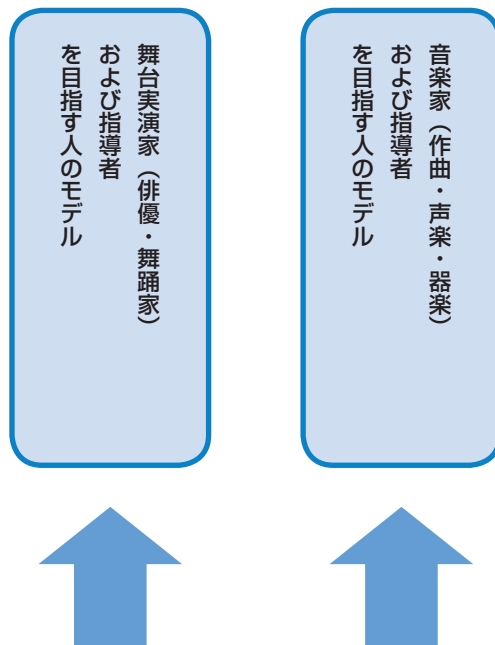
本履修ガイドp.232～233の「学芸員」を参照してください。

■ その他の資格および修了証

本履修ガイドp.223の「取得できる各種資格・修了証等一覧」を参照してください。

- * 複数の免許・資格・修了証の同時取得については、4年間の在学で可能なものとそうでないものがあります。詳細は随時行われるガイダンスの内容を参照してください。

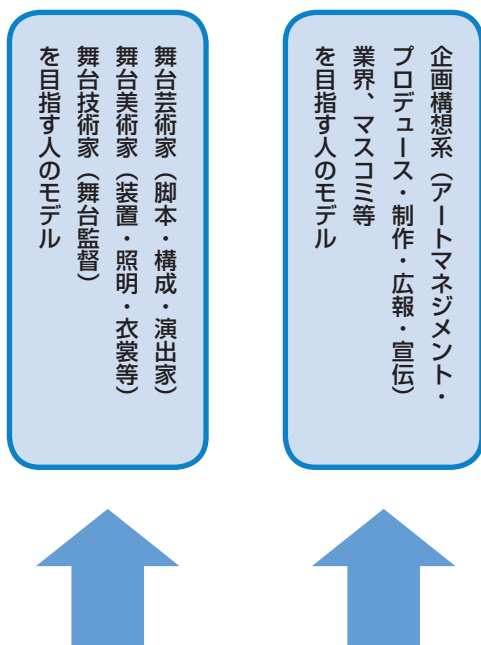
5 パフォーミング・アーツ学科 履修モデル



400番台	4年次	秋	身体表現上級Ⅳ ④	音楽表現上級Ⅳ ④	選択	パフォーマンスⅧ ②	選択
				卒業創作・公演・演奏・論文 ②		～認定可～	
	4年次	春	身体表現上級Ⅲ ④	音楽表現上級Ⅲ ④	選択	パフォーマンスⅦ ②	選択
						～認定可～	
300番台	3年次	秋	身体表現上級Ⅱ ④	音楽表現上級Ⅱ ④	1科目必修	パフォーマンスⅥ ②	選択
				～認定可～		～認定可～	
	3年次	春	身体表現上級Ⅰ ④	音楽表現上級Ⅰ ④	1科目必修	パフォーマンスⅤ ②	選択
				～認定可～		～認定可～	
200番台	2年次	秋	身体表現Ⅲ ④ 音楽表現Ⅲ ④	音楽表現Ⅲ ④ 舞台技術・企画構想Ⅲ ④	2科目必修	パフォーマンスⅣ ②	選択
				～認定可～		～認定可～	
	2年次	春	身体表現Ⅱ ④ 舞台技術・企画構想Ⅱ ④	音楽表現Ⅱ ④ 身体表現Ⅱ ④	2科目必修	パフォーマンスⅢ ②	必修
100番台	1年次	秋	舞台技術・企画構想Ⅰ ② 音楽表現Ⅰ ②	身体表現Ⅰ ② 舞台技術・企画構想Ⅰ ②	全科目必修	パフォーマンスⅡ ②	必修
	1年次	春	身体表現Ⅰ ② PA概論 ②	音楽表現Ⅰ ② PA概論 ②		パフォーマンスⅠ ②	必修

※科目名のあとの丸数字は単位数

※認定についてはレベルチェックを行います。



400番台	4年次	秋	舞台技術上級Ⅳ ④	企画構想上級Ⅳ ④	選択	パフォーマンスⅧ ②	選択	
			卒業創作・公演・演奏・論文 ②				～認定あり～	
	4年次	春	舞台技術上級Ⅲ ④	企画構想上級Ⅲ ④	選択	パフォーマンスⅦ ②	選択	
						～認定可～		
300番台	3年次	秋	舞台技術上級Ⅱ ④	企画構想上級Ⅱ ④	1科目必修	パフォーマンスⅥ ②	選択	
			～認定可～	～認定可～		～認定可～		
	3年次	春	舞台技術上級Ⅰ ④	企画構想上級Ⅰ ④	1科目必修	パフォーマンスⅤ ②	選択	
			～認定可～	～認定可～		～認定可～		
200番台	2年次	秋	舞台技術・企画構想Ⅲ ④ 身体表現Ⅲ ④		2科目必修	パフォーマンスⅣ ②	選択	
			～認定可～			～認定可～		
	2年次	春	舞台技術・企画構想Ⅱ ④ 身体表現Ⅱ ④		2科目必修	パフォーマンスⅢ ②	必修	
100番台	1年次	秋	音楽表現Ⅰ ② 身体表現Ⅰ ②		全科目必修	パフォーマンスⅡ ②	必修	
	1年次	春	舞台技術・企画構想Ⅰ ② PA概論 ②			パフォーマンスⅠ ②	必修	

※科目名のあとの丸数字は単位数

※認定についてはレベルチェックを行います。

6 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中):集中開講
 履修条件 ●:必修科目 ○:事前ガイダンスに出席が必要 ◆:必修選択科目 無印:選択科目
 他学科受講 ○:他学科受講可 △:芸術学部のみ受講可 ㊦:リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力												
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性						
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力
ユニバーシティ・スタンダード科目																				
MUS 103	音楽史	2	100	春秋	◆			●												
THEA 100	演劇史	2	100	春秋	◆			●												
UNIV 107	人文科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1	50	春秋					●		●									
COPR 100	インターンシップ A	2	100	春秋					●			●	●							
COPR 101	インターンシップ B	2	100	春秋					●			●	●							
COPR 102	インターンシップ C	1	50	春秋					●			●	●							
COPR 103	インターンシップ D	1	50	春秋					●			●	●							
GLS 105	国際研究 A	2	300	秋春	○			●	●											
GLS 106	国際研究 B	2	300	秋春	○			●	●											
GLS 107	国際研究 C	2	300	秋春	○			●	●											
GLS 108	国際研究 D	3	450	秋春	○			●	●											
GLS 109	国際研究 E	4	600	秋春	○			●	●											
GLS 110	国際研究 F	5	750	秋春	○			●	●											
INTD 110	フィールドワーク A	2	100	春秋	○			●	●											
INTD 111	フィールドワーク B	2	100	春秋	○			●	●											
INTD 112	フィールドワーク C	2	100	春秋	○			●	●											
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋	◆				●											
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆				●											
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋	◆				●											
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春	◆				●											
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	◆				●											
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春	◆				●											
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋	◆				●											
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆				●											
学科専門科目																				
ART 113	パフォーミング・アーツ概論	2	100	春秋	●	△		●												●
MUS 105	音楽通論	2	100	春秋		△							●							●
THEA 101	演劇理論	2	100	春秋	◆	△			●				●	●						
THEA 102	劇場空間研究	2	100	春秋		△		●	●										●	
THEA 105	日本演劇・舞踊史	2	100	春秋		△			●			●								●
THEA 104	西洋演劇・舞踊史	2	100	春秋		△			●			●								●
THEA 103	身体表現 I	2	200	春秋	●				●	●			●							
MUS 106	音楽表現 I	2	200	春秋	●			●					●							●
ART 117	舞台技術・企画構想 I	2	200	春秋	●				●				●							
ART 111	パフォーマンス I	2	-	春(集中)	●○	○			●				●							
ART 112	パフォーマンス II	2	-	秋(集中)	●○	○			●				●							
THEA 201	身体表現 II	4	400	春	◆			●	●				●							
MUS 201	音楽表現 II	4	400	春	◆			●					●							●
ART 238	舞台技術・企画構想 II	4	400	春	◆				●	●		●		●						
THEA 200	構成演出論	2	100	春秋					●			●							●	
THEA 203	文化政策概論	2	100	春秋					●			●							●	
ART 219	ジャパン・アーツ	2	100	春秋		△		●	●											●
THEA 202	身体表現 III	4	400	秋	◆				●				●	●						
MUS 202	音楽表現 III	4	400	秋	◆			●					●							●
ART 239	舞台技術・企画構想 III	4	400	秋	◆				●											

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件	他学科受講	備考	授業を通して修得できる力													
								知識・理解		汎用的技能					態度・志向性						
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	
ART 235	パフォーマンスⅢ	2	-	春(集中)	●◎	○							●	●							
ART 236	パフォーマンスⅣ	2	-	秋(集中)	◎	○								●	●	●					
ART 207	芸術プロジェクトA	2	-	春(集中)				●		●					●						
ART 208	芸術プロジェクトB	2	-	秋(集中)				●		●					●						
ART 216	作家研究	2	100	春秋		△			●			●									●
ART 215	作品研究	2	100	春秋		△			●			●									●
ART 237	パフォーミング・アーツ演習	2	100	春秋					●						●	●					
THEA 300	身体表現上級Ⅰ	4	400	春	◆				●						●	●					
MUS 300	音楽表現上級Ⅰ	4	400	春	◆			●						●							●
THEA 302	舞台技術上級Ⅰ	4	400	春	◆							●									
ART 307	企画構想上級Ⅰ	4	400	春	◆				●			●	●								
THEA 301	身体表現上級Ⅱ	4	400	秋	◆							●				●					●
MUS 301	音楽表現上級Ⅱ	4	400	秋	◆			●						●							●
THEA 303	舞台技術上級Ⅱ	4	400	秋	◆							●	●								
ART 308	企画構想上級Ⅱ	4	400	秋	◆				●			●	●								
ART 315	パフォーマンスⅤ	2	-	春(集中)	◎	○			●					●	●						
ART 316	パフォーマンスⅥ	2	-	秋(集中)	◎	○			●					●	●						
ART 312	芸術プロジェクトC	2	-	春(集中)				●		●					●						
ART 405	芸術応用(アウトリーチ)	2	100	春秋					●	●											●
ART 408	芸術社会学	2	100	春秋		①			●			●									●
ART 411	卒業プロジェクト演習(パフォーマンス)	2	100	春秋					●							●					●
THEA 400	身体表現上級Ⅲ	4	400	春								●				●					●
MUS 400	音楽表現上級Ⅲ	4	400	春				●						●							●
THEA 402	舞台技術上級Ⅲ	4	400	春								●	●								
ART 403	企画構想上級Ⅲ	4	400	春					●			●	●								
THEA 401	身体表現上級Ⅳ	4	400	秋								●				●					●
MUS 401	音楽表現上級Ⅳ	4	400	秋				●						●							●
THEA 403	舞台技術上級Ⅳ	4	400	秋								●	●								
ART 404	企画構想上級Ⅳ	4	400	秋					●			●	●								
ART 414	パフォーマンスⅦ	2	-	春(集中)	◎	○								●		●	●				
ART 415	パフォーマンスⅧ	2	-	秋(集中)	◎	○								●			●				●
ART 410	卒業創作・公演・演奏・論文	2	-	春秋(集中)					●							●					●

【履修にあたって】

パフォーミング・アーツ学科の履修上の留意事項と履修モデル(主な科目)も併せて参照してください。

■ パフォーミング・アーツ学科プリ・リクイジット(先行履修条件科目)

下記科目は、先行履修の条件付き科目です。右欄の科目を修得済み(一部同時履修可)でないと履修できません。

授業科目名	プリ・リクイジット(先行履修科目)
ローマ数字(I・II・III・IV)のついている科目	数字の若い順に履修します。数字の途中からは履修できません。
身体表現上級Ⅰ	身体表現Ⅲ
音楽表現上級Ⅰ	音楽表現Ⅲ
舞台技術上級Ⅰ	舞台技術・企画構想Ⅲ
企画構想上級Ⅰ	舞台技術・企画構想Ⅲ

1 カリキュラム・ポリシー

●メディア・デザイン学科のカリキュラムは芸術学部の学位授与の方針に基づき、次の方針に従って編成している。

- ① ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目を100番台から400番台科目まで順次履修することで、芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。
- ② 学べる分野は造形系（デザイン、映像表現、CG、空間演出、総合造形等）と音楽系（コンピュータ音楽、作曲、音響合成、音響処理等）の2系統とし、理論とコンピュータスキルをバランスよく学ぶ課程を編成する。卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて、どちらかに重点を置きつつ、分野を横断できる教育課程を編成する。
- ③ 4年間の学修を、1年次の「導入期」、2年次の「発展期」、3・4年次の「専攻期」と段階的に位置づけ、芸術を通して社会に貢献する力を体系的に育成する。
- ④ 導入期（1年次）では、各メディア・デザインに関する基礎的な知識の修得、およびメディア・デザインの分野を体系的に捉え、論理的思考力やメディアリテラシーなどのアカデミックスキルを育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目の『マルチメディア表現』と合わせ、『メディア・デザイン概論』、『メディア・デザイン理論基礎Ⅰ・Ⅱ』の理論科目と『メディア・デザイン演習基礎Ⅰ・Ⅱ』のコンピュータスキルを修得する演習科目を必修とする。
同時に自らが進む専攻分野における入門科目を選択し、各分野の基礎力を修得させる。
- ⑤ 発展期（2年次）はメディア・デザインのみならず、日本文化やものづくりの歴史を理解するための理論および演習を学修する。卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて履修できるよう、主に選択科目として開設する。これからの日本のデザイン、メディア・アーツのあり方を考察し、世界の諸問題の解決に主体的に取り組む態度を身につけるために、『国際日本学』、『文化立国論』を必修とする。
- ⑥ 専攻期（3年次・4年次）では専攻分野を選択し学修させる。
同時に、選択科目として専攻に関連する分野、あるいは総合大学の利点を活かし、US科目や他学部の授業など異なる分野の科目を履修することで、芸術以外の領域と芸術を融合させた新しい芸術表現に挑戦するなど、各自の自主性に基づいた総合的、複合領域的な学修を可能にさせる。
更に、メディア・デザインに関する学修・研究のまとめとして、『メディア・デザイン研究Ⅰ・Ⅱ』、『芸術理論研究Ⅰ・Ⅱ』、『卒業プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ』を必修科目として開設する。
- ⑦ 外国語コミュニケーション能力、特に英語力を高めるために、1年次ではELF科目により週に2回の英語を必修とする。また、専門教育と関連づけた学科科目『Arts in EnglishⅠ～Ⅳ』を選択科目とし、英語運用能力を育成する。
また、異文化、多文化の存在を認めつつ、異なった価値観をもつ人々と協働する際に必要な知識を身につけるため、2年次に『文化立国論』、『国際日本学』を必修とする。さらに国際舞台を見据え、これらの授業で修得した外国語能力を国外の大学との共同授業で活かし、実践的なコミュニケーションスキルとグローバルなマナーや感性を育む
- ⑧ 社会人としての使命感や責任感を身につけて、自ら積極的に行動できるとともに、社会の規範やルールに従って適切に行動することを目的に、ユニバーシティ・スタンダード科目に『インターンシップ』を開設する。
- ⑨ 芸術の社会貢献を実践的に学ぶことを目的に、企業、官庁、自治体など学外機関との教育連携を中心とした科目『メディア・デザイン・プロジェクトA・B・C・D』を開設する。
- ⑩ ディスカッションや協働して学修に取り組むアクティブ・ラーニングなどにより双方向性を確保した教育を実施する。
- ⑪ 学修過程や成果を指導に活用するためのインターネットによる学修ポートフォリオや、学修内容を確実に修得するために、e-ラーニングやPCなど情報技術の活用、チューターやスチューデント・アシスタントの導入など、学修支援体制を柔軟に構築する。

●分野ごとの標準的な学修内容は、後述する「履修モデル」によって示されています（p.184～185参照）。

2 卒業要件

メディア・デザイン学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること

〈必修科目〉	玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」 自然科学科目群：「マルチメディア表現」 学際科目群：「キャリア・マネジメント」
〈必修選択科目〉	学際科目群：「複合領域研究(201～299)」より学科の指定する科目のうち1科目(2単位) 言語表現科目群：「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」より2科目(8単位)
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目の各科目群より上記(4)で示した必修および必修選択科目の単位を含む次に指定する単位数を修得していること

人文科学科目群：2単位以上	社会科学科目群：2単位以上
自然科学科目群：2単位以上	学際科目群：4単位以上
言語表現科目群：8単位以上	
以上計18単位以上。	
- (6) 学科科目について次の必修科目を修得していること

100番台科目より：	「メディア・デザイン概論」「メディア・デザイン理論基礎Ⅰ」「メディア・デザイン理論基礎Ⅱ」「メディア・デザイン演習基礎Ⅰ」「メディア・デザイン演習基礎Ⅱ」
200番台科目より：	「文化立国論」「国際日本学」
300番台科目より：	「芸術表現学」「芸術コミュニケーション演習」「メディア・デザイン研究Ⅰ」「メディア・デザイン研究Ⅱ」「芸術理論研究Ⅰ」「芸術理論研究Ⅱ」
400番台科目より：	「卒業プロジェクト演習Ⅰ」「卒業プロジェクト演習Ⅱ」

3 履修上の留意事項

- メディア・デザイン学科の学科専門科目の履修にあたっては次の点に注意してください。

① 「メディア・デザイン研究Ⅰ」、「メディア・デザイン研究Ⅱ」

- 本科目の履修にあたっては、担当教員の振り分けがあります。特定の教員への希望者が多数の場合GPAの値等を考慮した選考を行い、担当教員が決定されます。

② 「卒業プロジェクト演習Ⅰ」、「卒業プロジェクト演習Ⅱ」

- 本科目の履修にあたっては、担当教員の振り分けがあります。特定の担当教員への希望者が多数の場合、GPAの値等を考慮した選考を行い、担当教員が決定されます。

4 取得可能な資格

- メディア・デザイン学科では、所定の科目の単位を修得し、また所定の条件を満たすことで、次の資格を取得することができます。

■学芸員

本履修ガイドp.232～233の「学芸員」を参照してください。

■その他の資格および修了証

本履修ガイドp.223の「取得できる各種資格・修了証等一覧」を参照してください。

- *複数の免許・資格・修了証の同時取得については、可能なものとそうでないものがあります。詳細は随時行われるガイダンスの内容を参照してください。

5 メディア・デザイン学科 履修モデル

- 履修モデルは学科科目のみ示しています。別途ユニバーシティ・スタンダード科目の履修が必要です。
- この履修モデルの科目だけでは、卒業要件の124単位を満たすことができません。加えて別途単位を履修する必要があります。
- 履修モデルの科目は、開講学期と異なる学期に配置されている場合があります。

■CG・映像分野 履修モデル

コンピュータ・グラフィックスや映像分野を中心に学ぶモデルです。3DCGアニメーションや、映像撮影、編集技術等を学び、CG・映像作品の制作を行うことができますようになります。

		100番台科目	200～400番台科目	200～400番台科目
1年次	春	(必修)メディア・デザイン概論 (必修)メディア・デザイン理論基礎Ⅰ (必修)メディア・デザイン演習基礎Ⅰ CG・映像メディア表現基礎		
	秋	(必修)メディア・デザイン理論基礎Ⅱ (必修)メディア・デザイン演習基礎Ⅱ 映像表現基礎 コンピュータ・グラフィックス基礎		
2年次	春		(必修)文化立国論 映像メディア表現Ⅰ コンピュータ・グラフィックスⅠ 映像芸術論 色彩学 メディア・デザイン・プロジェクトA	
	秋		(必修)国際日本学 映像メディア表現Ⅱ コンピュータ・グラフィックスⅡ 写真史 アニメーション・漫画論 メディア・デザイン・プロジェクトB	
3年次	春		メディア・デザイン・プロジェクトC	(必修)芸術表現学 (必修)メディア・デザイン研究Ⅰ (必修)芸術理論研究Ⅰ メディア・デザイン専門研究Ⅰ
	秋		メディア・デザイン・プロジェクトD	(必修)芸術コミュニケーション演習 (必修)メディア・デザイン研究Ⅱ (必修)芸術理論研究Ⅱ メディア・デザイン専門研究Ⅱ インターンシップ
4年次	春			(必修)卒業プロジェクト演習Ⅰ
	秋			(必修)卒業プロジェクト演習Ⅱ 卒業研究

■グラフィック・WEB分野 履修モデル

グラフィックデザイン、WEBデザイン分野を中心に学ぶ履修モデルです。コンピュータを用いたポスターやブックデザイン等のDTP制作、WEBサイトのデザイン等を学びます。

		100番台科目	200～400番台科目	200～400番台科目
1年次	春	(必修)メディア・デザイン概論 (必修)メディア・デザイン理論基礎Ⅰ (必修)メディア・デザイン演習基礎Ⅰ 平面造形基礎		
	秋	(必修)メディア・デザイン理論基礎Ⅱ (必修)メディア・デザイン演習基礎Ⅱ グラフィックデザイン基礎 デザイン論		
2年次	春		(必修)文化立国論 グラフィックデザインⅠ WEBデザインⅠ タイポグラフィー基礎演習 色彩学 メディア・デザイン・プロジェクトA	
	秋		(必修)国際日本学 グラフィックデザインⅡ WEBデザインⅡ デジタルタイポグラフィー 写真史 メディア・デザイン・プロジェクトB	
3年次	春		メディア・デザイン・プロジェクトC デザイン史 構成学演習	(必修)芸術表現学 (必修)メディア・デザイン研究Ⅰ (必修)芸術理論研究Ⅰ メディア・デザイン専門研究Ⅰ
	秋		メディア・デザイン・プロジェクトD	(必修)芸術コミュニケーション演習 (必修)メディア・デザイン研究Ⅱ (必修)芸術理論研究Ⅱ メディア・デザイン専門研究Ⅱ インターンシップ
4年次	春			(必修)卒業プロジェクト演習Ⅰ
	秋			(必修)卒業プロジェクト演習Ⅱ 卒業研究

■光、空間演出・総合造形 履修モデル

光、空間の演出やデザイン、総合造形分野を中心に学ぶ履修モデルです。ライトアート作品の制作、ディスプレイデザイン、ジャンルを横断した現代美術の表現等を学びます。

		100番台科目	200～400番台科目	200～400番台科目
1 年次	春	(必修) メディア・デザイン概論 (必修) メディア・デザイン理論基礎Ⅰ (必修) メディア・デザイン演習基礎Ⅰ 空間演出基礎		
	秋	(必修) メディア・デザイン理論基礎Ⅱ (必修) メディア・デザイン演習基礎Ⅱ 光演出基礎		
2 年次	春		(必修) 文化立国論 光・空間演出Ⅰ 総合造形Ⅰ 色彩学 メディア・デザイン・プロジェクトA	
	秋		(必修) 国際日本学 光・空間演出Ⅱ 総合造形Ⅱ ディスプレイデザイン フラワーデザイン メディア・デザイン・プロジェクトB	
3 年次	春		メディア・デザイン・プロジェクトC	(必修) 芸術表現学 (必修) メディア・デザイン研究Ⅰ (必修) 芸術理論研究Ⅰ メディア・デザイン専門研究Ⅰ
	秋		メディア・デザイン・プロジェクトD アーツ・イン・コミュニティ	(必修) 芸術コミュニケーション演習 (必修) メディア・デザイン研究Ⅱ (必修) 芸術理論研究Ⅱ メディア・デザイン専門研究Ⅱ インターンシップ
4 年次	春			(必修) 卒業プロジェクト演習Ⅰ
	秋			(必修) 卒業プロジェクト演習Ⅱ 卒業研究

■芸術理論分野 履修モデル

芸術理論分野を中心に学ぶ履修モデルです。美学、美術史、造形理論等に関して、文献資料を読み解いて理論化を行います。卒業時には論文の執筆を行います。

		100番台科目	200～400番台科目	200～400番台科目
1 年次	春	(必修) メディア・デザイン概論 (必修) メディア・デザイン理論基礎Ⅰ (必修) メディア・デザイン演習基礎Ⅰ 美学美術史基礎		
	秋	(必修) メディア・デザイン理論基礎Ⅱ (必修) メディア・デザイン演習基礎Ⅱ デザイン論		
2 年次	春		(必修) 文化立国論 造形理論A デザイン史 色彩学 映像芸術論 現代音楽史	
	秋		(必修) 国際日本学 造形理論B アニメーション・漫画論 写真史 文化産業経営論	
3 年次	春		Arts in English I	(必修) 芸術表現学 (必修) メディア・デザイン研究Ⅰ (必修) 芸術理論研究Ⅰ メディア・デザイン専門研究Ⅰ
	秋		Arts in English II	(必修) 芸術コミュニケーション演習 (必修) メディア・デザイン研究Ⅱ (必修) 芸術理論研究Ⅱ メディア・デザイン専門研究Ⅱ
4 年次	春		Arts in English III	(必修) 卒業プロジェクト演習Ⅰ
	秋		Arts in English IV	(必修) 卒業プロジェクト演習Ⅱ 卒業研究

■コンピュータ音楽分野 履修モデル

コンピュータ音楽分野を中心にした履修モデルです。コンピュータを用いた音楽制作の実技や、作曲のための音楽理論等を学びます。

		100番台科目	200～400番台科目	200～400番台科目
1 年次	春	(必修) メディア・デザイン概論 (必修) メディア・デザイン理論基礎Ⅰ (必修) メディア・デザイン演習基礎Ⅰ MIDI 音楽制作		
	秋	(必修) メディア・デザイン理論基礎Ⅱ (必修) メディア・デザイン演習基礎Ⅱ コンピュータ音楽基礎 音楽制作論		
2 年次	春	コンピュータ音楽技法	(必修) 文化立国論 現代音楽史 ピッチクラス集合論 音楽プログラミング コンピュータ音楽制作論 メディア・デザイン・プロジェクトA	
	秋		(必修) 国際日本学 シェンカー理論 コンピュータ音楽 サウンドデザイン メディア・デザイン・プロジェクトB	
3 年次	春		Arts in English I メディア・デザイン・プロジェクトC	(必修) 芸術表現学 (必修) メディア・デザイン研究Ⅰ (必修) 芸術理論研究Ⅰ メディア・デザイン専門研究Ⅰ
	秋		Arts in English II メディア・デザイン・プロジェクトD	(必修) 芸術コミュニケーション演習 (必修) メディア・デザイン研究Ⅱ (必修) 芸術理論研究Ⅱ メディア・デザイン専門研究Ⅱ
4 年次	春		Arts in English III	(必修) 卒業プロジェクト演習Ⅰ
	秋		Arts in English IV	(必修) 卒業プロジェクト演習Ⅱ 卒業研究

6 芸術学部 メディア・デザイン学科 教育課程表

凡例 開講期 (集中):集中開講

履修条件 ●:必修科目 ○:事前ガイダンスに出席が必要 ◆:必修選択科目 無印:選択科目

他学科受講 ○:他学科受講可 △:芸術学部のみ受講可

科目記号 /番号	授業科目名	単 位	授業 時間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解	汎用的技能				態度・志向性								
									多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミュ ニ ケー ション ・ スキ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
ユニバーシティ・スタンダード科目																					
MUS 103	音楽史	2	100	春秋	◆			●													
THEA 100	演劇史	2	100	春秋	◆			●													
UNIV 107	人文科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1	50	春秋				●		●											
INFO 106	ネットワーク入門	2	100	春秋				●		●											
INFO 109	マルチメディア表現	2	100	春秋	●			●		●											
COPR 100	インターンシップ A	2	100	春秋				●		●	●										
COPR 101	インターンシップ B	2	100	春秋				●		●	●										
COPR 102	インターンシップ C	1	50	春秋				●		●	●										
COPR 103	インターンシップ D	1	50	春秋				●		●	●										
GLS 105	国際研究 A	2	300	秋春	◎			●		●											
GLS 106	国際研究 B	2	300	秋春	◎			●		●											
GLS 107	国際研究 C	2	300	秋春	◎			●		●											
GLS 108	国際研究 D	3	450	秋春	◎			●		●											
GLS 109	国際研究 E	4	600	秋春	◎			●		●											
GLS 110	国際研究 F	5	750	秋春	◎			●		●											
INTD 110	フィールドワークA	2	100	春秋	◎			●	●												
INTD 111	フィールドワークB	2	100	春秋	◎			●	●												
INTD 112	フィールドワークC	2	100	春秋	◎			●	●												
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋	◆			●													
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋	◆			●													
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋	◆			●													
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春	◆			●													
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	◆			●													
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春	◆			●													
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋	◆			●													
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆			●		●											
INTD 201	複合領域研究 201~299	2	100	春秋	◆		学	●													
CARE 301	キャリア・マネジメント	2	100	春秋	●						●				●						
学科専門科目																					
MART 110	メディア・デザイン概論	2	100	春	●			●			●										
ART 119	メディア・デザイン理論基礎Ⅰ	2	100	春	●			●			●										
ART 120	メディア・デザイン理論基礎Ⅱ	2	100	秋	●			●			●										
MART 108	メディア・デザイン演習基礎Ⅰ	2	100	春	●					●	●										
MART 109	メディア・デザイン演習基礎Ⅱ	2	100	秋	●					●	●										
ART 114	美学美術史基礎	2	100	春		○		●	●												
ART 109	デザイン論	2	100	秋		○		●	●												
MART 106	コンピュータ音楽技法	2	100	春					●	●											
MUS 104	音楽制作論	2	100	秋		○			●	●											
ART 118	平面造形基礎	2	100	春		△		●			●										
ART 103	グラフィックデザイン基礎	2	100	秋		△		●			●										
MART 100	CG・映像メディア表現基礎	2	100	春	◎					●	●										
MART 104	コンピュータ・グラフィックス基礎	2	100	秋	◎					●	●										
MART 102	映像表現基礎	2	100	秋	◎					●	●										
MART 103	空間演出基礎	2	100	春		△		●			●										
MART 107	光演出基礎	2	100	秋		△		●			●										
MART 101	MIDI音楽制作	2	100	春	◎	○				●	●										
MART 105	コンピュータ音楽基礎	2	100	秋	◎	○				●	●										
ART 241	メディア・デザイン・プロジェクトA	2	100	春(集中)	◎	△		●			●		●								
ART 242	メディア・デザイン・プロジェクトB	2	100	秋(集中)	◎	△		●			●		●								
POSC 200	文化立国論	2	100	春	●			●	●												
ART 214	国際日本学	2	100	秋	●			●	●												
ART 223	造形理論 A	2	100	春		○				●											
ART 224	造形理論 B	2	100	秋		○		●	●												
MART 211	コンピュータ音楽制作論	2	100	春(集中)	◎	△				●	●										
MART 212	サウンドデザイン	2	100	秋(集中)	◎	△				●	●										
MART 206	グラフィックデザインⅠ	2	100	春	◎					●	●										
MART 207	グラフィックデザインⅡ	2	100	秋	◎					●	●										

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授業 時間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力														
								知識・ 理解		汎用的技能				態度・志向性								
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シ ー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力		
MART 208	コンピュータ・グラフィックスI	2	100	春	◎						●	●										
MART 209	コンピュータ・グラフィックスII	2	100	秋	◎							●	●									
MART 202	映像メディア表現I	2	100	春	◎								●	●								
MART 203	映像メディア表現II	2	100	秋	◎								●	●								
MART 217	光・空間演出I	2	100	春					●					●								
MART 218	光・空間演出II	2	100	秋					●					●								
MART 200	WEBデザインI	2	100	春	◎								●	●								
MART 201	WEBデザインII	2	100	秋	◎								●	●								
MART 213	総合造形I	2	100	春						●				●								
MART 214	総合造形II	2	100	秋						●				●								
MART 205	音楽プログラミング	2	100	春	◎	○					●	●										
MART 210	コンピュータ音楽	2	100	秋	◎	○						●	●									
ART 230	デザイン史	2	100	春		○				●	●											
ART 218	写真史	2	100	秋		○				●	●											
ART 204	映像芸術論	2	100	春		○				●	●											
ART 203	アニメーション・漫画論	2	100	秋		○				●	●											
ART 217	色彩学	2	100	春		○					●			●								
B A 207	文化産業経営論	2	100	秋		○				●	●											
MUS 219	ピッチクラス集合論	2	100	春	◎	○					●			●								
MUS 212	シェンカー理論	2	100	秋	◎	○					●			●								
MUS 207	現代音楽史	2	100	春		○					●	●										
ART 202	アーツ・イン・コミュニティ	2	100	秋		△					●											●
MART 215	ディスプレイデザイン	2	100	秋						●				●								
ART 213	構成学演習	2	100	春		△				●				●								
ART 240	フラワーデザイン	2	100	秋	◎	△				●				●								
ART 225	タイポグラフィ基礎演習	2	100	春						●				●								
MART 216	デジタルタイポグラフィ	2	100	秋	◎					●			●									
INFO 205	情報管理論	2	100	春		○																●
ART 317	メディア・デザイン・プロジェクトC	2	100	春(集中)	◎	△					●			●			●					
ART 318	メディア・デザイン・プロジェクトD	2	100	秋(集中)	◎	△					●			●			●					
ART 300	Arts in English I	2	100	春		○				●	●											
ART 301	Arts in English II	2	100	秋		○				●	●											
ART 311	芸術表現学	2	100	春	●					●			●									
COMM 303	芸術コミュニケーション演習	2	100	秋	●					●	●											
ART 319	メディア・デザイン研究I	2	100	春	●◎								●	●								
ART 320	メディア・デザイン研究II	2	100	秋	●◎								●	●								
ART 313	芸術理論研究I	2	100	春	●◎					●			●									
ART 314	芸術理論研究II	2	100	秋	●◎					●			●									
ART 321	メディア・デザイン専門研究I	2	100	春									●	●								
ART 322	メディア・デザイン専門研究II	2	100	秋									●	●								
ART 400	Arts in English III	2	100	春		○				●	●											
ART 401	Arts in English IV	2	100	秋		○				●	●											
ART 412	卒業プロジェクト演習I	2	100	春	●◎								●	●								
ART 413	卒業プロジェクト演習II	2	100	秋	●◎								●	●								
ART 409	卒業研究	2	100	秋(集中)	◎									●	●							

【履修にあたって】

メディア・デザイン学科の履修上の留意事項と履修モデル（主な科目）も併せて参照してください。

■メディア・デザイン学科プリ・リクイジット（先行履修条件科目）

下記科目は、先行履修の条件付き科目です。右欄の科目を修得済み（一部同時履修可）でないと履修できません。

授業科目名	プリ・リクイジット（先行履修科目）
ローマ数字（I・II・III・IV）のついている科目	数字の若い順に履修します。数字の途中からは履修できません。
構成学演習	グラフィックデザイン基礎
デジタルタイポグラフィ	タイポグラフィ基礎演習
卒業研究	卒業プロジェクト演習II（同時履修可）

1 カリキュラム・ポリシー

●芸術教育学科のカリキュラムは、芸術教育学科の学位授与の方針に基づき、次の方針に従って編成している。

- ① ユニバーシティ・スタンダード科目（教職関連科目群含む）と学科科目を100番台400番台科目まで順次履修することで、教育と芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。
なお、ユニバーシティ・スタンダード科目のうち『美術史』『美術理論』（美術コース）、『音楽史』『音楽理論』（音楽コース）を必修とする。
また、学科科目には音楽、および、美術・工芸のコースに関する科目をそれぞれ開設する。
- ② 学科科目の100番台には、芸術教育に関する概論や音楽および美術・工芸のそれぞれのコースに関する基礎科目を開設する。なお、芸術教育の基礎・骨格となる科目として、『芸術教育概論』を必修とする。芸術を広義に捉え、教育と結びつけて多角的に学修することで、芸術教育の社会での役割や、自らがどのように関わっていくことができるのかを考える。200番台には、コースごとに専門性の高い科目を開設し、専門知識を身につけさせる。これらの科目は卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて履修できるよう選択科目として開設する。300番台、400番台には、200番台での学修を基礎として、更に専門性の高い科目を開設する。専攻科目のうち、『芸術教育研究Ⅰ』、4年次に『芸術教育研究Ⅱ』『芸術教育研究Ⅲ』は必修とする。教育と芸術に関する知識や技能を総合的に活用し、多様な芸術表現の可能性と芸術活動の支援的側面を探究することで、現代の諸問題の解決に主体的に取り組み、社会に貢献する態度も身につける。
- ③ 異文化、多文化の存在を認め、協働する際に必要な知識と技能、豊かな表現力を身につけるために、理論科目だけでなく、ユニバーシティ・スタンダード科目の『国際研究』『フィールドワーク』『インターンシップ』『地域創生プロジェクト』等、社会とつながる科目を開設する。かつ、小学校の英語教育の開始に対応するため、ELF科目に加え、『Arts Education』や『Arts Criticism』など、英語で芸術を学ぶ科目を開設し、芸術に関する用語知識および表現方法を身につける。
- ④ 社会人としての使命感や責任感を身につけ、自ら積極的に行動するとともに、社会の規範やルールに従って適切に行動する態度を身につけるために、ユニバーシティ・スタンダード科目に『インターンシップ』および『教育インターンシップ』を開設する。

●学修の分野ごとの標準的な学修の内容は後述する「履修モデル」によって示されています（p.190～191参照）。

2 卒業要件

芸術教育学科では、以下の5つの条件を卒業要件として定めています。

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時の累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
〈必修選択科目〉 人文科学科目群：音楽コース必修科目：「音楽史」
美術・工芸コース必修科目：「美術史」
- (5) 学科科目について、次の必修科目を修得していること
〈必修科目〉 音楽コース必修科目：「音楽理論」
美術・工芸コース必修科目：「美術理論」
音楽コース、美術・工芸コース共通：「芸術教育概論」「芸術教育研究Ⅰ」「芸術教育研究Ⅱ」「芸術教育研究Ⅲ」

3 履修上の留意事項

- 「芸術教育研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」は、理論と実技を合わせた芸術教育研究を行います。これらの科目を履修するためには、2年次終了時のガイダンスに出席し、学科で定めた専門分野の中から自分の希望する分野を選択します。

4 取得可能な免許および資格

- 芸術教育学科では、所定の科目の単位を修得し、また所定の条件を満たすことで、次の免許あるいは資格を取得することができます。

■教育職員免許状

■音楽コース：

中学校教諭1種免許状（音楽）および高等学校教諭1種免許状（音楽）

■美術・工芸コース：

中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（工芸）

■音楽コース、美術・工芸コース共通

中学校もしくは中・高等学校の教員免許と併せて、小学校教諭2種免許状の取得が可能です。別途ガイダンスがありますので、取得希望者は必ず出席してください。

*詳細は「教職課程受講ガイド」で必ず確認してください。

■学芸員

本履修ガイドp.232～233の「学芸員」を参照してください。

■その他の資格および修了証

本履修ガイドp.223の「取得できる各種資格・修了証等一覧」を参照してください。

*複数の免許・資格・修了証の同時取得については、可能なものとそうでないものがあります。詳細は随時行われるガイダンスの内容を参照してください。

5 教職課程受講継続条件

- 芸術教育学科では、教職課程の受講継続に際して次の条件を定めています。この条件を満たすことができない場合は、教職課程を継続して受講することはできません。*1

学年	学期	受講継続条件	実 習
1年次	春	4月中に実施される「教職ガイダンス」を受けること	・参観実習
	秋	終了時（全科目）の累積GPAが2.50以上あること 終了時に学科が定めた教職適性判定試験（実技・面接を含む）に合格していること	
2年次	春	—	・介護等体験
	秋	終了時（全科目）の累積GPAが2.50以上あること 終了時に学科が定めた教職適性判定試験（実技・面接を含む）に合格していること	
3年次	春	—	・教育実習（中・高） *2
	秋	終了時（全科目）のGPAが累積2.50以上あること	
4年次	春	—	・教育実習（小） *3
	秋	—	

*1 その他教職課程受講に関する詳しい内容は、別冊「教職課程受講ガイド」にて確認してください。

*2 「教育実習（中・高）」を履修するためには、「教育実践に関する科目」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等に関する科目」の必修科目を修得していることが必要です。また、「教科及び教科の指導法に関する科目」から「音楽科指導法（ⅠおよびⅡ）」または「美術科・工芸科指導法（ⅠおよびⅡ）」を修得していることが必要です。

*3 「教育実習（小）」を履修するためには、次の4つの条件を満たしていることが必要です。①教育実習（中・高）の評価が「F」でないこと、②教職課程受講継続条件を満たしていること、③「小学校特別課程履修」の科目のうち8科目16単位以上を修得済みであること、④「教育実習（小）事前指導」に合格していること。

「教育実習（中・高）」を履修するためには、次の2つの条件を満たしていることが必要です。

「教育実習」「教職実践演習」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を修得済み。また、「教科及び教科の指導法に関する科目」から、音楽コースの学生は「音楽科指導法 および」、美術・工芸コースの学生は「美術科・工芸科指導法 および」「美術科指導法」を修得済み。「教育実習（事前指導）」に合格していること。

6 芸術教育学科 履修モデル

- 芸術教育学科では、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従って、以下の3つの履修モデルを設定しています。各自これらの履修モデルを参考にして、必修科目（●がついたもの）を含んだ履修可能な科目の中から、自身の学修上の目標に到達するためにはどのような科目を選択すべきかを熟考したうえで履修してください。

履修モデルA：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と小学校教諭2種免許状

履修モデルB：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と高等学校教諭1種免許状（音楽/美術/工芸）

履修モデルC：学芸員

履修モデルA：中学校1種（音楽/美術）・小学校2種

中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と小学校教諭2種免許状（小2免）を取得することを目的とするモデルです。義務教育課程において、小・中連携の教育が目指されています。中学校免許を取得することを前提とした、「小学校課程特別履修」が可能です。

学期	100番台科目		200～400番台科目		400番台科目	教 職		実習の流れ
	音楽	美術	音楽	美術		中・高	小2	
1 年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 デザイン基礎 彫刻基礎 ドローイング			教育原理 日本国憲法		(事前指導)
	秋	声楽基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	絵画基礎 工芸基礎			教職概論 ELF101～402		参観実習
2 年次	春			合奏 伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 音楽科指導法Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ 彫刻Ⅰ 美術科・工芸科指導法Ⅰ		学習・発達論 教育の制度と経営 教育の方法と技術（中・高）	(事前指導)
	秋			合唱 鍵盤楽器Ⅱ 音楽科指導法Ⅱ	絵画Ⅱ 西洋美術史B 美術科・工芸科指導法Ⅱ		体育 特別活動の理論と方法（中・高） 総合的な学習の理論と方法（中・高） 特別支援教育	*小2免の履修方法に関しては、別途ガイドダンスに必ず参加し、詳細を確認してください。 介護等体験
3 年次	春			指揮法 作曲法 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論（美術） 芸術表現演習 工芸Ⅰ 美術科指導法Ⅰ		道徳教育の理論と方法（中） 教育課程編成論（中・高） 教育相談の理論と方法（中・高） 特別活動の理論と方法（中・高）	(事前指導)
	秋					●芸術教育研究Ⅰ 美術科指導法Ⅱ	生徒・進路指導の理論と方法（中・高） 教育実習（中・高）	教育実習（中）
4 年次	春			鑑賞教育理論（音楽）		●芸術教育研究Ⅱ		(事前指導)
	秋			日本音楽史		●芸術教育研究Ⅲ 感性教育論	教職実践演習（中・高）	教育実習（小）

履修モデルB：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）・高等学校教諭1種免許状（音楽/美術/工芸）

中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と高等学校1種免許状（音楽/美術/工芸）を取得することを目的とするモデルです。履修モデルAと比較し、よりいっそうの教科専門性を高めることのできるモデルになっています。また、中・高連携の教育が目指されていますので、これに関連した科目選択となっています。

学期	100番台科目		200～400番台科目		300～400番台科目	教職	実習の流れ
	音楽	美術	音楽	美術		中・高	
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 デザイン基礎 彫刻基礎 ドローイング			教育原理 日本国憲法	(事前指導)
	秋	声乐基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	絵画基礎 工芸基礎			教職概論 ELF101～402	参観実習
2年次	春		伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 声乐Ⅰ 音楽科指導法Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ 工芸Ⅰ 図法・製図 美術科・工芸科指導法Ⅰ		学習・発達論 教育の制度と経営 教育の方法と技術(中・高)	(事前指導)
	秋		合唱 鍵盤楽器Ⅱ 声乐Ⅱ 音楽科指導法Ⅱ	絵画Ⅱ 工芸Ⅱ 工芸史 美術科・工芸科指導法Ⅱ		体育 特別活動の理論と方法(中・高) 総合的な学習の理論と方法(中・高) 特別支援教育	介護等体験
3年次	春		音楽科指導法Ⅲ 指揮法 作曲法 合奏 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論(美術) 西洋美術史A デザインⅠ 芸術表現演習 美術科指導法Ⅰ		道徳教育の理論と方法(中) 教育課程編成論(中・高) 教育相談の理論と方法(中・高) 特別活動の理論と方法(中・高)	(事前指導)
	秋		Theory and PracticeⅠ	デザインⅡ 日本美術史B	●芸術教育研究Ⅰ 感性教育論 美術科指導法Ⅱ 音楽科指導法Ⅳ	生徒・進路指導の 理論と方法(中・高) 教育実習(中・高)	教育実習(中)
4年次	春		鑑賞教育理論(音楽) 西洋音楽史 Theory and PracticeⅡ	デザイン理論 東洋美術史 日本美術史A 彫刻Ⅰ	●芸術教育研究Ⅱ		
	秋		日本音楽史 Research and Practice	工芸理論 彫刻Ⅱ インターンシップ	●芸術教育研究Ⅲ 民族音楽概説	教職実践演習 (中・高)	

履修モデルC：学芸員

学芸員資格を取得することを目的としたモデルです。幅広い表現活動の理解、理論的な思考の育成を目指しています。教育力や英語力が求められるため、これらを強化する科目の修得が望まれます。

学期	100番台科目		200～400番台科目		300～400番台科目	資格
	音楽	美術	音楽	美術		学芸員
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 デザイン基礎 彫刻基礎 Arts Education A ドローイング			
	秋	声乐基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	絵画基礎 工芸基礎 Arts Education B			
2年次	春		伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 声乐Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ Arts Criticism		博物館概論 生涯学習概論
	秋		合唱 鍵盤楽器Ⅱ 声乐Ⅱ	絵画Ⅱ Theory and PracticeⅠ		博物館資料論 博物館教育論
3年次	春		指揮法 作曲法 合奏 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論(美術) 西洋美術史A 彫刻Ⅰ 芸術表現演習 Theory and PracticeⅡ		博物館展示論 博物館資料保存論
	秋		日本音楽史 Theory and PracticeⅠ	彫刻Ⅱ 西洋美術史B Research and Practice	●芸術教育研究Ⅰ	博物館経営論 博物館情報・メディア論
4年次	春		鑑賞教育理論(音楽) 西洋音楽史 Theory and PracticeⅡ	デザインⅠ 日本美術史A	●芸術教育研究Ⅱ	
	秋		Research and Practice	デザインⅡ 日本美術史B	●芸術教育研究Ⅲ 民族音楽概説	博物館実習

7 芸術学部 芸術教育学科 教育課程表

凡例 履修条件 ●:必修科目 ○:事前ガイダンスに出席が必要 無印:選択科目
他学科受講 ○:他学科受講可 △:芸術学部のみ受講可 ⊙:リベラルアーツ学部のみ受講可

科目記号／番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力																	
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性											
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力					
ユニバーシティ・スタンダード科目																									
ART 115	美術史	2	100	春秋	●(美)			●																	
MUS 103	音楽史	2	100	春秋	●(音)			●																	
UNIV 107	人文科学アカデミックスキルズ (リーディング)	1	50	春秋					●		●														
UNIV 106	人文科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1	50	春秋					●																
INFO 104	データ処理	2	100	春秋					●		●														
GLS 105	国際研究 A	2	-	秋春	○			●	●																
GLS 106	国際研究 B	2	-	秋春	○			●	●																
GLS 107	国際研究 C	2	-	秋春	○			●	●																
GLS 108	国際研究 D	3	-	秋春				●	●																
GLS 109	国際研究 E	4	-	秋春				●	●																
GLS 110	国際研究 F	5	-	秋春				●	●																
INTD 110	フィールドワーク A	2	100	春秋	○			●	●																
INTD 111	フィールドワーク B	2	100	春秋	○			●	●																
INTD 112	フィールドワーク C	2	100	春秋	○			●	●																
COPR 100	インターンシップ A	2	100	春秋					●			●	●												
COPR 101	インターンシップ B	2	100	春秋					●			●	●												
COPR 102	インターンシップ C	1	50	春秋					●			●	●												
COPR 103	インターンシップ D	1	50	春秋					●			●	●												
ENG 101	ELF 101	4	100	春秋					●																
ENG 102	ELF 102	4	100	春秋					●																
ENG 201	ELF 201	4	100	春秋					●																
ENG 202	ELF 202	4	100	春秋					●																
ENG 301	ELF 301	4	100	春秋					●																
ENG 302	ELF 302	4	100	春秋					●																
ENG 401	ELF 401	4	100	春秋					●																
ENG 402	ELF 402	4	100	春秋					●																
LAW 101	日本国憲法	2	100	春秋					●														●		
P E 103	体育	1	100	秋											●	●									
TED 110	教職概論	2	100	春秋										●			●	●							
TED 101	教育原理	2	100	春秋						●														●	
TED 105	教育の制度と経営	2	100	春秋					●														●		
TED 100	学習・発達論	2	100	春秋					●			●													
TED 205	特別支援教育	1	50	春秋										●									●		
TED 302	教育課程編成論(中・高)	2	100	春秋										●											
TED 202	道徳教育の理論と方法(中)	2	100	春秋																			●	●	
TED 112	総合的な学習の時間の理論と方法(中・高)	1	50	春秋										●										●	
TED 204	特別活動の理論と方法(中・高)	1	50	春秋							●														
TED 107	教育の方法と技術(中・高)	2	100	春秋					●			●													
TED 315	生徒・進路指導の理論と方法(中・高)	2	100	春秋							●													●	
TED 312	教育相談の理論と方法(中・高)	2	100	春										●									●		
TED 305	教育実習(中学校)	5	100	秋春							●			●											
TED 303	教育実習(高等学校)	3	100	秋春							●			●											
TED 403	教職実践演習(中・高)	2	100	秋							●			●											
COPR 108	教育インターンシップ A	2	100	春秋							●			●	●										
COPR 109	教育インターンシップ B	2	100	春秋							●			●	●										
COPR 110	教育インターンシップ C	1	50	春秋							●			●	●										
COPR 111	教育インターンシップ D	1	50	春秋							●			●	●										
TED 104	教育哲学	2	100	秋				●	●				●												

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件	他学科受講	備考	授業を通して修得できる力												
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性						
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力
TED 113	発達心理学	2	100	秋				●												
TED 103	教育心理学	2	100	秋				●				●								
TED 102	教育社会学	2	100	秋				●				●								
TED 109	教育方法学(中・高)	2	100	秋				●				●								
TED 313	教職演習 A	1	50	秋春					●											●
HHS 205	精神保健	2	100	春										●						
HHS 206	生命と性の教育	2	100	秋				●						●						
E D 200	異文化理解と教育	2	100	春				●												
学科専門科目																				
E D 102	芸術教育概論	2	100	春	●	△		●											●	●
ART 116	美術理論	2	100	春	●(美)	△		●												
ART 100	Arts Education A	2	100	春		○		●	●											●
ART 101	Arts Education B	2	100	秋		○		●	●											●
MUS 107	音楽理論	2	100	春	●(音)	△		●												
MUS 113	ソルフェージュ	2	100	春		△				●		●								
MUS 112	声楽基礎	2	100	秋				●						●						
MUS 110	鍵盤楽器基礎 I	2	100	春				●						●						
MUS 111	鍵盤楽器基礎 II	2	100	秋				●						●						
MUS 108	管・打楽器基礎	2	100	春				●						●						
MUS 109	弦楽器基礎	2	100	秋				●						●						
ART 110	ドローイング	1	50	春																
ART 102	絵画基礎	2	100	秋				●						●						
ART 107	彫刻基礎	2	100	春				●						●						
ART 104	工芸基礎	2	100	秋				●						●						
ART 108	デザイン基礎	2	100	春						●				●						
ART 200	Arts Criticism	2	100	春		○								●	●					
ART 201	Theory and Practice I	2	100	秋		○				●				●	●					
MUS 220	和声学	2	100	春		△				●				●						
MUS 204	合奏	2	100	春		○				●						●				
MUS 203	合唱	2	100	秋		○				●						●				
MUS 218	伴奏法	2	100	春						●						●				
MUS 214	声楽 I	2	100	春						●						●				
MUS 215	声楽 II	2	100	秋						●						●				
MUS 208	鍵盤楽器 I	2	100	春						●						●				
MUS 209	鍵盤楽器 II	2	100	秋						●						●				
MUS 205	器楽 I	2	100	春						●						●				
MUS 206	器楽 II	2	100	秋						●						●				
MUS 210	作曲 I	2	100	春		△					●			●						
MUS 211	作曲 II	2	100	秋		△					●			●						
MUS 213	指揮法	2	100	春		△					●							●		
MUS 216	西洋音楽史	2	100	春		○				●										●
MUS 217	日本音楽史	2	100	秋		○				●										●
SUBP 202	音楽科指導法 I	2	100	春						●				●						
SUBP 203	音楽科指導法 II	2	100	秋						●				●						
ART 231	デザイン理論	2	100	春		△①						●								●
MART 204	映像メディア表現基礎	2	100	春						●	●									
ART 220	図法・製図	2	100	春		△				●	●									
ART 212	工芸理論	2	100	秋		○				●										●
ART 217	色彩学	2	100	春		△					●			●						

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
								知識・ 理解		汎用的技能					態度・志向性						
								多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シ ー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ー ム ワ ー ク	リ ー ダ ー シ ッ プ	倫 理 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力	
JPN 203	書道	2	100	秋		△		●	●												
ART 205	絵画Ⅰ	2	100	春		△		●						●							
ART 206	絵画Ⅱ	2	100	秋		△		●						●							
ART 226	彫刻Ⅰ	2	100	春		△		●						●							
ART 227	彫刻Ⅱ	2	100	秋		△		●						●							
ART 228	デザインⅠ	2	100	春		△			●					●							
ART 229	デザインⅡ	2	100	秋		△			●					●							
ART 221	西洋美術史 A	2	100	春		○			●												●
ART 222	西洋美術史 B	2	100	秋		○			●												●
ART 233	日本美術史 A	2	100	春		○		●													●
ART 234	日本美術史 B	2	100	秋		○		●													●
ART 232	東洋美術史	2	100	春		○		●													●
ART 211	工芸史	2	100	秋		○		●													●
ART 209	工芸Ⅰ	2	100	春		△			●					●							
ART 210	工芸Ⅱ	2	100	秋		△			●					●							
SUBP 223	美術科・工芸科指導法Ⅰ	2	100	春					●					●							
SUBP 224	美術科・工芸科指導法Ⅱ	2	100	秋					●					●							
ART 310	芸術表現演習	2	100	春				●						●							
ART 303	Theory and PracticeⅡ	2	100	春		○			●					●		●					
MUS 302	作曲法	2	100	春		△				●				●							
ART 304	鑑賞教育理論(音楽)	2	100	春		△		●						●							
SUBP 301	音楽科指導法Ⅲ	2	100	春					●					●							
ART 305	鑑賞教育理論(美術)	2	100	春		△		●						●							●
SUBP 313	美術科指導法Ⅰ	2	100	春					●					●							
ART 309	芸術教育研究Ⅰ	2	100	秋	●									●	●						●
ART 302	Research and Practice	2	100	秋		○								●	●						
ART 306	感性教育論	2	100	秋		○			●	●											
MUS 303	民族音楽概説	2	100	秋		○		●												●	
SUBP 302	音楽科指導法Ⅳ	2	100	秋					●					●							
SUBP 314	美術科指導法Ⅱ	2	100	秋					●					●							
ART 406	芸術教育研究Ⅱ	2	100	春	●									●	●						●
ART 407	芸術教育研究Ⅲ	2	100	秋	●									●	●	●					●

【履修にあたって】

芸術教育学科の履修上の留意事項と履修モデル(主な科目)も併せて参照してください。

■芸術教育学科プリ・リクイジット(先行履修条件科目)

下記科目は、先行履修の条件付き科目です。右欄の科目を修得済み(一部同時履修可)でないと履修できません。

授業科目名	プリ・リクイジット(先行履修科目)
ローマ数字(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)のついている科目	数字の若い順に履修します。数字の途中からは履修できません。
「教育実習(中・高)」	「教職概論」,「教育原理」,「学習・発達論」および「音楽科指導法(ⅠおよびⅡ)」または「美術科・工芸科指導法(ⅠおよびⅡ)」,「教育実習(事前指導)」
「美術科指導法Ⅱ」	「美術科・工芸科指導法Ⅱ」

「教育実習」「教職実践演習」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を修得済みであること。また、「教科及び教科の指導法に関する科目」から、音楽コースの学生は「音楽科指導法 および」、美術・工芸コースの学生は「美術科・工芸科指導法 および」「美術科指導法」を修得済みであること。

「教育実習(事前指導)」に合格していること。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

人材養成等教育研究に係る目的

リベラルアーツ学部では、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることを目指しています。さらに、価値観の多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しつつ、調和の取れたコミュニケーション能力のある人材が求められており、その実現に向けて、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学習を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図り、社会的経験を積みながら「コミュニティの知的リーダー」となる人材の育成に努めています。具体的には、次のような学生を育てていくことを心掛けています。

- ① 広い視野、判断力、考え抜く問題解決能力があり、積極的かつ協力して社会に関わっていけるコミュニティのリーダーになれる人。
- ② 基礎基本を土台に専門性を身につけ、様々なプロジェクトを実践・推進できる人。
- ③ 英語力・日本語力・デジタルコミュニケーション力があり、わが国の文化を様々なかたちで世界に発信できる人。
- ④ 生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたり学び続ける気持ちを持ち、社会にその知識を還元・推進できる人。

リベラルアーツ学部 ディプロマ・ポリシー

リベラルアーツ学部では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

- ① 全学共通のユニバーシティスタンダード科目を中心に幅広い履修を通して基礎的な学修力を高め、批判的な思考を通して問題を探求する能力を身につけ、各自の将来について明確な展望をもつ。
- ② 各専攻（メジャー）における体系的な学修を軸に、4年間の「講義」「演習」「実習」や「卒業プロジェクト」を通して、自ら課題を設定し、分析し、解決する力を身につける。
- ③ 他専攻、他学部の科目履修を含めた領域横断的な学修により、複合的な視野を高め、多様な価値観を認識し、自らの価値観を形成し、自分の考えを相手に理解してもらえるコミュニケーション力を身につける。
- ④ 現代に生きる地球市民のひとりとして、多様な人や文化と共生でき、課題解決のために、知識を現場に活用する力、行動する力を身につける。
これらの力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定する。

【領域・メジャーの履修において身に付ける力】

■ヒューマン・スタディーズ領域

人間探究を通して現代社会で生きる力を養う。人間に根本的な哲学や宗教の問題、人間の成長や発達・行動の仕組み、人間の行動の社会的要因について、批判的・論理的に思考できる力を養う。

●哲学・宗教

物事を根源的・批判的に考察し、さまざまな問題を包括的に捉えることができる。人類の歴史や思想を宗教的な観点から深く理解し、多文化共生の課題解決のために貢献できる。

●心理学

心と行動の仕組みを実証的に研究する方法やその理論を身につけることで、社会、地域、組織、家族におけるさまざまな問題に対して貢献できる。

●社会学

現代社会の問題を、社会理論と実証的データに基づいて理解・分析し、その知見の活用を通じて具体的な問題解決に貢献できる。

■ジャパン・スタディーズ領域

グローバル化した世界の中で「日本」を客観的に理解し、発信し、現代社会と関わる力を養う。

●日本語・日本文学

日本語についての正しい理解を基盤にした高度な日本語表現能力や日本語教授の実践力、さらに過去から現代に至るまでの文学作品を読み込んでいくことで養った批判的思考力や発信力により現代社会における諸問題の解決に貢献できる。

●日本学

人間の生活や思想などを多様な観点から広く追究しつつ、生活の全分野にわたる伝承文化をとらえて日本の基層文化を理解し、現在の日常・非日常における文化状況や社会状況を正しく分析し発信する力を身につける。

■グローバル・スタディーズ領域

国際関係を核に世界と関わる力を養う。

●国際関係

現代日本の現況を国際関係の観点から考察し、国際協力をとおして具体的な問題解決に貢献できる。

■STEMスタディーズ領域

情報技術や科学と現代社会のつながりを学び、未来社会に必要な技術と関わる力を養う。

●STEM

現代科学に関心を持ち、科学と現代社会の関わりについて考察し、多様な分野を科学的・実証的に考察・判断する力を身につける。

1 カリキュラム・ポリシー

リベラルアーツ学部では、4年間で3期、導入期・発展期・専攻期と位置づけ、それぞれの目標である構想力・実践力・推進力の育成をカリキュラムにおいて実現させる。導入期では日本語・英語のコミュニケーション力・情報処理スキル、プレゼンテーションスキルなどの育成に力点を置き、発展期では専門的研究の入門・演習科目を多様に開講し、実験・実習など様々な学びのスタイルを通して自らの課題に取り組んでいく。専攻期ではリベラルアーツセミナーで研究方法を培い、問題の発見、課題の解決、思考力を専攻科目の履修を通して養い、その成果を地域に資するために発表、提供できる教育課程の編成としている。

- ① 語学力を高めるために、1年次はELF科目により英語を毎日学ぶ。(週4回)
英語によるコンテンツ科目を履修するためには、TOEIC®400点以上の取得を基本とする。また、卒業までにTOEIC®600点の取得を目標とし、卒業時までにELF301を履修し、学修する。
- ② 1年次は、英語・日本語による論理的思考力・情報リテラシーを含む分析力などの基礎力育成に力点を置き、各専攻の入門科目を幅広く学ぶ。
- ③ 2年次では自身が基幹として学修を希望する分野の入門・概論科目について履修プログラムに示された科目を中心に学ぶと同時に、他分野の学修も積極的に行い、幅広い分野の学びを通して、各自の専門分野の選択を確定する。
- ④ また、テーマ別の分野横断的な科目『ブリッジ講座A / B』を開講する。この履修によって、リベラルアーツ型の分野横断的な視野を養う。
- ⑤ 2年次以後、主にサマーセッション時に行われるインターンシップ等への参加を推奨する。大学において学習した内容を社会で実際に活かすため、社会の様々な実践の場を体験し、「大学での学びを社会で実践し深める」機会とする。
教室における授業や演習では十分に把握できない生の社会を体験する機会となるばかりでなく、自己の職業観の形成や自己を客観的に判断する能力の育成のための機会とする。
- ⑥ 3年次からは、各自の選択した専攻を深めるための専門科目と共に、少人数で実施されるリベラルアーツセミナーにおいて、それぞれの学問分野における学修・研究方法を深く学び、各自の課題を解決する学修を深める。
- ⑦ 卒業年次においては、学習成果を社会に資するために、卒業論文・卒業プロジェクト（リベラルアーツプロジェクト）に取り組み、各自の専攻分野において身につけた様々な力を活用し、研究成果をまとめ、発表する。

1 専攻（メジャー）

基礎となる科目を学修した後、各自の目標に従って専攻（メジャー）を決定します。メジャーごとに指定された履修プログラムにより学修を進めます。ダブル専攻も可能です。（その際、サブメジャーの必修選択科目10単位を取得）

(1) メジャーの登録

3セメスター終了時（正式登録）→4セメスター終了時（最終決定）※以後変更はできません

(2) 領域とメジャーの概要

① ヒューマン・スタディーズ領域

人間探究を通して現代社会で生きる力を養う。人間に根本的な哲学や宗教の問題、人間の成長や発達・行動の仕組み、人間の行動の社会的要因について、批判的・論理的に思考できる力を養う。

哲学・宗教メジャー

物事を根源的・批判的に考察し、様々な問題を包括的に捉えることができる。人類の歴史や思想を宗教的な観点から深く理解し、多文化共生の課題解決のために貢献できる。

心理学メジャー

心と行動の仕組みを実証的に研究する方法やその理論を身につけることで、社会、地域、組織、家族におけるさまざまな問題に対して貢献することができる。

社会学メジャー

現代社会の問題を、社会理論と実証的データに基づいて理解・分析し、その知見の活用を通じて具体的な問題解決に貢献できる。

② ジャパン・スタディーズ領域

グローバル化した世界の中で「日本」を客観的に理解し、発信し、現代社会と関わる力を養う。

日本語・日本文学メジャー

日本語についての正しい理解を基盤にした高度な日本語表現能力や日本語教授の実践力、さらに過去から現代に至るまでの文学作品を読み込んでいくことで養った批判的思考力や発信力により現代社会における諸問題の解決に貢献できる。

日本学メジャー

人間の生活や思想などを多様な観点から広く追究しつつ、生活の全分野にわたる伝承文化をとおして日本の基層文化を理解し、現在の日常・非日常における文化状況や社会状況を正しく分析し発信する力を身につける。

③ グローバル・スタディーズ領域

国際関係を核に世界と関わる力を養う。

国際関係メジャー

現代日本の現況を国際関係の観点から考察し、国際協力をとおして具体的な問題解決に貢献できる。

④ STEMスタディーズ領域

情報技術や科学と現代社会のつながりを学び、未来社会に必要な技術と関わる力を養う。

STEMメジャー

現代科学に関心を持ち、科学と現代社会の関わりについて考察し、多様な分野を科学的・実証的に考察・判断する力を身につける。

2 オフキャンパス・スタディーズ

- キャンパス外のさまざまな現場で実践的に学ぶことを奨励します。

オフキャンパス・スタディーズの単位認定に関する規定

① 対象科目

「フィールドリサーチ」「Japanese Studies Overseas A～C」「フィールドワーク A～C」
「インターンシップ A～D」「日本語教育実習 A～C」「地域創生プロジェクト A～F」

② 受講条件

原則として学修継続条件に抵触していないこと

③ 事前登録手続き

Semester初めに行われるガイダンスに出席する
教務担当教員に履修申込書を提出する
教務担当者会、主任会、教授会で審議のうえ 履修を許可される
(実習) 原則として45時間を1単位とし実習を行う

④ 単位認定

実習終了後次Semesterの履修登録期間に該当する科目を履修登録する
報告書を提出するとともに報告会を開催する
教務担当者会において最終単位認定審査を行う
主任会・教授会の承認を経て単位認定する

2 卒業要件

- (1) 修業年限を満たしていること
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」
 「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」「二年次セミナー 201」「二年次セミナー 202」
 自然科学科目群：「情報科学入門」
 言語表現科目群：「日本語表現101」「日本語表現102」 ELF科目より「ELF301」を含み4単位以上
-
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群より、上記必修科目と自身のメジャー（※）の必修選択科目を含んで各4単位以上、学際科目群から2単位以上修得していること
-
- (6) 学科科目より、次の必修科目（9単位）を修得していること
 「リベラルアーツ基礎」「ブリッジ講座A」「リベラルアーツセミナーⅠA」「リベラルアーツセミナーⅡA」
 「リベラルアーツプロジェクト」
-
- (7) 学科科目・他学科開講科目のうち、①自身のメジャーの必修選択科目より10単位以上、②自身の領域（※）以外の3領域の必修選択科目より各4単位以上（①で修得済の同名称科目は対象としない）修得すること
-
- (8) 卒業見込セメスターにおいて卒業発表を行い、その審査に合格すること

※メジャー・領域の構成については以下ようになります。

※メジャー・領域の必修選択科目についてはp.202～207「リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科教育課程表」の「メジャー別履修条件」を参照してください。

領域	ヒューマン・スタディーズ			ジャパン・スタディーズ		グローバル・スタディーズ	STEM スタディーズ
メジャー	哲学・ 宗教	社会学	心理学	日本語・ 日本文学	日本学	国際関係	STEM

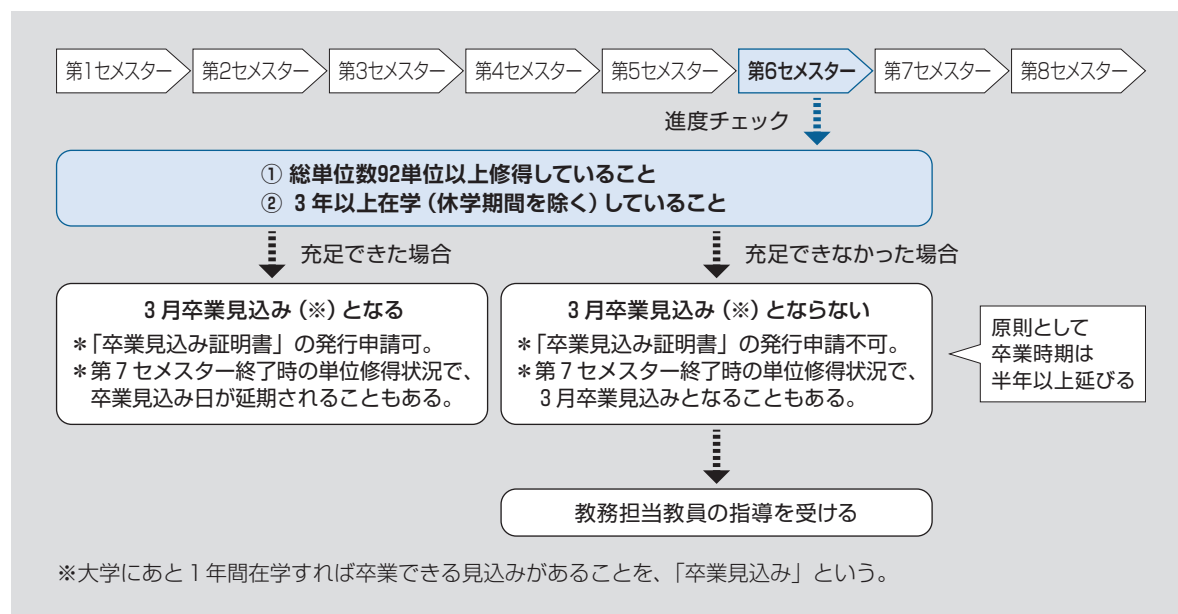
3 卒業までの単位配分

科目群	科目分類	必要単位		必修科目
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群	11単位		「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」 「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」 「二年次セミナー 201」「二年次セミナー 202」
	人文科学科目群	4単位以上	自身のメジャー の必修選択科目 から2単位以上 含むこと	
	社会科学科目群	4単位以上		
	自然科学科目群	4単位以上		「情報科学入門」
	学際科目群	2単位以上		
	言語表現科目群	8単位以上		「日本語表現101」「日本語表現102」「ELF301」
学科科目	必修科目	9単位		「リベラルアーツ基礎」「ブリッジ講座A」 「リベラルアーツセミナーⅠA」 「リベラルアーツセミナーⅡA」 「リベラルアーツプロジェクト」
他学科科目	必修選択科目	自身のメジャーから10単位以上		
		自身の領域以外の3領域から 各4単位以上		
自由選択科目	その他学科科目 その他US科目 その他他学科開講科目 単位互換科目	任意		
	累積修得単位数	124単位以上		

4 進捗チェック

- リベラルアーツ学部では、一人ひとりの学生の学修状況が卒業に向けて順調に進んでいるかを確認するために、下記のようにチェックを行います。

第6セメスター（3年次秋）終了時における進捗チェック



5 資格

リベラルアーツ学部で取得できる資格は、「資格を取得するために」(p.221～)を参照して確認すること。

- *日本語教員
- *社会調査士
- *宗教文化士
- *図書館司書
- *社会教育主事(任用資格)
- *学芸員
- *環境エドゥケーター
- *TAPファシリテーター

6 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教育課程表

凡例 開 講 期 (集中): 集中開講

履 修 条 件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目

他学科受講 ○: 他学科受講可 ◇: 日本語教員資格取得希望者のみ可

科目記号 ／ 番号	授 業 科 目 名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	メジャー別履修条件						他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力											
					ヒューマン・スタディーズ領域		ジャパン・スタディーズ領域		グローバル・スタディーズ領域				STEM領域		知識・理解	汎用的技能			態度・志向性					
					哲学・宗教メジャー	社会学メジャー	心理学メジャー	日本語・日本文学メジャー	日本学メジャー	国際関係メジャー			STEMメジャー	多文化・異文化		文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ
ユニバーシティ・スタンダード科目																								
UNIV 101	一年次セミナー 101	2	100	春	●	●	●	●	●	●	●			●										
UNIV 102	一年次セミナー 102	2	100	秋	●	●	●	●	●	●	●			●						●	●			
UNIV 108	玉川の教育	0.3	50	秋	●	●	●	●	●	●	●			●								●		
HHS 100	健康教育	1	100	春	●	●	●	●	●	●	●			●	●									
MUS 101	音楽 I	0.7	105	春	●	●	●	●	●	●	●			●							●	●		
MUS 102	音楽 II	1	100	秋	●	●	●	●	●	●	●			●							●	●		
UNIV 201	二年次セミナー 201	2	100	春	●	●	●	●	●	●	●			●										
UNIV 202	二年次セミナー 202	2	100	秋	●	●	●	●	●	●	●												●	
ANTH 100	文化人類学	2	100	春秋	◆			◆	◆					●	●									
ANTH 101	民俗学入門	2	100	秋				◆						●	●				●					
CWC 100	ことばと文化	2	100	春秋			◆							●										
CWC 101	比較文化論	2	100	春秋					◆					●										
JLIT 100	日本文学	2	100	春秋				◆						●										
WLIT 100	外国文学	2	100	春秋				◆						●										
HIST 102	歴史 (世界)	2	100	春秋				◆	◆											●				
HIST 103	歴史 (日本)	2	100	春秋				◆	◆											●				
PHIL 100	哲学	2	100	春秋	◆															●				
PHIL 101	倫理学	2	100	春秋	◆															●				
PHIL 102	ロジック	2	100	春秋	◆															●				
RST 101	宗教学	2	100	春秋	◆									●										
RST 100	世界の宗教と文化	2	100	秋	◆				◆					●	●								●	
RST 200	キリスト教学	2	100	春	◆									●	●						●			
JPN 105	日本語学	2	100	春秋				◆						●	●								●	
JPN 107	日本学入門	2	100	春				◆						●	●								●	
JPN 304	Japanology	2	100	春				◆						●	●									
JPN 300	Japanese Pop Culture	2	100	秋				◆						●	●									
JPN 400	Issues I n Japanese Studies A	2	100	春				◆						●	●					●				
JPN 401	Issues I n Japanese Studies B	2	100	秋				◆						●	●					●				
HIST 300	Modern Japanese History	2	100	秋				◆						●	●									
HIST 400	East Asian History	2	100	春				◆						●	●									
ACCT 100	会計学	2	100	春秋							◆			●										
COMM 100	コミュニケーション論	2	100	春秋			◆		◆					●										
COMM 200	Academic Communication	2	100	春										●						●			●	
ECON 100	経済学 (国際経済を含む)	2	100	春秋	◆				◆											●			●	
INTL 201	国際関係論	2	100	春秋					◆											●				
LAW 100	市民社会と法	2	100	春秋	◆	◆			◆											●			●	
POSC 100	政治学	2	100	春秋	◆	◆			◆					●										
PSY 101	心理学	2	100	春秋			◆							●						●				
SOC 102	社会学	2	100	春秋	◆															●			●	
E D 107	ボランティア概論	2	100	秋					◆											●	●			
SOC 200	科学技術社会論	2	100	秋							◆												●	
TOUR 101	観光学入門	2	100	春					◆											●				
INFO 101	情報科学入門	2	100	春秋	●	●	●	●	●	●	●			●		●							●	
INFO 104	データ処理	2	100	春秋							◆			●		●								
INFO 109	マルチメディア表現	2	100	春秋							◆			●		●								
BIOL 105	生物学入門	2	100	春秋							◆			●										
MATH 107	数学入門	2	100	春秋							◆				●									
STAT 103	統計学入門	2	100	春秋	◆	◆					◆									●				
SCED 100	科学入門	2	100	春秋							◆			●										

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	メジャー別履修条件						他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
					ヒューマン・ スタディーズ 領域	シブ ン・ スタ ディ ーズ 領域	グ ロー バル ・ スタ ディ ーズ 領域	STEM スタ ディ ーズ 領域	知識・ 理解				汎用的技能				態度・志向性									
					哲 学 ・ 宗 教 メ ジ ャ ー	社 会 学 メ ジ ャ ー	心 理 学 メ ジ ャ ー	日 本 語 日 本 学 メ ジ ャ ー	日 本 学 メ ジ ャ ー	国 際 関 係 メ ジ ャ ー			STEM メ ジ ャ ー	多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミュ ニ ケー ション ・ スキ ル	数 量 的 の スキ ル	情 報 リ テ ラ シー	論 理 的 の 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ーク	リ ー ダ ー シ ップ	倫 理 的 観	社 会 的 責 任	生 涯 学 習 力
INTD 100	STEM入門 (科学と社会)	2	100	秋						◆			●								●	●				
COSC 201	人工知能と社会	2	100	秋						◆			●								●	●				
COSC 100	マクロ脳科学	2	100	春秋		◆							●													
COMM 101	マスメディアと社会	2	100	春秋	◆			◆														●				
PHIL 202	現代文化論	2	100	春				◆					●	●												
INTD 113	プレゼンテーションスキル	2	100	秋										●	●	●										
INTD 200	Presentation Skill In English	2	100	秋									●	●	●											
JPN 301	Japan Studies Overseas A	2	100	秋春				◆					●	●												
JPN 302	Japan Studies Overseas B	2	100	秋春				◆					●	●												
JPN 303	Japan Studies Overseas C	2	100	秋春				◆					●	●												
COPR 100	インターンシップ A	2	100	春秋										●		●	●									
COPR 101	インターンシップ B	2	100	春秋										●		●	●									
COPR 102	インターンシップ C	1	50	春秋										●		●	●									
COPR 103	インターンシップ D	1	50	春秋										●		●	●									
CARE 301	キャリア・マネジメント	2	100	春												●						●				
GLS 105	国際研究 A	2	300	秋春									●	●												
GLS 106	国際研究 B	2	300	秋春									●	●												
GLS 107	国際研究 C	2	300	秋春									●	●												
GLS 108	国際研究 D	3	450	秋春									●	●												
GLS 109	国際研究 E	4	600	秋春									●	●												
GLS 110	国際研究 F	5	750	秋春									●	●												
INTD 110	フィールドワーク A	2	300	春秋									●	●												
INTD 111	フィールドワーク B	2	300	春秋									●	●												
INTD 112	フィールドワーク C	2	300	春秋									●	●												
INTD 104	地域創生プロジェクト A	1	150	春秋										●								●				
INTD 105	地域創生プロジェクト B	1	150	春秋										●								●				
INTD 106	地域創生プロジェクト C	2	300	春秋										●								●				
INTD 107	地域創生プロジェクト D	2	300	春秋										●								●				
INTD 108	地域創生プロジェクト E	3	450	春秋										●								●				
INTD 109	地域創生プロジェクト F	3	450	春秋										●								●				
ENG 101	ELF 101	4	200	春秋										●												
ENG 102	ELF 102	4	200	春秋										●												
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋										●												
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春										●												
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	●	●	●	●	●	●	●			●												
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春										●												
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋										●												
ENG 402	ELF 402	4	200	秋春										●												
JPN 101	日本語表現 101	2	100	春秋	●	●	●	●	●	●	●			●												
JPN 102	日本語表現 102	2	100	秋	●	●	●	●	●	●	●			●												
TED 103	教育心理学	2	100	秋		◆							●			●										

凡例 開講期 (集中):集中開講

履修条件 ●:必修科目 ◆:必修選択科目 無印:選択科目

他学科受講 ○:他学科受講可 ◇:日本語教員資格取得希望者のみ可

Table with columns for course ID, name, credit, hours, semester, and various skill/condition indicators. The table is divided into sections for '学科専門科目' and '授業を通して修得できる力'.

2019年度入学生

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	メジャー別履修条件				他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力											
					ヒューマン・ スタディーズ 領域	ジャパン・ スタディーズ 領域	グローバル・ スタディーズ 領域	STEM スタディーズ 領域			知識・ 理解	汎用的技能				態度・志向性						
					哲学・ 宗教学メ ジャー	社会学メ ジャー	心理学メ ジャー	日本語・ 日本文学メ ジャー			日本学メ ジャー	国際関係 メジャー	STEMメ ジャー	多文化・ 異文化	文化・ 社会・ 自然	コミュニ ケーション スキル	数量的 スキル	情報リテ ラシー	論理的思 考力	問題解 決力	自己管 理力	チームワ ーク
SOC 300	社会学理論	2	100	秋	◆						●				●						●	
SOC 301	社会調査実習Ⅱ	2	100	春	◆						●	●	●									
PSY 301	産業・組織心理学	2	100	秋		◆					●			●	●							
INTL 300	国際関係事例研究 A	2	100	春				◆			●	●			●							
INTL 301	国際関係事例研究 B	2	100	秋				◆							●		●	●				
INTD 300	STEMと現代社会Ⅰ	2	100	春					◆		●				●						●	
INTD 301	STEMと現代社会Ⅱ	2	100	秋					◆		●				●							●
INTD 404	リベラルアーツセミナーⅢ	2	100	春							●			●	●							
INTD 405	リベラルアーツセミナーⅣ	2	100	秋							●			●	●							
INTD 406	リベラルアーツプロジェクト	2	100	秋	●	●	●	●	●	●	●			●	●							
INTD 401	専門研究 A	2	100	春							●				●	●						
INTD 402	専門研究 B	2	100	秋							●				●	●						
PHIL 400	日本思想史	2	100	春	◆			◆		○	●									●		
SOC 402	実証的社会学研究	2	100	春	◆					○		●		●	●							●
PSY 400	健康心理学	2	100	秋		◆				○		●			●							●
PSY 401	犯罪心理学	2	100	秋		◆						●		●						●		
JPN 406	日本語教育現場研究	2	100	秋			◆			◇	●	●					●					
ART 402	鑑賞批評論	2	100	春				◆			●				●							
B A 403	グローバル人材論	2	100	春				◆			●	●						●				
INTL 400	環境平和論	2	100	秋				◆					●							●	●	
JPN 404	日本学調査実習	2	100	秋春				◆		3年次より履修可	●				●						●	
INTD 400	STEM文献研究	2	100	春					◆		●				●	●						
他学科学目																						
SCED 101	コミュニケーション科学の世界	2	100	春					◆	工学部 情報通信 工学科学目	●	●				●						
INFO 105	デジタルシチズンシップ	2	100	春					◆	工学部 ソフトウェア サイエンス 科学目	●			●						●		
MART 106	コンピュータ音楽技法	2	100	春					◆	芸術学部 メディアデザイン 科学目			●	●								
JPN 208	日本語文法論Ⅰ	2	100	春			◆			文学部 国語教育 科学目	●			●								
JPN 209	日本語文法論Ⅱ	2	100	秋			◆			文学部 国語教育 科学目	●			●								
JLIT 201	日本古典文学演習	2	100	春			◆			文学部 国語教育 科学目	●			●	●							
JLIT 200	日本近代文学演習	2	100	秋			◆			文学部 国語教育 科学目	●			●	●							
JPN 202	書写 2022年度より閉講	2	100	秋			◆			文学部 国語教育 科学目	●	●										
WLIT 202	世界文学	2	100	春			◆			文学部 国語教育 科学目	●	●		●								
PHIL 207	ロジカルシンキング	2	100	春	◆					文学部 国語教育 科学目		●		●	●							
PHIL 201	クリティカルシンキング	2	100	秋	◆					文学部 国語教育 科学目		●		●	●							
JPN 201	クリティカルリーディング	2	100	春	◆					文学部 国語教育 科学目		●		●	●							
BIOL 202	自然環境保全学	2	100	春					◆	農学部 環境農学 科学目	●									●	●	
COSC 200	認知科学	2	100	秋					◆	工学部 情報通信 工学科学目	●				●							

Ⅱ
履修案内

リベラルアーツ学部
リベラルアーツ学科

凡例 **開講期** (集中): 集中開講

履修条件 ●: 必修科目 ◆: 必修選択科目 無印: 選択科目

他学科受講 ○: 他学科受講可 ◇: 日本語教員資格取得希望者のみ可

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	メジャー別履修条件							他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力									
					ヒューマン・ スタディーズ 領域		ジャパニ スタディーズ 領域		グローバル スタディーズ 領域		STEM スタディーズ 領域			知 識 ・ 理 解	汎用的技能			態度・志向性					
					哲 学 ・ 宗 教 メ ジ ャ ー	社 会 学 メ ジ ャ ー	心 理 学 メ ジ ャ ー	日 本 語 ・ 日 本 文 学 メ ジ ャ ー	日 本 学 メ ジ ャ ー	国 際 関 係 メ ジ ャ ー	S T E M メ ジ ャ ー				多 文 化 ・ 異 文 化	文 化 ・ 社 会 ・ 自 然	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス キ ル	数 量 的 ス キ ル	情 報 リ テ ラ シ ー	論 理 的 思 考 力	問 題 解 決 力	自 己 管 理 力	チ ーム ワ ー ク
INFO 201	ゲーム企画開発論	2	100	秋							◆	工学部 ソフトウェア サイエンス 学科科目	●●										
INFO 203	コンピュータグラフィックス	2	100	春							◆	工学部 ソフトウェア サイエンス 学科科目		●									
MASC 206	人間工学	2	100	秋							◆	工学部 エンジニアリ ングデザイン 学科科目			●								
SCED 202	サイエンス&テクノロジービジット	2	100	秋							◆	工学部 エンジニアリ ングデザイン 学科科目	●					●				●	
CWC 201	Intercultural Studies	2	100	春						◆		経営学部 国際経営 学科科目	●	●									
GEOG 201	地理学概論	2	100	春						◆		教育学部 教育学科 科目	●		●								
PHIL 203	西洋哲学思想史	2	100	春秋	◆							教育学部 教育学科 科目	●		●								
PHIL 205	東洋思想史	2	100	春秋	◆							教育学部 教育学科 科目	●●		●								
ART 224	造形理論 B	2	100	秋	◆							芸術学部 メディアデザイン 学科科目	●●										
ART 203	アニメーション・漫画論	2	100	秋						◆		芸術学部 メディアデザイン 学科科目	●●										
MUS 207	現代音楽史	2	100	春							◆	芸術学部 メディアデザイン 学科科目	●●										
MUS 217	日本音楽史	2	100	秋						◆		芸術学部 芸術教育 学科科目	●									●	
ART 231	デザイン理論	2	100	春							◆	芸術学部 芸術教育 学科科目		●							●		
ART 233	日本美術史 A	2	100	春						◆		芸術学部 芸術教育 学科科目	●									●	
ART 234	日本美術史 B	2	100	秋						◆		芸術学部 芸術教育 学科科目	●									●	
SOC 201	観光社会学 A	2	100	春		◆						観光学部 観光学 科科目	●										
TOUR 202	国際観光論 A	2	100	春						◆		観光学部 観光学 科科目	●								●		
SOC 202	観光社会学 B	2	100	春秋		◆						観光学部 観光学 科科目	●										
TOUR 203	国際観光論 B	2	100	春秋						◆		観光学部 観光学 科科目	●								●		
JPN 310	日本語史	2	100	春秋						◆		文学部 国語教育 学科科目	●		●								
JPN 306	日本語学演習	2	100	秋						◆		文学部 国語教育 学科科目	●		●								
JPN 207	日本語語彙論	2	100	秋						◆		文学部 国語教育 学科科目	●●	●		●							
JPN 305	日本語音韻論	2	100	秋						◆		文学部 国語教育 学科科目	●●		●								
INTD 303	現代思想と言語	2	100	秋	◆							文学部 国語教育 学科科目	●		●●								

科目記号 ／ 番号	授業科目名	単 位	授 業 時 間 (分)	開 講 期	メジャー別履修条件				他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力													
					ヒューマン・ スタディーズ 領域	ジャパン・ スタディーズ 領域	グローバル・ スタディーズ 領域	STEM スタディーズ 領域			知識・ 理解	汎用的技能				態度・志向性								
					哲学・ 宗教学 メジャー	社会学 メジャー	心理学 メジャー	日本語 日本文学 メジャー				国際 関係メ ジャー	STEM メジャー	多 文化・ 異文化	文 化・社 会・自 然	コ ミュニ ケーション スキル	数 量的 スキ ル	情 報リ テラ シー	論 理的 思考 力	問 題解 決力	自 己管 理力	チ ーム ワー ーク	リ ーダ ーシ ップ	倫 理 観
INTD 304	テクノロジーと言語	2	100	春				◆		文学部 国語教育 学科科目	●				●	●								
JLIT 300	英語で読む日本文学	2	100	秋			◆			文学部 国語教育 学科科目	●	●												
INFO 316	プレゼンテーション技法	2	100	秋					◆	文学部 国語教育 学科科目			●		●			●						
AGR 314	農学国際協力	2	100	春				◆		農学部 環境農学 学科科目	●									●	●			
ESP 303	地球環境と生態系	2	100	秋				◆	◆	農学部 環境農学 学科科目	●				●									
ENGR 307	コミュニケーションロボット工学	2	100	春					◆	工学部 情報通信 工学学科 科目			●		●	●								
B A 310	中小企業経営論	2	100	春秋				◆		経営学部 国際経営 学科科目											●			
PSY 304	臨床心理学	2	100	春			◆			教育学部 教育学科 科目	●				●									
TOUR 306	観光文化論 A	2	100	秋	◆		◆			観光学部 観光学科 科目	●	●										●		
AREA 302	地域文化論	2	100	秋				◆		観光学部 観光学科 科目	●			●										
TOUR 307	観光文化論 B	2	100	春秋	◆		◆			観光学部 観光学科 科目	●	●										●		
JPN 405	日本語学研究	2	100	秋			◆			文学部 国語教育 学科科目	●				●									
PHIL 401	批評理論	2	100	秋	◆		◆			文学部 国語教育 学科科目	●	●			●									
INFO 403	ブレインソフトウェア	2	100	秋					◆	工学部 ソフトウェア サイエンス 学科科目	●					●								
MASC 412	ユニバーサルデザイン	2	100	春					◆	工学部 マネジメント サイエンス 学科科目							●							
ART 408	芸術社会学	2	100	春秋	◆					芸術学部 パフォーミング アーツ学科 科目	●				●									●
CWC 400	異文化交流論	2	100	春				◆		観光学部 観光学科 科目	●												●	
INTL 401	国際協力	2	100	春				◆		観光学部 観光学科 科目	●					●								

【履修にあたって】

- (1) 必修科目はすべて履修してください。
- (2) 必修科目・必修選択科目は「メジャー別履修条件」を確認して履修してください。
- (3) I・II・IIIなどのローマ数字がついている同一名称科目は原則としてI→II→IIIの順番で履修してください。
- (4) A・B・Cがついている同一名称科目は履修の順番を問いません。

観光学部

観光学科

人材養成等教育研究に係る目的

観光学部ではグローバル時代における観光の振興に広く貢献できる人材の養成を目指す。具体的には、現代における観光の意義と役割とその課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域活性化に貢献できる人材を養成する。

そのために、グローバル時代における観光産業のあり方について、その基礎基本となる知識を体系的に学習し、そこで修得した知見を基に、幅広い観点から観光という現象の意義や役割を理解し、さらに現状の課題を社会科学的な方法論に基づいて認識しその解決策を提示できる能力を育成する。

また、グローバル時代の観光産業にあっては、インバウンド観光・アウトバウンド観光ともに、国際共通語としての英語力は必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図るとともに、それをを用いた異文化理解の深化と異文化との交流力を培うことを目指した教育・研究を行うことを目的とする。

教育課程は、「観光全般に関する知識」を体系的に修得させることと、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人間関係構築力」「情報収集・分析・表現力」「異文化理解・対応力」「社会的責任と倫理観」「問題発見・解決力」など「グローバル時代における観光の振興に貢献できる人材」が備えるべき基礎的な資質・能力を身につけさせる。

観光学部 ディプロマ・ポリシー

観光学部では、人材養成等教育研究に係る目的に基づくカリキュラムを通して、以下の能力を学士力として修得し、卒業要件を充足した人に、学士（観光学）の学位を授与します。

- ① 観光に関する幅広い知識を身につけ、観光という現象を多様な観点から分析することができる。【知識・理解】
- ② グローバル時代における観光の新たな問題を発見し、適切な情報収集とその分析を通じて、自らの解決策を考え、提示することができる。【思考・判断】
- ③ グローバル時代において、高い倫理観を持ち、日本国内並びに海外において国際観光の振興に取り組む素地を体得している。【態度】
- ④ 異文化に対する興味と関心を持ち、多様な価値観と共生することができる。【関心・意欲】
- ⑤ ビジネスの現場での確かなコミュニケーションをとることが可能となる高度な英語運用力を修得している。【技能・表現】

1 カリキュラム・ポリシー

- 観光学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の通りのカリキュラムを編成しています。

- ① 1年間の海外留学を含めて4年間の在籍で卒業が可能となるように設計する。
- ② 留学出発前の第1 Semesterから第3 Semesterまでは、国際共通語である英語力の伸長を図ることに力点を置くカリキュラムとする。同時に、情報の収集・分析・表現力の育成を重視した科目を配置する。また、観光に関する基礎的な科目を履修できるようにする。
- ③ 第4 Semesterおよび第5 Semesterでは、「観光学部留学プログラム」に参加し、高度な英語力への伸長を図るとともに、異文化を理解し、交流を実践し、多様な価値観を有する人々と共生できるようにする。
- ④ 留学終了後の第6 Semesterから第8 Semesterでは、主として観光に関する専門的な学習を集中的に行うべく、「観光ビジネス」「観光による地域振興」「観光を通じた国際交流」の3つの履修モデルを想定し、多様な専門科目を体系的に配置する。幅広い観点から専門的な理解を深め、観光の意義や役割、現状と課題を認識し理解できる能力を養成する。さらに、自身の関心をもった分野について、問題の発見、情報の収集と分析、解決策の立案を行う機会を提供する。

2 観光学部留学プログラム

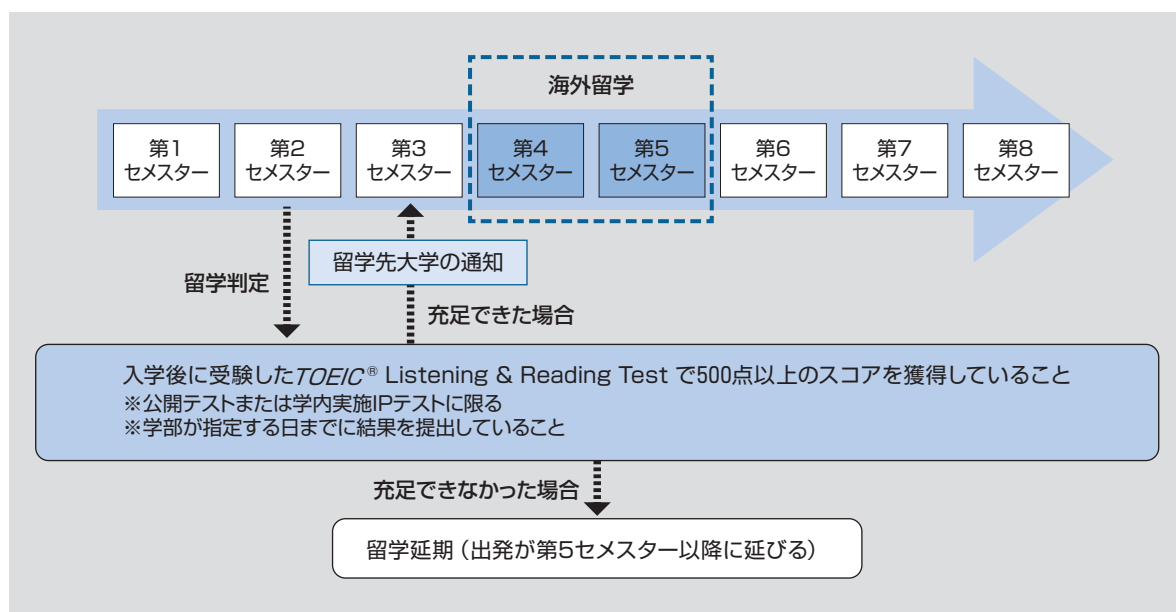
- 観光学部では1年間の留学が必修となります。そのために、「観光学部留学プログラム（Tourism and Hospitality Overseas Program、THE Top）」が実施されています。

1 目的

- 「観光学部留学プログラム」では、異文化体験を通して、国際社会で活躍できる英語力と国際理解力の養成を目指します。

2 留学条件

- 第2 Semester（1年次）終了時において、留学条件を満たしているか否かのチェック（留学判定）が行われます。
- 留学条件は「留学に必要な英語運用力を備えているか否か」の観点から定められています。具体的には「入学後に受験したTOEIC® Listening & Reading Test（略称：TOEIC® L&R）公開テストまたは玉川大学内で実施するIPテストで500点以上のスコアを取得していること」です。
- 留学条件を満たしたすべての学生は、オーストラリアのビクトリア州にある「ディーキン大学（Deakin University）」「スウィンバーン工科大学（Swinburne University of Technology）」「ビクトリア大学（Victoria University）」の3大学の中から、玉川大学が決定・通知する大学に第4 Semester・第5 Semesterの期間に留学することになります。
- 第2 Semester終了時の留学判定において留学条件を満たせなかった場合は、留学出発が延期となります。次の留学判定は第3 Semester終了時に行います。ここで留学条件を満たした場合は、第5 Semester・第6 Semesterの期間に留学をします。一方、ここでも留学条件を満たせなかった場合は、留学出発が再び延期となり、次の留学判定は第4 Semester終了時となります。
- なお、第4 Semester終了時の留学判定においても条件を満たせない場合は、留学延期が継続するとともに、4年間で卒業できないことが確定します。
- 留学出発が延期となった場合は、別途履修指導が行われます。



3 現地での学習

- 「観光学部留学プログラム」の学習上の最大の特徴は、現地において英語の習得を図るだけでなく、グローバル・スタンダードの大学での学びを経験できることにあります。
- そこで、留学の前半は、大学附属の語学学校（English Language Intensive Courses for Overseas Students, ELICOS）にて20週間の学修を行い、現地の大学での学修に耐えうる英語力を身につけます。
- 留学の後半は、ELICOSで習得した語学力に応じて、原則としてBachelor（現地の大学2年以上相当）またはDiploma（現地の大学1年相当）のいずれかのコースにて1セメスターの学修を行います。

4 留学中の単位の読み替え

- 留学期間中の現地での学修成果に対する玉川大学の開設科目への単位の読み替えは、留学終了時のセメスターの成績評価の際に一括して行います。
- 留学中の大学における学修で最大32単位、「インターンシップ」で最大4単位の読み替えが可能です。

3 卒業要件

- (1) 修業年限を満たすこと
-
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
-
- (3) 卒業時における累積GPAが2.00以上であること
-
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目を修得していること
玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
社会科学科目群：「経済学（国際経済を含む）」
自然科学科目群：「データ処理」「統計学入門」
学 際 科 目 群：「国際研究 B」「国際研究 C」「インターンシップ A」「インターンシップ B」
-
- (5) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修選択科目を修得していること
人文科学科目群：4単位以上
社会科学科目群：2単位以上
言語表現科目群：「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」から3科目12単位以上
-
- (6) 学科学目について、次の必修科目を修得していること
100番台科目：「観光概論」「観光立国論」「College EnglishⅠ」「College EnglishⅡ」
200番台科目：「留学準備セミナー」「リサーチ・メソッド」「College EnglishⅢ」
300番台科目：「College Reading and WritingⅠ」「観光学ゼミナールⅠ」
400番台科目：「College Reading and WritingⅡ」「English Communication Strategies」
-
- (7) 学科学目について、次の必修選択科目を修得していること
100番台科目：「観光地理学」「観光史」の中から1科目2単位以上
200番台科目：「観光社会学 A」「国際観光論 A」「観光経営学 A」「観光政策論」
「デスティネーション・マーケティング A」の中から2科目4単位以上
300番台科目：「観光開発論 A」「観光行動論 A」「観光文化論 A」「旅行事業論 A」
「宿泊事業論 A」「航空事業論 A」の中から4科目8単位以上
-
- (8) 学科学目の中から選択科目33単位以上（必修選択科目の必要数を超えた余剰単位を含む）を履修していること
-
- (9) 「観光学部留学プログラム」による1年間の海外留学を経験していること
-
- (10) 上記要件のすべてを満たし、入学後に受験した「TOEIC® Listening & Reading Test」の公開テストまたは学内実施のIPテストで700点以上のスコアを取得していること
※3月卒業は1月末、9月卒業は7月末の学部が指定する期日までに結果を提出していること
※観光学部「留学プログラム」期間中にオーストラリアで受験した公開テストも対象とする

4 卒業までの単位配分

- 観光学部では、卒業までにユニバーシティ・スタンダード科目、自学科科目の100番台科目、200番台科目、300番台科目、400番台科目および自由選択科目からそれぞれ必要となる単位数を満たすことが必要となります。

科目群	科目分類		必要単位	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群		7単位	
	人文科学科目群		4単位	32単位以上
	社会科学科目群		4単位	
	自然科学科目群		4単位	
	学際科目群		8単位	
	言語表現科目群		12単位	
学科科目	必修科目	100番台科目	8単位	21単位
		200番台科目	5単位	
		300番台科目	4単位	
		400番台科目	4単位	
	必修選択科目	100番台科目	2単位	14単位以上
		200番台科目	4単位	
		300番台科目	8単位	
	自学科選択科目 (必修選択科目の必要数を超えた) (余剰単位を含む)		33単位以上	
	自由選択科目	他学部他学科科目 他大学との単位互換科目 ユニバーシティ・スタンダード科目 (必要数を超えた余剰単位を含む)		任意
	卒業に必要な単位数			124単位以上
卒業に必要なGPA数値			累計GPA2.00以上	
卒業に必要なTOEIC® L&Rスコア			700点以上	

5 警告制度と注意

本学では全学部に通ずる警告制度を定めており、各学期末に学修状況判定が行われます。そこで累積GPA2.00未満の学生には「警告」が出されます（制度の詳細はp.37を参照）。

さらに、観光学部では一人ひとりの学生の学修状況が学士課程の修了に向けて適切に進んでいるのかをチェックするために、注意制度を設けております。「注意」の要件として「累積修得単位数」「累積GPA」「英語力判定テストのスコア」の3つがあり、セメスター終了ごとに基準が設けられています（下表参照）。いずれか1つ以上の基準に抵触すると注意となります。

注意を受けることは、このままの学修進捗状況では留学出発や卒業が延期になる可能性が高い、ないしは留学出発または卒業が延期になってしまうということを意味しており、学修の進め方を見直す必要があります。

年次	学期	a. セメスター終了時の累積修得単位数が下記の単位数未満	b. 累積GPAが下記の値未満	c. 英語力判定テストの結果が下記水準に未到達
1	春	15	2.20	TOEIC® L&R 400点未満
	秋	32		TOEIC® L&R 500点未満
2	春	47		—
	秋	62		TOEIC® L&R 500点未満
3	春	78		—
	秋	93		TOEIC® L&R 600点未満
4	春	109		TOEIC® L&R 650点未満
	秋	当該セメスターで卒業が不可能な学生		

※第6セメスター終了時にTOEIC® L&R 600点に到達していない場合は、卒業見込ができません。

▶警告

参照『履修ガイド』
p.37

6 観光学部が養成を目指す3つの人材像と履修モデル

- 観光学部では、人材育成目標およびカリキュラム方針に従って、以下の3つの履修モデルを設定しています。履修モデルを参考にして、第3セメスター以降から履修が可能な必修選択科目および選択科目の中からどのような科目を選択すべきかをよく考え、自らの目標を達成するために必要となる科目を履修し、勉学に邁進してください。

■履修モデル表

観光学部観光学科履修モデル			
	A. 観光ビジネスの発展に寄与できる人材（注1）	B. 観光を通じて地域の活性化に貢献できる人材	C. 観光を通じて国際交流の進展に貢献できる人材
100番 台科目	◎観光概論③、◎観光立国論①、◆観光史②、◆観光地理学②		
200番台科目	観光経営学◆A②・B② 国際観光論◆A②・B② デスティネーション・マーケティング◆A②・B②	観光政策論◆A②・B② デスティネーション・マーケティング◆A②・B② 国際観光論◆A②・B②	国際観光論◆A②・B② 観光政策論◆A②・B② 観光社会学◆A②・B②
300番台科目	旅行事業論◆A②・B② 宿泊事業論◆A②・B② 航空事業論◆A②・B② 観光行動論◆A②・B② 交通事業論② ホスピタリティ・マネジメント② 観光キャリア論② 観光時事講義②	旅行事業論◆A②・B② 観光行動論◆A②・B② 観光開発論◆A②・B② 観光文化論◆A②・B② 観光関連法規② 観光キャリア論② 観光時事講義②	観光文化論◆A②・B② 観光開発論◆A②・B② 観光行動論◆A②・B② 旅行事業論◆A②・B② 地域文化論② 観光キャリア論② 観光時事講義②
400番台科目	サービス・マーケティング② 観光財務情報分析② 観光経済学② イベント・ツーリズム② ホスピタリティ論② 観光情報システム②	観光まちづくり関連法規② 観光メディア論② 観光経済学② イベント・ツーリズム② アート・ツーリズム② エコ・ツーリズム②	異文化交流論② 国際協力② アート・ツーリズム② エコ・ツーリズム②

◎：必修科目、◆：必修選択科目、無印：選択科目 ○数字は単位数を示します。

（注1）履修モデルAが養成を目指す「観光ビジネスの発展に寄与できる人材」とは、旅行事業、宿泊事業、航空事業、交通事業等のいずれか一つの分野の発展に寄与できる人材を意味します。

7 履修上の留意事項

- ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、観光学部観光学科の学生が履修してはいけない科目は「観光学入門」「海外留学入門」の2科目です。
- 「ELF」「Intensive English Training」「College English」「College Reading & Writing」「English Communication Strategies」については、各種英語力判定テストの結果に基づき、クラス指定を行います。
- 留学条件を満たし、出発が許可された学生は、出発直前の学期に「留学準備セミナー」を履修します。留学出発を許可されていない学生は受講することができません。
- 「観光学ゼミナールⅠ」は必修科目です。留学終了後に履修します。
- 卒業論文を執筆する学生は、「観光学ゼミナールⅢ」と「卒業論文」を同時に履修してください。また、履修にあたって指導教員からの許可を得るようにしてください。
- 「English Communication Strategies」の単位修得のためには、通常の授業に出席して合格することに加えて、卒業要件であるTOEIC® Listening & Reading Testで700点以上のスコアを指定する期日までに獲得し、報告することが必要です。

8 観光学部 観光学科 教育課程表

凡例 履修条件 ●:必修科目 ◆:必修選択科目 無印:選択科目
他学科受講 ○:他学科受講可

科目記号 / 番号	授業科目名	単 位	授業 時間 (分)	開 講 期	履 修 条 件	他 学 科 受 講	備 考	授業を通して修得できる力																	
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性											
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力					
ユニバーシティ・スタンダード科目																									
UNIV 201	二年次セミナー 201	2	100	春					●																
UNIV 202	二年次セミナー 202	2	100	秋																				●	
UNIV 106	人文科学アカデミックスキルズ (ライティング)	1	50	春秋					●																
ANTH 100	文化人類学	2	100	春秋					●	●															
CWC 101	比較文化論	2	100	春秋					●																
HIST 102	歴史 (世界)	2	100	春秋											●										
HIST 103	歴史 (日本)	2	100	春秋											●										
ECON 100	経済学 (国際経済を含む。)	2	100	春	●										●								●		
INTL 201	国際関係論	2	100	春秋											●										
INFO 104	データ処理	2	100	春秋	●					●															
STAT 103	統計学入門	2	100	春秋	●										●										
COPR 100	インターンシップ A	2	100	秋春	●										●	●									
COPR 101	インターンシップ B	2	100	秋春	●										●	●									
GLS 105	国際研究 A	2	300	秋春					●	●															
GLS 106	国際研究 B	2	300	秋春	●				●	●															
GLS 107	国際研究 C	2	300	秋春	●				●	●															
GLS 108	国際研究 D	3	450	秋春					●	●															
GLS 109	国際研究 E	4	600	秋春					●	●															
GLS 110	国際研究 F	5	750	秋春					●	●															
ENG 201	ELF 201	4	200	春秋	◆		1年次より履修可		●	●															
ENG 202	ELF 202	4	200	秋春	◆		1年次より履修可		●	●															
ENG 301	ELF 301	4	200	春秋	◆		1年次より履修可		●	●															
ENG 302	ELF 302	4	200	秋春	◆		1年次より履修可		●	●															
ENG 401	ELF 401	4	200	春秋	◆		1年次より履修可		●	●															
ENG 402	ELF 402	4	200	春秋	◆		1年次より履修可		●	●															
学科専門科目																									
TOUR 100	観光概論	3	150	春	●				●																
ENG 104	College English I	2	100	春	●				●	●															
ENG 110	Intensive English Training A	1	50	春					●						●										
TOUR 102	観光立国論	1	50	秋	●										●										
GEOG 100	観光地理学	2	100	秋	◆	○			●	●															
HIST 100	観光史	2	100	秋	◆	○			●	●															
ENG 105	College English II	2	100	秋	●					●															
ENG 111	Intensive English Training B	1	50	秋						●					●										
INTD 204	リサーチ・メソッド	2	100	春	●					●					●									●	
ENG 205	College English III	2	100	春	●					●					●										
ENG 216	Intensive English Training C	1	50	春秋						●					●										
CWC 203	留学準備セミナー	1	50	春秋	●				●	●					●										
B A 201	観光経営学 A	2	100	春	◆	○									●	●									
MKTG 200	destination・マーケティング A	2	100	春	◆	○			●	●					●	●									
SOC 201	観光社会学 A	2	100	春	◆	○			●																
TOUR 201	観光政策論	2	100	春	◆	○									●										
TOUR 202	国際観光論 A	2	100	春	◆	○			●														●		
B A 202	観光経営学 B	2	100	春秋	○	○									●	●									
MKTG 201	destination・マーケティング B	2	100	春秋	○	○			●	●					●	●									
SOC 202	観光社会学 B	2	100	春秋	○	○			●																
TOUR 203	国際観光論 B	2	100	春秋	○	○			●														●		
ENG 208	English for Business Purposes I	3	150	秋春						●															
ENG 209	English for Business Purposes II	3	150	秋春						●															
ENG 207	English for Academic Purposes	2	100	秋春						●															
ENG 213	English for Specific Purposes I	2	100	秋春						●															
ENG 214	English for Specific Purposes II	2	100	秋春						●															

科目記号／番号	授業科目名	単位	授業時間(分)	開講期	履修条件	他学科受講	備考	授業を通して修得できる力													
								知識・理解		汎用的技能				態度・志向性							
								多文化・異文化	文化・社会・自然	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク	リーダーシップ	倫理観	社会的責任	生涯学習力	
COMM 201	Business Communication I	2	100	秋春					●												
COMM 202	Business Communication II	2	100	秋春					●	●											
COMM 204	Intercultural Communication	2	100	秋春				●	●												
CWC 200	Intercultural Case Studies	2	100	秋春				●	●												
COMM 203	Communicative Skills in English	2	100	秋春					●												
MATH 200	Methods for Analysis	2	100	秋春					●		●	●									
TOUR 200	Tourism & Hospitality Systems	2	100	秋春					●	●											
B A 200	Management & Marketing Studies	2	100	秋春					●	●											
TOUR 305	観光時事講義	2	100	春秋		○							●								●
ENG 303	College Reading & Writing I	2	100	秋	●				●												
TOUR 302	観光学ゼミナール I	2	100	秋	●						●										
TOUR 300	観光開発論 A	2	100	秋	◆	○			●					●							
TOUR 303	観光行動論 A	2	100	秋	◆	○			●	●											
TOUR 306	観光文化論 A	2	100	秋	◆	○			●	●											●
TOUR 308	航空事業論 A	2	100	秋	◆	○			●				●								
TOUR 311	宿泊事業論 A	2	100	秋	◆	○			●				●								
TOUR 314	旅行事業論 A	2	100	秋	◆	○			●				●								
AREA 302	地域文化論	2	100	秋		○			●			●									
CARE 300	観光キャリア論	2	100	秋		○			●			●		●							
INTD 302	観光文献講読	2	100	秋		○			●	●											
LAW 300	観光関連法規	2	100	秋		○			●				●								
TOUR 310	交通事業論	2	100	秋		○			●				●								
TOUR 313	ホスピタリティ・マネジメント	2	100	秋		○			●				●								
TOUR 301	観光開発論 B	2	100	春秋		○			●				●								●
TOUR 304	観光行動論 B	2	100	春秋		○			●	●											
TOUR 307	観光文化論 B	2	100	春秋		○			●	●											●
TOUR 309	航空事業論 B	2	100	春秋		○			●				●								
TOUR 312	宿泊事業論 B	2	100	春秋		○			●				●								
TOUR 315	旅行事業論 B	2	100	春秋		○			●				●								
ENG 404	College Reading & Writing II	2	100	春秋	●				●		●										
ACCT 400	観光財務情報分析	2	100	春		○				●	●		●								
CWC 400	異文化交流論	2	100	春		○			●												●
ECON 400	観光経済学	2	100	春		○			●	●		●									
INFO 401	観光メディア論	2	100	春		○			●				●								
INTL 401	国際協力	2	100	春		○			●				●								
LAW 400	観光まちづくり関連法規	2	100	春		○			●				●								
MKTG 400	サービスマーケティング	2	100	春		○			●	●											
TOUR 400	アート・ツーリズム	2	100	春		○			●				●								
TOUR 401	イベント・ツーリズム	2	100	春		○			●				●								
TOUR 402	エコ・ツーリズム	2	100	春		○			●				●								
TOUR 403	観光学ゼミナール II	2	100	春									●								
ENG 406	English Communication Strategies	2	100	秋	●				●												●
ENG 405	College Reading & Writing III	2	100	秋					●		●										
INFO 400	観光情報システム	2	100	秋		○					●		●								●
TOUR 405	ホスピタリティ論	2	100	秋		○			●				●								
TOUR 404	観光学ゼミナール III	2	100	秋					●				●								
INTD 403	卒業論文	2	100	秋																	●

【履修にあたって】

- (1) 必修科目はすべて履修してください。
- (2) I・II・IIIなどのローマ数字がついている同一名称科目は原則としてI→II→IIIの順番で履修してください。
- (3) ELF科目に関しては、201→202→301→302→401→402の順で履修してください。なお、ELF 201以上の科目の中から3科目12単位は必修選択になります。ただし、1年次の履修レベル決定テストの結果により、201より下位のクラスから始まる場合があります。
- (4) A、B、C、Dがついている同一名称科目は履修の順番を問いません。

III

資格を取得するために

1 資格の種類 222

2 取得できる各種資格・修了証等一覧 223

1 保育士 224

2 学校図書館司書教諭 229

3 図書館司書 230

4 社会教育主事 231

5 学芸員 232

6 日本語教員 234

7 環境再生医初級 236

8 IB教員 237

9 ECO-TOPプログラム 238

10 樹木医補 240

11 食品衛生管理者および食品衛生監視員 241

12 基本情報技術者 242

13 ピアヘルパー 243

14 キャンプインストラクター 244

15 小学校英語指導者 245

16 社会調査士 246

17 宗教文化士 247

18 TAPファシリテーター 248

19 環境エデュケーター 250

1 資格の種類

資格を取得するためには、自分の所属する学部・学科の卒業要件以外に、定められた科目を履修する必要があります。

「何でもいいから資格が欲しい」といった安易な姿勢ではなく、強い意志と責任感をもって資格取得を目指してください。

本学で取得できる資格は、右ページの一覧表のとおりです。

▶ 国家資格

国や地方自治体、それに準ずる機関が試験を行い認定する資格。

▶ 任用資格

所定の科目を修得し、卒業後にその資格に関連する職務に就業した場合に、申請のうえ、取得できる資格。

1 国家資格

● 本学で取得できる国家資格は、以下の4つのタイプがあります（一覧表参照）。

- ① 在学中に指定科目の単位を修得することにより、取得できる資格
- ② 卒業後、申請が必要な資格

* 本学の指定している科目の単位を修得し、卒業後その職務に就くことにより申請資格が得られます（任用資格）。ただ、それだけで免許証や資格証書等が発行されるわけではなく、卒業後に所定の場所で申請手続きを取る必要があります。

- ③ 在学中に指定科目の単位を修得することにより、国家試験の受験科目が一部免除になる資格
- ④ 在学中に指定科目の単位を修得することにより、国家試験受験が免除になる資格

2 企業・団体等による修了証など

- 法律に基づく公的な資格ではありませんが、他の免許・資格と組み合わせることで、付加価値が生じます。
- 在学中に指定科目の単位を修得することにより、証明書が授与されます。
- 資格によっては、履修するための条件が設定されている場合があります。その条件を確認してから履修登録を行うようにしてください。

2 取得できる各種資格・修了証等一覧

	各種資格・修了証等に必要な科目は、○の記載された学部・学科で開設されます。したがって他学部・他学科の学生が希望しても、時間割上履修できないこともあります。履修登録前に各学科の教務担当教員に相談してください。														対応窓口					
	文学部		農学部		工学部				経営学部	教育学部		芸術学部		リベラルアーツ学部		観光学部				
	国語	英語	生産	環境	先端	情報	ソフトウェア	マネジメント	エンジニア	国際	教育	乳幼児	パフォーミング	メディア	芸術	リベラル	観光			
	教育	教育	農学	農学	農学	通信	工学	サイエンス	デザイン	経営	学	発達	アート	デザイン	学	アーツ	学			
	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学			
	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科			
国家資格	指定の課程を卒業することにより取得																	教師職教育リサーチセンター		
	保育士																		224~228	
	学校図書館司書教諭	△		△							●				●				229	
	図書館司書	△		△	△	△					●	●	●	●	●	●			230	
	社会教育主事（任用資格）	△		△	△	△					●	●			△	●			231	
	学芸員	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	●	●	○	●			232~233	
	卒業後要申請																		授業運営課	
	食品衛生管理者					○														241
	食品衛生監視員（任用資格）					○														241
	国家試験受験科目一部免除																			
基本情報技術者（午前試験免除）							○											242		
東京都																				
ECO-TOP プログラム				○														238~239		
小学校英語指導者認定協議会（J-shine）																				
小学校英語指導者										○	○							245		
NPO法人自然環境復元協会																				
環境再生医初級※				○	○	○												236		
財団法人日本緑化センター																				
樹木医補				○														240		
日本教育カウンセラー協会																				
ピアヘルパー										○	○							243		
㈱日本キャンプ協会																				
キャンプインストラクター										○	○							244		
㈱社会調査協会																				
社会調査士																	○	246		
国際バカロレア機構																				
IB教員	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	237		
宗教文化推進センター																				
宗教文化士	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○		247		
玉川大学																				
日本語教員	△	△								●	●	●	●	●	○			234~235		
児童のための体育教育指導者										○								157		
児童のための心の教育指導者										○	○							157		
児童のための野外活動指導者										○	○							157		
TAPファシリテーター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	248~249		
環境エデュケーター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	250~251		

○＝主に科目を開設している学部・学科 ●＝資格が取れる学部・学科 △＝教務担当教員に要相談（4年間では取得不可能な場合があります）
 ※ 更新申請中

Ⅲ 資格を取得するために 共通事項

保 育 士

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

〔表1〕 必修科目および教養科目

児童福祉法施行令に定める科目				本学で開設する科目				修得単位	備 考		
科 目	授業形態	単 位		科 目	授業形態	授業時間(分)	単 位				
告示別表第1による教科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	100	2	◎幼1種に同じ		
		教育原理	講義	2	教育原理	講義	100	2			
		子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	100	2			
		社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	100	2			
		子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	100	2			
		社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護	講義	100	2			
		保育者論	講義	2	保育者論	講義	100	2			
	保育の発展に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	100	2		乳幼児発達学科 卒業要件「必修選択」 乳幼児発達学科 卒業要件「必修選択」	
		子ども家庭支援の心理学	講義	2	子どもと家庭の発達心理学	講義	100	2			
		子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解と教育相談	演習	100	2			
		子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	100	2			
		子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	100	2			
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	100	2		2	◎幼1種に同じ
		保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	100	2		2	◎幼1種に同じ
		保育内容演習	演習	5	保育内容指導法（健康）	演習	100	2	10	◎幼1種に同じ	
					保育内容指導法（人間関係）	演習	100	2		◎幼1種に同じ	
					保育内容指導法（環境）	演習	100	2		◎幼1種に同じ	
					保育内容指導法（言葉）	演習	100	2		◎幼1種に同じ	
					保育内容指導法（表現）	演習	100	2		◎幼1種に同じ	
		保育内容の理解と方法	演習	4	音楽（幼）	演習	100	2	8	◎幼1種に同じ	
					図工（幼）	演習	100	2		◎幼1種に同じ	
					体育（幼）	演習	100	2		◎幼1種に同じ	
		国語	演習	100	2	◎幼1種に同じ					
		乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	100	2	2		
		乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	100	1	1		
		子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	100	1	1		
	障害児保育	演習	2	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助Ⅰ	演習	100	1	1			
				特別な支援を必要とする子どもの理解と援助Ⅱ	演習	100	1	1			
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護演習	演習	100	1	1				
子育て支援	演習	1	子育て支援演習	演習	100	1	1				
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（※3）	実習	—	4	4			
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	100	2	2			
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	100	2	2	◎幼1種に同じ		
必修科目群単位合計			51	資格取得に必要な単位数			62				
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	生命と性の教育	講義	100	2	4	2科目4単位必修選択		
				異文化理解と教育	講義	100	2				
				歴史（日本）	講義	100	2				
				哲学	講義	100	2				
コミュニケーション論				講義	100	2					
科学入門				講義	100	2					
情報科学入門	講義	100	2	2	学部 卒業要件「必修」						
外国語	演習	2以上	「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」のうち、1科目	演習	200	4	4	ユニバーシティ・スタンダード科目 学部 卒業要件「必修選択」			
体育	講義 実技	1 1		健康教育（※1）	講義	100	1	1	US玉川教育・FYE科目群「必修」		
				体育	実技	100	1	1	US玉川教育・FYE科目群「必修」		
教養科目合計			10以上	資格取得に必要な単位数			12以上				

[表2] 選択必修科目

児童福祉法施行令に定める科目				本学で開設する科目				修得単位	備 考
科 目	授業形態	単位	科 目	授業形態	授業時間(分)	単位			
告 示 別 表 第 2 に よ る 教 科 目 保 育 の 本 質 ・ 目 的 に 関 する 科 目 保 育 の 対 象 の 理 解 に 関 する 科 目 保 育 の 内 容 ・ 方 法 に 関 する 科 目 保 育 実 習	各指定保育士養成施設において設定		子どもと家族の福祉	講義	100	2	6 以上 (※2)	◎幼1種に同じ	
			○学習・発達論	演習	100	2			◎幼1種に同じ
			○幼児指導論 児 童 文 化 保 育 実 践 論 A 保 育 実 践 論 B 保 育 実 践 論 C 子 ども の 遊 び と 育 ち	講義 講義 講義 講義 講義	100 100 100 100 100	2 2 2 2 2			
	保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ		実習	2	—	2	2	「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」 または「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の組み合わせで修得すること	
	保育実習指導Ⅱ又は 保育実習指導Ⅲ		演習	1	100 100	1 1	1		
選択必修科目 単位合計			18	資格取得に必要な単位数			9 以上		

[備考]

1. 課程表内の「授業時間(分)」の表記については、履修ガイドp.16の「授業のしくみ」、p.19の「単位のしくみ」を参照のこと。
2. 特記事項については以下に示す。

- ※1 健康教育については、授業形態が「講義」となっているが、本学の建学の精神に則した科目として開設している。履修ガイドp.58「履修上の留意事項」に示すように講義と実技の双方を組み込み、講義(理論)100分×8回に加え、実技100分×7回の時間数をもった科目で隔週での実施をし、総計し、1単位としている。
なお、講義の時間数の算出根拠は、履修ガイドp.19の「単位のしくみ」に則す。
- ※2 [表2] 選択必修科目については○印の科目を含み、6単位以上とする。
- ※3 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについての実習時間数は、37.5時間を1単位とし、保育実習Ⅰは150時間で4単位、保育実習Ⅱ・Ⅲは75時間で2単位として換算する。なお、時間数の算出根拠は、履修ガイドp.19の「単位のしくみ」に則す。

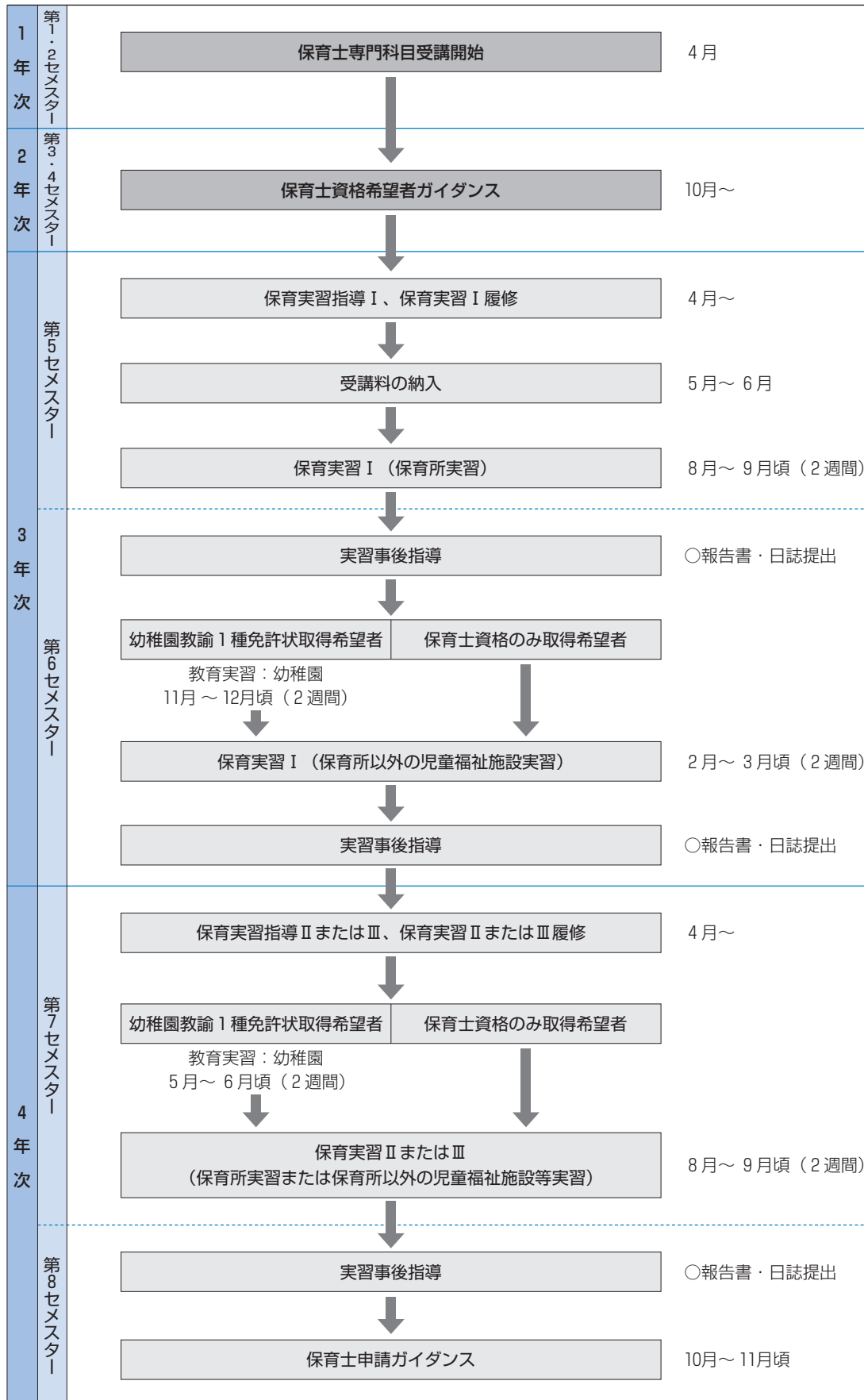
保育士資格の取得に関する規則

- 1. 目的** この規則は、玉川大学学則第11条第5項により保育士の資格を取得する場合に必要な事項について定める。
- 2. 受講の条件** 保育士資格を取得するためには以下に定める条件を満たす必要がある。(1)教育学部乳幼児発達学科に在籍していること(2)第1、または第2セメスターに実施するガイダンスに出席していること。(3)教育学部が定める各種資格の登録に関する規定に示された条件を満たしている者。なお、各種資格の登録に関する規定については学生要覧による。(4)「保育実習受講届」を決められた期日までに提出し許可を受けた者。なお、提出期日は、ガイダンスで通知する。(5)決められた期日までに受講料を納入していること。(6)上記の条件を満たしていても、以下に該当する場合は、受講を許可しない。①保育士になる意志のない者。②学力不足、適性等からみて、保育士としての資質に問題があると認められる者。
- 3. 受講継続の条件** 保育士資格の取得の継続については、教育学部が定める各種資格の登録に関する規定に示された継続条件を満たさねばならない。各種資格の登録に関する規定については、学生要覧による。
- 4. 受講取消・中止** (1)保育士資格の受講を取消すには、「保育実習受講取消届」に学科教職担当教員の承認印を受けたのち、教師教育リサーチセンターに提出しなければならない。(2)以下に該当した学生は、保育士資格付与の対象外とする。①各種資格の登録に関する規定に示された条件に抵触した者。②保育士としての資質に問題があると認められる者。ならびに保育士資格履修にあたり望ましくない行為があった者。③保育士になる意志のない者。なお、これらの事由により保育士資格の受講を中止された場合も、「保育実習取消届」に学科教職担当教員の承認印を受けたのち、教師教育リサーチセンターに提出しなければならない。
- 5. 履修科目** (1)保育士資格の取得に必要な児童福祉法施行規則第39条の2第1項第3号の規定により厚生労働大臣の定める科目に関する本学での履修方法および単位については、学生要覧による。(2)保育士資格を取得しようとする者は、必要な科目を自らの責任において履修登録期間に登録しなければならない。(3)保育実習については、「保育実習受講規則」に定める。
- 6. 保育士資格の申請と交付** (1)保育士資格に必要なすべての要件を満たした者は、教授会ならびに大学部長会の議を経て、保育士資格授与に関する申請ができる。(2)保育士資格の申請は大学が行なう一括申請による。一括申請については、一括申請ガイダンスに出席し所定の手続きをとることとする。なお、ガイダンス日程については掲示等で通知する。
- 7. 保育士証の交付** 保育士証の交付については、各都道府県が審査、決済し、保育士となる資格を有すると認められたときは、都道府県知事が保育士証を交付する。
- 8. 事務主幹** 保育士資格に関する事務は、教師教育リサーチセンター及び授業運営課において行う。
- 9. 規則の改定** この規則の改定については、教育学部と教職課程委員会で審議し決定する。

付・保育実習の履修について

- 1. 目的** この規則は、本学で保育士資格を取得しようとする学生が、児童福祉法施行規則の定めにより、保育実習を行なう場合に必要事項について定める。
- 2. 保育実習** (1)保育実習は、「保育実習に関する事前指導」、「現場における保育実習(以下「本実習」という)」および「保育実習に関する事後指導」に分けられ、これらすべてを履修しなければならない。(2)保育実習は、3年次(第5セメスター)に保育実習指導Ⅰ、4年次(第7セメスター)に保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲを受講しなければならない。(3)保育実習Ⅰは必修科目とし、必ず修得しなければならない。保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲは、選択必修科目とし、どちらか一方を修得し、かつ保育実習指導Ⅱまたは保育実習指導Ⅲを受講しなければならない。(4)保育実習の単位数については、児童福祉法施行規則に則り、本学学則に定められた時間数とする。
- 3. 受講条件** 本実習を行なう者(以下「実習生」という)は、事前に以下の条件を満たしている者とする。(1)保育士資格の取得許可を受けている者。(2)指定された期日に健康診断等を受け、伝染のおそれのある疾病がないと認められた者。(3)正常な保育活動を妨げるおそれのない者。(4)保育実習に関するガイダンス及び保育実習指導Ⅰ～Ⅲの単位を修得し、所定の手続きを行なった者。なお、ガイダンス日程は、掲示等により連絡する。(5)「保育実習受講届」を決められた期日までに提出し許可を受けた者。なお、提出期日はガイダンスで通知する。(6)指定された期日までに受講料を全額納入している者。
- 4. 実習の時期および期間** (1)本実習の時期はそれぞれ次のとおりとする。①保育実習Ⅰ…第5セメスターおよび第6セメスター ②保育実習Ⅱ…第7セメスター ③保育実習Ⅲ…第7セメスター(2)本実習について、実施する施設、修得すべき単位数、履修すべき時間数等は「指定保育士養成施設における保育実習の実施基準について」(厚生労働省雇用均等児童家庭局通知)に基づき、別に定める。また、その期間等は、直前指導時に通知する。
- 5. 欠席** (1)欠席は認められない。やむを得ない事由により欠席する場合は、ただちに教師教育リサーチセンターに連絡し指示を仰ぐこと。(2)欠席した場合は、その不足時間数を補わなければならない。(3)欠席した場合は、「保育実習欠席届」に理由を明記し、内容を証明する書類(病気の場合は医師の診断書)を添えて、欠席した日から1週間以内に教師教育リサーチセンターに提出すること。
- 6. 保育実習生の義務** 実習生は、以下のことに注意し現場での保育実習を行なわなければならない。これに違反した場合は、ただちに保育実習を中止する。また、実習終了後であってもこのような事実があった場合には、その保育実習は無効とする場合がある。①実習生は、受入先の規則を守り、施設の目的を理解し、受入先の秩序を乱したり、児童、利用者の人格、尊厳を傷つけることが無いよう、注意を払わなければならない。②実習生は、受入先の施設長・職員の指示に従わなければならない。③実習生は、保育士を志す学生としての本分を忘れず、その態度、服装および言動に注意しなければならない。④保育実習により知り得た児童、施設利用者のプライバシーに関する情報については、守秘義務がある。
- 7. 事後指導等** (1)実習終了後、事前指導で配布した「事後指導報告書」をただちに作成して保育実習指導担当教員の事後指導を受けなければならない。(2)実習生は、実習終了後決められた日時までに「保育実習日誌」(感想文を含む)を提出しなければならない。特別な理由無く提出が遅れた場合は、保育実習の単位認定は行なわない。なお、提出先、締切日時は、直前指導時に指示する。
- 8. 辞退** 保育実習の辞退は、原則として認めない。ただし、やむを得ない事情で辞退する場合には、「保育実習辞退届」に学科教職担当教員の承認印を受けたのち、教師教育リサーチセンターに提出しなければならない。
- 9. 事務主幹** 保育実習に関する事務は、教師教育リサーチセンター及び授業運営課において行う。
- 10. 規則の改定** この規則の改定については、教育学部と教職課程委員会で審議し決定する。

1 保育士資格を取得するための手順



Ⅲ
資格を取得するために
保育士

2 保育実習

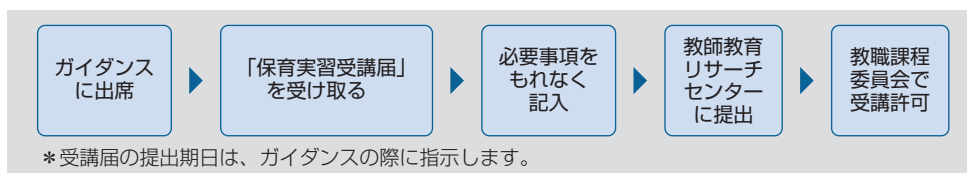
- 保育実習受講にあたっては、必要な時期に保育実習受講についてガイダンスを行いますので希望者は、必ず出席しなければなりません。
- ガイダンスでは、「保育実習希望施設調査票」をはじめ、指定される関係書類を提出しなければなりません。
- なお、実習施設・実習期間等は、実習をする Semester 始めに発表する予定です。
- 保育実習に関しては、すべて本学が別に定める「保育士資格の取得に関する規則」によるものとします。

1 受講料

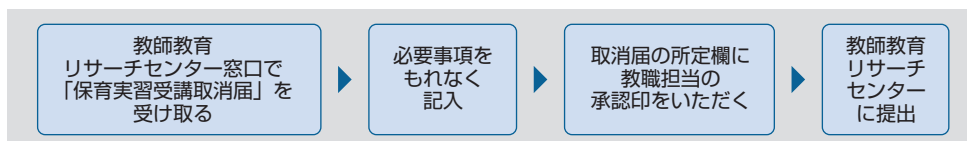
保育実習にかかる費用は3年次ならびに4年次で徴収する教職課程受講料に含まれます。

第5・7 Semester に、保証人宛送付の納入書により所定の納入手続きを完了してください。いったん納入した受講料は、原則として返金できません。
なお、受講料は経済状況の変動等により、今後改定されることがあります。
その他、手続き上の重要事項は、そのつど掲示により指示します。

2 登録の手順（1年次第2 Semester）



3 取消の手順



3 幼稚園教諭免許状関係科目との関わりについて

- 幼稚園教諭1種（または2種）免許状の取得については、別冊『教職課程受講ガイド』等に示されているとおりです。
- 幼稚園教諭免許状取得のための教職課程の受講と保育士資格取得のための関係科目の受講が許可された場合、幼稚園教諭免許状と保育士資格に共通する下記の授業科目・単位数については、重複して履修する必要はありません（単位修得について振替認定が行われます）。

科 目			単 位	科 目			単 位
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理		2	領域および保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法	保育内容総論	2
	保育者論		2			幼児指導論	2
	学習・発達論		2			保育内容指導法（健康）	2
	特別な支援を必要とする子どもの理解と援助Ⅰ		1			保育内容指導法（人間関係）	2
	保育カリキュラム論		2			保育内容指導法（環境）	2
			保育内容指導法（言葉）			2	
領域および保育内容の指導法に関する科目	専門的事項	音楽（幼）	2		保育内容指導法（表現）	2	
		図工（幼）	2		教育実践に関する科目	保育・教育実践演習	2
		体育（幼）	2				
		国語	2				

- 注：1）上記の各授業科目については、幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得上、履修条件の扱いが異なるので、履修科目を登録する際に注意する必要があります。
- 2）幼稚園教諭免許状の取得に必要な科目・単位数であって、保育士資格の取得に必要なとされていないその他の科目・単位数などについては、幼稚園教諭免許状の取得条件をすべて満たさなければなりません。

資格 2

学校図書館司書教諭

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

- 「学校図書館司書教諭」とは、学校教育に必要な図書や視聴覚教材、電子資料等の図書館資料を収集・組織・蓄積し、児童または生徒、教員の利用に供することにより、教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の読書活動を支援する専門的職務に従事する教諭です。
- 学校図書館司書教諭講習規定に定められた科目を、下記の方法により修得することによって、資格が与えられます。

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学で開設する科目		修得単位	備考
科目	単位	科目	単位		
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	2	隔年開講（偶数年）
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2	
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2	
		資格取得に必要な単位数		10	

資格取得にあたって

教職課程履修条件を受講していること。なお、最終セメスター開始時に教職員免許状の取得が見込めない学生は、「修了証書」の取得申請を行う事ができません。

「修了証書」の取得申請について

小・中・高等学校教育職員免許状および学校図書館司書教諭講習規程に定められた科目ならびに単位を修得すれば、「学校図書館司書教諭講習修了証書」（以下「修了証書」という）の申請資格が得られます。

① 資格取得に関するガイダンス

第2・4セメスター 1月に実施します。学校図書館司書教諭科目の履修計画等について説明します。資格取得を希望する学生は必ず出席しなければなりません。

② 資格科目の受講許可条件

教職課程を受講中であること。

③ 申請手続き

卒業該当年次の最終セメスター開始時に、UNITAMAにて申請手続き等に関する通知をします。

申請手続きは、前号の通知に従って行うこととし、申請書の提出および申請料の納入によって所定の手続き完了とします。

申請料 5,000円（申請料は改定されることがあります）

なお、正式手続き後の申請料は、理由のいかんにかかわらず返金しません。

申請書の受理後判定審査し、合格すれば卒業した年の8月頃に本学を經由して「修了証書」の申請を行い、翌年の3月頃に文部科学省より「修了証書」の授与となります。

④ 手続き等に関する各事項は、そのつどUNITAMAで連絡します。

図書館司書

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

- 「図書館司書」とは、公共図書館において、図書館資料を収集・組織・蓄積し、利用者の情報・資料への要求に対して図書館サービスを提供する職務に従事する専門的職員です。
- 図書館法施行規則に定められた科目を、下記の方法により修得することによって、司書となる資格が与えられます。
- これらの科目を履修することにより、公共図書館のみならず、大学図書館の専門的職員として図書館サービスに従事する場合に必要な知識・技能の修得にもつながります。

図書館法施行規則に定める科目			本学で開設する科目		修得単位	備考
科目	単位	科目	単位			
必須科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	22	隔年開講（奇数年）
	図書館概論	2	図書館概論	2		
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		隔年開講（偶数年）
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2		
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		隔年開講（偶数年）
	情報サービス論	2	情報サービス論	2		
	児童サービス論	2	児童サービス論	2		隔年開講（偶数年）
	情報サービス演習	2	情報サービス演習A	1		
	情報サービス演習B	1	情報サービス演習B	1		
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		隔年開講（偶数年）
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2			
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習A	1			
				1		
選択科目	図書館基礎特論	1	—	—	修得のこと 2科目以上	
	図書館サービス特論	1	—	—		隔年開講（奇数年）
	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論	1		隔年開講（偶数年）
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	1		隔年開講（奇数年）
	図書館施設論	1	図書館施設論	1		
	図書館総合演習	1	—	—		
	図書館実習	1	—	—		
資格取得に必要な単位数			資格取得に必要な単位数		24	

〔備考〕

(1) 隔年開講科目については見通しを持って計画的に履修してください。

「司書資格取得証書」の取得申請について

① 資格取得に関するガイダンス

第2セメスター1月に実施します。資格取得を希望する学生は必ず出席しなければなりません。

② 資格科目の受講許可条件

資格取得に関するガイダンスにおいて配布される資格科目受講届を提出しなければなりません。

③ 申請手続き

卒業該当年次の最終セメスター開始時に、UNITAMAにて申請手続き等に関する通知をします。

申請手続きは、前号の通知に従って行うこととし、申請書の提出および申請料の納入によって所定の手続き完了とします。

申請料 5,000円（申請料は改定されることがあります）

なお、正式手続き後の申請料は、理由のいかんにかかわらず返金しません。

申請書の受理後判定審査し、合格すれば「司書資格取得証書」の授与します。

④ 手続き等に関する各事項は、そのつどUNITAMAで連絡します。

資格 4

社会教育主事

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

- 「社会教育主事」とは、教育委員会において社会教育・生涯学習行政の企画・実施にあたり、それらを通して住民の学習活動を援助する「専門的教育職員」をさします。
- 大学における養成の場合は、大学に2年以上在学し、62単位以上を修得、かつ社会教育主事講習等規程に定められた下記の科目を修得する必要があります。

社会教育主事講習等規程に定める科目		本学で開設する科目		修得単位	備 考	
科 目	単位	科 目	単位			
生涯学習概論	4	生涯学習概論	2	4	隔年開講（奇数年）	
		社会教育の基礎	2			
社会教育計画	4	社会教育計画	2	4	隔年開講（偶数年）	
		社会教育方法論	2		隔年開講（偶数年）	
社会教育演習、社会教育実習 又は社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	社会教育実習※	2	4	「生涯学習概論」を履修中または「社会教育実習」修得済であること	
		社会教育課題研究※	2			
社会教育特講	12	現代社会と社会教育	2	2以上	12	隔年開講（奇数年）
		社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	2			隔年開講（奇数年）
		社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	2			隔年開講（奇数年）
		社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	2	2以上	教職課程受講(教育学科のみ) 学科のみ受講可(教育学科以外)	
		社会体育論	2			
		情報メディアの活用	2			
		図書館概論	2			
		ボランティア概論	2			
		コミュニケーション論	2			
		環境教育	2			
		教育原理	2			
		特別活動の理論と方法(小)	1			
		特別活動の理論と方法(中・高)	1			
資格取得に必要な単位数				24		

〔備 考〕

- (1) ※印の科目は資格取得を希望する学生以外は受講できません。
- (2) 隔年開講科目については見通しを持って計画的に履修してください。
- (3) 社会教育実習では、数回にわたり野外実習を実施する予定です。その費用は、自己負担とします。

「証明書」の取得申請について

① 資格取得に関するガイダンス

第2セメスター1月に実施します。資格取得を希望する学生は必ず出席しなければなりません。

② 資格科目の受講許可条件

資格取得に関するガイダンスにおいて配布される資格科目受講届を提出しなければなりません。

③ 申請手続き

卒業該当年次の最終セメスター開始時に、UNITAMAにて申請手続き等に関する通知をします。

申請手続きは、前号の通知に従って行うこととし、申請書の提出および申請料の納入によって所定の手続き完了とします。

申請料 5,000円（申請料は改定されることがあります）

なお、正式手続き後の申請料は、理由のいかんにかかわらず返金しません。

申請書の受理後判定審査し、合格すれば「証明書」の授与します。

④ 手続き等に関する各事項は、そのつどUNITAMAで連絡します。

学 芸 員

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

- 「学芸員」とは、美術館などさまざまな博物館で「資料の収集、保管、展示および調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」専門的職員のことです。
- 現在、日本には多くの博物館が設立されており、社会教育施設として、共生社会の構築に向けた幅広い取組をする拠点として位置づけられています。今後、新たな「生涯学習社会」の実現に向けて、その存在はますます重要になると考えられます。「学芸員」はその博物館での企画・運営に携わる中心的な役割を担っています。
- 資格取得には、博物館法施行規則に定められる下記の必須科目のほか、下記の本学で定めた選択科目を修得する必要があります。

博物館法施行規則に定める科目		本学で開設する科目		修得 単位	備 考	
科 目	単位	科 目	単位		開設学部・学科	履修条件等
必 須 科 目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	ユニバーシティ・ スタンダード科目	「博物館概論」を 履修中または修得済
	博物館概論	2	博物館概論	2		
	博物館経営論	2	博物館経営論	2		
	博物館資料論	2	博物館資料論	2		
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2		
	博物館展示論	2	博物館展示論	2		
	博物館教育論	2	博物館教育論	2		
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2		
	博物館実習	3	博物館実習	3		
	選 択 科 目			美 術 史		
			音 楽 史	2		
			演 劇 史	2		
			民俗学入門	2		
			デザイン史	2		
			写 真 史	2		
			西洋音楽史	2		
			工 芸 史	2		
		民族音楽概説	2			

*各科目の履修にあたっては、開設学部・学科の教育課程表および履修条件を確認しておくこと。

学芸員資格を取得するには

① 学芸員資格取得に関するガイダンス

第2 Semester 1月に実施します。博物館実習をはじめとする学芸員科目の履修計画などについて説明をします。出席は任意ですが出席の方が望ましいです。

② 博物館実習受講に関するガイダンス

第4 Semester 1月に実施します。このガイダンスには必ず出席しなければなりません。

③ 学芸員関係科目の開講Semester

学芸員関係の講義科目は第3 Semesterから順次開講されており、履修可能です。

学部によっては専門科目と開講時期が重なる科目がありますので、早くから履修計画を立てましょう。

博物館実習の受講について

① 博物館実習受講願の提出

「博物館実習受講願」に必要な事項を漏れなく記入し、教師教育リサーチセンターに提出してください。提出期日は第4 Semesterのガイダンスの際に指示します。

② 博物館実習受講許可

受講願が受理された後、教職課程委員会の承認を経て、受講が許可されます。受講は第5 Semesterからとします。

③ 博物館実習受講取消

受講許可後、途中で資格の取得を取りやめた場合は、「博物館実習受講取消届」に必要な事項を漏れなく記入し、すみやかに教師教育リサーチセンターに提出してください。

博物館実習について

① 博物館実習を受講するためには「博物館実習受講の許可」を受け、実習受講料を納入していなければなりません。また、「博物館概論」を受講中か、単位修得済みでなければなりません。

② 博物館実習のガイダンスは、4月初旬に行います。

③ 博物館実習受講料

博物館実習受講料は博物館実習受講許可者に対して請求するものとし、下記のとおりとします。受講料は、保証人宛送付の納入書によって所定の納入手続きを完了するものとし、

博物館実習受講料 30,000円（受講料は、経済情勢などの変動により改定されることがあります）。

④ 審査判定の結果、授与不可となったり、その他いかなる理由があっても、いったん納入した受講料は返金しません。

⑤ 博物館実習では、学外の博物館等の見学実習を実施します。その費用は、別途自己負担とします。

「学芸員資格取得証書」の取得について

「博物館実習受講届」提出者に対して第8 Semesterに判定審査し、合格すれば「学芸員資格取得証書」の授与となります。

日本語教員

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

「日本語教員」とは、日本語を母語としない人を対象に日本語を指導する教員のことです。日本語教員の多くは、大学における留学生や日本語教育施設における就学生、外国人研究生や地域に居住する外国人等、国内外の多様な日本語学習者に対して日本語を教育することに携わっています。

本学における日本語教員の資格

「日本語教員」は法に基づく免許・資格制度ではありませんが、大学で主専攻または副専攻として日本語教育に関する単位を修得した人たち、一般の日本語教員養成機関で日本語教育の講座を受講した人たち、それに、日本語教育能力検定試験（日本国際教育協会）に合格した人たちが日本語教員としてその教育に携わっています。

本学では、このうちの「大学副専攻における日本語教育の単位修得者」として資格取得を希望する学生に向けて、次頁の教育課程表（教育プログラム）を開設しています。

この教育プログラムは、日本語教育施設推進に関する調査研究会（旧文部省）の「日本語教員養成のための標準的教育内容」（1985年5月）に基づき開設され、その後日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議（文化庁）の「日本語教育のための教員養成について」（2003年3月）に沿って進めています。

- ① 本学における日本語教員の資格取得には、前述の副専攻による履修を基準として、次頁の表に定める必要科目の単位を修得しなければなりません。
- ② 前号の履修条件を充足した者には、本学より「日本語教員養成プログラム修了証書」を授与します。
- ③ この日本語教員資格取得希望者は、国語あるいは英語の教育職員免許状取得のための関係科目を履修中であることが望まれます。

修了証書の取得申請について

- ① 卒業該当年次の最終セメスターに、掲示板にて申請手続き等に関する通知をします。
- ② 申請手続きは、前号の通知に従って行うこととし、申請書の提出および申請料の納入によって所定の手続き完了とします。
申請料 5,000円（申請料は改定されることがあります）
なお、正式手続き後の申請料は、理由のいかんにかかわらず返金しません。
- ③ 申請書の受理後は、前第2項の各号に照らし審査のうえ、合格した者に「日本語教員養成プログラム修了証書」を授与します。

日本語教員に必要な知識・能力		本学で開設する科目		開設する学部・学科							備考		
科目	単位	科目	単位	スタンダード科目	国語教育学科	文学部	英語教育学科	国際経営学科	経営学部	教育学部		乳幼児発達学科	教育学部
言語	10	○日本語学	2	●									
		○日本語音韻論	2		●								
		○日本語文法論 I	2		●								
		○日本語語彙論	2		●								
		日本語文法論 II	2		●								
		日本語学演習	2		●								
		日本語学研究	2		●								
		日本語表現 101	2	●									
		日本語表現 102	2	●									
		言語表現入門 A	2		●								
		言語表現入門 B	2		●								
		音声表現法研究	2		●								
		日本語表現演習	2				●						
		言語と心理	2	教育心理学	2	●							
読み書きの認知と指導	2				●								
言語心理学	2									●			
こどもと心の科学	2									●			
社会・文化・地域	1	日本国憲法	2	●									
		日本文学	2	●									
		歴史（日本）	2	●									
		Japanology	2	●									
		日本学入門	2	●									
		日本文学概論	2		●								
		日本語史	2		●								
言語と社会	4	Language and Society	2			●							
		Issues in Second Language Acquisition	2			●							
		Global Communication	2			●							
		異文化間コミュニケーション	2		●								
		Intercultural Studies	2				●						
言語と教育	9	○日本語教育概論	2								●		
		○日本語教育演習	2								●		
		○日本語指導法 I	2								●		
		○日本語指導法 II	2								●		
		言語表現教育研究	2		●								
		日本語教育現場研究	2								●		
		◇日本語教育実習 A	1								●		
		◇日本語教育実習 B	2								●		
		◇日本語教育実習 C	2								●		
		教育の方法と技術（中・高）	2	●									
		教育の方法と技術（幼・小）	2							●			
		コンピュータと学習支援（幼・小）	2							●			
		教育の方法と技術	2								●		
コンピュータと学習支援	2								●				
		資格取得に必要な単位数合計											28

○は必修科目
◇は必修選択科目

Ⅲ 資格を取得するために
日本語教員

環境再生医初級

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

「環境再生医」とは、対象となる現場の環境状況を、「診断し、処方を作り、治療し、治療後のケアをする」という公益性の高い一連の作業を、地域住民とともに担っていく「環境の総合医」のことです。

この資格は、NPO法人自然環境復元協会・自然環境復元学会が協働して創設・公開された公益・非営利団体主宰の「民間資格」です。自然再生、環境再生を推進するための指導者育成を目的としています。

本学農学部は「環境再生医資格認定校」です。下記該当科目を修得し、認定試験に合格することによって、卒業前に資格の仮認定を受けることができます。

〈農学部〉

- ① 認定試験の受験対象者は第5セメスター終了時以降において、以下に示した学科認定講習科目の資格取得に必要な単位のうち、3ジャンル以上から6単位以上を修得しており卒業までに必要な単位の修得が可能な者としてします。
- ② 本資格取得希望者は、第5セメスターに実施される事前ガイダンスに必ず出席してください（ガイダンス時期については掲示等で案内します）。
- ③ 認定試験は、毎年秋学期に実施します。詳細は掲示で指示されます。資格取得希望者は、指定された期日までに授業運営課へ申請書を必ず提出してください。
- ④ 認定試験の受験には、テキスト「環境再生医」2,730円を購入し、試験当日に持参すること、試験料2,000円の納入が必要です。
- ⑤ 認定試験合格者には、合格証（仮認定証）が交付されます。この時点で「環境再生医初級取得見込み」と名乗ることが可能です。卒業時に卒業証書とともに「認定証」が授与されます。これらの申請費用8,000円（証明書発行機で証書を購入）を指定期日までに授業運営課に申請してください。

初級認定講習科目	本学で開設する科目						修得単位
	生産農学科		環境農学科		先端食農学科		
	科目	単位	科目	単位	科目	単位	
1. 地球環境の危機 自然環境復元概論	生態学	2	生物科学	2	生物学	2	2単位以上
	昆虫資源学	2	生態学概論	2	生態学概論	2	
			分類学	2			
2. 自然環境の再生	緑地環境学	2	自然環境保全学	2	農業化学	2	2単位以上
	自然環境保全学	2	緑地環境学	2	緑地環境学	2	
			自然環境保全学	2	自然環境保全学	2	
3. 物質資源の循環・再生	果樹園芸学	2	環境と農業	2	栽培学	2	2単位以上
	栽培学	2	持続的農業論	2	環境倫理学	2	
			環境倫理学	2			
4. 環境教育・市民活動	フィールド実習Ⅰ	2	環境教育*	2	環境教育*	2	2単位以上
	フィールド実習Ⅱ	2	環境農学概論	2			
			農学国際協力	2			
5. 環境行政と関係法令	環境科学*	2	環境と法令	2	環境科学*	2	2単位以上
			環境科学*	2			
資格取得に必要な単位数							10単位以上

*ユニバーシティ・スタンダード科目

IB 教員

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

- 「IB教員」とは、国際バカロレア機構（International Baccalaureate Organization）が認定する教員資格です。本学は2013年12月に国際バカロレア機構からカリキュラムを認定されました。
- 本学大学院教育学研究科教育学専攻（修士課程）で開講する「IB研究コース」の所定の単位を修得することによって、IB教員資格が得られます。
- IB関連科目を10単位修得することによってCTL（IB Certificate in Teaching and Learning）の資格を取得することができます。

IB教員（CTL）の資格取得に必要な科目

科目名	PYP	MYP	DP	単位数
IB 教師教育 (MYP/DP) I A	○	○	○	2
IB 教師教育 (MYP/DP) I B	○	○	○	2
IB 教師教育 (MYP/DP) I C	○	○	○	2
IB 教師教育 (PYP) II A	○			2
IB 教師教育 (PYP) II B	○			2
IB 教師教育 (MYP) II A		○		2
IB 教師教育 (MYP) II B		○		2
IB 教師教育 (DP) II A			○	2
IB 教師教育 (DP) II B			○	2
全人教育研究		○	○	2

※PYP (Primary Years Programme) ,MYP (Middle Years Programme) ,DP (Diploma Programme) のいずれか1つのみ取得可能です。

在学中に資格を取得するには

- 大学院科目を履修する

在学中に資格を取得するには、大学院科目を履修するための受講資格（履修ガイドp.47参照）を充足し所定の手続きをすることが条件になります。~~在学中に資格取得を目指す場合、ユニバーシティスタンダード科目「全人教育論」を修得していれば、上記12単位のうち「全人教育研究」の履修を免除します。~~

卒業後に資格を取得するには

- 科目等履修生として履修する

科目等履修生として上記10単位を修得することにより、最短1年間で「CTL」*の資格を取得できます。

※CTL (IB Certificate in Teaching and Learning)

- 本学大学院に進学する

本学大学院教育学研究科教育学専攻（修士課程）に進学した場合は、IB研究コースの所定の単位を修得することにより、「CTL」「ACTLR」*の資格をともに取得できます。ただし、ACTLRの資格申請のためには、IB認定校において3年以上の教員経験が必要です。

その他の研究科に進学した場合は、他研究科科目の受講許可を得たうえで上記10単位を修得することにより、「CTL」の資格を取得できます。

※ACTLR (Advanced Certificate in Teaching and Learning Research)

資格証明の取得申請について

- ① 卒業該当年度の最終セメスターに、UNITAMAにて申請手続き等に関する通知をします。（申請期間は1月下旬の予定）
- ② 申請書の提出および申請料の納入によって所定の手続き完了とします。
申請料（令和2年度 実績 265ドル）は掲示でお知らせします。（振込期間は3月中旬を予定）
なお、申請料は正式手続き後には理由のいかんにかかわらず返金しません。
- ③ 申請書の受理後は、「IB教員資格認定証」を送付します。

ECO-TOP プログラム（自然環境保全を担う「人材育成・認証制度」）

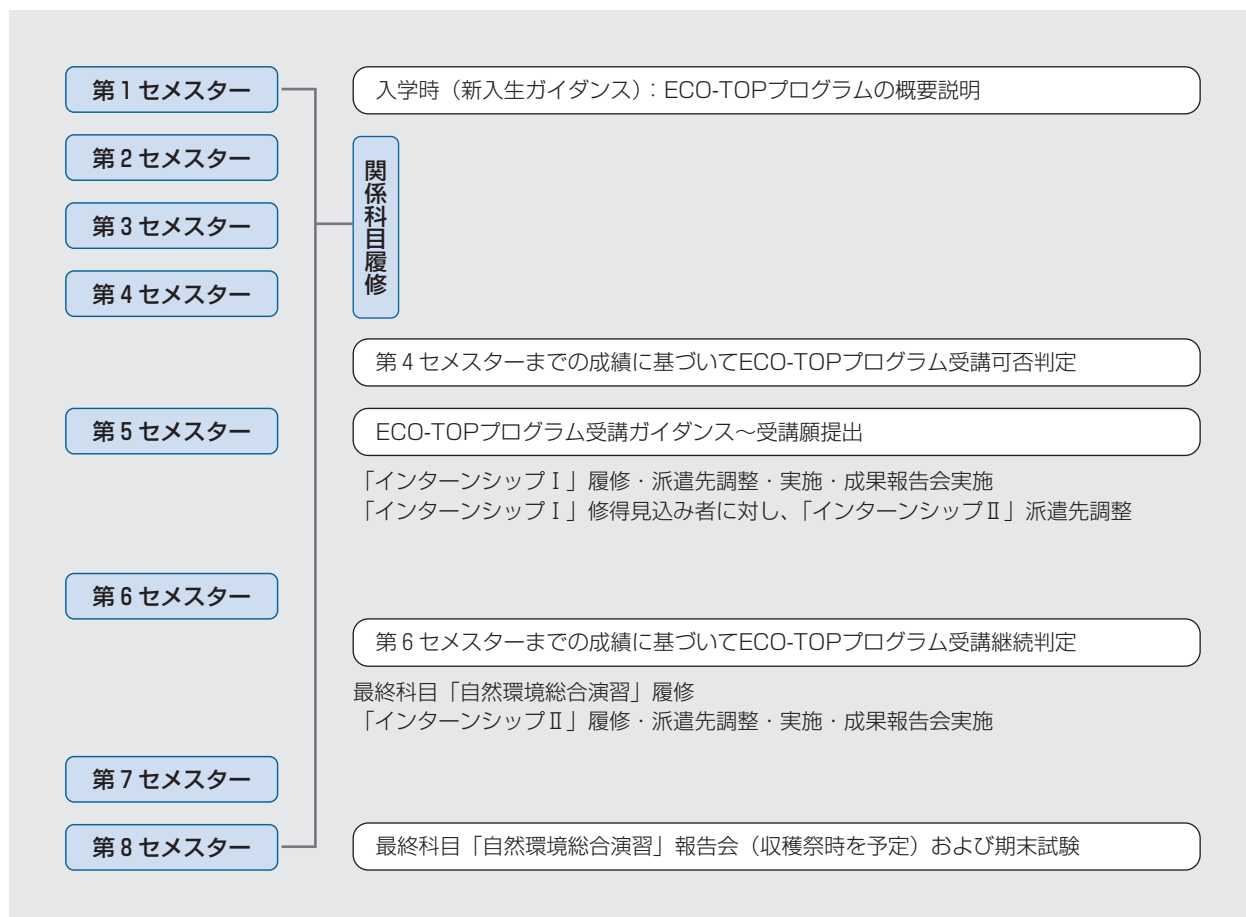
環境農学科では、自然（生態系）・農業・社会の3つを柱として、自然環境保全をはじめとするさまざまな環境問題を多方面から体系的に理解し、問題解決に取り組むことができる人材の育成を目指しています。また、環境問題には国境がない一方、地域特有の問題（気候や自然風土・社会などの地域性）への配慮も大切となることから、本学での科目履修（講義、実習）だけでなく、海外留学プログラム（カナダまたはオーストラリア、2年次に約4か月間）や学外実習地（箱根・北海道・鹿児島）での野外実習プログラムを重視しています。これらの知識・技能・経験を活かして、さまざまな社会現場での自然環境保全活動に携わったり、指導的役割を担える人材として、東京都による「ECO-TOPプログラム」資格を認定します。

ECO-TOPプログラムにおいて目標とする人材像

- ① 地域コミュニティにおける自然環境保全活動等の参加者、指導者
- ② 自治体・企業・NPOなどにおける自然環境保全政策・計画、環境経営部門などの従事者
- ③ 農林水産・畜産業従事者、生産物加工業・流通業・造園業・建設業などの企業従事者
- ④ 自然公園等の管理者・レンジャー、自然観察指導員、博物館学芸員、大学や研究機関の研究者
- ⑤ 教員（中・高理科、高校農業）、その他地域等で自然環境・生物保全の大切さを啓蒙する人

ECO-TOPプログラム受講の流れ（概要）

本資格取得希望者は、第5セメスターに実施されるECO-TOPプログラム受講ガイダンスおよびインターンシップ受講ガイダンスに必ず出席してください（ガイダンス時期については掲示等で案内します）。また、指定された期日までに授業運営課へECO-TOPプログラム受講願を必ず提出してください。



■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント エンジニアリング			AE		

科目群		科目	単位	必選	備考
総合科目 合計 6 単位	カリキュラムの導入科目	生態学概論	2	必	
	安全管理・救急救命に関する科目	野外安全教育	2	必	実習を含む
	カリキュラムの最終科目	自然環境総合演習	2	必	演習
自然科学科目 必修を含み 6 単位以上	生態学・分類学に関する科目	地球環境と生態系	2	必	
		生物科学	2		
		環境農学概論	2		
		動物行動生態学	2		
		分類学	2		
		植物科学	2		
		土壌生態学	2		
	自然環境の保全と 適正利用に関する科目	自然環境保全学 環境科学*	2 2		
	農学・農業に関する科目	環境と農業	2	必	
		農業と動物	2		
持続的農業論 植物繁殖学		2 2			
地理学・地球に関する科目	地理学 生物環境物理学	2 2			
生態学・農学・農業に 関する実習科目	農場実習Ⅰ	1	必	実習	
	農場実習Ⅱ	2	必	実習	
	農場実習Ⅲ	1	必	実習	
社会科学科目 必修選択を含み 6 単位以上	環境と社会、法令、経済学に 関する科目	環境と法令	2	必修選択 (1科目以上)	
		環境経済学	2		
	地域環境とその利用に 関する科目	環境マネジメント論	2		
		農学国際協力	2		
		農業マーケティング論	2		
		地域環境論 地域環境研究 緑地環境学	2 2 2		
人文科学科目 必修を含み 6 単位以上	環境・生命と倫理、文化に 関する科目	環境倫理学 比較文化論	2 2	必	
	環境教育に関する科目	環境教育*	2	必	
インターンシップ	インターンシップⅠ	2	必	インターンシップⅠ 修得者のみ履修可	
	インターンシップⅡ	2	必		

資格取得に 必要な単位数	38単位以上
	必修科目 22単位：18単位（導入・安全管理・最終、実習・演習科目）＋4単位（インターンシップ）
	必修選択科目 2単位以上
	選択科目 14単位以上（※社会科学科目4単位以上、人文科学科目2単位以上を含むこと）
受講開始基準	① 学修継続条件に抵触したことがないこと
	② 2年終了時の総合成績（累積GPA）が所属学科学年の上位1/3以内であること
修了判定基準	① 「インターンシップⅠ」および「インターンシップⅡ」を修得していること
	② 「自然環境総合演習」において、プレゼンテーションと最終試験に合格すること
	③ 必修科目、必修選択科目を含み、34単位以上を修得していること

*ユニバーシティ・スタンダード科目

樹木医補

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エゴニアシグナツイ					

「樹木医補」とは、樹木の保護管理、樹勢回復・治療などに関する高度な知識・技能を有する専門家として、環境緑化全般の指導的技術者として自然の緑を守る役割を担うことができる資格です。

本学は、「樹木医補資格養成機関」として登録されているので、下記の要件を満たすことによって、資格を取得することができます。

- ① 講義科目のうち6分野以上を選び14単位以上、実験・実習科目のうち4分野4科目以上を修得し、卒業した者
- ② 日本緑化センターに、成績証明書、卒業証明書、指導教員による卒業研究論文内容証明書および認定手数料を提出すること。手続きの詳細については、財団法人日本緑化センターに問い合わせてください。

本資格取得希望者は、第5セメスターに実施される事前ガイダンスに必ず出席し、関連科目の履修について指導を受けてください（ガイダンス時期については掲示等で案内します）。また、指定された期日までに授業運営課へ受講願を必ず提出してください。

分野別科目	本学で開設する科目			
	環境農学科			
	講義科目	単位	実験・実習科目	単位
1. 樹木の分類	分類学	2		
	植物科学	2		
	樹木学*	2		
2. 樹木の生態・生理	植物繁殖学	2	環境農学研究Ⅰ (生態系科学)	3
3. 立地・土壌	土壌生態学	2		
4. 植物病理	植物病理学*	2		
5. 昆虫・動物	動物行動生態学	2		
	応用動物昆虫学*	2		
6. 樹木医学一般				
7. 農薬科学	農薬化学*	2		
8. 造園学	緑地環境学	2	インターンシップⅠ	2
	緑地保全学*	2		
9. 樹木医補総合			農場実習Ⅲ	1
資格取得に必要な単位		14		4

注：1) *は他学科科目

- 2) 上表の実験・実習科目以外の分野として、樹木医学研究にかかる「卒業研究Ⅲ」を充当し、実験・実習科目を合計4分野4科目以上とできる。なお、当該「卒業研究」には、指導教員の証明書が必要である。

資格 11

食品衛生管理者および 食品衛生監視員 (食品衛生管理者等資格コース)

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

- 「食品衛生管理者」とは、食品衛生法施行令で定める食品および食品添加物の製造または加工の過程において、食品衛生法および関連法規に対して違反が行われないよう、食品または添加物の製造・加工に従事する者の監督を行う。
 - 「食品衛生監視員」とは、食品衛生行政を直接担当する技術公務員で、例えば海空港での輸入食品の検査・監視、食品関連の営業者や食品添加物、病院・学校・寄宿舎等の給食施設などの施設に対して、監視指導を行う。
 - ① 本学は、「食品衛生管理者」と「食品衛生監視員」の養成施設として厚生労働省の登録を受けているので、下記表のとおり所定の専門科目の単位を修得し卒業すると同時に資格を取得できます。
 - ② 本学からはとくに修了証等は発行されませんが、証明書類を必要とする場合は、証明書発行カウンターに、「卒業証明書」(食品衛生管理者等資格コース入り)の発行を申請してください。「先端食農学科食品衛生管理者等資格コース」と記載された卒業証明書が発行されます。
- *ただし、食品衛生監視員は、公務員として任用され、食品衛生の部局に配属された場合に得られる任用資格です。
*なお、転学部生、転学科生および編入生は、資格を取得することができません。

食品衛生法第49条および施行規則第50条 第1項第2号・第3号に定める科目		本学で開設する科目	単位	修得単位
A群 化学関係	分析化学 有機化学 無機化学	※分析化学 ※有機化学Ⅰ ※有機化学Ⅱ ※化学入門 ※化 学	2 2 2 2 2	10単位
B群 生物化学関係	生物化学 食品化学	※生物化学Ⅰ ※生物化学Ⅱ ※食品機能化学	2 2 2	24単位
C群 微生物学関係	微生物学 食品製造学	※微生物学 ※食品製造科学	2 2	
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	※公衆衛生学 ※食品衛生学	2 2	
E群 その他関連科目		※農薬化学 ※畜産物利用学 ※先端食農実験Ⅰ ※先端食農実験Ⅱ 植物生理学 植物栄養学 水産学 栄養生理化学 応用栄養学 食品加工実習Ⅰ 食品加工実習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
A群からD群までの科目を各群1科目以上、 計22単位以上修得し、E群科目を含めて総計 40単位以上修得すること		資格取得に必要な単位数		40単位

※資格取得のための必修科目

Ⅲ 資格を取得するために

樹木医補／食品衛生管理者および食品衛生監視員

基本情報技術者

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

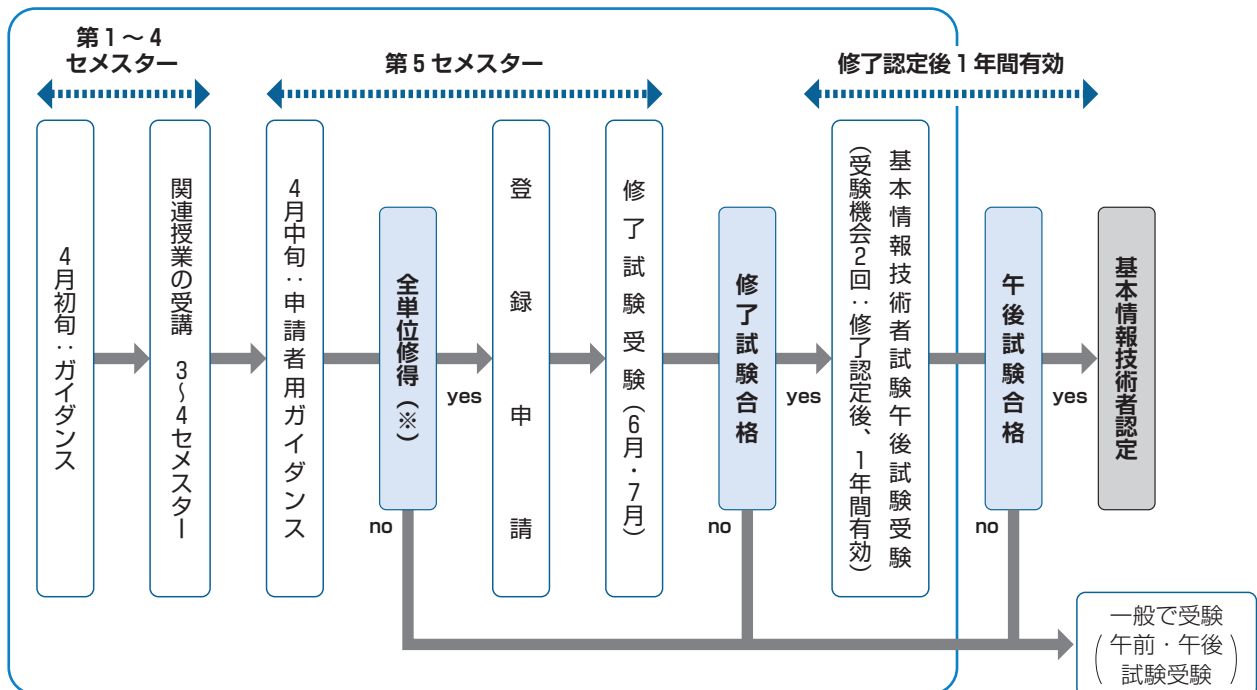
「基本情報技術者試験」とは、「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」の水準がある程度以上であることを認定している国家試験である情報処理技術者試験の一つです。システムエンジニアなど、ソフトウェアサイエンス学科卒業生の多数が携わる職業に関わる多くの企業でその取得を勧める資格です。

午前試験免除制度

基本情報技術者試験は、午前試験と午後試験の2つの試験で構成されています。以下に示す本学科で指定したすべての科目の単位を第4セメスターとそれに続く特別学期までに修得し（※）、第5セメスターに実施される修了試験に合格すると（修了認定）、その後の1年間は、午前試験が免除され、午後試験だけに専念することができます。ただし、1年を過ぎると午前試験免除の権利は無効となるので、注意が必要です。

本学科で指定する科目	修得単位	履修セメスター
経営情報分析	2	4
情報処理技術	2	3
情報システム	2	3
ビジネスゲーム	2	3
アルゴリズムとデータ構造	2	4
論理回路	2	3

基本情報技術者資格取得までの流れ



資格 13

ピアヘルパー

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

「ピアヘルパー」(Certified Peer Helper)とは、「カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人とかかわるために必要な基本的な力を身につけた者」と特定非営利活動法人(NPO)日本教育カウンセラー協会が認定する資格です。

ピアヘルパーの資格を取得するためには、日本教育カウンセラー協会が認定する資格取得に必要な次の科目を履修し、同協会が実施する認定試験(試験会場は本学)に合格することが必要です。教育学部は日本教育カウンセラー協会から認定を受けて、資格取得に必要な科目を開講しています。

資格取得に必要な科目	単位数
臨床心理学	2
精神保健【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2
人間関係論【ユニバーシティ・スタンダード科目】	2
単 位 合 計	6 単位

- ① ピアヘルパーの資格取得者は、日本教育カウンセラー協会の準会員資格も同時に取得することができます(初年度の会費は無料)。また、ピアヘルパー資格の取得後、ヘルピングやカウンセリングの学習を続け、教育・福祉・保育などの分野での実践経験を積むことで、さらに初級教育カウンセラーあるいは中級・上級教育カウンセラーの資格を取得することも可能です。
- ② 認定試験の受験には、試験料4,800円が必要です。

ガイダンス

第1セメスターにおいて、資格取得のためのガイダンスを開催しますので必ず出席してください。

資格 14

キャンプ インストラクター

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育 乳幼児	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア			MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアデザイン					

「キャンプインストラクター」とは、公益社団法人日本キャンプ協会が養成、認定している指導者の資格です。キャンプインストラクターは、キャンプでの活動（アクティビティ）を指導できる能力を持った指導者です。基礎的な知識、技術、考え方を習得していると認定する指導者の資格です。

また、この資格はキャンプディレクター 2 級、1 級へとステップアップするための基礎資格となります。受講資格は満 18 歳以上であることです。

※本学教育学部は2009年6月に（公社）日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成のための課程認定団体になっています。

科 目	単位数
フィールドワークA・B・C	2

*資格を得るためには、日本キャンプ協会公認キャンプディレクター 1 級有資格者が担当する野外教育演習を受講しなければなりません。

本学教育学部における履修方法と資格認定

- ① 第3セメスターに行われるガイダンスに必ず出席すること
- ② 1週間程度で実施される「野外教育演習」に出席し、「キャンプ指導者入門」のテキストに基づきキャンプインストラクター養成カリキュラム（理論10時間・実技10時間）を受講すること
- ③ 講習を終了後、希望者は日本キャンプ協会で作成した試験（理論）を受験すること
試験範囲：テキスト「キャンプ指導者入門」2,000円（税込）
試験時間：60分
合格基準：6割以上の得点
- ④ 登録諸費用

受験料	公認料	登録料	入会金	年会費 （日本協会）	年会費 （支部協会）	課程認定団体 手数料	合 計
1,000円	1,000円	1,000円	5,000円	3,000円	2,000円	2,000円	15,000円

その他留意事項

- ① キャンプインストラクター資格は毎年更新の必要があります。
更新時には、会費（3,000円）・更新料（1,000円）・支部会費（2,000円）の合計6,000円が必要です。
*BUCを期間内に受講した場合は、更新料の1,000円が免除になります。BUC（ブラッシュアップ&コミュニケーション）とは、日本キャンプ協会が認定した日本キャンプ協会および都道府県キャンプ協会が実施する公認指導者のための研修事業です。
- ② 12月1日～3月末日の間の受付分は、次年度扱いとなります。
- ③ 合格者には次年度の4月以降、個人宛に以下のものが届きます。
 1. しおり「公益社団法人日本キャンプ協会へようこそ」
（キャンプインストラクター登録完了のお知らせ）
 2. キャンプインストラクター資格章（バッジ）
 3. （公社）日本キャンプ協会会員証・資格証（カード）
*当該年度有効のもの
 4. 会報「CAMPING」

小学校英語指導者

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

「小学校英語指導者資格」とは「小学校での英語の普及・発展を支援する。」という趣旨のもと、2003年に設立されたNPO法人である小学校英語指導者認定協議会（略称：J-SHINE）が認定する「民間資格」です。

教育学部はJ-SHINE認定団体の一つであり、本学部で開講される以下の科目が指導者養成認定講座として認められています。よって、講座受講の修了後に、本学部が規定する条件と、右の推薦基準をすべて満たした学生を小学校英語指導者認定協議会に推薦し、資格授与の審査を受けることになります。

教育学部が認定を受けている科目

資格取得に必要な科目	単位
外国語（英語）	2
外国語（英語）指導法	2
教育インターンシップA	2
合計単位	6

教育学部における推薦条件

- ① 指定された科目を所定の期間に履修すること
- ② ①の科目の評価は全てA以上であること
- ③ 履修する科目以外に、本資格に関わるガイダンス、学習会（集中）、定例会に全て出席をすること
- ④ J-SHINE推薦条件となる「1. 50時間以上の指導経験があること」は、本学部と連携する小学校での「教育インターンシップA」およびボランティア等での主に外国語（英語）の学習活動への参加、外国語（英語）の研究授業（実習）の経験等を中心とした学修をもってこれに代える。（ただし、研究授業（実習）前教材研究、研究授業（実習）模擬授業、研究授業（実習）報告書の作成、および教育インターンシップA、ボランティア記録の記載に要する時間は、これに含めない。）
- ⑤ 学修の過程において、資格取得にふさわしくないと判断された学生は、本資格取得プログラムの参加継続や推薦をされない場合がある。
- ⑥ 資格認定審査にあたっての申請料7,000円*1は、個人負担とする。また、申請手続き後は、理由のいかんにかかわらず、返金はしない。 *1 申請料は改訂されることがある。
- ⑦ 資格認定後の更新は、小学校英語指導者認定協議会から情報を得て、個人の責任において行うこと。

教育学部における受講条件

本資格取得のための受講条件および受講人数は別途定める。詳細は履修ガイダンス、Web掲示等で確認をすること。

J-SHINEで定めている推薦基準

（J-SHINE 公式ホームページ「小学校英語指導者資格認定制度規約 第8条」より要約）

J-SHINEの認定を受けた登録団体が主催する講座を修了し、次の2点を満たしている必要があります。

1. 50時間以上の指導経験があること
2. 英語力の目安は英語で授業が行えること

社会調査士

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

「社会調査士」とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場調査、社会事象をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」です。

社会調査士の資格を取得するためには、一般社団法人社会調査協会 (<http://jasr.or.jp/>) が認定した「資格取得に必要な科目」を履修し、大学を卒業することが必要で、卒業後の申請により資格が認定されます。リベラルアーツ学科は、資格取得に必要な標準カリキュラムに準拠した授業科目を設置し、科目認定校として登録されています。

社会調査士資格取得に必要な科目と、リベラルアーツ学科が開講する科目は下記のとおりです。

資格取得に必要な科目	本学科で開講する科目	単位数
【A】 社会調査の基本的事項に関する科目	社会学 (LAUS)	2
【B】 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法	4
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目		
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計学入門 (LAUS)	2
【E】 多変量解析の方法に関する科目		
【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目	社会分析基礎論	2
【G】 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査実習Ⅰ 社会調査実習Ⅱ	各2

*ただし、【E】【F】はどちらか1つ選択 本学では【F】分野のみ開講します。

申請方法

大学卒業後、社会調査士資格の認定を申請することができます。

各自、申請書、単位修得、卒業を証明する書類と共に、大学へ申請します。

提出先・提出期間の詳細は卒業該当セメスターにおいて、掲示にて通知します。

手数料として16,200円（税込）が必要です（手数料は改定されることがあります）。

ガイダンス

第1セメスターにおいて、資格取得のためのガイダンスを開催しますので、必ず出席し、詳細を確認してください。

宗教文化士

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニアリング					

「宗教文化士」とは、日本や世界の宗教の歴史と現状について、専門の教員から学んで視野を広げ、宗教への理解を深めた人に対して与えられる資格です。

宗教文化士の資格を取得するためには、宗教文化推進センター (<http://www.cerc.jp/index.html>) が認定した「資格取得に必要な科目」を修得し、その後同センターが開催する宗教文化士認定試験に合格することが必要です。

本学は、資格取得に必要な標準カリキュラムに準拠した授業科目を開講しています。

宗教文化士資格取得に必要な科目と、本学が開講する科目は下記の通りです。

資格取得に必要な科目（3つの到達目標）※1	本学科で開講する科目	単位数	備考
【1】 教えや儀礼、神話を含む、宗教文化の意味について理解できる。	宗教学（US）	2	芸術学部メディア・デザイン学科 開講科目
	民俗学入門（US）	2	
	儀礼文化論	2	
	造形理論B（MD）	2	
【2】 キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、神道などの宗教伝統の基本的な事実について、一定の知識を得ることができる。	宗教学的文化研究	2	
	世界の宗教と文化（US）	2	
	キリスト教学（US）	2	
	キリスト教思想史	2	
	宗教的人間研究	2	
【3】 現代人が直面する諸問題における宗教の役割について、公共の場で通用する見方ができる。	宗教学の諸問題	2	
	死生論	2	
	リベラルアーツセミナーⅠA ※2	2	リベラルアーツ学科のみ受講可
	リベラルアーツセミナーⅠB ※2	2	リベラルアーツ学科のみ受講可
	リベラルアーツセミナーⅡA ※2	2	リベラルアーツ学科のみ受講可
	リベラルアーツセミナーⅡB ※2	2	リベラルアーツ学科のみ受講可
	リベラルアーツセミナーⅢ ※2	2	リベラルアーツ学科のみ受講可
	リベラルアーツセミナーⅣ ※2	2	リベラルアーツ学科のみ受講可
認定試験受験のために必要な単位数		16単位以上	

※1 【1】、【2】、【3】の各科目群から各4単位以上を履修し、合計16単位以上を修得すること。

※2 「リベラルアーツセミナーⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲ、Ⅳ」は、宗教学・民俗学分野のものとする。

認定試験の受験と申請について

- ① 認定試験は年2回（原則として6月と11月）に実施されます。原則として大学3年生以上（大学院生含む）です。また、卒業・終了後2年以内であれば受験できます。
 - ② 受験を申請する者は、「受験申請書」「受験料の振込確認書類のコピー」「資格取得に必要な科目の単位取得を証明する書類」を宗教文化推進センターに指定の期日までに提出します（受験申請料4,000円）。必要な書類は、宗教文化推進センターのホームページからダウンロードできます。
 - ③ 試験に合格後、認定料を振り込むと宗教文化推進センターから認定証（カード形式）が発行されます（認定料6,000円）。
- （上記の受験申請料・認定料は改定されることがあります）

ガイダンス

第1セメスターにおいて、資格取得のためのガイダンスを開催しますので、必ず出席してください。

TAPファシリテーター

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

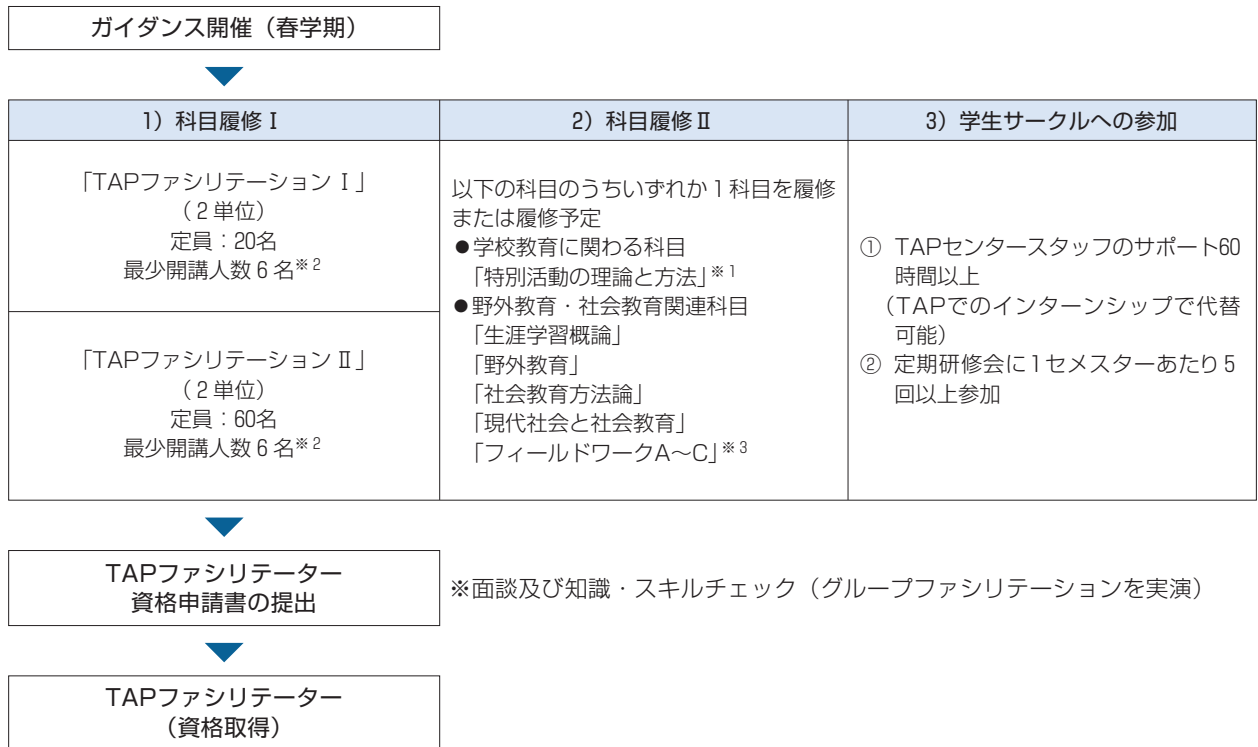
国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		ITガバナンス					

- TAPとは、Tamagawa Adventure Programの略称で、本学の建学の精神である全人教育を達成していく上で求められる、個と集団の資質・能力を高めていくための教育手法です。TAPセンターでは、「行動する全人教育」の理念を掲げ、アドベンチャー教育が主軸にしている体験学習を応用したTAPの手法により、児童・生徒・学生の持つ能力を引き出す支援を行っています。
- このTAPの手法を学び、学校教育や社会教育の場におけるファシリテーションスキルを身につけることにより、能動的な学習の推進や、より良い学びの環境を作っていくことを目指し、「TAPファシリテーター」を養成するためのプログラムを展開しています。「TAPファシリテーター」は本学独自の資格であり、以下の資格取得条件を満たした学生に付与されます。

資格取得条件

- 1) ユニバーシティ・スタンダード科目「TAPファシリテーションⅠ(2単位)」、「TAPファシリテーションⅡ(2単位)」を修得していること。
- 2) ユニバーシティ・スタンダード科目「特別活動の理論と方法」※1、「生涯学習概論」、「野外教育」、「社会教育方法論」、「現代社会と社会教育」、「フィールドワークA～C」※3のいずれか1科目を履修または履修予定であること。
- 3) 学生サークル「TAP研究会」に登録し、以下の活動実績があること。
 - ① 学内におけるプログラムに、TAPセンタースタッフのサポートとして60時間以上参加していること。
(TAPでのインターンシップで代替が可能となる)
 - ② 毎週行われる「TAP研究会」の定期研修会に1 Semesterあたり5回以上参加していること。

資格取得までの流れ



※1 教職課程履修者のみ履修可。
 ※2 定員を超えた場合は、上級学年の申込者を優先し、さらに同一学年で定員を超えた場合は抽選とする。
 ※3 「フィールドワークA～C」は野外体験教育プログラムのみ認定。

ガイダンス

春学期に、資格取得のためのガイダンスを開催します。日程は、UNITAMA掲示にてお知らせします。

申請方法

「TAPファシリテーター資格希望申込書」をTAPセンターに提出（詳細はガイダンス時に説明します）。

提出期間：ガイダンス時に指定

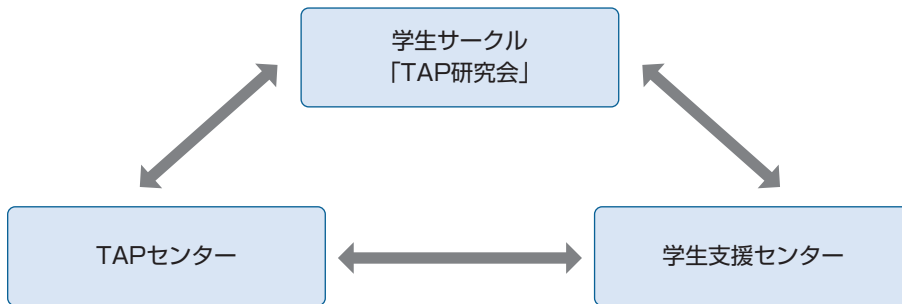
TAPファシリテーター資格取得後にできること

- 学内外におけるプログラムへのTAPスタッフのサポートファシリテーターとして参加できる
- 学内における学生向けのTAPファシリテートに企画段階から参加できる（TAPセンターの認可が必要）
- 学内における学生を対象としたファシリテータートレーニングを実施できる

学生サークル「TAP研究会」の活動

- ① TAPについて学びたい学生が**自主的に集まり**、学び合えるきっかけの場とする
- ② TAPファシリテーター資格に必要とされる知識・スキル・マインドの予習・復習・研究の場とする
- ③ スタッフと共に学内外におけるTAPの普及をしていく
- ④ 自身の将来に向けてTAPをいかせるようにする（自己で課題発見・解決する）

支援体制



TAPファシリテーター養成プログラムの理念

TAPの体験や実践（ファシリテーターとして）、または理論学習・研究・開発を通じて、**調和のとれた人格形成を目指す**と共に、**広く教育者としての資質向上を目指す**（具体的には下記の5項目の達成）。

TAPの実践・理論学習・研究を通じて

- ① TAPファシリテーター体験を通じて自己研鑽をしていく。
- ② TAPファシリテーターとして必要なスキルと知識、マインドを学び、それを身につける。
- ③ TAPファシリテーター資格との関連によって、TAPにおける諸理論（定義、用語、理論、考え方、全人教育との関連性）を学習・研究し、それを実践や自身の将来にいかせるようにする。
- ④ 自分たちでプログラム作りをし、ファシリテートできるようにする。
- ⑤ ①～④を通じて、**広く教育者としての資質向上を目指す**（教員志望に限定せず）。

環境エディケーター

■青の網掛けは資格取得が可能な学科

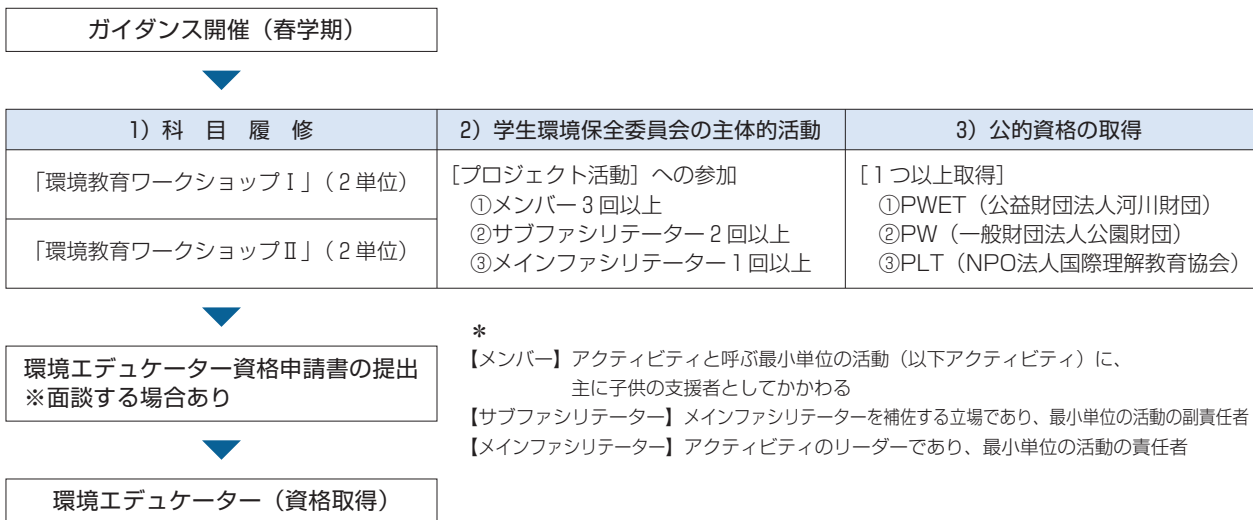
国語教育	生産農	情報通信工	国経	教育	PA	LA	観光
英語教育	環境農	ソフトウェア		乳幼児	MD		
	先端食農	マネジメント			AE		
		エンジニア					

- 「環境エディケーター」とは、環境教育を重視する教育方針に基づいて設けられた本学独自の資格です。
- 本学では教育信条の一つに「自然の尊重」を掲げています。2000年に定めた「玉川学園環境方針」では、21世紀に向けての環境教育をいっそう重視することを新たな教育方針としています。さらに、「生活環境改善活動の積極的な推進と、次世代のためにそれを担い上げる人材の育成」をスローガンとして、環境に対してさまざまな活動に取り組んでいます。
- このような教育方針に基づき、環境教育の推進を図って、より多くの人々が環境への関心や理解を深められるように、「環境エディケーター」（指導者）を養成するためのプログラムを展開しています。「環境エディケーター」は以下の資格取得条件を満たした学生に付与されます。

資格取得条件

- 1) ユニバーシティ・スタンダード科目「環境教育ワークショップⅠ（2単位）・「環境教育ワークショップⅡ（2単位）」を修得していること
- 2) 学生環境保全委員会に登録し、以下活動実績があること
 - ① プロジェクト活動にメンバー*として3回以上参加
 - ② プロジェクト活動にサブファシリテーター*として2回以上参加
 - ③ プロジェクト活動にメインファシリテーター*として1回以上参加
- 3) 公的資格（環境教育指導者資格）を1つ以上取得していること（取得予定含む）
 - ①PWET（公益財団法人河川財団）②PW（一般財団法人公園財団）③PLT（NPO法人国際理解教育協会）

資格取得までの流れ



ガイダンス

春学期に、資格取得のためのガイダンスを開催します。日程は、UNITAMA掲示にてお知らせします。

推奨財団の紹介（PWETとは）

子供たちが水について楽しく学べるように米国で開発された体験型学習プログラムであり、国の人材認定等事業*¹に登録されています。

* 1…「環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律(改正後：環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(平成23年法律第67号))」第11条第1項に規定する人材認定等事業に登録されております。(主務大臣：環境大臣、文部科学大臣、国土交通大臣)

講習会受講料 4,000円（受講料は改定されることがあります）

講習会受講料にはガイドブック(テキスト)代も含まれます。

PWET以外の講習会受講料については、各団体のHP等を参照してください。

申請方法

「環境エデュケーター資格希望申込書」を授業運営課窓口に提出。（詳細はガイダンス時に説明します。）

提出期間：通年（土日祝日および大学が定める休日を除く 8：30～17：00）

公的資格の取得について

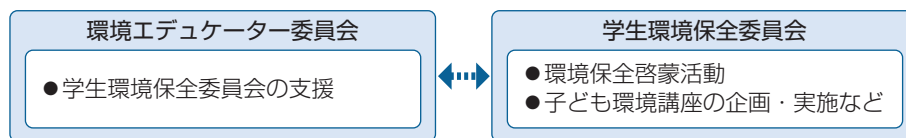
学生環境保全委員会の活動で、年に数回（不定期）の取得機会を提供しています。資格取得講座の開催日については学生環境保全委員会の活動中にお知らせします。

学生環境保全委員会の活動（活動場所：大学8号館330・331室【環境エデュケーター室】）

- 「学生環境保全委員会」（Student Environmental Education Committee）に所属登録を済ませた学生は、環境保全を啓蒙普及するために、主に児童を対象とした「子ども環境講座」を開催します。
- この講座は「子供たちの環境意識を高めること」、「子供たちが環境保全に取り組むことができるように支援すること」を目的としています。
- そのために必要な実践的指導力、教育プログラム開発や教材を作成する力を身につけ、学生自らが創意工夫し、指導教員・支援スタッフと連携を図りながら主体的・継続的に活動します。
- さらに、実践力向上に必要な知識・技能・態度を身につけるために、「環境教育ワークショップⅠ・Ⅱ」を受講し「環境エデュケーター資格」の取得を奨励しています。
- 近隣の教育委員会や小学校等と連携を図り、「子ども環境講座」や「環境教育プログラム」の実践の場として次のような活動をしています。
 - ① 地域の小学校や児童館などの環境にかかる学習時間の補助
 - ② 地域施設の環境活動の支援・指導補助
 - ③ 環境イベントへの参加
 - ④ 自主環境イベントの企画・運営
 - ⑤ コスモス祭への参加

学生環境保全委員会の支援体制

学生環境保全委員会の活動を組織的に支援するために、全学の教職員で構成された環境エデュケーター委員会が設置されています。



玉川大学環境エデュケーター養成プログラムの理念

環境エデュケーター養成プログラムが目指すのは、実践力のある、社会で活躍できる人材の育成です。

環境エデュケーター養成プログラムが目指す、実践力のある、社会で活躍できる人は、常に変化成長できる人。つまり、主体的・自律的に学修できる人です。また、知識と経験・体験を関連づけた実践知を身につけた人です。

理念を実践するために具体的な目標を掲げています。

環境エデュケーター養成プログラムを通して

1. 環境教育を推進し、自らと他の多くの人が、環境に興味・関心を持ち、理解を深め、環境意識の高い行動ができるようになる。
2. 学生環境保全委員会（通称SEEC）はもとより、所属団体（授業・ゼミ・クラブなど）に主体的、かつ協同的にかかわり、さまざまな課題を解決できるようになる。
3. 環境エデュケーター養成プログラムでの経験を通して人間的に成長し、卒業し社会に出たのちもリーダーシップを発揮して、社会や地域に貢献できるようになる。

具体的な目標を達成するために、学生が以下の能力を身につけられるようプログラム全体を通じて支援します。

- 論理的に考える力
- わかりやすく他者に伝える力
- 問題を発見・解決する力
- 人と上手にコミュニケーションをとる力
- ものごとを調べる力
- 行動する力
- チームで活動する力（リーダーシップ・フォロワーシップ）

IV

規程

玉川大学特別学期に関する規程	254
玉川大学試験規程	255
玉川大学学位規程（抄）	257

玉川大学特別学期に関する規程

(目的)

第1条 玉川大学学則第6条第3項に基づき、特別学期に関して本規程を定める。

(名称)

第2条 夏季休業期間および春季休業期間中の特別学期の名称は、それぞれサマーセッション、ウィンターセッションとする。

(期間)

第3条 各セッションの期間は別に定める。

(開講科目)

第4条 原則として、春学期・秋学期において不合格になった必修科目のうち当該セッションでの履修が必要な科目および各セッションに集中で行う必要がある科目を開講する。

(受講科目・単位数)

第5条 各セッションの受講可能科目数・単位数は、3科目、6単位とする。

2 卒業年次の最終セメスター後のセッションの受講はできない。

(単位の認定)

第6条 受講した科目の単位認定の時期は、各セッションの次学期とする。

2 セッションで修得した単位は、単位認定する学期の履修上限には含まない。

(受講料)

第7条 各セッションで開講する科目の受講料は、1単位につき4,000円とする。

2 既に納入した受講料は、原則としてこれを返還しない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学部長会の議を経て学長が行う。

(事務主管)

第9条 この規程に関する事務主管は教学部とする。

玉川大学試験規程

(目的)

第1条 この規程は、玉川大学学則（以下「大学学則」という。）第16条第5項に基づき、玉川大学の定期試験に関して必要な事項を定める。

(試験の成績評価)

第2条 成績評価の定義を次のように定める。

- S：当該科目の到達目標の内容をほぼ完全に修得し、かつ応用する力がついていると認められる。
- A：当該科目の到達目標の内容を十分に理解し修得したものと認められる。
- B：当該科目の到達目標の基幹部分は理解し修得したものと認められる。
- C：当該科目の到達目標のうち、最低限の理解は得られたものと認められる。
- F：当該科目の到達目標に及ばない。

(試験時間割)

第3条 試験の時間割は、原則として、試験開始日の1週間前までに所定の掲示板に掲示する。

(受験資格)

第4条 次の事項のいずれかに該当する場合、定期試験の受験資格が認められない。

- (1) 当該科目の履修登録をしていない者。
- (2) 所定の学費が未納の者。
- (3) 当該科目の授業の出席回数が4分の3に満たない者。
- (4) 学生証を所持していない者。

(遅刻及び退出)

第5条 試験開始後20分以上経過したときは、試験場への入室は認めない。

- 2 試験開始後30分以上経過しなければ試験場からの退室は認めない。

(受験者の義務)

第6条 受験者は試験場において次の事項に従わなければならない。この義務が守られない場合、不正行為とみなす。

- (1) 学生証を机上に提示すること。
- (2) 試験監督の指示に従うこと。
- (3) 試験中の私語及び筆記用具の貸借をしないこと。
- (4) 試験中は携帯電話、PHS等の電源を切り、机上に置かないこと。なお、これらの機器を時計代わりに使うことを理由に机上に置くこともできない。

(5) 答案用紙には、氏名等もれなく記入すること。記入の無い答案は無効とする。

(6) 答案用紙は、解答の有無に関わらず試験場外に持ち出さないこと。

(7) 不正行為もしくは不正行為と紛らわしい行為をしないこと。

(追試験)

第7条 病気その他やむを得ない事情により、定期試験を受験できなかった者に対して追試験が許可されることがある。その際、当該科目の試験実施日（レポート提出締切日）を含めて4日以内に欠席の事由並びにその事由を証明する書類を付して、追試験願を提出しなければならない。ただし、次の事項のいずれかに該当する者で、かつ所定の手続きを完了した者に限る。

- (1) 第4条の定期試験受験資格に準じ、受験資格のある者。
- (2) 天災地変のため出席不可能となった者。
- (3) 公共交通機関の遅れにより欠席した者（事故または延着の証明書が必要）
- (4) 疾病・傷病により欠席した者（診断書などが必要）
- (5) 忌引きにより欠席した者（会葬礼状など証明する書類が必要）
- (6) 教員採用試験、就職試験、編入学試験、大学院入学試験等で欠席した者（受験を証明する書類が必要）
- (7) 裁判員制度による裁判への参加（裁判所が発行する証明書が必要）。
- (8) その他特別な事情により、教務委員会が正当と認めたもの。

2 追試験受験の可否については、各学部の教務担当者が審議し決定をする。

3 前項の審議結果は掲示する。

4 第2項により追試験を認められた者に対しては、追試験期間に追試験を行う。

5 追試験は1回限りとし、追試験の追試験は行わない。

(単位認定試験)

第8条 定期試験期間以外の授業期間に考慮される事情（病気・就職試験）が発生し、成績評価が保留（インコンプリート）になった者に対しては、単位認定試験を実施する。

2 単位認定試験は次学期の履修登録期間の1週間前（春学期：8月末、秋学期：2月）までに、特別指導を経て実施する。

- 3 単位認定試験は有料とし、1科目5,000円とする。

(不正行為の取扱い)

第9条 定期試験において不正行為を行った学生は、大学学則第38条により懲戒する。

- 2 不正行為を行った場合には当該学期の全定期試験を無効とし、懲戒の内容を学内に掲示で公表する。
- 3 複数の学生によって不正行為が行われた場合の処分に関しては、これに軽重の差はつけない。
- 4 不正行為が在学中2度目の行為であった場合は、大学学則第39条に基づき退学処分とする。
- 5 試験終了後に不正行為が判明した場合も、前項に準じる。
- 6 制作物及びレポートについても不正と認められた場合、第1項に準じる。
- 7 学生に対する処分及びその解除の通告は本人及び保証人に対し学部長が行う。

(不正行為の種類)

第10条 試験における不正行為とは、次に該当する行為を含むものとする。

- (1) 試験問題または答案を盗むこと。

- (2) 他人の答案を見たり、他人に見せたりすること。
- (3) 他人に受験を代行させたり、他人の受験を代行したりすること。
- (4) 参照を許可されていない物件を試験中に参照したり、またはそれを参照できるような状態の下で受験をしたりすること。
- (5) 参照を許可された書籍・ノート類を貸し借りすること。
- (6) 机、身体、所持品または身の回りの物品に文字等を記載し、試験中に参照したり、またはそれを参照できるような状態の下で受験をしたりすること。
- (7) 音声、動作等により答案作成に役立つ情報を伝えること。またはそのような行為に加担すること。
- (8) 指定された用紙以外の用紙に解答すること。
- (9) 答案作成に関して、試験監督の指示に従わないこと。
- (10) 答案の交換を行うこと。
- (11) その他、明らかに公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をすること。

玉川大学学位規程（抄）

（目的）

第1条 この規程は、学位規則第13条及び玉川大学学則（以下「大学学則」という。）第21条第4項及び玉川大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第16条から第19条に基づき、玉川大学（以下「本大学」という。）において授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

（学位の名称）

第2条 本大学において授与する学位は、学士、修士、博士及び教職修士（専門職）とし、それぞれ次の各号による。

（1）学士

文学部 学士（文学）：

Bachelor of Arts

農学部 学士（農学）：

Bachelor of Agriculture

工学部 学士（工学）：

Bachelor of Engineering

経営学部 学士（経営学）：

Bachelor of Business Administration

教育学部 学士（教育学）：

Bachelor of Education

芸術学部 学士（芸術学）：

Bachelor of Fine Arts

リベラルアーツ学部 学士（リベラルアーツ）：

Bachelor of Arts

観光学部 学士（観光学）：

Bachelor of Arts in Tourism

（学士の学位の授与要件）

第3条 学士の学位は、本大学の学部学科を卒業した者に授与する。

（学位の表示）

第25条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名「（玉川大学）」を付記するものとする。

（学位記の再交付）

第28条 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を付し、所定の手数料を添えて学長に願い出なければならない。

（学位記及び申請書類等の様式）

第29条 学位記及び学位申請関係の書類の様式は、別表第1、第2による。

（その他）

第31条 この規程に関する事務主管は、教学部とする。

別表第1

（1）学士（大学学則第21条・学位規程第3条）

<p>第 号</p> <p>学 位 記</p> <p>氏名</p> <p>大学印 年 月 日生</p> <p>本大学〇〇学部〇〇学科所定の課程を修めたので卒業と認め学士（〇〇）の学位を授与する</p> <p>年 月 日</p> <p>玉川大学長 氏名 印</p>	<p>Degree Number : 000</p> <p>Tamagawa University</p> <p>hereby certifies that</p> <p>氏名（英文）</p> <p>has fulfilled all the requirements for the Bachelor's program in the (学科), (学部), and thus has been conferred the Degree of Bachelor of (学位) .</p> <p>On 年月日（英文）</p> <p>学長氏名（英文）</p> <p>President</p> <p>Tamagawa University</p>
---	---

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing a memo.